

SONY®

PETASITE MASTER UNIT

ODS-L30M

PETASITE DRIVE EXTENSION UNIT

ODS-L60E

PETASITE CARTRIDGE EXTENSION UNIT

ODS-L100E

OPTICAL DISC ARCHIVE DRIVE UNIT

ODS-D77F



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

このオペレーションマニュアルには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**このオペレーションマニュアルをよく読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



Optical Disc Archive

OPERATION MANUAL

Japanese/English/French/German/Italian/Spanish/Chinese

1st Edition (Revised 5)



4478809060

安全のために

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～7ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

長期間安全に使用していただくために、定期点検を実施することをおすすめします。点検の内容や費用については、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

故障したら使用を中止する

ソニーのサービス担当者、または営業担当者にご連絡ください。

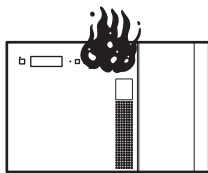
万一、異常が起きたら

異常な音、におい、煙が出たら



- ① 電源を切る。
- ② 電源コードや接続ケーブルを抜く。
- ③ ソニーのサービス担当者、または営業担当者に修理を依頼する。

炎が出たら



すぐに電源を切り、消火する。

警告表示の意味

オペレーションマニュアルおよび製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながる場合があります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



感電



火災



手を挟まれないよう注意

行為を禁止する記号



禁止



水ぬれ禁止



ぬれ手禁止



分解禁止

行為を指示する記号



指示



アース線を接続せよ

目次

⚠ 警告	4
⚠ 注意	5
その他の安全上のご注意	7
概要	8
システム構成例	9
各部の名称と働き	10
ODS-L30M	10
ODS-L60E	13
ODS-L100E	15
メディアの取り扱い	17
読み出し・書き込み可能なメディア	17
取り扱い上の注意	17
カートリッジメモリーについて	17
誤消去を防止するには	18
バーコードラベルについて	18
起動と停止	19
起動する	19
停止する	19
カートリッジの投入／排出	20
I/E ステーションを引き出す	20
カートリッジを投入／排出する	20
データベースへの登録	20
ネットワークの設定	21
IPv4 アドレスの設定	21
Web 画面の表示	23
サーバーへのソフトウェアインストール	24
動作環境	24
インストール	24
メニュー操作	25
メニューの基本操作	25
メニュー一覧	25
メッセージ	27
使用上のご注意	29
結露について	29
部品交換について	29
LCD について	29
ドライブユニットに対する注意事項	29
商標ならびにライセンス表記について	30
オープンソースソフトウェアのライセンスについて	30
GPL/LGPL/GPL V3 適用ソフトウェアの入手について	30
仕様	31



下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがに
つながることがあります。



指示

指定された電源コードを使用 する (ODS-L30M/L60E)

指定以外の電源コードを使用すると、火災や感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない (ODS-L30M/L60E)

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- ラックマウントするとき、レールにはさみ込まない。

万一、電源コードが傷んだら、ソニーのサービス担当者に交換をご依頼ください。



指示

電源コードのプラグ及びコネクターは突き当たるまで差し込む (ODS-L30M/L60E)

真っ直ぐに突き当たるまでさしこまないと、火災や感電の原因となります。



分解禁止

外装を外さない、改造しない (ODS-L30M/L60E/ L100E)

外装を外したり、改造したりすると、感電の原因となります。内部の調整や設定及び点検を行う必要がある場合は、必ずサービストレーニングを受けた技術者にご依頼ください。



禁止

内部に水や異物を入れない (ODS-L30M/L60E/ L100E)

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください



禁止

油煙、湯気、湿気、ほこりの 多い場所では使用しない (ODS-D77F)

上記のような場所や、取扱説明書に記されている使用条件以外の環境で使用すると、火災や感電の原因となることがあります。



下記の注意を守らないと、
けがをしたり周辺の物品に**損害**を
与えることがあります。



指示

表示された電源電圧で使用する (ODS-L30M/L60E)

製品の表示と異なる電源電圧で使用する
と、火災や感電の原因となります。



指示

運搬時には必ず底面を持つ (ODS-L30M/L60E/L100E)

前面パネルの前扉下部に手を差し込んで
本機を持ち上げたりすると、前扉が壊れて
けがをすることがあります。
本機は重量物ですので、必ず底面を持って
正しい姿勢で運搬してください。
不安定な姿勢で運搬すると、腰痛になったり、
落下によるけがをすることがあります。



禁止

油煙、湯気、湿気、ほこりの 多い場所では設置、使用しない (ODS-L30M/L60E/L100E)

上記のような場所で設置・使用すると、
火災や感電の原因となります。
取扱説明書に記されている使用条件以外
の環境での設置・使用は、火災や感電の
原因となります。



水ぬれ禁止

水のある場所に設置しない (ODS-L30M/L60E/L100E)

水が入ったり、ぬれたりすると、火災や
感電の原因となることがあります。
雨天や降雪中、海岸や水辺での使用は特
にご注意ください。



禁止

不安定な場所に設置しない

次のような場所に設置すると、倒れたり
落ちたりして、けがの原因となることが
あります。

- ・ぐらついた台の上
- ・傾いたところ
- ・振動や衝撃のかかるところ

また、設置・取り付け場所の強度を充分
にお確かめください。



禁止

通気孔をふさがない (ODS-L30M/L60E/L100E)

通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火
災や故障の原因となることがあります。
風通しをよくするために次の項目をお守
りください。

- ・壁から 10 cm 以上離して設置する。
- ・密閉された狭い場所に押し込めない。
- ・毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- ・布などで包まない。
- ・あお向けや横倒し、逆さまにしない。



禁止

高温下では使用しない (ODS-L30M)

高温の場所で本機を使用すると、火災、
発火、発煙の原因となることがありま
す。周囲温度が 35℃ を超える場所や、
直射日光のあたる場所では使用しないで
ください。



アース線を 接続せよ

安全アースを接続する (ODS-L30M/L60E)

安全アースを接続しないと、感電の原因となることがあります。

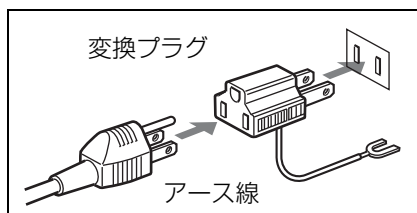
次の方法でアースを接続してください。

・電源コンセントが 3 極の場合

指定の電源コードを使用することで安全アースが接続されます。

・電源コンセントが 2 極の場合

指定の 3 極→2 極変換プラグを使用し、変換プラグから出ているアース線を建物に備えられているアース端子に接続してください。



安全アースを取り付けることができない場合は、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。



指示

コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは、足に引かけると本機の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。

十分注意して接続・配置してください。



禁止

2 台以上積み上げない (ODS-L30M/L60E/L100E)

ラックを使用せずに 2 台以上積み上げると、機器が落下してけがの原因となることがあります。



禁止

製品の上に乗らない、重いものを載せない (ODS-L30M/L60E/L100E)

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



手を挟まれ ないように注意

I/E ステーションを開閉する際には指や手をはさまない (ODS-L30M/L60E/L100E)

I/E ステーションや本体の開口部に手を入れると、けがの原因となることがあります。



禁止

ファンが止まったままの状態 で使わない (ODS-L30M/L60E/D77F)

ファンが付いている製品では、ファンが止まると、アラームが表示されます。ファンが止まったまま使用し続けると、内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。ソニーのサービス担当者にご連絡ください。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグをさわらない (ODS-L30M/L60E)

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



指示

移動時にはコード類ははずす (ODS-L30M/L60E/L100E)

電源コードや接続ケーブルは、足に引かけると本機の落下などによりけがの原因となることがあります。

移動時には、コード類ははずしてください。



指示

2 人以上でラックマウント・運搬する (ODS-L30M/L60E/L100E)

本機は重量があり、かつ左右のバランスが悪いので、けがや事故を防ぐため、ラックマウントや運搬は必ず 2 人以上で行ってください。



禁止

運搬時に I/E ステーションの 取っ手部分に手をかけない (ODS-L30M/L60E/ L100E)

I/E ステーションの取っ手部分に手をかけて本機を持ち上げたりすると、トレイがはずれて本体が落下し、けがの原因となることがあります。

必ず底面を持って、正しい姿勢で運搬してください。



分解禁止

分解や改造をしない (ODS-D77F)

分解や改造をすると、火災や感電、けがの原因となることがあります。

内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。



禁止

内部に水や異物を入れない (ODS-D77F)

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

その他の安全上のご注意

注意 (ODS-D77F)

ここに規定した以外の手順による制御および調整は、危険なレーザー放射の被爆をもたらします。

本機は「クラス 1 レーザー製品」です。(ODS-D77F)

レーザー特性 (ODS-D77F)

波長： 400 ～ 410 nm

発振形態： 連続

レーザー出力： 280 mW (max. of pulse peak)、150 mW (max. of CW)

概要

ペタサイトマスターユニット ODS-L30M は、別売のドライブユニット（ODS-D77F）を最大 2 台、オプティカルディスクアーカイブ用カートリッジを最大 30 巻搭載可能なライブラリのマスターユニットです。ペタサイトは、マスターユニット ODS-L30M に別売りの拡張キット ODBK-103 を装着することにより、拡張ユニットを複数台連結することが可能となります。これにより、ニーズに応じた拡張が可能となり、複数のオプティカルディスクアーカイブカートリッジに対するデータの読み出し / 書き込みを効率的に行うことができ、データ（素材）のアーカイブやアーカイブされたデータ（素材）のリトリート（サーバーへのアップロード）を効率化します。

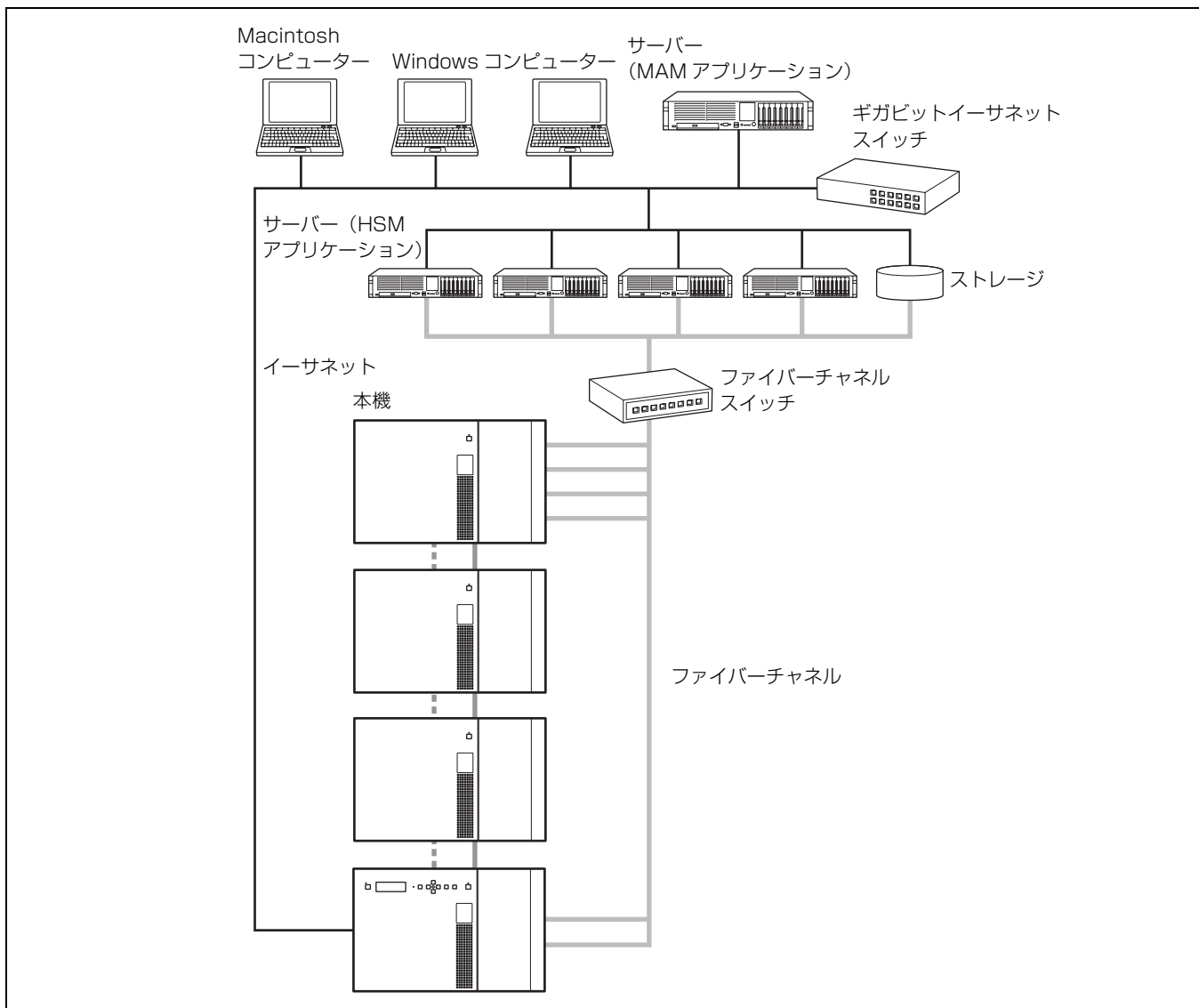
拡張ユニットには、ペタサイトドライブエクステンションユニット ODS-L60E およびペタサイトカートリッジエクステンションユニット ODS-L100E があります。ODS-L60E は、別売のドライブユニット（ODS-D77F）を最大 4 台、オプティカルディスクアーカイブ用カートリッジを最大 61 巻搭載可能です。ODS-L100E は、オプティカルディスクアーカイブ用カートリッジを最大 101 巻搭載可能です。ODS-L30M および ODS-L60E に搭載可能なオプティカルディスクアーカイブドライブユニット ODS-D77F は、ヘッドを 2 個搭載した ODS-L30M/L60E 専用のドライブユニットで、ファイバーチャネルに対応することで高速処理を可能にしました。

また、電源ユニットは、別売のパワーサプライ ODBK-101（ODS-L30M 用）、または ODBK-102（ODS-L60E 用）を装着することで二重化が可能で、ドライブユニットと同様にホットスワップに対応しています。これらにより、一方の電源ユニット / ドライブユニットが故障しても運用が継続でき、高い信頼性を要求されるシステムに対応します。

以下、ドライブユニットを装着したペタサイト（マスターユニットに拡張キットおよび拡張ユニットを組み合わせたものを含む）を「本機」、オプティカルディスクアーカイブカートリッジを「カートリッジ」と呼びます。

システム構成例

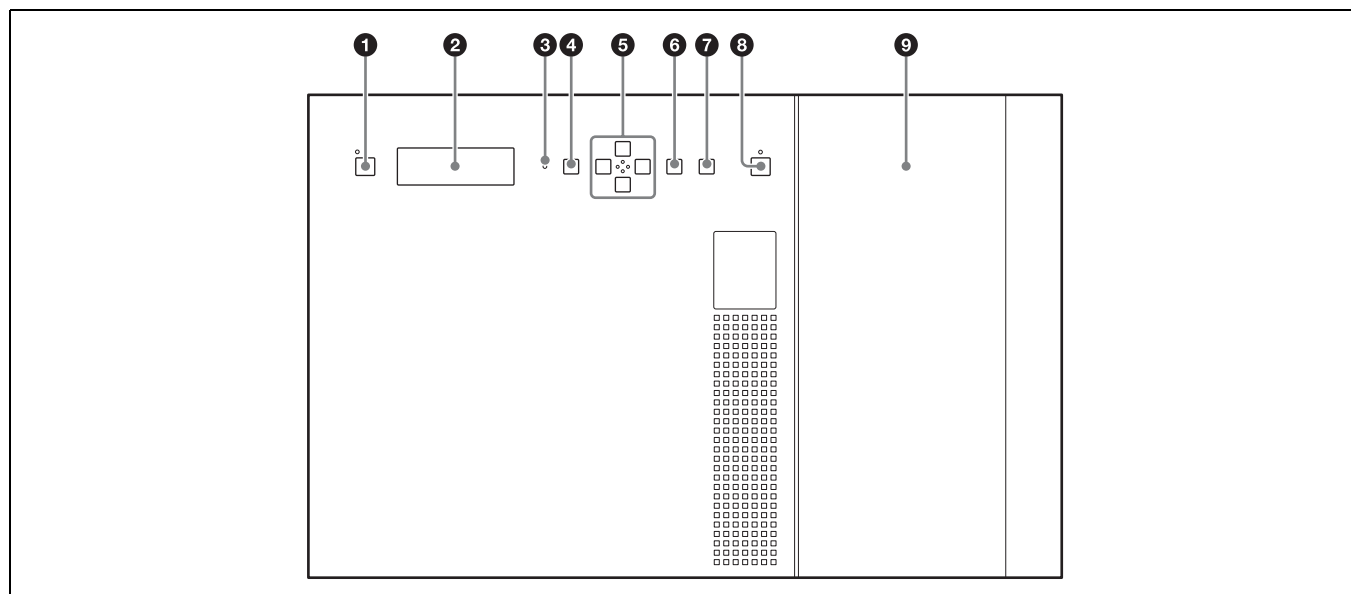
本機と関連機器を組み合わせ、以下のようなシステムを構成することができます。



各部の名称と働き

ODS-L30M

前面パネル



ご注意

ODS-L30M および ODS-L60E/L100E の前面パネルは、取りはずして他の拡張ユニットの前面パネルと交換することができます。ODS-L30M はユニットの最下段に設置されますが、前面パネルは操作しやすい高さにある拡張ユニットに移設されている場合があります。

① オン / スタンバイボタンとインジケータ

背面の主電源スイッチが入のときに、本機のオン / スタンバイを切り換えます。スタンバイにするには、オンのときにボタンを押します。ディスプレイにシャットダウンの確認メッセージが表示されたら矢印ボタンで Yes を選択して、ENTER ボタンを押します。

インジケータは、オンのときに緑色に点灯し、スタンバイのときに赤色に点灯します。シャットダウン処理時は、緑色に点滅します。

ご注意

- ドライブ内にカートリッジが存在する状態でボタンを押した場合は、確認メッセージがディスプレイに表示されます。
ドライブからカートリッジを取り出して、処理を進めてください。

- 本機をシャットダウンする前に、接続されているアプリケーションを停止してください。シャットダウンするとドライブの電源がオフになるため、記録中のデータが失われる可能性があります。

② ディスプレイ

本機の状態や設定メニュー、メッセージなどを表示します。

③ ALARM インジケータ

エラー、ワーニングの発生時に点滅します。

赤点滅：エラー

オレンジ点滅：ワーニング

④ MENU ボタン

押すと、ディスプレイにメニューを表示します。

⑤ 矢印ボタン

ディスプレイ上のメニューのスクロール、入力値の設定を行います。

⑥ ENTER ボタン

メニュー操作時に、次のページへ移動したり、入力値を確定します。

⑦ BACK ボタン

メニュー操作時に、前のページへ移動したり、設定を取り消します。

⑧ I/E STATION ボタンとインジケータ

I/E ステーションのロックを解除します。ロックは、インジケータが緑点灯またはオレンジ点灯時に解除できます。ロックを解除すると、インジケータがオレンジ色に点滅します。

ロックを解除したあと 10 秒以内に I/E ステーションを開けなかった場合は、再び I/E ステーションがロックされます。I/E ステーションを引き出した状態で 3 分以上放置すると、インジケータが赤色に点滅します。

で注意

各ユニットの I/E ステーションは、カートリッジの投入／排出が可能な I/E スロットとして使用するか、カートリッジの投入／排出が不可能なストレージスロットとして使用するかを選択できます。

ストレージスロットを選択したユニットの I/E ステーションは、ロックを解除できません。

インジケータ	状態
消灯	次の理由のため、ロックを解除できない。 ・ I/E ステーションがアプリケーションによってロックされている。 ・ I/E ステーションがストレージスロットとして使用されている。
緑点滅	I/E ステーションにアクセスが発生しているため、ロックを解除できない。
緑点灯	ロックを解除できる。I/E ステーションにカートリッジがある。
オレンジ点灯	ロックを解除できる。I/E ステーションにカートリッジがない。
オレンジ点滅	ロックが解除されている。
赤点滅	I/E ステーションで誤操作があった。本体ディスプレイに次のいずれかのメッセージが表示される。 ・ CLOSE I/E STATION : I/E ステーションが 3 分以上引き出されたままの状態。 ・ I/E STATION LOCKED : 消灯または緑点滅の状態でもボタンを押したため、ロックが解除できない。 ・ I/E STATION OPENED : I/E ステーションが開いている状態で I/E スロットの移動が指示された。 ※メニュー操作時は、本体ディスプレイにメッセージは表示されません。

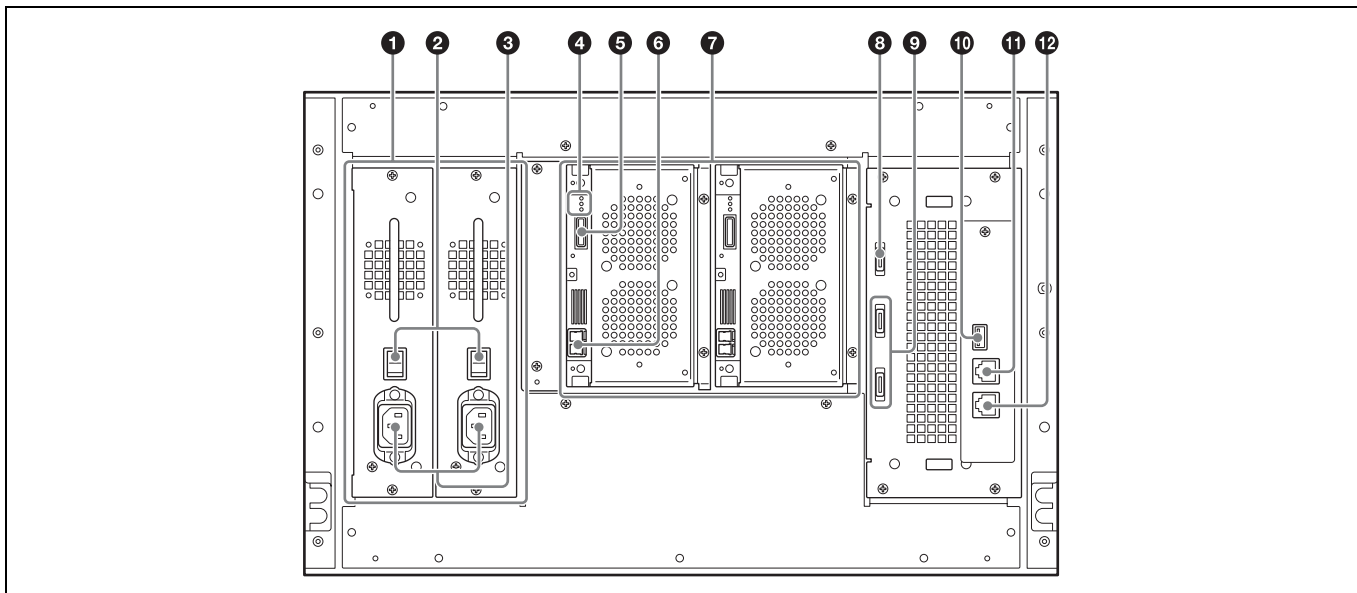
なお、本機には以下の内容の I/E ステーションラベルが付属しています。

I/E STATION インジケータ	状態	I/E STATION ボタン
○ 消灯	操作禁止状態のため、開閉できません。	無効
● 緑点滅	I/E ステーションにアクセス中のため、開閉できません。	無効
● 緑点灯 ● オレンジ点灯	ロック解除可能です。 緑：カートリッジあり オレンジ：カートリッジなし	有効
● オレンジ点滅	ロックが解除されました。 開閉可能です。	無効
● 赤点滅	エラーが発生しました。 本体ディスプレイの表示を確認してください。	無効

⑨ I/E ステーションドア

背面パネル

次図は、ODS-L30M にドライブユニットを 2 台、電源ユニットを 2 台装着した状態です。



① 電源ユニット装着部

別売のオプションパワーサプライ ODBK-101 を追加装着することによって、電源を二重化することができます。信頼性が要求されるシステムで本機を使用するとき、一方の電源ユニットが故障しても運用の継続が可能です。

◆ 電源ユニットの追加または交換については、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。

② 主電源スイッチ

主電源を入／切します。本機使用時は、通常このスイッチを入にしておき、前面のオン／スタンバイボタンで本機の可動状態とスタンバイ状態を切り換えます。

ご注意

主電源を切るときは、必ず前面パネルのオン／スタンバイボタンでスタンバイ状態にしてから、このスイッチを押してください。

③ AC IN 端子

電源コードを挿入して、電源コンセントに接続します。

④ ドライブユニットインジケータ

ドライブユニットの状態を示します。上から次の 3 つのインジケータがあります。

・ POWER インジケータ

緑点灯：電源が供給されている

・ LINK インジケータ

遅い青点滅（1 秒ごと）：FC ケーブルを接続していない
青点灯：FC ケーブルを接続している

速い青点滅（0.25 秒ごと）：FC ケーブルを接続していて、コマンドを受信している

ご注意

- このインジケータは、FC ケーブルが物理的に正しく接続されると、青点灯します。コンピューターからドライブユニットを制御できない状態であっても、FC ケーブルが接続されていれば、青点灯します。
 - FC ケーブルを接続しなくても、電源投入後のドライブユニットの初期化中は、青点灯します。初期化が完了すると、遅い青点滅に移行します。
- ・ STATUS インジケータ
- 緑点灯：ドライブユニットの交換が可能（オフライン、ドライブ電源オフ）
赤点灯：アラームあり（アラームコード 00-000 以外）
遅い緑点滅（1 秒ごと）：イニシャライズ実行中
速い緑点滅（0.25 秒ごと）：ファームウェア更新中
消灯：正常

⑤ ODS CONTROL 端子 (ADI/ 電源)

ODS-L30M 側の、ドライブと同じ番号の DRIVE 端子と接続して、ドライブユニットへの電源供給と ADI（Automation/Drive Interface）による制御を行います。

⑥ FC（ファイバーチャネル）端子

ファイバーチャネルスイッチを介して、サーバーや外部ストレージに接続します。

⑦ ドライブユニット装着部

別売りのドライブユニット（ODS-D77F）を最大2台装着可能です。

⑧ OUT 2（ユニット間接続）端子

拡張ユニット（ODS-L60E/ODS-L100E）の IN 2 端子と、ユニット間接続ケーブル 2（拡張ユニットに付属）で接続します。

⑨ DRIVE 1、2 端子（ODS コントロール（ADI/ 電源））

端子と同じ番号のドライブユニット（DRIVE 1 または 2）の ODS CONTROL 端子と、ODA コントロールケーブル（ドライブユニットに付属）で接続し、ドライブユニットへの電源供給と ADI による制御を行います。

⑩ OUT 1（ユニット間接続）端子

拡張ユニット（ODS-L60E/ODS-L100E）の IN 1 端子と、ユニット間接続ケーブル 1（拡張ユニットに付属）で接続します。

⑪ 品（ネットワーク）ポート 1

Web 画面を使用して本機の設定や状態確認を行うために、ネットワークケーブルを接続します。
設定画面では、Network1 と表示されます。

⑫ 品（ネットワーク）ポート 2（メンテナンス用）

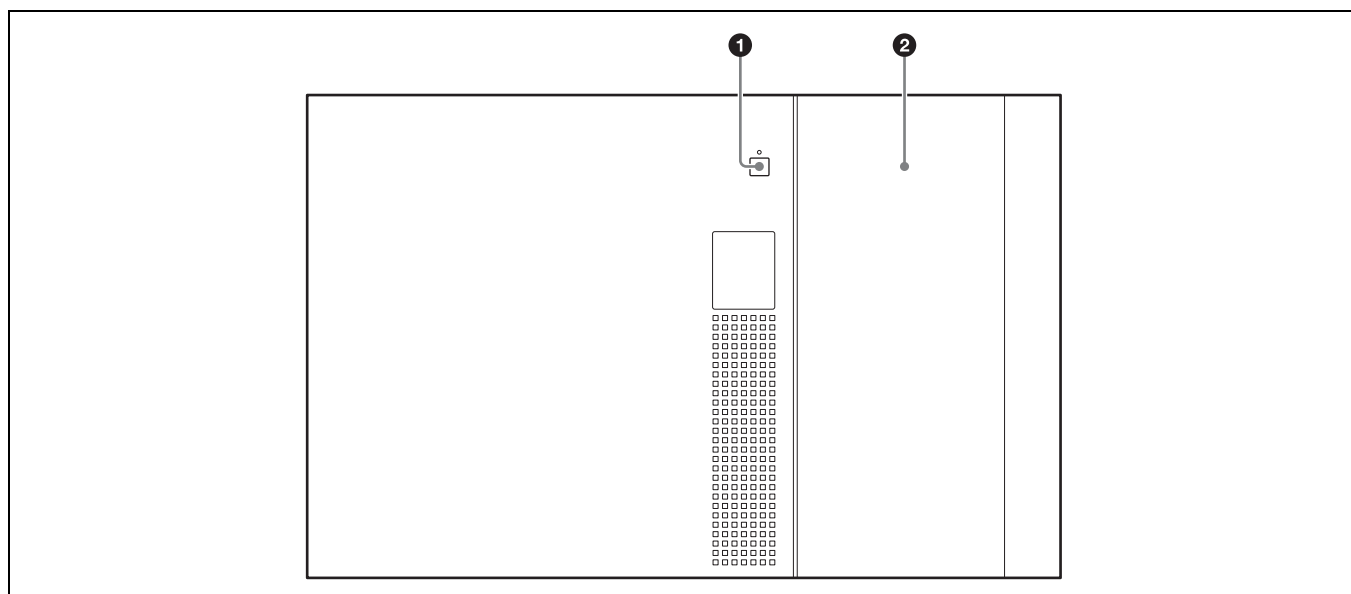
設定画面では、Network2 と表示されます。

ご注意

- 安全のために、周辺機器を接続する際は、過大電圧を持つ可能性があるコネクタをこの端子に接続しないでください。
接続については本書の指示に従ってください。
- ネットワークケーブルご使用の際は、輻射ノイズによる誤動作を防ぐため、シールドタイプのケーブルを使用してください。

ODS-L60E

前面パネル



① I/E STATION ボタンとインジケータ

I/E ステーションのロックを解除します。ロックは、インジケータが緑点灯またはオレンジ点灯時に解除できます。ロックを解除すると、インジケータがオレンジ色に点滅します。
ロックを解除したあと 10 秒以内に I/E ステーションを開けなかった場合は、再び I/E ステーションがロックされます。I/E ステーションを引き出した状態で 3 分以上放置すると、インジケータが赤色に点滅します。

ご注意

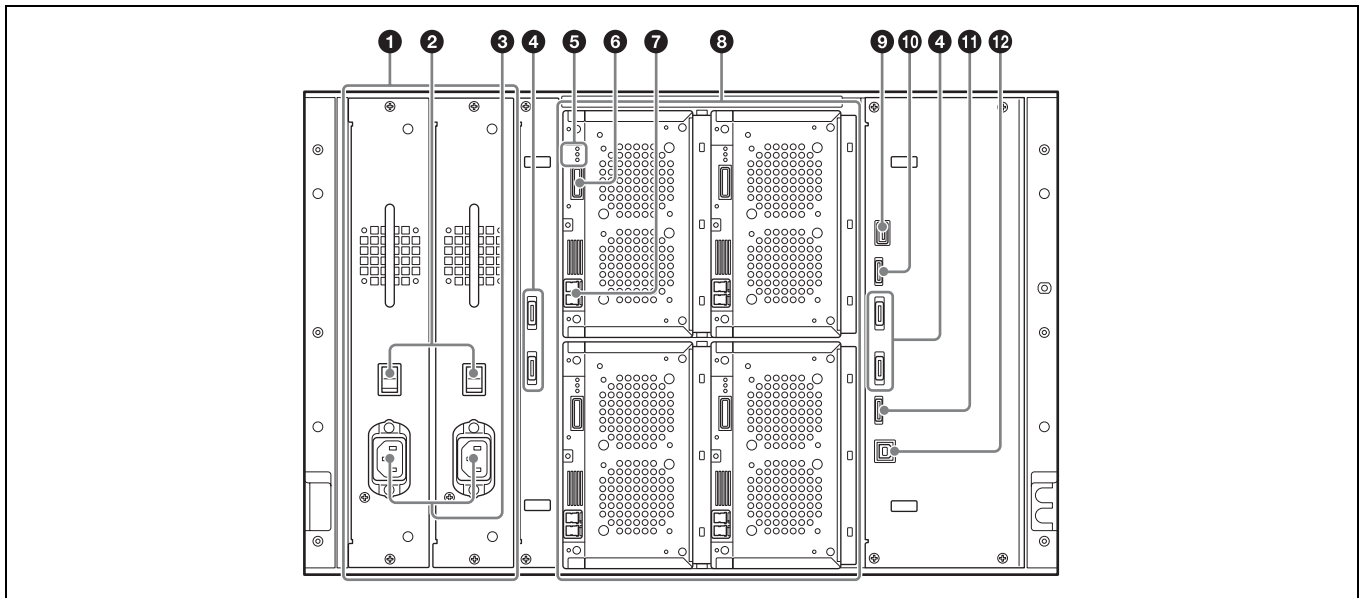
各ユニットの I/E ステーションは、カートリッジの投入／排出が可能な I/E スロットとして使用するか、カートリッジの投入／排出が不可能なストレージスロットとして使用するかを選択できます。
ストレージスロットを選択したユニットの I/E ステーションは、ロックを解除できません。

② I/E ステーションドア

インジケーター	状態
消灯	次の理由のため、ロックを解除できない。 ・ I/E ステーションがアプリケーションによってロックされている。 ・ I/E ステーションがストレージスロットとして使用されている。
緑点滅	I/E ステーションにアクセスが発生しているため、ロックを解除できない。
緑点灯	ロックを解除できる。I/E ステーションにカートリッジがある。
オレンジ点灯	ロックを解除できる。I/E ステーションにカートリッジがない。
オレンジ点滅	ロックが解除されている。
赤点滅	I/E ステーションで誤操作があった。本体ディスプレイに次のいずれかのメッセージが表示される。 ・ CLOSE I/E STATION : I/E ステーションが3分以上引き出されたままの状態。 ・ I/E STATION LOCKED : 消灯または緑点滅の状態ボタンを押したため、ロックが解除できない。 ・ I/E STATION OPENED : I/E ステーションが開いている状態で I/E スロットの移動が指示された。 ※ メニュー操作時は、本体ディスプレイにメッセージは表示されません。

背面パネル

次図は、ODS-L60E にドライブユニットを4台、電源ユニットを2台装着した状態です。



① 電源ユニット装着部

別売のオプションパワーサプライ ODBK-102 を追加装着することによって、電源を二重化することができます。信

頼性が要求されるシステムで本機を使用するとき、一方の電源ユニットが故障しても運用の継続が可能です。
なお、ODS-L60E にドライブユニットを装着しない場合は、電源ユニットは不要です。

- ◆ 電源ユニットの追加または交換については、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。

② 主電源スイッチ

主電源を入/切します。本機使用時は、通常このスイッチを入にしておき、前面のオン/スタンバイボタンで本機の可動状態とスタンバイ状態を切り換えます。

ご注意

主電源を切るときは、必ず ODS-L30M 前面パネルのオン/スタンバイボタンでスタンバイ状態にしてから、このスイッチを押してください。

③ AC IN 端子

電源コードを挿入して、電源コンセントに接続します。

④ DRIVE 1 ～ 4 端子 (ODS コントロール (ADI/ 電源))

端子と同じ番号のドライブユニット (DRIVE 1 ～ 4) の ODS CONTROL 端子と、ODA コントロールケーブル (ドライブユニットに付属) で接続し、ドライブユニットへの電源供給と ADI による制御を行います。

⑤ ドライブユニットインジケータ

ドライブユニットの状態を示します。上から次の3つのインジケータがあります。

• POWER インジケータ

緑点灯：電源が供給されている

• LINK インジケータ

遅い青点滅 (1 秒ごと)：FC ケーブルを接続していない

青点灯：FC ケーブルを接続している

速い青点滅 (0.25 秒ごと)：FC ケーブルを接続していて、コマンドを受信している

ご注意

- このインジケータは、FC ケーブルが物理的に正しく接続されると、青点灯します。コンピューターからドライブユニットを制御できない状態であっても、FC ケーブルが接続されていれば、青点灯します。
- FC ケーブルを接続しなくても、電源投入後のドライブユニットの初期化中は、青点灯します。初期化が完了すると、遅い青点滅に移行します。

• STATUS インジケータ

緑点灯：ドライブユニットの交換が可能 (オフライン、ドライブ電源オフ)

赤点灯：アラームあり (アラームコード 00-000 以外)

遅い緑点滅 (1 秒ごと)：イニシャライズ実行中

速い緑点滅 (0.25 秒ごと)：ファームウェア更新中

消灯：正常

⑥ ODS CONTROL 端子 (ADI/ 電源)

ODS-L60E 側の、ドライブと同じ番号の DRIVE 端子と接続して、ドライブユニットへの電源供給と ADI による制御を行います。

⑦ FC (ファイバーチャネル) 端子

ファイバーチャネルスイッチを介して、サーバーや外部ストレージに接続します。

⑧ ドライブユニット装着部

別売りのドライブユニット (ODS-D77F) を最大 4 台装着可能です。

⑨ OUT 1 (ユニット間接続) 端子

マスターユニット (ODS-L30M) または拡張ユニット (ODS-L60E/ODS-L100E) の IN 1 端子と、ユニット間接続ケーブル 1 (拡張ユニットに付属) で接続します。

⑩ OUT 2 (ユニット間接続) 端子

マスターユニット (ODS-L30M) または拡張ユニット (ODS-L60E/ODS-L100E) の IN 2 端子と、ユニット間接続ケーブル 2 (拡張ユニットに付属) で接続します。

⑪ IN 2 (ユニット間接続) 端子

マスターユニット (ODS-L30M) または拡張ユニット (ODS-L60E/ODS-L100E) の OUT 2 端子と、ユニット間接続ケーブル 2 (拡張ユニットに付属) で接続します。

⑫ IN 1 (ユニット間接続) 端子

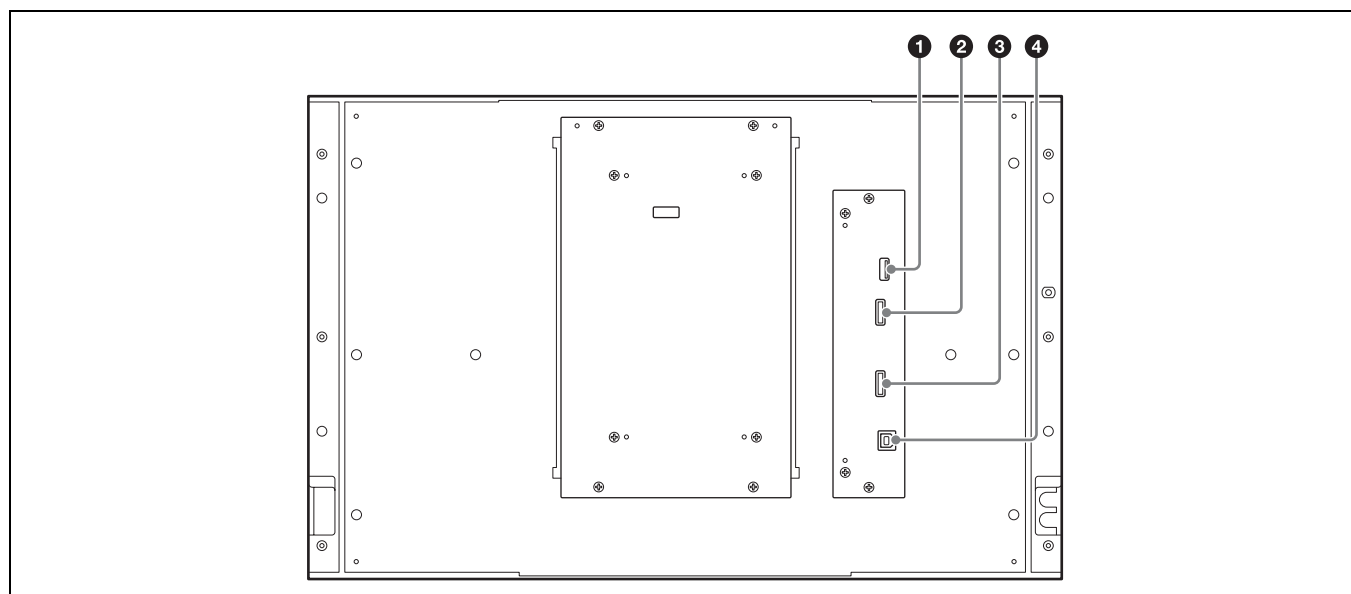
マスターユニット (ODS-L30M) または拡張ユニット (ODS-L60E/ODS-L100E) の OUT 1 端子と、ユニット間接続ケーブル 1 (拡張ユニットに付属) で接続します。

ODS-L100E

前面パネル

ODS-L60E の前面パネル (13 ページ) と同じです。

背面パネル



❶ OUT 1（ユニット間接続）端子

マスターユニット（ODS-L30M）または拡張ユニット（ODS-L60E/ODS-L100E）の IN 1 端子と、ユニット間接続ケーブル 1（拡張ユニットに付属）で接続します。

❷ OUT 2（ユニット間接続）端子

マスターユニット（ODS-L30M）または拡張ユニット（ODS-L60E/ODS-L100E）の IN 2 端子と、ユニット間接続ケーブル 2（拡張ユニットに付属）で接続します。

❸ IN 2（ユニット間接続）端子

マスターユニット（ODS-L30M）または拡張ユニット（ODS-L60E/ODS-L100E）の OUT 2 端子と、ユニット間接続ケーブル 2（拡張ユニットに付属）で接続します。

❹ IN 1（ユニット間接続）端子

マスターユニット（ODS-L30M）または拡張ユニット（ODS-L60E/ODS-L100E）の OUT 1 端子と、ユニット間接続ケーブル 1（拡張ユニットに付属）で接続します。

メディアの取り扱い

読み出し・書き込み可能なメディア

本機では、以下の Optical Disc Archive Cartridge および同等品の読み出しおよび書き込みが可能です。

カートリッジ	メディアタイプ	作成可能ファイル数
ODC300R 容量：300GB	ライトワンス	60,000 または 240,000
ODC300RE 容量：300GB	リライタブル	60,000 または 240,000
ODC600R 容量：600GB	ライトワンス	60,000 または 240,000
ODC600RE 容量：600GB	リライタブル	60,000 または 240,000
ODC1200RE 容量：1.2TB	リライタブル	60,000 または 240,000
ODC1500R 容量：1.5TB	ライトワンス	60,000 または 240,000

ご注意

- ・ライトワンス / リライタブル型カートリッジ共に、書き込んだファイルを削除しても空き領域は増えません。
- ・ライトワンス型カートリッジは、以下の点に注意してください。
 - 再フォーマットを行っても空き領域は増えません。
 - ファイルの書き込みを繰り返すと、メディア上の追記リソース領域（メディアの管理情報などを書き込む領域）も消費されます。追記リソース領域の空きがなくなると、ファイル書き込み用の空き領域が残っていても、書き込みができなくなる場合があります。
 - ファイナライズ後は書き込みができなくなります。
- ・フォーマット時に作成可能ファイル数を選択することができます。（60,000 または 240,000）
- ・ライトワンスメディアは再フォーマットしても以前の作成可能ファイル数（60,000 または 240,000）が引き継がれますが、リライタブルメディアは再フォーマット時に作成可能ファイル数を選択しなおすことができます。
- ・作成可能ファイル数を 240,000 にしてフォーマットした場合は、ファイル修復機能による修復率が 60,000 ファイルの場合より劣ることがあります。

取り扱い上の注意

取り扱いかた

Optical Disc Archive Cartridge は 12 枚のディスクをシェルの内部に格納し、ほこりや指紋を気にせずに手軽に取り扱えるように設計されています。ただし、落下等により強い

衝撃をカートリッジに与えると、破損、ディスクへの傷の原因となることもあります。傷などがつくと、記録できなくなったり、記録したデータを読み出しできなくなったりすることがありますので、取り扱いには充分注意し、大切に保管してください。

- ・カートリッジ内のディスクは取り出さないでください。
- ・カートリッジを分解しないでください。
- ・カートリッジ内のディスクの順序を入れ替えたり、他のディスクに入れ換えたりすると、そのカートリッジは本機から認識されなくなり、使用できなくなります。
- ・インデックスシールは付属のシールを推奨します。正しい位置にお貼りください。

保管のしかた

- ・直接日光が当たるところなど、温度の高いところや湿度の高いところには置かないでください。
- ・カートリッジにほこりなどが入る可能性のあるところには放置しないでください。
- ・カートリッジはケースに入れて保存してください。

お手入れのしかた

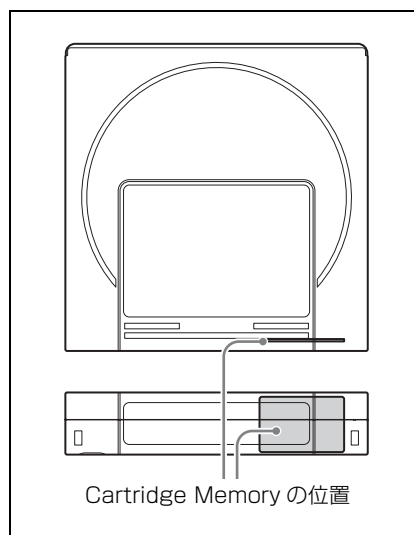
- ・カートリッジ表面についたほこりやゴミは、乾いた布で軽くふき取ってください。
- ・結露した場合は、十分乾いてからご使用ください。

カートリッジメモリーについて

Optical Disc Archive Cartridge は、本機と非接触通信可能な Cartridge Memory を内蔵しています。

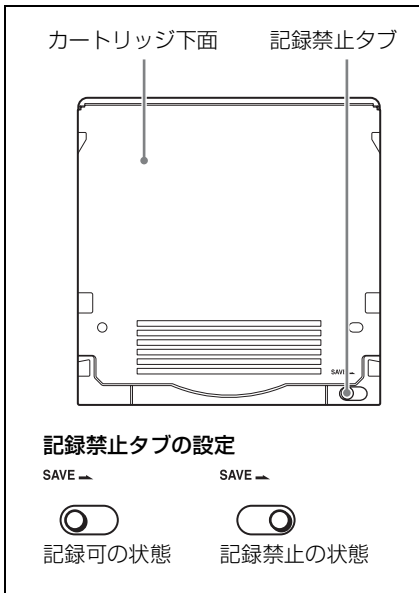
Cartridge Memory には Optical Disc Archive Cartridge の基本情報が書き込まれています。

将来的に、アプリケーションソフトウェアを利用して、ユーザーデータの書き込み / 読み出しが可能になります。



誤消去を防止するには

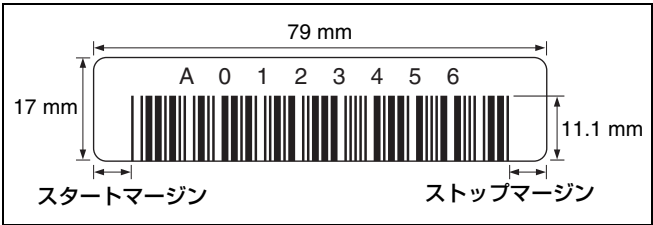
メディアの記録内容を誤って消してしまうのを防ぐためには、次図のようにカートリッジ下面（ラベル面の裏側）にある記録禁止タブを矢印の方向に設定しておきます。



メディアの記録禁止設定は、上位アプリケーションから可能
可能です。
記録禁止タブまたは上位アプリケーションのどちらかが記録禁止設定になっていると、そのメディアは記録禁止となります。

バーコードラベルについて

本機のバーコードリーダーユニットはCODE39に対応しています。使用できるバーコードラベルの仕様は以下のとおりです。



外形寸法	使用するカートリッジのラベルフレームサイズに準拠
ラベルと印刷	無光沢であること
バーの幅	細バーまたはスペースの幅 0.423 mm +0.03/ - 0.076 mm (または、細バーまたはスペースの公称幅 0.423 mm)
太バー / 細バー比	2.75 : 1
バーの長さ	11.1 mm 以上

ストップ / スタートマージン	6.35 mm 以上
桁数	8 桁の大文字英数字（スタート / ストップコード含まず）
チェックデジット	なし

ご注意

- バーコードの両端の空白部分には、どのような種類のマークも付けないでください。この部分にマークがあると、本機がラベルを読み取ることができなくなります。
- ラベルと印刷の表面が光沢になっていると、ハレーションによって読み取りができないことがあります。読み取り可能なバーコードラベルについては、ソニーの営業担当者にお問い合わせください。
- 9桁以上のバーコードラベルが必要であれば営業担当者にお問い合わせください。
- バーコードラベルは、カートリッジのラベルエリア内に、図に示す向きではみ出さないように貼り付けてください。また、はがれないように、バーコードラベルをカートリッジ側に強く押し付けてください。



- くぼんだ部分からラベルがはみ出していると、ロード時にドライブまたはライブラリの問題が発生する場合があります。

バーコードラベル使用上のご注意

- ソニー仕様に準ずるバーコードラベルのみを使用してください。
- カートリッジメモリーが内蔵されたバーコードラベルは貼り付けしないでください。
- ラベルを再利用したり、使用済みのラベルを既存のラベルの上に貼り付け直したりしないでください。
- 新しいラベルを貼り付ける前に、古いラベルをはがしてください。ラベルをはがすときは、カートリッジ・ケースに対して直角方向にラベルをゆっくり引っ張ってください。
- はがしたあとに接着剤などが残らない（きれいにはがせる）ラベルを使用してください。カートリッジ上に接着剤が残っている場合は、指でそっとこすって取り除いてください。
- ラベル域をきれいにするのに、先のとがったものや水、薬品を使用しないでください。
- カートリッジに貼り付ける前にラベルを確認してください。印刷されている文字やバーコードに欠損や汚れがあるラベルは使用しないでください。バーコードラベルを

読み取ることができないと、アプリケーションのインベントリー操作に長い時間がかかります。

- ラベルをラベルシートからはがすときは、ラベルが伸びたり、端が丸まったりしないように注意してください。
- 表面にしわや気泡ができないように、ラベルは平らに貼り付けてください。
- ラベルがめくれたり丸まっていないことを確認してください。

起動と停止

ご注意

起動または停止するときは、必ず I/E ステーションを閉じてください。

起動する

- 1 電源コードが接続されていることを確認して、本機背面の主電源スイッチを入れる。

- 2 本機前面のオン / スタンバイボタンを押す。

ボタンを押すと、オン / スタンバイボタンのインジケーターが緑色に点灯します。

本体の初期化が終了し、ディスプレイの文字が点滅から点灯に変わると、本機を使用できます。

停止する

- 1 オン / スタンバイボタンを押す。

- 2 ディスプレイにシャットダウンの確認メッセージが表示されるので、矢印ボタンで Yes を選択して、ENTER ボタンを押す。

カートリッジが入ったままのドライブがある場合は、再確認のメッセージが表示されます。

- 3 オン / スタンバイボタンのインジケーターが緑点滅から赤点灯に変わったのを確認して、背面の主電源スイッチを切る。

ご注意

緊急時以外は、必ずシャットダウン処理を実施してから背面の主電源スイッチを切るようにしてください。

カートリッジの投入／排出

I/E ステーションを引き出す

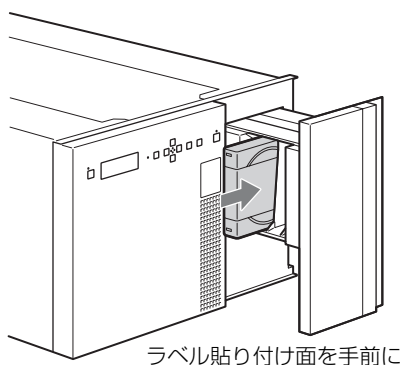
I/E ステーションを引き出すには、前面パネルの I/E STATION ボタンを押して、I/E ステーションのロックを解除する必要があります。I/E STATION ボタンを押すとロックが解除され、I/E STATION インジケーターがオレンジ色に点滅します。

ご注意

- I/E STATION ボタンを長押し（約 1 秒）し、I/E STATION インジケーターがオレンジ色に点滅するのを待って I/E ステーションを引き出してください。
- I/E STATION ボタンを押してもロックが解除されない場合は、I/E ステーションを本体の奥に突き当たるまで押し込んでから、もう一度 I/E STATION ボタンを押してください。

カートリッジを投入／排出する

スロットにカートリッジを挿入し、スロットの奥に突き当たるまで差し込みます。



カートリッジを取り出すときは、左に引き出します。

I/E ステーションを閉じる

I/E ステーションを本体の奥に突き当たるまでゆっくり押し込み、I/E STATION インジケーターが緑色に点滅していることを確認してください。

ご注意

- I/E STATION インジケーターがオレンジ色に点滅している場合は、I/E ステーションが完全に閉まっていません。

- 3 分以上 I/E ステーションを引き出したままにすると、警告音が鳴ります。

データベースへの登録

カートリッジを挿入して I/E ステーションを閉めると、各カートリッジの情報が本機内のデータベースに自動的に登録されます。多数のカートリッジを交換した場合は、登録に時間がかかることがあります。

データベースへの登録が終了すると、I/E STATION インジケーターが緑またはオレンジ色に点灯します。

ネットワークの設定

本機前面のディスプレイで IPv4 アドレスを設定した後、本機と Web ブラウザーがインストールされたコンピューターをネットワークケーブルで接続し、Library Maintenance Web UI を使って本機の設定、状態確認を行います。

IPv4 アドレスの設定

IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、および DNS アドレスを設定します。工場出荷時、Network 1 は DHCP が設定されています。Network 2 は、次の値が設定されています。

IP アドレス：192.168.1.10
サブネットマスク：255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ：0.0.0.0

IP アドレスなどの設定には、本機前面のディスプレイおよびボタンを使用します。

1 MENU ボタンを押す。

ディスプレイがメニュー表示に切り換わります。

```
Menu
> 1.Information
  2.Setup
  3.Maintenance
```

2 上下ボタンで Setup を選択し、ENTER ボタンを押す。

Setup 画面が表示されます。

```
Setup
> 1.Network
  2.Control Panel
```

3 上下ボタンで Network を選択し、ENTER ボタンを押す。

Network 画面が表示されます。

```
Network
> 1.Network 1
  2.Network 2
```

4 上下ボタンで Network 1 を選択し、ENTER ボタンを押す。

Network1 画面が表示されます。

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
  2.IPv6 Setting
```

5 上下ボタンで IPv4 Setting を選択し、ENTER ボタンを押す。

次の画面が表示されます。* は、現在の設定を示します。IPv4 アドレスを設定する場合は、Enabled を設定する必要があります。既に Enabled が設定されている場合は、手順 8 に進んでください。

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  Enabled
  *Disabled
```

6 設定を変更する場合は、ENTER ボタンを押す。

選択画面（カーソル「>」が表示されている）が表示されます。この画面で設定を変更できます。

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
> Enabled
  *Disabled
```

7 上下ボタンで Enabled を選択し、ENTER ボタンを押す。

確定画面（カーソル「>」が表示されていない）が表示されます。

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  *Enabled
  Disabled
```

8 Enabled が選択されていることを確認して、上下ボタンを押す。

次の画面が表示されます。

```
IPv4 Setting
IPv4 DHCP
  Auto
  *Static
```

9 ENTER ボタンを押して、選択画面を表示する。

10 静的 IP アドレスを使用する場合は、上下ボタンで Static を選択し、ENTER ボタンを押して確定する。

で注意

DHCP を使用する場合は、上下ボタンで Auto を選択して、ENTER ボタンを押してください。次に手順 17 に進んでください。

11 ⇐ ボタンを押す。

次の画面が表示されます。

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

12 ENTER ボタンを押す。

IP アドレスの最初の桁が点滅し、アドレスを変更できるようになります。

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

13 IP アドレスを入力する。

⇐⇒ ボタンで桁を移動し、⇐⇐ ボタンで値を変更します。

14 アドレスの入力が完了したら、ENTER ボタンを押して確定する。

15 ⇐ ボタンを押して IPv4 Netmask を表示し、IP アドレスと同様の操作で、サブネットマスクを設定する。

```
IPv4 Setting
IPv4 Netmask
000.000.000.000
```

16 ⇐ ボタンを押して IPv4 Gateway を表示し、同様にデフォルトゲートウェイを設定する。

```
IPv4 Setting
IPv4 Gateway
000.000.000.000
```

17 ⇐ ボタンを押す。

IPv4 DNS が表示されます。

```
IPv4 Setting
IPv4 DNS
Auto
*Static
```

18 DNS のアドレスを設定する場合は、Static を選択する。

現在の設定が Auto の場合は、ENTER ボタンで選択画面を表示し、⇐⇐ ボタンで Static を選択したあと、ENTER ボタンで確定する。

ご注意

DNS アドレスを自動取得する場合は、Auto を設定します。Static の場合と同様の操作で設定を確定し、手順 24 に進んでください。

19 ENTER ボタンを押す。

IPv4 Primary DNS 画面が表示されます。

```
IPv4 Setting
IPv4 Primary DNS
000.000.000.000
```

20 ENTER ボタンを押す。

IP アドレスの最初の桁が点滅し、アドレスを変更できるようになります。

21 ⇐⇒⇐⇐ ボタンでプライマリ DNS のアドレスを入力し、ENTER ボタンを押す。

22 ⇐ ボタンを押す。

IPv4 Secondary DNS 画面が表示されます。

23 手順 20 と同様に、セカンダリ DNS のアドレスを入力し、ENTER ボタンを押す。

24 ⇐ ボタンを押す。

次の確認画面が表示されます。

```
Network1
IPv4 Setting
> Save
Cancel
```

25 Save が選択されていることを確認して、ENTER ボタンを押す。

変更した IP アドレスが有効になります。
Network1 画面に戻ります。

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
2.IPv6 Setting
```

26 BACK ボタンを 3 回押して、メニュー操作を終了する。

IP アドレスは、Web 画面（Library Maintenance Web UI）でも変更できます。

◆ Library Maintenance Web UI での変更方法については、Library Maintenance Web UI のヘルプをご覧ください。

Web 画面の表示

本機の設定操作は、Web 画面（Library Maintenance Web UI）を使って行えます。

推奨環境

Web ブラウザー：

- Windows の場合：Google Chrome 最新版または Microsoft Internet Explorer 11
- Mac OS の場合：Google Chrome 最新版
- モニターサイズ：横幅 1024 ピクセル以上

Web 画面を表示するには、Web ブラウザーのアドレス欄に「https://（本機の IP アドレス）/」を入力します。

例：https://192.168.1.10/



Web ブラウザーが本機に接続すると、「このサイトのセキュリティ証明書は信頼できません」などのメッセージが表示されます。メッセージに表示されている IP アドレスが正しいことを確認して、閲覧を続行してください。

続行すると、認証画面が表示されます。

下記のユーザー名およびパスワードを入力してください。

ユーザー名：admin、パスワード：ods-l30m

認証されると、Library Maintenance Web UI の画面が表示されます。

- ◆ Library Maintenance Web UI の操作については、Library Maintenance Web UI のヘルプをご覧ください。

ご注意

- ネットワークの設定内容については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
プロキシサーバーの設定によっては、ネットワークに接続できない場合があります。
- 本機に同時に接続できる Web クライアントは、5 台です。
- Web 画面への同時接続数（http セッション数）は、5 です。2 セッション以上接続している場合、登録操作が重なりエラーになる場合があります。この場合は、再度登録操作を行ってください。
- 本機はネットワークのルーティングを行いません。ゲートウェイアドレスと IP アドレス自動取得は、1 つのネットワークポートにのみ設定してください。
- Web ブラウザーの JavaScript を有効にしてください。
JavaScript が有効になっていないと、ログイン画面が表示されません。

- Web ブラウザーで Cookie の受け入れを許可してください。
本機からの Cookie の受け入れが許可されていないと、ログインできません。
- Web ブラウザーの設定方法は、Web ブラウザーや OS のバージョンによって異なります。ご利用の Web ブラウザーや OS の説明書またはヘルプをご確認ください。

サーバーへのソフトウェアインストール

本機に搭載したドライブユニットとファイバーチャネルで接続したサーバー（システム構成については、9 ページを参照）に、下記のソフトウェアをインストールします。

- Optical Disc Archive Software（Windows/Linux）
サーバーとドライブユニットを接続し、ファイルの読み出し／書き込みなどを行うための基本ソフトウェアです。本ソフトウェアは、ソニープロフェッショナル／業務用製品サイト（32 ページ）からダウンロードしてください。

ご注意

- サーバーをドライブユニットに接続する前に、インストールを行ってください。
- 本ソフトウェアをインストールすると、Optical Disc Archive Utility が自動的にインストールされます。

動作環境

Optical Disc Archive Software は、以下の環境で動作検証をしています。

ご注意

この動作検証結果は、すべてのコンピューターに適用されるものではありません。

Windows

項目	条件
プロセッサ	Intel Core 2 Duo 2.66GHz 以上または Intel Xeon 2GHz 以上
メモリー	32bit 機：2GB 以上、64bit 機：2GB ×（台数）以上
HDD の空き容量	32bit 機：16GB 以上、64bit 機：8GB + 4GB ×（台数 + 1）以上
OS	ソニープロフェッショナル／業務用製品サイト（32 ページ）をご覧ください。

Linux

項目	条件
プロセッサ	Intel Core 2 Duo 2.66GHz 以上または Intel Xeon 2GHz 以上
メモリー	32bit 機：2GB 以上、64bit 機：2GB ×（台数）以上
HDD の空き容量	32bit 機：16GB 以上、64bit 機：8GB + 4GB ×（台数 + 1）以上

項目	条件
OS	ソニープロフェッショナル／業務用製品サイト（32 ページ）をご覧ください。

インストール

ソニープロフェッショナル／業務用製品サイト（32 ページ）からダウンロードしてインストールしてください。

ご注意

Optical Disc Archive Software と、一部のアンチウイルスソフトウェア、スパイウェアツール、OS 標準以外の UDF 2.5 または 2.6 ファイルシステムドライバーを含む製品が同時にインストールされていると、動作が不安定になる場合があります。Optical Disc Archive Software の動作が不安定な場合は、上記のソフトウェアの競合や設定をご確認のうえ、設定を変更してください。

Windows にインストールする場合の注意事項

- バージョンの古い Optical Disc Archive Software がインストールされている場合は、新しいバージョンをインストールする前にアンインストールしてください。コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から「Sony Optical Disc Archive Software」を削除し、コンピューターを再起動してください。
- インストールを実行すると、それ以前に設定した項目は初期化されます。

Linux にインストールする場合の注意事項

- Optical Disc Archive Software をインストールせずにサーバーにドライブユニットを接続すると、サーバーの動作に支障を来すことがあります。これを避けるために、必ずサーバーとドライブユニットを接続する前に、Optical Disc Archive Software をインストールしてください。
もし、サーバーの動作に異常が見られる場合は、サーバーをシャットダウンし、サーバーとドライブユニットの接続をはずし、サーバーを再起動してから、Optical Disc Archive Software をインストールしてください。その後、サーバーとドライブユニットを接続してください。
- アップデートインストールを行うと、Optical Disc Archive Software が上書きされます。それ以前に設定した項目はインストール後も継承されます。
- Optical Disc Archive Software をアンインストールした後、新しいバージョンをインストールした場合は、それ以前に設定した項目は初期化されます。

メニュー操作

本機前面のディスプレイに表示されるメニューで、本機の基本設定を行ったり、本機のステータスを表示することができます。メニューの操作には、本機前面のボタンを使用します。

メニューの基本操作

警告音の設定を例に、メニューの基本的な操作を説明します。

1 MENU ボタンを押す。

メニュー項目を選択する画面になります。

```
Menu
1.Information
> 2.Setup
3.Maintenance
```

2 上下ボタンでカーソル (>) を移動して Setup を選択し、ENTER ボタンを押す。

選択した項目のサブメニューが表示されます。

```
Setup
> 1.Network
2.Control Panel
```

3 上下ボタンで Control Panel を選択し、ENTER ボタンを押す。

選択した項目のサブメニューが表示されます。

```
Control Panel
> 1.Buzzer
2.LCD Backlight
3.LCD Brightness
```

4 上下ボタンで Buzzer を選択し、ENTER ボタンを押す。

選択した項目の現在の設定内容が表示されます。* が表示されている項目が現在の設定内容です。

```
Control Panel
Buzzer
ON
*OFF
```

5 ENTER ボタンを押す。

カーソル (>) が表示され、変更可能な状態になります。

```
Control Panel
Buzzer
ON
>*OFF
```

6 左右ボタンでカーソル (>) を移動する。

```
Control Panel
Buzzer
> ON
*OFF
```

7 ENTER ボタンを押して、設定を確定する。

カーソルが消え、設定が確定されます。

```
Control Panel
Buzzer
*ON
OFF
```

8 MENU ボタンを押して、メニュー項目を選択する画面 (手順 1) に戻る。

BACK ボタンを押すと、一つ上の画面に戻ります。

9 もう一度 MENU ボタンを押すと、メニュー操作を終了する。

メニュー一覧

メニュー	説明
Information	Setup メニューの各設定内容と IPv6 の以下の項目を表示します。 IPv6 Temporary : IPv6 の一時アドレスを表示します。 IPv6 Link-Local : IPv6 のリンクローカルアドレスを表示します。
Setup	本機の設定を変更します。

メニュー	説明
1.Network	ネットワークの設定を行います。 Network 1 / Network 2 : ODS-L30M の2つのネットワークポートの設定を行います。 IPv4 Enabled / IPv6 Enabled : IPv4、IPv6の有効/無効を設定します。 IPv4 DHCP / IPv6 DHCP : IPv4、IPv6のIPアドレスをDHCPにするか、固定にするかを設定します。 IPv4 Address / IPv6 Address : IPv4、IPv6のIPアドレスを設定します。 IPv4 Netmask : IPv4のサブネットマスクを設定します。 IPv6 Subnetprefix : IPv6のサブネットプレフィックスを設定します。 IPv4 Gateway / IPv6 Gateway : IPv4、IPv6のデフォルトゲートウェイを設定します。 IPv4 DNS / IPv6 DNS : IPv4、IPv6のDNSを自動にするか、固定にするかを設定します。 IPv4 Primary DNS / IPv6 Primary DNS : IPv4、IPv6のプライマリーDNSを設定します。 IPv4 Secondary DNS / IPv6 Secondary DNS : IPv4、IPv6のセカンダリーDNSを設定します。
2.Control Panel	コントロールパネルの設定を行います。 Buzzer : 警告音をオン/オフします。 LCD Backlight : LCDのバックライトを自動消灯するか、常に点灯するかを設定します。 LCD Brightness : LCDの輝度をLow/Middle/Highから選択します。
Maintenance	メンテナンス用のメニューです。
1.Configuration	Factory Setting : 本機を工場出荷時の設定に戻します。
2.Diagnostic	サービス担当者用のメニューです。
3.Power Management	Reboot : 本機を再起動します。
4.Service	サービス担当者用のメニューです。

メッセージ

本機のハードウェアや設定などに異常がある場合は、本機前面の ALARM インジケータが赤（エラー）またはオレンジ（ワーニング）で点滅し、メッセージがディスプレイに表示されます。メニュー操作をしている間は、メッセージが出力されません。BACK ボタンを押してメニュー操作を終了すると、メッセージが表示されます。

メッセージが表示された場合は、下記の説明に従って対応してください。メッセージが繰り返し表示されるときは、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。

メッセージ	説明
ERROR POWER OFF REQUEST	システムの再起動が必要です。電源を切って、再起動してください。
ERROR BOOT OS	ブート中にエラーが発生しました。 ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
ERROR CALIBRATION	キャリア調整中にエラーが発生しました。 ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
ERROR FIRMWARE UPDATE REQUEST	ファームウェアの更新が必要です。 ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
ERROR SERVICE MAINTENANCE REQUEST	ユニット間接続ケーブルが正しく接続されているか確認してください。ケーブルの接続に問題がない場合は、サービス担当者のメンテナンスが必要です。 ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
ERROR	制御中にエラーを検出しました。 Library Maintenance Web UI の [システム情報] タブで [ライブラリの状態] を確認してください。
WARNING UNIT(1 ～ 6) POWER (A/B) : OFF	電源構成の設定で監視対象となっている電源ユニットが OFF になっています。 Library Maintenance Web UI の [詳細設定] タブで [電源構成の設定] を確認してください。設定に問題がない場合は、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
WARNING UNIT(1 ～ 6) POWER (A/B) : NG	電源ユニットの異常を検出しました。 ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
WARNING UNIT(1 ～ 6) POWER(A/B) : CC	電源ユニットが ON になっていますが、電源構成の設定で監視対象になっていません。 Library Maintenance Web UI の [詳細設定] タブ - [電源構成の設定] で使用する電源ユニットにチェックを入れてください。
WARNING HIGH TEMP	本体内部の温度が高すぎます。本機は動作しますが、このまま使用を継続すると本体内部またはドライブ内部の温度がさらに上昇し、故障や火災につながるおそれがあります。 ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
WARNING FAN	ファンの回転数が低下しています。本機は動作しますが、このまま使用を継続すると本体内部またはドライブ内部の温度が上昇し、故障や火災につながるおそれがあります。 ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
WARNING SSD	SSD を診断した結果、交換が必要と判断されました。 ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
WARNING LITHIUM BATTERY	リチウム電池の交換が必要です。 ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
CLOSE I/E STATION	I/E ステーションが3分間引き出されたままです。I/E STATION を完全に挿入してください。 I/E ステーションを挿入後も表示が変わらない場合は、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
I/E STATION LOCKED	I/E ステーションがストレージスロットとして設定されているか、アプリケーションが I/E ステーションをロックしている状態で、I/E STATION ボタンが押されました。 お使いのアプリケーションでロックを解除したあと、I/E STATION ボタンを押してください。アプリケーションがロック解除不可能な状態になっている場合は、Library Maintenance Web UI でロックを解除してください。
I/E STATION BUSY	I/E ステーションへのアクセス中に I/E STATION ボタンが押されました。 I/E STATION インジケータが緑色点灯または橙色点灯になってから Release ボタンを押してください。

メッセージ	説明
I/E STATION NOT UNLOCKED	I/E ステーションのロック解除ができませんでした。 I/E ステーションを本体の奥に突き当たるまで押し込んでから、もう一度 I/E STATION ボタンを押してください。
I/E STATION HALF-CLOSED	I/E ステーションの挿入が不完全です。 I/E ステーションを本体の奥に突き当たるまで押し込んでから、もう一度 I/E STATION ボタンを押してください。
PUSH I/E STATION	I/E ステーションの挿入が不完全な状態で 15 秒以上経過しました。 I/E ステーションを本体の奥に突き当たるまで押し込んでください。
REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	キャリアにカートリッジがあるため、I/E ステーションのインポート処理ができません。 Library Maintenance Web UI の [カートリッジの移動] タブでキャリアから空きスロットにカートリッジを移動してください。
ERROR CALIBRATION REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	キャリアにカートリッジがあるため、キャリア調整が失敗しました。ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
I/E STATION OPENED	I/E ステーションが開いている状態で I/E スロットの移動指示が出ています。 I/E ステーションを閉じるか、アプリケーションの制御を確認してください。
UNIT CONFIG CHANGE REQUEST	ユニット構成の変更が検出されました。 ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。
DIAGNOSTIC LIBRARY REQUEST	ライブラリの診断が必要です。 ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。

使用上のご注意

安全にご使用いただくために、「安全のために」(2 ページ)、「 警告」(4 ページ)、「 注意」(5 ページ)と併せてご覧ください。

取り扱い・保管上のご注意

強い衝撃を与えない

内部構造や外観の変形などの損傷を受けることがあります。

動作中は布などで包まないでください

内部の温度が上がり、故障することがあります。

使い終わったら

オン／スタンバイボタンをオフにしてください。
長時間使わないときは、さらに後面の主電源スイッチも切ってください。

輸送

- 必ず電源を切ってください。
- トラック、船、航空機など、本機を貨物として扱う輸送では、お買い上げ時の梱包材をご使用ください。
- SHIPPING をしないで輸送すると、内部の部品が損傷を受けます。
インストラクションマニュアルに従って、必ず SHIPPING ネジおよび SHIPPING 金具の取り付けを行ってください。
- ドライブを取り外さないで輸送を行うと、本機とドライブが損傷を受けます。必ずドライブを本機から取り外して、本機の輸送を行ってください。

お手入れ

外装の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ります。ひどい汚れは、中性洗剤液を少し含ませた布で拭いた後、カラ拭きします。アルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品類は、表面が変質したり、塗料がはげることがありますので、使わないでください。

万一、異常が生じたときは

ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

使用場所・保管場所

水平な場所、空調のある場所に保管してください。
次のような場所での使用・保管は避けてください。

- 極端に寒い所、暑い所（使用温度は 5℃～35℃）。
真夏、窓を閉め切った自動車内は 50℃を越えることがあります。
- 湿気・ほこりの多い所。
- 雨が当たる所。
- 激しく振動する所。
- 強い磁気を発生するものの近く。
- 強力な電波を発生するテレビやラジオの送信所の近く。
- 直射日光が長時間当たる場所や暖房器具の近く。

携帯電話などによる電波障害を防止するために

携帯電話などを本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こすことがあります。

本機の近くでは、携帯電話などの電源はできるだけ切ってください。

結露について

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなど、機器表面や内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。結露が起きたときは電源を切り、結露がなくなるまで放置し、結露がなくなってからご使用ください。結露時のご使用は機器の故障の原因となる場合があります。

部品交換について

キャリア（搬送機構）は有寿命部品として定期的な交換が必要です。

常温でのご使用の場合、5 年を目安に交換してください。
ただし、交換時期は目安であり、部品の寿命を保証するものではありません。交換の際はお買い上げ店にご相談ください。

LCD について

LCD（液晶）パネルの特性上、長期間ご使用の間に画素欠けが生じることがあります。

これらの現象は故障ではありませんので、ご了承の上本機をお使いください。

ドライブユニットに対する注意事項

ドライブユニットへの衝撃について

カートリッジがドライブユニットに挿入された状態で、ドライブユニットに衝撃を加えないでください。

ドライブユニットの輸送について

ドライブユニットの輸送時には、必ずカートリッジを取り出してください。

ファイルの読み出し時間について

- 複数のファイルに同時にアクセスすると、頻繁なディスク交換が発生する場合があります、それによりファイルの転送速度が低下し、操作に対する反応時間が著しく長くなることがあります。
- 単一のファイルにアクセスする場合でも、カートリッジ内の記録位置によってはディスク交換が発生し、ファイルの読み出し開始までに時間がかかることがあります。

ファイルの書き込み時間について

小容量（目安として 100 MB 未満）のファイルを多数・連続的に書き込むと、書き込みが完了するまでの時間が長くなることがあります。この場合、動作モードを「記録直後、直ちに管理情報をメディアに同期する：オフ」に設定すると、書き込みのパフォーマンスとメディアの使用効率が向上します。その反面、書き込み中の障害（電源問題など）発生時のファイル復元能力は低下します。

商標ならびにライセンス表記について

オープンソースソフトウェアのライセンスについて

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアが搭載されています。当該ソフトウェアの著作権者の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。ライセンスの内容に関しては、ヘルプの「Open Source Software License List」をご覧ください。

GPL/LGPL/GPL V3 適用ソフトウェアの入手について

本製品は GPL version 2、LGPL version 2.1、GPL version 3 適用のソフトウェアを使用しており、お客様には、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせします。

これらのソースコードはインターネットのサーバーからダウンロードすることが可能です。以下の URL にアクセスすれば、具体的なダウンロードの方法がわかるようになっています。

<http://oss.sony.net/Products/Linux/common/search.html>

なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

仕様

ODS-L30M の仕様を示します。ODS-L60E、ODS-L100E、ODBK-101、ODBK-102、ODBK-103 および ODS-D77F の仕様については、各製品のオペレーションガイドをご覧ください。

一般

電源	AC 100 V ~ 240 V、50 Hz/60 Hz
消費電流	3.2 A ~ 1.4 A
動作温度	5 °C ~ 35 °C
保存温度	-20 °C ~ +55 °C
動作湿度	20% ~ 80% (相対湿度)
保存湿度	75% 以下
質量	30 kg (ドライブユニット、カートリッジ含まず)
外形寸法	445 × 308 × 940 mm (幅 / 高さ / 奥行き) (突起部含まず)

入出力

品 (ネットワーク)

- RJ-45 型モジュージャック (2)
- 1000BASE-T : IEEE 802.3ab 準拠
- 100BASE-TX : IEEE 802.3u 準拠

付属品

- オペレーションマニュアル (1)
- ラックマウントキット (1 セット)
- ラックマウント用板ワッシャー (4)
- ねじ (B4 × 10) (8)
- ねじ (B5 × 16) (8)
- 固定金具 (2)
- シクネスゲージ 025 (3)
- シクネスゲージ 050 (3)
- シクネスゲージ 100 (3)
- ハイトサポート 025 (3)
- ハイトサポート 050 (3)
- ハイトサポート 100 (3)
- I/E ステーションラベル (1 式)

別売品

- パワーサプライ ODBK-101、ODBK-102
- 拡張キット ODBK-103

ODS-L30M の専用オプション (ただし、シリアル No.10001 ~ 10999、50001 ~ 50999 を除く)
ODS-L30M のシリアル No. は、背面の機銘板でご確認ください。

オプティカルディスクアーカイブカートリッジ

- ODC300R (300 GB、ライトワンス型)
- ODC300RE (300 GB、リライタブル型)
- ODC600R (600 GB、ライトワンス型)
- ODC600RE (600 GB、リライタブル型)
- ODC1200RE (1.2 TB、リライタブル型)
- ODC1500R (1.5 TB、ライトワンス型)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

本機は「高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品」です。(ODS-L30M/L60E)

- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

通信を行う機器でセキュリティ対策を行わなかった結果、または、通信仕様上の、やむを得ない事情により、データ漏洩等、セキュリティ上の問題が発生した場合、弊社ではそれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。

使用環境によってはネットワーク上の意図せぬ第三者から製品にアクセスされる可能性があります。本機をネットワークに接続する際には、セキュアなネットワークであることをご確認の上ご使用ください。

セキュリティの面から、製品をネットワークに接続してご使用になる際は、ブラウザでコントロール画面にアクセスし、アクセス制限設定を工場出荷時の設定値から変更して設定することを強く推奨します。(Library Maintenance Web UI ヘルプの詳細設定タブを参照) また、定期的にパスワードを変更することを推奨します。

ソフトウェアのダウンロードについて

本機を PC と接続して使用する際は、必要に応じてデバイスドライバや各種プラグインソフトウェア、アプリケーションソフトウェアを下記サイトからダウンロードしてお使いください。

ソニープロフェッショナル / 業務用製品サイトホームページ：

アメリカ合衆国	http://pro.sony.com
カナダ	http://www.sonybiz.ca
ラテンアメリカ	http://sonypro-latin.com
ヨーロッパ	http://www.pro.sony.eu/pro
中東、アフリカ	http://sony-psmea.com
ロシア	http://sony.ru/pro/
ブラジル	http://sonypro.com.br
オーストラリア	http://pro.sony.com.au
ニュージーランド	http://pro.sony.co.nz
日本	http://www.sonybsc.com
アジア	http://pro.sony-asia.com
韓国	http://bp.sony.co.kr
中国	http://pro.sony.com.cn
インド	http://pro.sony.co.in

Sony Creative Software 社のソフトウェアダウンロードページ

http://www.sonycreativesoftware.com/download/software_for_sony_equipment

Before operating the unit, please read this manual thoroughly and retain it for future reference.

WARNING

To reduce the risk of fire or electric shock, do not expose this apparatus to rain or moisture.

To avoid electrical shock, do not open the cabinet. Refer servicing to qualified personnel only.

THIS APPARATUS MUST BE EARTHED. (ODS-L30M/L60E)

When installing the unit, incorporate a readily accessible disconnect device in the fixed wiring, or connect the power plug to an easily accessible socket-outlet near the unit. If a fault should occur during operation of the unit, operate the disconnect device to switch the power supply off, or disconnect the power plug. (ODS-L30M/L60E)

Attention-when the product is installed in Rack (ODS-L30M/L60E/L100E):

- 1. Prevention against overloading of branch circuit**
When this product is installed in a rack and is supplied power from an outlet on the rack, please make sure that the rack does not overload the supply circuit.
- 2. Providing protective earth**
When this product is installed in a rack and is supplied power from an outlet on the rack, please confirm that the outlet is provided with a suitable protective earth connection.
- 3. Internal air ambient temperature of the rack**
When this product is installed in a rack, please make sure that the internal air ambient temperature of the rack is within the specified limit of this product.
- 4. Prevention against achieving hazardous condition due to uneven mechanical loading**
When this product is installed in a rack, please make sure that the rack does not achieve hazardous condition due to uneven mechanical loading.
- 5. Install the equipment while taking the operating temperature of the equipment into consideration**
For the operating temperature of the equipment, refer to the specifications of the Operation Manual.
- 6. When performing the installation, keep the following space away from walls in order to obtain proper exhaust and radiation of heat.**

Right, Left : 4 cm (1.6 inches) or more

Rear : 10 cm (4 inches) or more

WARNING (ODS-L30M/L60E): THIS WARNING IS APPLICABLE FOR USA ONLY.

If used in USA, use the UL LISTED power cord specified below.

DO NOT USE ANY OTHER POWER CORD.

Plug Cap	Parallel blade with ground pin (NEMA 5-15P Configuration)
Cord	Type SJT, three 16 or 18 AWG wires
Length	Minimum 1.5 m (4 ft 11 in), Less than 2.5 m (8 ft 3 in)
Rating	Minimum 10A, 125V

Using this unit at a voltage other than 120V may require the use of a different line cord or attachment plug, or both. To reduce the risk of fire or electric shock, refer servicing to qualified service personnel.

WARNING (ODS-L30M/L60E): THIS WARNING IS APPLICABLE FOR OTHER COUNTRIES.

1. Use the approved Power Cord (3-core mains lead) / Appliance Connector / Plug with earthing-contacts that conforms to the safety regulations of each country if applicable.
2. Use the Power Cord (3-core mains lead) / Appliance Connector / Plug conforming to the proper ratings (Voltage, Ampere).

If you have questions on the use of the above Power Cord / Appliance Connector / Plug, please consult a qualified service personnel.

IMPORTANT (ODS-L30M/L60E/L100E)

The nameplate is located on the back.

IMPORTANT (ODS-D77F)

The nameplate is located on the side.

For kundene i Norge (ODS-L30M/L60E)

Dette utstyret kan kobles til et IT-strømfordelingssystem.

For the customers in the U.S.A.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

You are cautioned that any changes or modifications not expressly approved in this manual could void your authority to operate this equipment.

All interface cables used to connect peripherals must be shielded in order to comply with the limits for a digital device pursuant to Subpart B of part 15 of FCC Rules.

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For the customers in Canada

CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A)

For the customers in Europe, Australia and New Zealand

WARNING

This is a Class A product. In a domestic environment, this product may cause radio interference in which case the user may be required to take adequate measures.

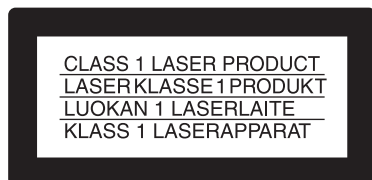
For the customers in Europe

This product has been manufactured by or on behalf of Sony Corporation, 1-7-1 Konan Minato-ku Tokyo, 108-0075 Japan. Inquiries related to product compliance based on European Union legislation shall be addressed to the authorized representative, Sony Deutschland GmbH, Hedelfinger Strasse 61, 70327 Stuttgart, Germany. For any service or guarantee matters, please refer to the addresses provided in the separate service or guarantee documents.

This apparatus shall not be used in the residential area.

Caution (ODS-D77F)

Use of controls or adjustments or performance of procedures other than those specified herein may result in hazardous radiation exposure.



This Optical Disc Archive Drive Unit is classified as a CLASS 1 LASER PRODUCT. (ODS-D77F)

Tämä Optisen levyarkiston ohjain on luokiteltu 1. LUOKAN LASERTUOTTEEKSI. (ODS-D77F)

Den här Optisk diskenhet för arkivering klassificeras som en LASERPRODUKT AV KLASS 1. (ODS-D77F)

VAROITUS! (ODS-D77F)

LAITTEEN KÄYTTÄMINEN MUULLA KUIN TÄSSÄ KÄYTTÖOHJEESSA MAINITULLA TAVALLA SAATTAA ALTISTAA KÄYTTÄJÄN TURVALLISUUSLUOKAN 1 YLITTÄVÄLLE NÄKYMÄTTÖMÄLLE LASERSÄTEILYLLE.

VARNING (ODS-D77F)

OM APPARATEN ANVÄNDS PÅ ANNAT SÄTT ÄN I DENNA BRUKSANVISNING SPECIFICERATS, KAN ANVÄNDAREN UTSÄTTAS FÖR OSYNLIG LASERSTRÅLNING, SOM ÖVERSKRIDER GRÄNSEN FÖR LASERKLASS 1.

Laser Diode Properties (ODS-D77F)

Wavelength: 400 to 410 nm

Emission duration: Continuous

Laser output power: 280 mW (max. of pulse peak),
150 mW (max. of CW)

Standard: IEC60825-1 (2007)

Egenskaber for laserdiode (ODS-D77F)

Bølgelængde: 400 till 410 nm

Strålingsvarighed: Kontinuerlig

Afgivet lasereffekt: 280 mW (max. for pulstopp),
150 mW (max. for kontinuerlig våg)

Standard: IEC60825-1 (2007)

Egenskaper for laserdiode (ODS-D77F)

Bølgelængde: 400 till 410 nm

Strålingsvarighed: Uavbrutt

Utgangseffekt for laser: 280 mW (maks stråletoppunkt),
150 mW (maks ved kontinuerlig stråling)

Standard: IEC60825-1 (2007)

Laserdiod-Egenskaper (ODS-D77F)

Våglängd: 400 - 410 nm

Strålningens varaktighet: Continuous

Lasereffekt: 280 mW (sykehuipun maks.), 150 mW
(jatkuvan aallon maks.)

Standard: IEC60825-1 (2007)

Caution (ODS-D77F)

The use of optical instruments with this product will increase eye hazard.



For the customers in Europe (ODS-L30M/D77F)

Hereby, Sony Corporation, declares that ODS-L30M (PetaSite Master Unit) / ODS-D77F (Optical Disc Archive Drive Unit) is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of the Directive 1999/5/EC.

For details, please access the following URL :
<http://www.compliance.sony.de/>

Par la présente Sony Corporation déclare que l'appareil ODS-L30M (Unité maître PetaSite) / ODS-D77F (Système d'archivage sur disque optique) est conforme aux exigences essentielles et aux autres dispositions pertinentes de la directive 1999/5/CE.
Pour toute information complémentaire, veuillez consulter l'URL suivante : <http://www.compliance.sony.de/>

Hiermit erklärt Sony Corporation, dass sich das Gerät ODS-L30M (Hauptgerät PetaSite) / ODS-D77F (Optischer Datenträger-Archivierungssystem) in Übereinstimmung mit den grundlegenden Anforderungen und den übrigen einschlägigen Bestimmungen der Richtlinie 1999/5/EG befindet.
Weitere Informationen erhältlich unter:
<http://www.compliance.sony.de/>

Con la presente Sony Corporation dichiara che ODS-L30M (Unità master PetaSite) / ODS-D77F (Sistema di archiviazione basati su disco ottico) è conforme ai requisiti essenziali ed alle altre disposizioni pertinenti stabilite dalla direttiva 1999/5/CE.
Per ulteriori dettagli, si prega di consultare il seguente URL: <http://www.compliance.sony.de/>

Por medio de la presente Sony Corporation declara que el ODS-L30 (Munidad principal PetaSite) / ODS-D77F (Sistema de archivos de disco óptico) cumple con los requisitos esenciales y cualesquiera otras disposiciones aplicables o exigibles de la Directiva 1999/5/CE.
Para mayor información, por favor consulte el siguiente URL: <http://www.compliance.sony.de/>

Hierbij verklaart Sony Corporation dat het toestel ODS-L30M (PetaSite-hoofdeenheid) / ODS-D77F (Archiefstation optische schijf) in overeenstemming is met de essentiële eisen en de andere relevante bepalingen van richtlijn 1999/5/EG.
Nadere informatie kunt u vinden op:
<http://www.compliance.sony.de/>

Härmed intygar Sony Corporation att ODS-L30M (PetaSite Masterenhet) / ODS-D77F (Optisk diskenhet för arkivering) står i överensstämmelse med de väsentliga egenskapskrav och övriga relevanta bestämmelser som framgår av direktiv 1999/5/EG.
För ytterligare information gå in på följande hemsida:
<http://www.compliance.sony.de/>

Sony Corporation declara que este ODS-L30M (Unidade PetaSite) / ODS-D77F (Unidade de Arquivo do Disco Óptico) está conforme com os requisitos essenciais e outras disposições da Directiva 1999/5/CE.
Para mais informacoes, por favor consulte a seguinte URL:
<http://www.compliance.sony.de/>

Undertegnede Sony Corporation erklærer herved, at følgende udstyr ODS-L30M (PetaSite-hovedenheden) / ODS-D77F (Optisk disk-baseret arkiv) overholder de væsentlige krav og øvrige relevante krav i direktiv 1999/5/EF.
For yderligere information gå ind på følgende hjemmeside: <http://www.compliance.sony.de/>

Sony Corporation vakuuttaa täten että ODS-L30M (PetaSite pääyksikkö) / ODS-D77F (Optisen levyarkiston ohjain) tyyppinen laite on direktiivin 1999/5/EY oleellisten vaatimusten ja sitä koskevien direktiivin muiden ehtojen mukainen.
Halutessasi lisätietoja, käy osoitteessa:
<http://www.compliance.sony.de/>

Sony Corporation erklærer herved at ODS-L30M (PetaSite masterenhet) / ODS-D77F (Drivenhet for optisk platelager) er i samsvar med de grunnleggende krav og øvrige relevante krav i direktiv 1999/5/EF.
For flere detaljer, vennligst se:
<http://www.compliance.sony.de/>

Με την παρούσα η Sony Corporation δηλώνει ότι ODS-L30M (Κύρια μονάδα PetaSite) / ODS-D77F (Μονάδα οδηγού αρχειοθέτησης οπτικού δίσκου) συμμορφώνεται προς της ουσιώδεις απαιτήσεις και τις λοιπές σχετικές διατάξεις της οδηγίας 1999/5/EK.
Πα λεπτομέρειες παρακαλούμε όπως ελέγξετε την ακόλουθη σελίδα του διαδικτύου:
<http://www.compliance.sony.de/>

С настоящето Сони Корпорация декларира, че ODS-L30M (главният уред PetaSite) / ODS-D77F (архивиране на оптични дискове) отговаря на основните изисквания и другите съответстващи клаузи на Директива 1999/5/ЕС.
Подробности може да намерите на Интернет страницата :
<http://www.compliance.sony.de/>

Sony Corporation tímto prohlašuje, že tento ODS-L30M (Hlavní jednotka PetaSite) / ODS-D77F (Jednotka pro archivaci optických disků) je ve shodě se základními požadavky a dalšími příslušnými ustanoveními směrnice 1999/5/ES.
Podrobnosti lze získat na následující URL:
<http://www.compliance.sony.de/>

Sony Corporation kinnitab käesolevaga seadme ODS-L30M (PetaSite põhiseade) / ODS-D77F (Laserketta arhiividraiv) vastavust 1999/5/EÜ direktiivi põhinõuetele ja nimetatud direktiivist tulenevatele teistele asjakohastele sätetele.
Üksikasjalikum info: <http://www.compliance.sony.de/>

Alulírott, Sony Corporation nyilatkozom, hogy a(z) ODS-L30M (PetaSite fő egység) / ODS-D77F (Optikai lemezes archiváló meghajtó egység) megfelel a vonatkozó alapvető követelményeknek és az 1999/5/EC irányelv egyéb előírásainak. További információkat a következő weboldalon találhat: <http://www.compliance.sony.de/>

Ar šo Sony Corporation deklarē, ka ODS-L30M (PetaSite pamatiekārtā) / ODS-D77F (Optisko disku arhīva diska bolks) atbilst Direktīvas 1999/5/EK būtiskajām prasībām un citiem ar to saistītajiem noteikumiem. Plašāka informācija ir pieejama: <http://www.compliance.sony.de/>

Šiuo Sony Corporation deklaruoja, kad šis ODS-L30M (PetaSite pagrindinis valdymo įrenginys) / ODS-D77F (Optinių diskų archyvo įtaisas) atitinka esminius reikalavimus ir kitas 1999/5/EB Direktyvos nuostatas. Susipažinti su visu atitikties deklaracijos turiniu Jūs galite interneto tinklalapyje: <http://www.compliance.sony.de/>

Niniejszym Sony Corporation oświadcza, że ODS-L30M (System główny PetaSite) / ODS-D77F (Jednostka napędowa archiwum dysku optycznego) jest zgodne z zasadniczymi wymaganiami oraz innymi stosownymi postanowieniami Dyrektywy 1999/5/WE. Szczegółowe informacje znaleźć można pod następującym adresem URL: <http://www.compliance.sony.de/>

Prin prezenta, Sony Corporation declară că ODS-L30M (Unitatea principală PetaSite) / ODS-D77F (Unitate de arhivare pe disc optic) respectă cerințele esențiale și este în conformitate cu prevederile Directivei 1999/5/EC. Pentru detalii, vă rugăm accesați următoarea adresă: <http://www.compliance.sony.de/>

Sony Corporation týmto vyhlasuje, že ODS-L30M (Riadiaca jednotka PetaSite) / ODS-D77F (Archívna jednotka optického disku) spĺňa základné požiadavky a všetky príslušné ustanovenia Smernice 1999/5/ES. Podrobnosti získate na nasledovnej webovej adrese: <http://www.compliance.sony.de/>

Sony Corporation izjavlja, da je ta ODS-L30M (Glavna enota PetaSite) / ODS-D77F (Pogonska enota za arhiviranje optičnih plošč) v skladu z bistvenimi zahtevami in ostalimi relevantnimi določili direktive 1999/5/ES. Za podrobnosti vas naprošamo, če pogledate na URL: <http://www.compliance.sony.de/>

Sony Corporation, ODS-L30M (PetaSite Ana Birim) / ODS-D77F (Optik Disk Arşivi Sürücüsü Birimi) ürünü için gerekli tüm testleri 1999/5/EC Direktifine göre yapmış bulunmaktadır. Daha detaylı bilgi için lütfen web sayfasını ziyaret ediniz: URL: <http://www.compliance.sony.de/>

For the State of California, USA only

Perchlorate Material - special handling may apply, See www.dtsc.ca.gov/hazardouswaste/perchlorate

For the customers in Taiwan only



廢電池請回收

For the customers in the U.S.A.

SONY LIMITED WARRANTY - Please visit <http://www.sony.com/psa/warranty> for important information and complete terms and conditions of Sony's limited warranty applicable to this product.

For the customers in Canada

SONY LIMITED WARRANTY - Please visit <http://www.sonybiz.ca/pro/lang/en/ca/article/resources-warranty-product-registration> for important information and complete terms and conditions of Sony's limited warranty applicable to this product.

For the customers in Europe

Sony Professional Solutions Europe - Standard Warranty and Exceptions on Standard Warranty. Please visit <http://www.pro.sony.eu/warranty> for important information and complete terms and conditions.

For the customers in Korea

SONY LIMITED WARRANTY - Please visit <http://bpeng.sony.co.kr/handler/BPAS-Start> for important information and complete terms and conditions of Sony's limited warranty applicable to this product.

Table of Contents

Overview	38
System Configuration Example.....	39
Name and Function of Parts.....	40
ODS-L30M.....	40
ODS-L60E.....	43
ODS-L100E.....	46
Handling Media.....	47
Media Used for Reading and Writing	47
Notes on Handling.....	47
Cartridge Memory	47
Write-Protecting Media.....	48
Barcode Labels	48
Startup and Shutdown	49
Startup	49
Shutdown.....	49
Importing and Exporting Cartridges.....	50
Opening the I/E Station	50
Importing and Exporting a Cartridge	50
Registration to the Database.....	50
Configuring the Network	51
Configuring the IPv4 Address	51
Displaying the Web Screen	53
Installing Software on Servers.....	54
Operating Environment	54
Installation	54
Menu Operation	55
Basic Menu Operation.....	55
Menu List	55
Messages	57
Important Notes on Operation	59
Condensation	59
Parts Replacement	59
LCD	59
Precautions for Drive Units	59
Trademarks and Licenses	60
Open Software Licenses	60
Obtaining GPL/LGPL/GPL V3 Licensed Software	60
Specifications	61

Overview

The ODS-L30M PetaSite Master Unit is a library master unit that holds up to two optional drive units (ODS-D77F) and up to 30 optical disc archive cartridges. By installing an ODBK-103 expansion kit (not supplied) to the ODS-L30M master unit, the PetaSite can be linked to multiple expansion units, allowing you to expand the system according to your needs. By efficiently allowing read/write of data on multiple optical disc archive cartridges, the ODS-L30M allows you to streamline the archiving of data materials and the retrieval of archived data materials (by uploading to a server).

The extension units include the ODS-L60E PetaSite drive and ODS-L100E PetaSite cartridge extension units. The ODS-L60E holds up to four optional drive units (ODS-D77F) and up to 61 optical disc archive cartridges. The ODS-L100E holds up to 101 optical disc archive cartridges.

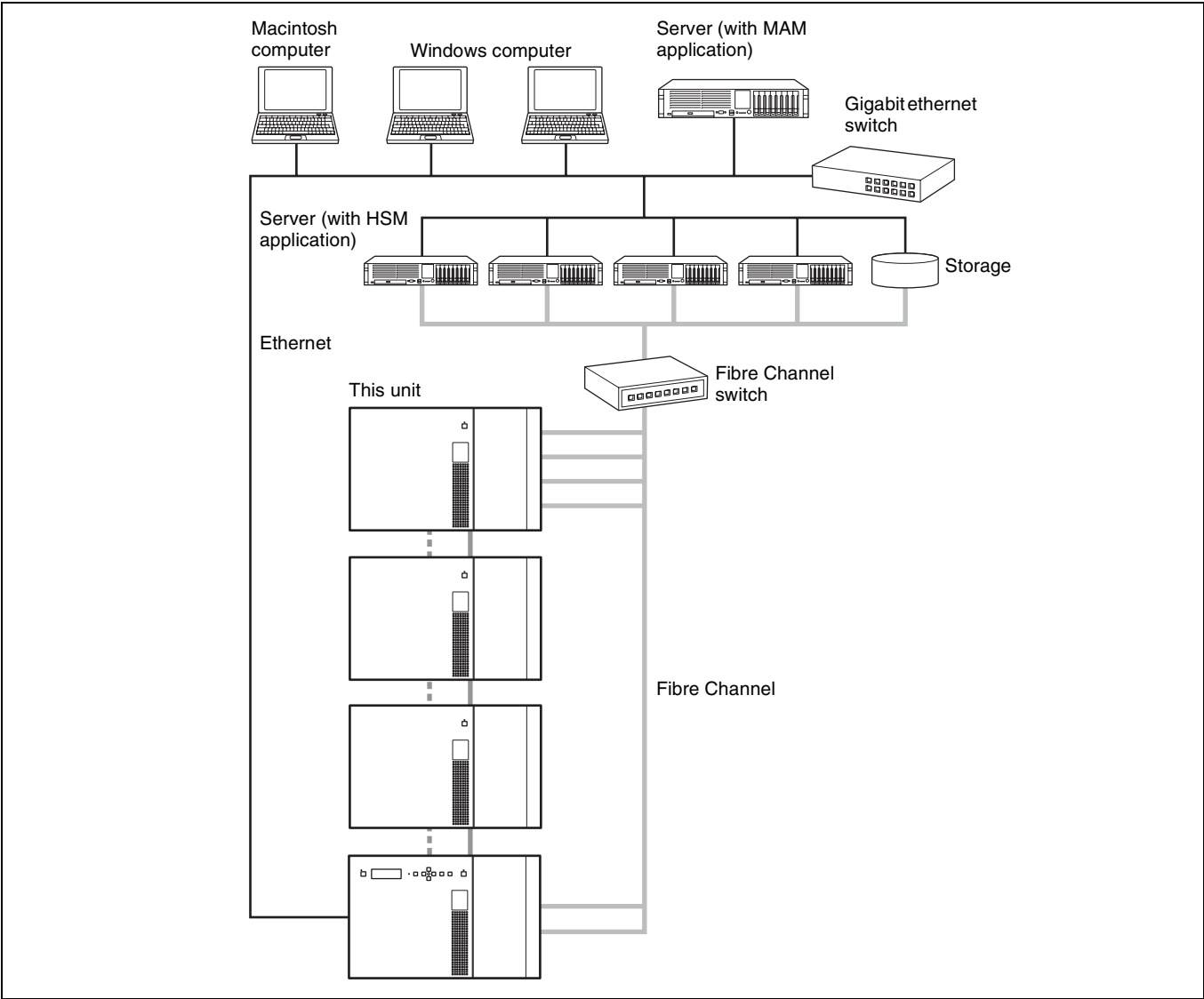
The ODS-D77F optical disc archive drive units that can be mounted on the ODS-L30M and ODS-L60E are equipped with two heads and are specifically designed for use with the ODS-L30M/L60E. In addition, their Fibre Channel support allows for high-speed processing.

You can also install the ODBK-101 (for the ODS-L30M) or the ODBK-102 (for the ODS-L60E) optional power supply to provide redundancy and allow the same hot swapping capabilities that are available with drive units. Doing so provides continuous operation in the event one of the power supply units or drive units fail in systems that require a high degree of reliability.

In this manual, the PetaSite (including the master unit and all additional extension kits or extension units) on which the drive units are installed will be referred to as “the unit,” and the optical disc archive cartridges will be referred to as “cartridges.”

System Configuration Example

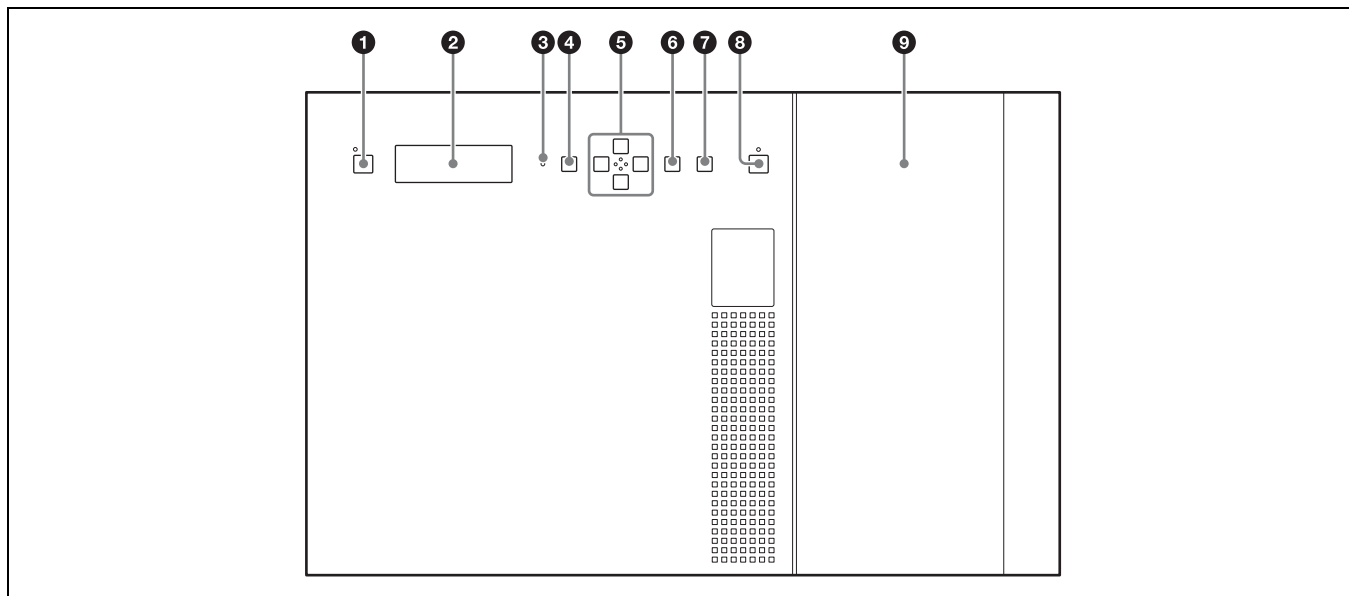
The following types of systems can be constructed using the unit in combination with related equipment.



Name and Function of Parts

ODS-L30M

Front panel



Note

The front panel of the ODS-L30M can be removed and interchanged with the front panels of ODS-L60E/L100E extension units. The ODS-L30M will be installed at the bottom of a stack of multiple units, but its front panel may be placed onto an extension unit whose height allows for easier operation.

① On/standby button and indicator

Switches the unit between on and standby mode when the main power switches on the rear are turned on. Press the button when it is on to switch to standby mode. A shutdown confirmation message appears on the display. Use the arrow button to select “Yes,” and then press the ENTER button.

The indicator lights green when the unit is on and red when the unit is in standby mode. The indicator blinks green when the unit is shutting down.

Notes

- If the button is pressed while there is a cartridge in a drive, a confirmation message appears on the display. Eject the cartridge from the drive before proceeding.
- Exit all connected applications before shutting down the unit. Shutting down turns off the drive power supply, and any data currently being recorded will be lost.

② Display

Displays the unit’s status, setting menus, messages, etc.

③ ALARM indicator

Blinks when errors or warnings occur.

Blinking red: Error

Blinking orange: Warning

④ MENU button

Displays a menu in the display when pressed.

⑤ Arrow buttons

Scrolls through menus in the display and sets input values.

⑥ ENTER button

Moves to the next page or confirms input values during menu operations.

⑦ BACK button

Moves to the previous page or cancels input values during menu operations.

⑧ I/E STATION button and indicator

Releases the I/E station’s lock. The lock can be released when the indicator is lit green or orange. The indicator starts blinking orange when the lock is released.

If the I/E station is not opened within ten seconds after releasing the lock, the I/E station is automatically relocked.

If the I/E station remains open for longer than three minutes, the indicator blinks red.

9 I/E station door

Note

You can select whether the I/E station of each unit is used as an I/E slot for importing/exporting cartridges or as a storage slot (importing/exporting of cartridges is disabled). The I/E station lock cannot be released on units where the I/E station is used as a storage slot.

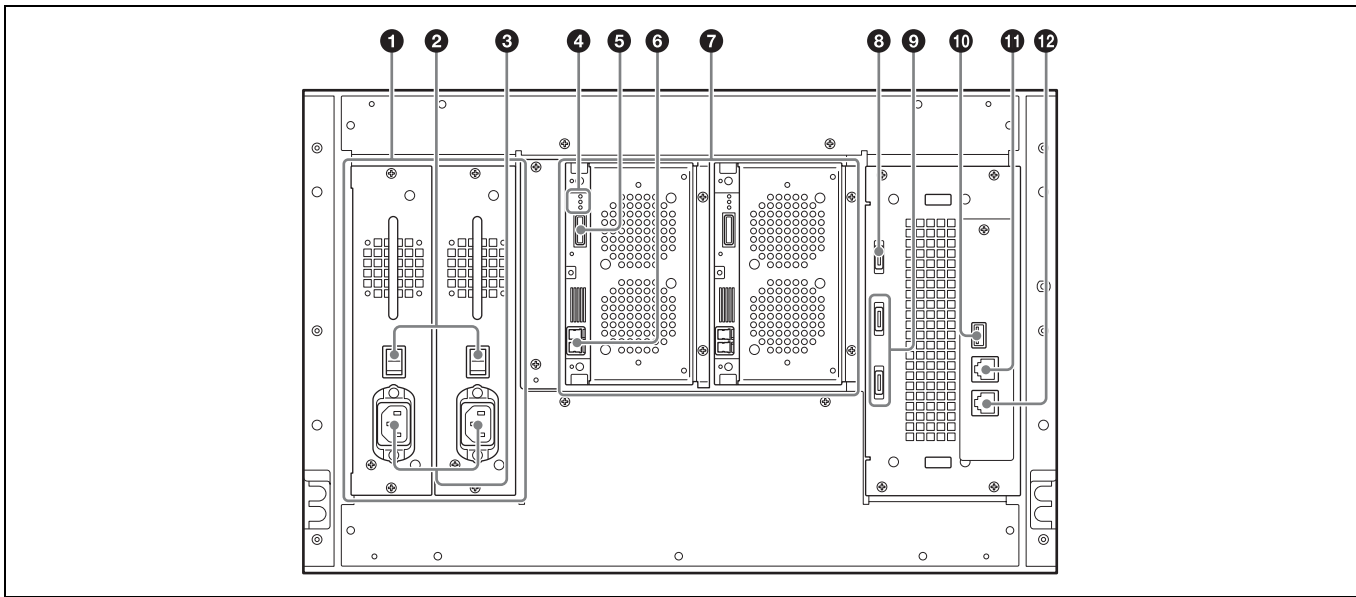
Indicator	Meaning
Off	Lock cannot be released under the following circumstances. • When the I/E station is locked from an application. • When the I/E station is used as a storage slot.
Green (blinking)	Lock cannot be released because the I/E station is currently being accessed.
Green	Lock can be released. There is a cartridge in the I/E station.
Orange	Lock can be released. There is no cartridge in the I/E station.
Orange (blinking)	Lock is released.
Red (blinking)	A problem occurred in the I/E station. One of the following messages appears on the display. • CLOSE I/E STATION: I/E station was left open for over three minutes. • I/E STATION LOCKED: Lock cannot be released because a button was pressed while the indicator was Off or blinking. • I/E STATION OPENED: An I/E slot movement was requested while the I/E station was open. * A message does not appear on the display during menu operation.

I/E station labels containing the following information are supplied with the unit.

I/E STATION indicator	Status	I/E STATION button
 Off	Opening/closing is not possible because operations are disabled.	Disabled
 Green (blinking)	Opening/closing is not possible because the I/E station is being accessed.	Disabled
 Green  Orange	Unlocking is possible. Green: Cartridge present Orange: Cartridge not present	Enabled
 Orange (blinking)	Unlocked. Opening/closing is possible.	Disabled
 Red (blinking)	An error has occurred. Check the unit's display.	Disabled

Rear panel

The following illustration depicts the ODS-L30M with two drive units and two power supply units installed.



❶ Power supply unit mount slots

Allows you to provide a redundant power supply by installing ODBK-101 optional power supplies (not supplied). Doing so provides continuous operation in the event one of the power supply units fail in systems that require a high degree of reliability.

For details on adding or replacing power supply units, consult your local Sony representative.

❷ Main power switches

Switch the main power supplies on or off. When using the unit, leave these switches set to on, and use the on/standby button on the front panel to switch between the operation and standby modes.

Note

When turning the main power supplies off, always set the unit to standby mode using the on/standby button on the front panel before pressing these switches.

❸ AC IN connectors

Connect these to power outlets using power cords.

❹ Drive unit indicators

Indicate the status of the drive units. From the top, the three indicators are as follows.

• POWER indicator

Lit green: Power is being supplied.

• LINK indicator

Blinking blue slowly (once per second): FC cable is not connected.

Lit blue: FC cable is connected.

Blinking blue rapidly (four times per second): FC cable is connected and a command is being received.

Notes

- This indicator is lit blue when the FC cable is physically connected correctly. It is lit blue while the FC cable is connected, even when in states where the drive unit cannot be controlled from a computer.
- This indicator is lit blue during drive unit initialization after power is applied, even if an FC cable is not connected. In this case, the indicator starts blinking blue slowly after initialization is finished.

• STATUS indicator

Lit green: The drive unit can be replaced (i.e., drive is offline and drive power is off).

Lit red: An alarm occurred (alarm code other than 00-000).

Slow blinking green (1-sec. interval): The drive is initializing.

Rapid blinking green (0.25-sec. interval): Firmware update in progress.

Off: Normal status.

❺ ODS CONTROL connector (ADI / power supply)

Connect to the DRIVE connector with the same number as the drive on the ODS-L30M to supply power to the drive unit and to enable ADI (Automation/Drive Interface) control.

❻ FC (Fibre Channel) connectors

Allow you to connect to servers and external storage via a Fibre Channel switch.

7 Drive unit mount slots

Allow you to install up to two optional drive units (ODS-D77F).

8 OUT 2 (unit interconnection) connector

Connect to the IN 2 connector on the extension unit (ODS-L60E/ODS-L100E) using unit interconnection cable 2 (supplied with the extension unit).

9 DRIVE 1, 2 connectors (ODS control (ADI / power supply))

Connect to the ODS CONTROL connector on the drive unit with the same number (DRIVE 1 or 2) using an ODA control cable (supplied with the drive unit) to supply power to the drive unit and to enable ADI control.

10 OUT 1 (unit interconnection) connector

Connect to the IN 1 connector on the extension unit (ODS-L60E/ODS-L100E) using unit interconnection cable 1 (supplied with the extension unit).

11 (network) port 1

Connect a network cable here to configure the unit or check its status via the Web screen.

This appears as “Network1” in the configuration screen.

12 (network) port 2 (used for maintenance)

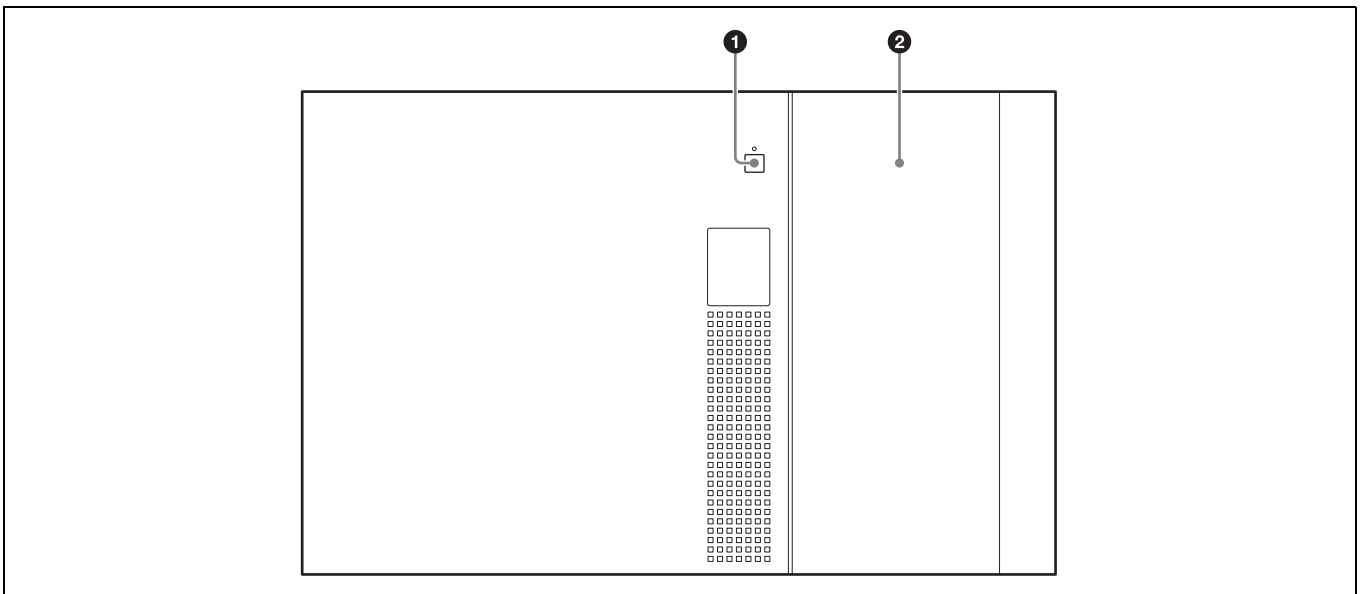
This appears as “Network2” in the configuration screen.

CAUTION

- For safety, do not connect the connector for peripheral device wiring that might have excessive voltage to this port. Follow the instructions for this port.
- When you connect the network cable of the unit to peripheral device, use a shielded-type cable to prevent malfunction due to radiation noise.

ODS-L60E

Front panel



1 I/E STATION button and indicator

Releases the I/E station's lock. The lock can be released when the indicator is lit green or orange. The indicator starts blinking orange when the lock is released. If the I/E station is not opened within ten seconds after releasing the lock, the I/E station is automatically relocked. If the I/E station remains open for longer than three minutes, the indicator blinks red.

Note

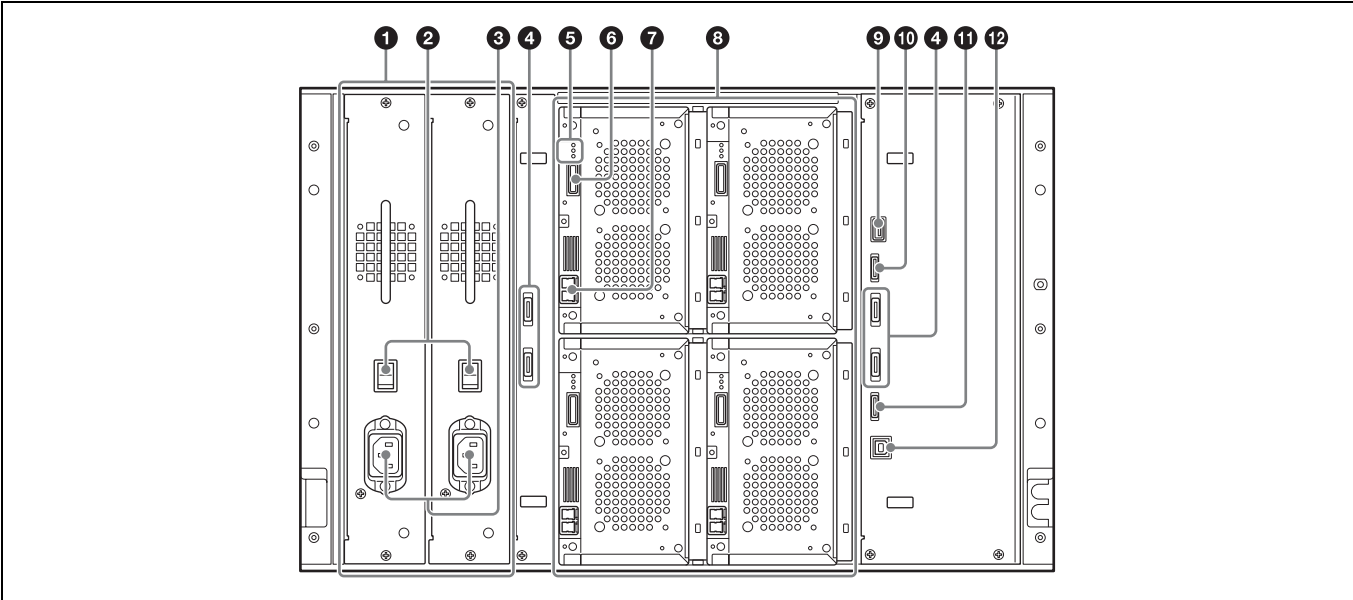
You can select whether the I/E station of each unit is used as an I/E slot for importing/exporting cartridges or as a storage slot (importing/exporting of cartridges is disabled). The I/E station lock cannot be released on units where the I/E station is used as a storage slot.

Indicator	Meaning
Off	Lock cannot be released under the following circumstances. • When the I/E station is locked from an application. • When the I/E station is used as a storage slot.
Green (blinking)	Lock cannot be released because the I/E station is currently being accessed.
Green	Lock can be released. There is a cartridge in the I/E station.
Orange	Lock can be released. There is no cartridge in the I/E station.
Orange (blinking)	Lock is released.
Red (blinking)	A problem occurred in the I/E station. One of the following messages appears on the display. • CLOSE I/E STATION: I/E station was left open for over three minutes. • I/E STATION LOCKED: Lock cannot be released because a button was pressed while the indicator was Off or blinking. • I/E STATION OPENED: An I/E slot movement was requested while the I/E station was open. * A message does not appear on the display during menu operation.

2 I/E station door

Rear panel

The following illustration depicts the ODS-L60E with four drive units and two power supply units installed.



1 Power supply unit mount slots

Allows you to provide a redundant power supply by installing ODBK-102 optional power supplies (not supplied). Doing so provides continuous operation in the

event one of the power supply units fail in systems that require a high degree of reliability. A power supply unit is not required if a drive unit is not installed in the ODS-L60E.

For details on adding or replacing power supply units, consult your local Sony representative.

② Main power switches

Switch the main power supplies on or off. When using the unit, leave these switches set to on, and use the on/standby button on the front panel to switch between the operation and standby modes.

Note

When turning the main power supplies off, always set the unit to standby mode using the on/standby button on the front panel of the ODS-L30M before pressing these switches.

③ AC IN connectors

Connect these to power outlets using power cords.

④ DRIVE 1 to 4 connectors (ODS control (ADI / power supply))

Connect to the ODS CONTROL connector on the drive unit with the same number (DRIVE 1 to 4) using an ODA control cable (supplied with the drive unit) to supply power to the drive unit and to enable ADI control.

⑤ Drive unit indicators

Indicate the status of the drive units. From the top, the three indicators are as follows.

• POWER indicator

Lit green: Power is being supplied.

• LINK indicator

Blinking blue slowly (once per second): FC cable is not connected.

Lit blue: FC cable is connected.

Blinking blue rapidly (four times per second): FC cable is connected and a command is being received.

Notes

- This indicator is lit blue when the FC cable is physically connected correctly. It is lit blue while the FC cable is connected, even when in states where the drive unit cannot be controlled from a computer.
- This indicator is lit blue during drive unit initialization after power is applied, even if an FC cable is not connected. In this case, the indicator starts blinking blue slowly after initialization is finished.
- **STATUS indicator**
 - Lit green: The drive unit can be replaced (i.e., drive is offline and drive power is off).
 - Lit red: An alarm occurred (alarm code other than 00-000).
 - Slow blinking green (1-sec. interval): The drive is initializing.
 - Rapid blinking green (0.25-sec. interval): Firmware update in progress.
 - Off: Normal status.

⑥ ODS CONTROL connector (ADI / power supply)

Connect to the DRIVE connector with the same number as the drive on the ODS-L60E to supply power to the drive unit and to enable ADI control.

⑦ FC (Fibre Channel) connectors

Allow you to connect to servers and external storage via a Fibre Channel switch.

⑧ Drive unit mount slots

Allow you to install up to four optional drive units (ODS-D77F).

⑨ OUT 1 (unit interconnection) connector

Connect to the IN 1 connector of the master unit (ODS-L30M) or another extension unit (ODS-L60E/ODS-L100E) using unit interconnection cable 1 (supplied with the extension unit).

⑩ OUT 2 (unit interconnection) connector

Connect to the IN 2 connector of the master unit (ODS-L30M) or another extension unit (ODS-L60E/ODS-L100E) using unit interconnection cable 2 (supplied with the extension unit).

⑪ IN 2 (unit interconnection) connector

Connect to the OUT 2 connector of the master unit (ODS-L30M) or another extension unit (ODS-L60E/ODS-L100E) using unit interconnection cable 2 (supplied with the extension unit).

⑫ IN 1 (unit interconnection) connector

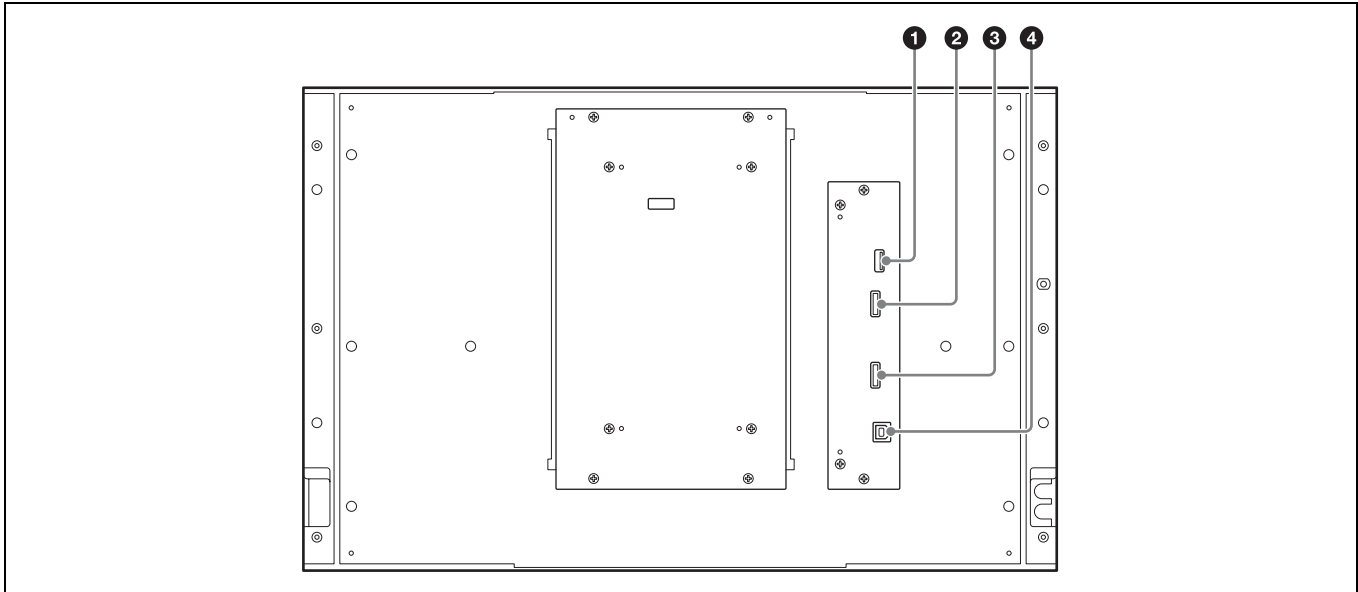
Connect to the OUT 1 connector of the master unit (ODS-L30M) or another extension unit (ODS-L60E/ODS-L100E) using unit interconnection cable 1 (supplied with the extension unit).

ODS-L100E

Front panel

This is identical to the front panel of the ODS-L60E (*see page 43*).

Rear panel



❶ OUT 1 (unit interconnection) connector

Connect to the IN 1 connector of the master unit (ODS-L30M) or another extension unit (ODS-L60E/ODS-L100E) using unit interconnection cable 1 (supplied with the extension unit).

❷ OUT 2 (unit interconnection) connector

Connect to the IN 2 connector of the master unit (ODS-L30M) or another extension unit (ODS-L60E/ODS-L100E) using unit interconnection cable 2 (supplied with the extension unit).

❸ IN 2 (unit interconnection) connector

Connect to the OUT 2 connector of the master unit (ODS-L30M) or another extension unit (ODS-L60E/ODS-L100E) using unit interconnection cable 2 (supplied with the extension unit).

❹ OUT 1 (unit interconnection) connector

Connect to the OUT 1 connector of the master unit (ODS-L30M) or another extension unit (ODS-L60E/ODS-L100E) using unit interconnection cable 1 (supplied with the extension unit).

Handling Media

Media Used for Reading and Writing

This unit uses the following Optical Disc Archive Cartridges and similar media for reading and writing.

Cartridge	Media type	No. of files which can be created
ODC300R Capacity: 300GB	Write-once	60,000 or 240,000
ODC300RE Capacity: 300GB	Rewritable	60,000 or 240,000
ODC600R Capacity: 600GB	Write-once	60,000 or 240,000
ODC600RE Capacity: 600GB	Rewritable	60,000 or 240,000
ODC1200RE Capacity: 1.2TB	Rewritable	60,000 or 240,000
ODC1500R Capacity: 1.5TB	Write-once	60,000 or 240,000

Notes

- Deleting files from the media will not increase the available storage space for either write-once or rewritable type cartridges.
- In the case of write-once type cartridges, pay attention to the following points.
 - Reformatting the media will not increase the available storage space.
 - Repetitive file writing will consume the available writable space (for writing the media management data, etc.) on the media. If there is no available writable space on the media, file writing may be disabled, even if sufficient storage space remains.
 - No file can be written after the media is finalized.
- You can select the maximum number of files that can be created (60,000 or 240,000) when you format a cartridge.
- When you reformat write-once media, the previous maximum number of files that can be created (60,000 or 240,000) will carry over. However, you can reselect the maximum number of files that can be created when you reformat rewritable media.
- If you select 240,000 as the maximum number of files that can be created during formatting, the rate of successful repair for the file repair function will be lower than when 60,000 is selected.

Notes on Handling

Handling

The Optical Disc Archive Cartridge houses 12 discs in a shell, and is designed to allow handling free of risk from dust or fingerprints. However, if the cartridge is subjected to a severe shock, for example by dropping it, this can result in damage or scratching of the discs. If a disc is scratched, it may be impossible to write data, or to read the data written on the disc. The cartridge should be handled and stored carefully.

- Do not remove any discs from the cartridge.
- Do not disassemble the cartridge.
- If the disc order in a cartridge is changed, or other discs are substituted, the cartridge will no longer be recognized by the unit and cannot be used.
- The supplied adhesive labels are recommended for indexing cartridges. Apply the label in the correct position.

Storage

- Do not store cartridges where they may be subjected to direct sunlight, or in other places where the temperature or humidity is high.
- Do not leave cartridges where dust may be able to gain ingress.
- Store cartridges in their cases.

Care of the cartridge

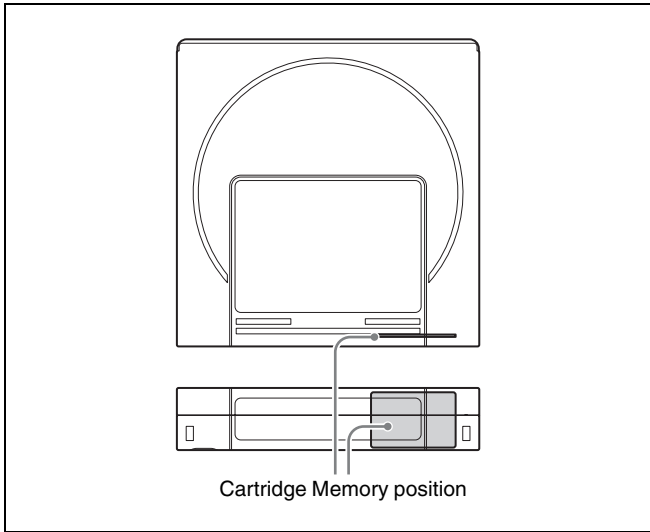
- Remove dust and dirt on the outside of a cartridge using a soft dry cloth.
- If condensation forms, allow ample time to dry before use.

Cartridge Memory

The Optical Disc Archive Cartridge includes the Cartridge Memory, which enables contactless communication with this unit.

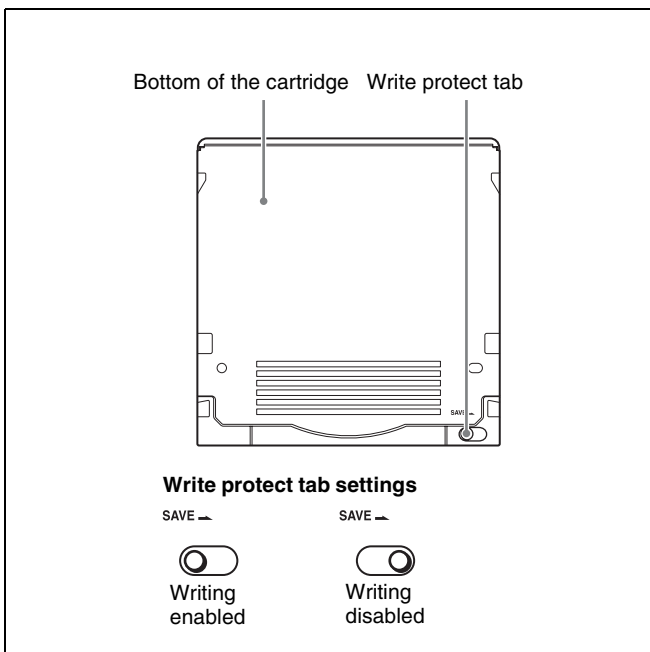
The basic information of Optical Disc Archive Cartridge is written in the Cartridge Memory.

Using the application software will enable the user-data to be written/read in the future.



Write-Protecting Media

To prevent erasing contents of recorded media accidentally, slide the Write protect tab on the bottom of the cartridge (rear of label side) in the direction of the arrow, as shown in the following figure.



You can also perform the write-protect settings for media from the host application. If either the write-protect tab or the host application is set to prohibit writing, the media will remain in the write-protected state.

Barcode Labels

The barcode reader of the unit supports CODE39 barcodes. The specifications for supported barcode labels are given below.



Dimensions Conformance with label frame size on the cartridges used

Label and printing

Non-glossy

Bar width Narrow bar and space width
0.423 mm (0.017 in) +0.03/−0.076 mm
(+0.001/−0.003 in) (nominal width of
0.423 mm (0.017 in))

Wide to narrow bar ratio

2.75:1

Bar length 11.1 mm (7/16 in) or more

Quiet zone (start margin/stop margin)

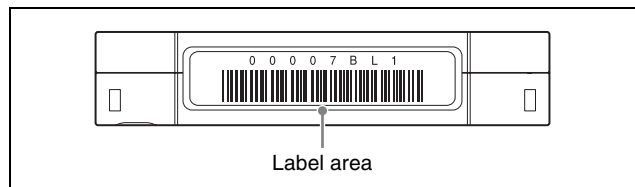
6.35 mm (1/4 in) or greater

Length 8 uppercase alphanumeric characters
(not including start/stop codes)

Check digit None

Notes

- Do not mark the blank spaces on either side of the barcode. The barcode may not be read properly if marks exist.
- If the label or print is glossy, proper reading may not be possible due to halation. For details on barcode labels that can be read, contact your Sony service or sales representative.
- If you want to use barcode labels with nine or more characters, contact your Sony service or sales representative.
- Attach barcode labels fully within the label area on the cartridge so that the labels do not stick out, as shown in the following diagram. Press the barcode label down firmly so that it cannot peel off.



- If the label is not affixed fully within the depressed area, problems may occur with the drive unit or unit during loading.

Barcode label precautions

- Use only barcode labels that conform to Sony specifications.
- Do not affix barcode labels in which Cartridge Memory is embedded.
- Do not reuse labels or affix used labels on top of existing labels.
- Remove an old label before affixing a new one. When removing a label, peel slowly with the label perpendicular to the cartridge case.
- Affix a new label that will not leave behind adhesive material when removed (i.e., a label that can be cleanly removed). If adhesive material remains on the cartridge, gently rub it off with your finger.
- When cleaning the label area, do not use sharp objects, water, or chemical cleaners.
- Check the state of labels before affixing them. If there are defects in the printed characters or barcode, the barcode may not be read properly, resulting in longer barcode processing times.
- When peeling labels from a label sheet, be careful not to stretch the label or cause its edges to curl.
- Be sure to affix labels flat on the cartridge without any wrinkles or air pockets.
- Be sure to affix labels fully to prevent peeling and curling.

Startup and Shutdown

Note

Always close the I/E station when starting and shutting down the unit.

Startup

- 1 Check that the power cord is connected, and then turn on the main power switch on the rear panel of the unit.

- 2 Press the on/standby button on the front panel.

When you press the button, the on/standby indicator lights green.

Initialization will end, and the unit will be ready for use when the text on the display stops blinking.

Shutdown

- 1 Press the on/standby button.

- 2 When the shutdown confirmation message appears on the display, use the arrow buttons to select [Yes], and then press the ENTER button.

Another confirmation message appears if there is a cartridge in any of the drives.

- 3 Wait until the on/standby indicator changes from blinking green to lit in red, and then turn off the main power switch on the rear panel.

Note

Except in an emergency, always shut down the unit before turning off the main power switch on the rear panel.

Importing and Exporting Cartridges

Opening the I/E Station

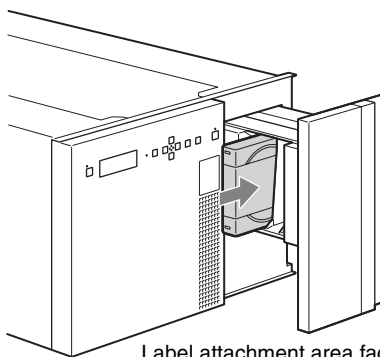
Press the I/E STATION button on the front panel to release the I/E station lock before opening the I/E station. When you press the I/E STATION button, the lock releases and the I/E STATION indicator blinks orange.

Notes

- Press and hold the I/E STATION button (for about one second) and wait until the I/E STATION indicator blinks orange before opening the I/E station.
- If the I/E station does not unlock when the I/E STATION button is pressed, push the I/E station all the way into the unit and then press the I/E STATION button again.

Importing and Exporting a Cartridge

Insert a cartridge into a slot, and push the cartridge all the way in until it stops.



Label attachment area facing forward.

When removing a cartridge, pull the cartridge out to the left while keeping it horizontal.

Closing the I/E station

Slowly push the I/E station all the way into the unit, and check that the I/E STATION indicator blinks green.

Notes

- If the I/E STATION indicator is blinking orange, the I/E station is not completely closed.
- A warning tone sounds if the I/E station is left open for 3 minutes or longer.

Registration to the Database

After inserting a cartridge and closing the I/E station, information about each cartridge is automatically registered in the unit's database. The database registration may take some time to complete when inserting multiple cartridges.

When registration to the database is complete, the I/E STATION indicator will light green or orange.

Configuring the Network

After configuring the IPv4 address in the display on the front panel of the unit, connect the unit to the computer on which the Web browser is installed, and configure the unit's settings and check its status via the Library Maintenance Web UI.

Configuring the IPv4 Address

The IP address, subnet mask, default gateway settings are required. Network 1 is configured for DHCP by factory default. Network 2 is configured with the following settings.

IP address: 192.168.1.10
Subnet mask: 255.255.255.0
Default gateway: 0.0.0.0

Use the display and the buttons on the front panel of the unit to configure the network settings.

- 1 Press the MENU button.

The menu appears in the display.

```
Menu
> 1.Information
  2.Setup
  3.Maintenance
```

- 2 Use the $\uparrow$ and $\downarrow$ buttons to select [Setup], and press the ENTER button.

The [Setup] screen appears.

```
Setup
> 1.Network
  2.Control Panel
```

- 3 Use the $\uparrow$ and $\downarrow$ buttons to select [Network], and press the ENTER button.

The [Network] screen appears.

```
Network
> 1.Network 1
  2.Network 2
```

- 4 Use the $\uparrow$ and $\downarrow$ buttons to select [Network 1], and press the ENTER button.

The [Network1] screen appears.

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
  2.IPv6 Setting
```

- 5 Use the $\uparrow$ and $\downarrow$ buttons to select [IPv4 Setting], and press the ENTER button.

The following screen appears. An asterisk (*) indicates the current setting. To configure the IPv4 address, this setting must be set to [Enabled]. If the setting is already set to [Enabled], proceed to step 8.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  Enabled
  *Disabled
```

- 6 Press the ENTER button to change the setting.

The selection screen (i.e., screen with the cursor (>)) appears. You can change the setting in this screen.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
> Enabled
  *Disabled
```

- 7 Use the $\uparrow$ and $\downarrow$ buttons to select [Enabled], and press the ENTER button.

The confirmation screen (i.e., screen without the cursor (>)) appears.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  *Enabled
  Disabled
```

- 8 Check that [Enabled] is selected, and press the $\downarrow$ button.

The following screen appears.

```
IPv4 Setting
IPv4 DHCP
  Auto
  *Static
```

- 9 Press the ENTER button to display the selection screen.

- 10 To use a static IP address, use the $\uparrow$ and $\downarrow$ buttons to select [Static], and press the ENTER button.

Note

To use the DHCP, use the $\uparrow$ and $\downarrow$ buttons to select [Auto], press the ENTER button, and then proceed to step 17.

11 Press the $\downarrow$ button.

The following screen appears.

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

12 Press the ENTER button.

The first digit of the IP address blinks, indicating that it can be changed.

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

13 Enter the IP address.

Use the $\leftarrow$ and $\rightarrow$ buttons to move the cursor, and use the $\uparrow$ and $\downarrow$ buttons to change the values.

14 Press the ENTER button after entering the address to confirm it.

15 Press the $\downarrow$ button to display [IPv4 Netmask], and configure the subnet mask using the same method as the IP address.

```
IPv4 Setting
IPv4 Netmask
000.000.000.000
```

16 Press the $\downarrow$ button to display [IPv4 Gateway], and configure the default gateway using the same method.

```
IPv4 Setting
IPv4 Gateway
000.000.000.000
```

17 Press the $\downarrow$ button.

[IPv4 DNS] appears.

```
IPv4 Setting
IPv4 DNS
Auto
*Static
```

18 To configure the DNS address, select [Static].

If the current setting is [Auto], display the selection screen using the ENTER button, use the $\uparrow$ and $\downarrow$ buttons to select [Static], and then press the ENTER button to confirm.

Note

To obtain the DNS address automatically, select [Auto]. Confirm the setting using the same method as you would with [Static], and proceed to step **24**.

19 Press the ENTER button.

The [IPv4 Primary DNS] screen appears.

```
IPv4 Setting
IPv4 Primary DNS
000.000.000.000
```

20 Press the ENTER button.

The first digit of the IP address blinks, indicating that it can be changed.

21 Use the $\leftarrow$, $\rightarrow$, $\uparrow$, and $\downarrow$ buttons to enter the primary DNS address, and press the ENTER button.

22 Press the $\downarrow$ button.

The [IPv4 Secondary DNS] screen appears.

23 Enter the secondary DNS address using the same method as step **20**, and press the ENTER button.

24 Press the $\downarrow$ button.

The following confirmation screen appears.

```
Network1
IPv4 Setting
> Save
Cancel
```

25 Check that [Save] is selected, and press the ENTER button.

The changed IP address is enabled.
The [Network1] screen appears again.

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
  2.IPv6 Setting
```

26 Press the BACK button three times to end menu operation.

IP addresses can also be changed in the Web screen (Library Maintenance Web UI).

For details on changes using the Library Maintenance Web UI, refer to the Library Maintenance Web UI Help.

Displaying the Web Screen

A web screen (Library Maintenance Web UI) can be used to perform setting operations for this unit.

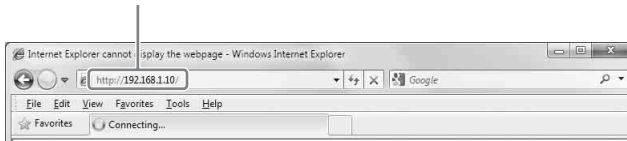
Recommended environment

Web browser:

- For Windows: Google Chrome (latest version) or Microsoft Internet Explorer 11
- For Mac OS: Google Chrome (latest version)
- Monitor size: 1,024 pixels or wider

To display the web screen, enter the URL `https://(ip_address)/` into a web browser.

Example: `https://192.168.1.10/`



When connecting to the unit from a web browser, a “The site’s security certificate is not trusted!” or similar message appears. Check that the IP address displayed in the message is correct before proceeding.

Next, the authentication screen appears. Enter the following user name and password.

User: admin, Password: ods-l30m

After authentication, the Library Maintenance Web UI screen appears.

For details on Library Maintenance Web UI operations, refer to the Library Maintenance Web UI Help.

Notes

- Consult your network administrator about the required network settings.
PCs may not connect to the unit on a network, depending on the browser proxy server settings.
- Only one web client can be connected to the unit at any one time.
- The web screen supports up to three simultaneous connections (http sessions). If two or more sessions are open at the same time, an error occurs if the registration operations conflict with one another. In such cases, the operation should be issued a second time.
- The library does not perform network routing. To obtain a gateway address and an IP address automatically, configure settings for a single network only.
- Enables JavaScript in your web browser. The login screen is not displayed if JavaScript is not enabled.
- Set your web browser to accept cookies. You will not be able to log in unless you allow your browser to accept cookies from the unit.

- The web browser setup preferences vary depending on the web browser and the OS version. Refer to the operating instructions or help for your web browser and OS.

Installing Software on Servers

Install the following software on the servers that are connected via Fibre Channel to the drive units mounted on the unit. (For details on the system configuration, see [page 39](#).)

- Optical Disc Archive Software (Windows/Linux)
Basic software that connects the servers and the drive units and allows read/write of files.
Download this software from the Sony Professional products website ([page 62](#)).

Notes

- Install the software before connecting the servers to the drive units.
- Optical Disc Archive Utility will be automatically installed when you install the software.

Operating Environment

Operation of the Optical Disc Archive Software has been verified for the following environments.

Note

Operation verification does not guarantee operation on all computers.

Windows

Item	Requirement
Processor	Intel Core 2 Duo 2.66 GHz or higher; or Intel Xeon 2 GHz or higher
Memory	32-bit device: 2 GB or higher; 64-bit device: 2 GB × (number of devices) or higher
HDD space	32-bit device: 16 GB or higher; 64-bit device: 8 GB + 4 GB × (number of devices +1) or higher
OS	Refer to the Sony Professional products website (page 62).

Linux

Item	Requirement
Processor	Intel Core 2 Duo 2.66 GHz or higher; or Intel Xeon 2 GHz or higher
Memory	32-bit device: 2 GB or higher; 64-bit device: 2 GB × (number of devices) or higher
HDD space	32-bit device: 16 GB or higher; 64-bit device: 8 GB + 4 GB × (number of devices +1) or higher

Item	Requirement
OS	Refer to the Sony Professional products website (page 62).

Installation

Download the software from the Sony Professional products website ([page 62](#)), and install it.

Note

If the Optical Disc Archive Software is installed while certain anti-virus software, spyware tools, or products that include UDF 2.5 or 2.6 file system drivers other than those standard-equipped on the OS are also installed, operation may become unstable. If operation of the Optical Disc Archive Software becomes unstable, check for the presence of the above software and their settings, and change the settings.

Precautions for installation in Windows

- If an older version of the Optical Disc Archive Software is already installed, uninstall it before installing the new version. Remove [Sony Optical Disc Archive Software] from [Add or remove programs] in the control panel, and restart the computer.
- When you perform installation, any previously configured items will revert to initial settings.

Precautions for installation in Linux

- If you connect the drive units to the servers before installing the Optical Disc Archive Software, the operation of the servers may be disrupted. To prevent this, be sure to install the Optical Disc Archive Software before connecting the drive units to the servers. If you notice a problem with the servers, shut them down, disconnect the drive units from the servers, restart the servers, and install the Optical Disc Archive Software. Then connect the drive units to the servers.
- When you perform update install, the Optical Disc Archive Software will be overwritten. Any previously configured items will revert to default settings.
- If you install a new version of the Optical Disc Archive Software after uninstalling an older version, any previously configured items will revert to default settings.

Menu Operation

Configure basic settings of the unit and display the unit's status using the menu displayed on the front panel of the unit. Use the buttons on the front panel to operate the menu.

Basic Menu Operation

This section describes basic menu operations, using the warning tone setting as an example.

1 Press the MENU button.

The menu selection screen appears.

```
Menu
 1.Information
> 2.Setup
 3.Maintenance
```

2 Move the cursor (>) using the ↑ and ↓ buttons and select [Setup], and then press the ENTER button.

The submenu of the selected item appears.

```
Setup
> 1.Network
 2.Control Panel
```

3 Use the ↑ and ↓ buttons to select [Control Panel], and press the ENTER button.

The submenu of the selected item appears.

```
Control Panel
> 1.Buzzer
 2.LCD Backlight
 3.LCD Brightness
```

4 Use the ↑ and ↓ buttons to select [Buzzer], and press the ENTER button.

The current setting of the selected item appears. The asterisk (*) indicates the current setting.

```
Control Panel
Buzzer
  ON
  *OFF
```

5 Press the ENTER button.

The cursor (>) appears, indicating that the setting can be changed.

```
Control Panel
Buzzer
  ON
>*OFF
```

6 Use the ↑ and ↓ buttons to move the cursor (>).

Control Panel

```
Control Panel
Buzzer
> ON
 *OFF
```

7 Press the ENTER button to confirm the setting.

The cursor disappears, and the setting is confirmed.

```
Control Panel
Buzzer
 *ON
  OFF
```

8 Press the MENU button to return to the menu selection screen (step 1).

Pressing the BACK button returns to the immediately preceding screen.

9 Press the MENU button again to end menu operation.

Menu List

Menu	Description
Information	Displays the current values of each setting in the [Setup] menu and the following IPv6 parameters. IPv6 Temporary: Displays the IPv6 temporary address. IPv6 Link-Local: Displays the IPv6 link-local address.
Setup	Allows you to configure the unit's settings.

Menu	Description
1.Network	Configures the network settings. Network 1 / Network 2: Configures settings for the ODS-L30M's two network ports. IPv4 Enabled / IPv6 Enabled: Enables or disables IPv4 or IPv6. IPv4 DHCP / IPv6 DHCP: Specifies whether to use the DHCP for the IPv4 or IPv6 IP address or whether to use a static address. IPv4 Address / IPv6 Address: Configures the IPv4 or IPv6 IP address. IPv4 Netmask: Configures the IPv4 subnet mask. IPv6 Subnetprefix: Configures the IPv6 subnet prefix. IPv4 Gateway / IPv6 Gateway: Configures the IPv4 and IPv6 default gateway. IPv4 DNS / IPv6 DNS: Specifies whether to obtain the IPv4 or IPv6 IP DNS automatically or whether to use a static address. IPv4 Primary DNS / IPv6 Primary DNS: Configures the IPv4 and IPv6 primary DNS. IPv4 Secondary DNS / IPv6 Secondary DNS: Configures the IPv4 and IPv6 secondary DNS.
2.Control Panel	Configures the control panel settings. Buzzer: Turns the warning tone on or off. LCD Backlight: Specifies whether the LCD backlight turns off automatically or whether it is always on. LCD Brightness: Sets the LCD brightness to Low, Middle, or High.
Maintenance	Menu used for maintenance.
1.Configuration	Factory Setting: Restores the unit's configurations to their factory default settings.
2.Diagnostic	Menu for service personnel.
3.Power Management	Reboot: Restarts the unit.
4.Service	Menu for service personnel.

Messages

If there is a problem with the unit's hardware or configuration settings, the ALARM indicator on the front panel of the unit flashes red (error) or orange (warning) and a message appears on the display. Messages are not displayed during menu operation. Messages are displayed after pressing the BACK button to exit the menu.

If a message appears, refer to the following to resolve the issue. If the message display persists, consult your local Sony representative.

Message	Description
ERROR POWER OFF REQUEST	A system reboot is required. Turn the unit off, and then turn it on again.
ERROR BOOT OS	An error occurred during booting. Consult your local Sony representative.
ERROR CALIBRATION	An error occurred during carrier calibration. Consult your local Sony representative.
ERROR FIRMWARE UPDATE REQUEST	A firmware update is required. Consult your local Sony representative.
ERROR SERVICE MAINTENANCE REQUEST	Check that the unit interconnection cable is connected correctly. If there is no problem with the cable connection, maintenance by service personnel is required. Consult your local Sony representative.
ERROR	An error was detected during control operations. Check [Library Status] on the [System] tab of the Library Maintenance Web UI.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : OFF	A power supply unit, which is configured for monitoring in the power configuration settings, is turned off. Check [Power Configuration Settings] on the [Others] tab of the [Configuration] screen of the Library Maintenance Web UI. If there is no problem with the settings, consult your local Sony representative.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : NG	An error was detected in the power supply unit. Consult your local Sony representative.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : CC	The power supply unit is turned on, but it is not configured for monitoring in the power configuration settings. Place a check mark in the checkboxes for the power supplies to use in [Power Configuration Settings] on the [Others] tab of the [Configuration] screen of the Library Maintenance Web UI.
WARNING HIGH TEMP	The unit's internal temperature is too high. The unit will continue to operate, but extended use will cause the unit and drives' internal temperature to increase further, risking failure or even fire. Consult your local Sony representative.
WARNING FAN	The rotation speed of the fan has dropped. The unit will continue to operate, but extended use will cause the unit and drives' internal temperature to increase further, risking failure or even fire. Consult your local Sony representative.
WARNING SSD	The SSD diagnosis has determined that replacement is necessary. Consult your local Sony representative.
WARNING LITHIUM BATTERY	Replacement of the lithium battery is necessary. Consult your local Sony representative.
CLOSE I/E STATION	The I/E station has been open for 3 minutes. Make sure the I/E station is fully closed. If the message appears even after closing the I/E station, consult your local Sony representative.
I/E STATION LOCKED	The I/E station button was pressed while the I/E station was locked by an application or the I/E station was configured for use as a storage slot. Release the lock via the application, and then press the I/E STATION button. If the lock cannot be released via the application, release the lock using the Library Maintenance Web UI.
I/E STATION BUSY	The I/E STATION button was pressed while the I/E station was being accessed. Wait for the I/E STATION indicator to light green or orange before pressing the I/E STATION button.

Message	Description
I/E STATION NOT UNLOCKED	Unlocking of the I/E station failed. Press the I/E station all the way into the unit so that it is fully inserted, and then try pressing the I/E STATION button again.
I/E STATION HALF- CLOSED	The I/E station is not fully inserted. Press the I/E station all the way into the unit so that it is fully inserted, and then try pressing the I/E STATION button again.
PUSH I/E STATION	The I/E station has been in a state of incomplete insertion for at least 15 seconds. Press the I/E station all the way into the unit so that it is fully inserted.
REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	Import processing for the I/E station cannot be performed due to the presence of a cartridge in the carrier. Move the cartridge from the carrier to an empty slot via the [Move Cartridge] tab of the Library Maintenance Web UI.
ERROR CALIBRATION REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	Carrier adjustment failed due to the presence of a cartridge in the carrier. Consult your local Sony representative.
I/E STATION OPENED	An I/E slot movement prompt was issued while the I/E station was open. Close the I/E station, or check the application controls.
UNIT CONFIG CHANGE REQUEST	A change in the unit configuration was detected. Consult your local Sony representative.
DIAGNOSTIC LIBRARY REQUEST	Library diagnostics are required. Consult your local Sony representative.

Important Notes on Operation

Use and storage

Do not subject the unit to severe shocks

The internal mechanism may be damaged or the body warped.

Do not cover the unit while operating

Doing so will cause temperatures to rise inside the unit, possibly resulting in failure.

After use

Turn off the on/standby button.

If you plan not to use the unit for a long time, turn off the main power switch on the rear panel as well.

Shipping

- Always power the unit off.
- If sending the unit by truck, ship, air or other transportation service, pack it in the shipping carton of the unit.
- If the unit is shipped without being properly packed and protected. Its Internal parts may be damaged. Referring to the Installation Manual, be sure to mount the screws and fittings to ensure safe transportation.
- If the unit is transported with the drive unit not removed, the unit and the drive unit may be damaged during transportation. Be sure to remove the drive unit from this unit before proceeding to transportation.

Care of the unit

If the body of the unit is dirty, clean it with a soft, dry cloth. In extreme cases, use a cloth steeped in a little neutral detergent, then wipe dry. Do not use organic solvents such as alcohol or thinners, as these may cause discoloration or other damage to the finish of the unit.

In the event of operating problems

If you should experience problems with the unit, contact your Sony service or sales representative.

Use and storage locations

Store in a level, ventilated place. Avoid using or storing the unit in the following places.

- In excessive heat or cold (operating temperature range: 5 °C to 35 °C (41 °F to 95 °F))
Remember that in summer or in warm climates the temperature inside a car with the windows closed can easily exceed 50 °C (122 °F).
- In damp or dusty locations
- Locations where the unit may be exposed to rain
- Locations subject to violent vibration
- Near strong magnetic fields

- Close to radio or TV transmitters producing strong electromagnetic fields.
- In direct sunlight or close to heaters for extended periods

To prevent electromagnetic interference from portable communications devices

The use of portable telephones and other communications devices near this unit can result in malfunctions.

It is recommended that the portable communications devices near this unit be powered off.

Condensation

If the unit is suddenly taken from a cold to a warm location, or if ambient temperature suddenly rises, moisture may form on the outer surface of the unit and/or inside of the unit. This is known as condensation. If condensation occurs, turn off the unit and wait until the condensation clears before operating the unit. Operating the unit while condensation is present may damage the unit.

Parts Replacement

The carrier (transport mechanism) is a consumable part that will need periodic replacement.

When operating at room temperature, a normal replacement cycle will be about every five years.

However, this replacement cycle represents only a general guideline and does not imply that the life expectancy of these parts is guaranteed. For details on parts replacement, contact your dealer.

LCD

Over a long period of use, because of the physical characteristics of the liquid crystal display, “stuck” pixels may appear spontaneously. These problems are not a malfunction.

Precautions for Drive Units

Shocks and vibrations

Do not subject the drive unit to shocks when a cartridge is inserted.

Transporting the drive unit

Before transporting the drive unit, be sure to eject the cartridge.

File read time

- When accessing multiple files at the same time, disc swapping may occur frequently. This will reduce the data transfer rate and increase the total time of operation significantly.
- When accessing a single file, disc swapping may also occur, depending on the recording position in the cartridge. This will take time before starting to read the file.

File write time

- When writing a large number of small-sized files (e.g., 100 MB or smaller) consecutively, writing may take some time to complete. In such cases, setting the operation mode to “Synchronize management data to the media immediately after completion of file writing: Off” increases the write performance and media efficiency. However, if a malfunction (e.g., power supply failure) occurs during a write operation, the possibility of file recovery is lowered.

Trademarks and Licenses

Open Software Licenses

On the basis of license contracts between Sony and the software copyright holders, this product uses open software.

To meet the requirements of the software copyright holders, Sony is obligated to inform you of the content of these licenses.

For the content of these licenses, see “*Open Source Software License List*” in the *software Help*.

Obtaining GPL/LGPL/GPL V3 Licensed Software

This product uses software licensed under GPL version 2 / LGPL version 2.1 / GPL version 3. You have the right to obtain, change, and distribute the source code of this software.

You can download the source code of this software from Sony Internet servers. For more information about how to download it, access the following URL.

<http://oss.sony.net/Products/Linux/common/search.html>

We cannot respond to inquiries regarding the content of the source code.

Specifications

ODS-L30M specifications shown. For ODS-L60E, ODS-L100E, ODBK-101, ODBK-102, ODBK-103 and ODS-D77F specifications, refer to the Operation Guide for each device.

General

Power supply 100 V to 240 V AC, 50 Hz/60 Hz
Current consumption 1.4 A to 3.2 A
Operating temperature 5 °C to 35 °C (41 °F to 95 °F)
Storage temperature -20 °C to +55 °C (-4 °F to +131 °F)
Operating humidity 20% to 80% (relative humidity)
Storage humidity Less than 75%
Mass 30 kg (66 lb. 2.2 oz.)
(excluding drive units and cartridges)
Dimensions (W × H × D) 445 × 308 × 940 mm (17 ⁵/₈ × 12 ¹/₄ × 37 ¹/₈ inches) (excluding protrusions)

Input/output

⌘ (Network) RJ-45 type modular jack (2)
1000BASE-T: IEEE 802.3ab standard
100BASE-Tx: IEEE 802.3u standard

Accessories

Operation manual (1)
Rack mount kit (1 set)
Rack mount plate washers (4)
Screws (B4 × 10) (8)
Screws (B5 × 16) (8)
Mounting brackets (2)
Thickness gauge 025 (3)
Thickness gauge 050 (3)
Thickness gauge 100 (3)
Height support 025 (3)
Height support 050 (3)
Height support 100 (3)
I/E station labels (1 set)

Options

ODBK-101 / ODBK-102 Power Supply
ODBK-103 Extension Kit

Option for the ODS-L30M (not compatible with models with serial numbers 10001 to 10999 and 50001 to 50999)

The serial number of the ODS-L30M can be found on the nameplate on the rear panel.

Optical Disc Archive Cartridge

- ODC300R (300 GB, write-once type)
- ODC300RE (300 GB, rewritable type)
- ODC600R (600 GB, write-once type)
- ODC600RE (600 GB, rewritable type)
- ODC1200RE (1.2 TB, rewritable type)
- ODC1500R (1.5 TB, write-once type)

Design and specifications are subject to change without notice.

Notes

- Always verify that the unit is operating properly before use. SONY WILL NOT BE LIABLE FOR DAMAGES OF ANY KIND INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, COMPENSATION OR REIMBURSEMENT ON ACCOUNT OF THE LOSS OF PRESENT OR PROSPECTIVE PROFITS DUE TO FAILURE OF THIS UNIT, EITHER DURING THE WARRANTY PERIOD OR AFTER EXPIRATION OF THE WARRANTY, OR FOR ANY OTHER REASON WHATSOEVER.
- SONY WILL NOT BE LIABLE FOR CLAIMS OF ANY KIND MADE BY USERS OF THIS UNIT OR MADE BY THIRD PARTIES.
- SONY WILL NOT BE LIABLE FOR THE TERMINATION OR DISCONTINUATION OF ANY SERVICES RELATED TO THIS UNIT THAT MAY RESULT DUE TO CIRCUMSTANCES OF ANY KIND.

SONY WILL NOT BE LIABLE FOR DAMAGES OF ANY KIND RESULTING FROM A FAILURE TO IMPLEMENT PROPER SECURITY MEASURES ON TRANSMISSION DEVICES, UNAVOIDABLE DATA LEAKS RESULTING FROM TRANSMISSION SPECIFICATIONS, OR SECURITY PROBLEMS OF ANY KIND.

Depending on the operating environment, unauthorized third parties on the network may be able to access the unit. When connecting the unit to the network, be sure to confirm that the network is protected securely.

From a safety standpoint, when using the unit connected with the network, it is strongly recommended to access the Control window via a Web browser and change the access limitation settings from the factory preset values (Refer to the Others tab of the Configuration screen on the Library Maintenance Web UI Help.).
Changing the password regularly is also recommended.

Software Downloads

When the unit is used with a PC connection, download any device drivers, plug-ins, and application software you require from the following websites.

Sony Professional products website:

U.S.A.	http://pro.sony.com
Canada	http://www.sonybiz.ca
Latin America	http://sonypro-latin.com
Europe	http://www.pro.sony.eu/pro
Middle East, Africa	http://sony-psmea.com
Russia	http://sony.ru/pro/
Brazil	http://sonypro.com.br
Australia	http://pro.sony.com.au
New Zealand	http://pro.sony.co.nz
Japan	http://www.sonybsc.com
Asia Pacific	http://pro.sony-asia.com
Korea	http://bp.sony.co.kr
China	http://pro.sony.com.cn
India	http://pro.sony.co.in

Sony Creative Software, software download page:

[http://www.sonycreativesoftware.com/download/
software_for_sony_equipment](http://www.sonycreativesoftware.com/download/software_for_sony_equipment)

Avant d'utiliser l'appareil, veuillez lire attentivement ce manuel et le conserver pour future référence.

AVERTISSEMENT

Afin de réduire les risques d'incendie ou d'électrocution, ne pas exposer cet appareil à la pluie ou à l'humidité.

Afin d'écartier tout risque d'électrocution, garder le coffret fermé. Ne confier l'entretien de l'appareil qu'à un personnel qualifié.

CET APPAREIL DOIT ÊTRE RELIÉ À LA TERRE. (ODS-L30M/L60E)

Lors de l'installation de l'appareil, incorporer un dispositif de coupure dans le câblage fixe ou brancher la fiche d'alimentation dans une prise murale facilement accessible proche de l'appareil. En cas de problème lors du fonctionnement de l'appareil, enclencher le dispositif de coupure d'alimentation ou débrancher la fiche d'alimentation. (ODS-L30M/L60E)

AVERTISSEMENT (ODS-L30M/L60E)

1. Utilisez un cordon d'alimentation (câble secteur à 3 fils)/fiche femelle/fiche mâle avec des contacts de mise à la terre conformes à la réglementation de sécurité locale applicable.
2. Utilisez un cordon d'alimentation (câble secteur à 3 fils)/fiche femelle/fiche mâle avec des caractéristiques nominales (tension, ampérage) appropriées.

Pour toute question sur l'utilisation du cordon d'alimentation/fiche femelle/fiche mâle ci-dessus, consultez un technicien du service après-vente qualifié.

IMPORTANT (ODS-L30M/L60E/L100E)

La plaque signalétique se situe à l'arrière.

IMPORTANT (ODS-D77F)

La plaque signalétique se situe sur le côté.

Pour les clients au Canada

CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A)

Pour les clients en Europe, Australie et Nouvelle-Zélande

AVERTISSEMENT

Il s'agit d'un produit de Classe A. Dans un environnement domestique, cet appareil peut provoquer des interférences radio, dans ce cas l'utilisateur peut être amené à prendre des mesures appropriées.

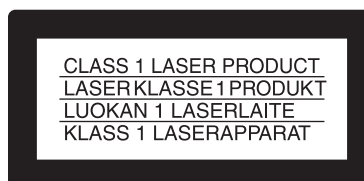
Pour les clients en Europe

Ce produit a été fabriqué par ou pour le compte de Sony Corporation, 1-7-1 Konan Minato-ku Tokyo, 108-0075 Japon. Toutes les questions relatives à la conformité des produits basées sur la législation européenne doivent être adressées à son représentant, Sony Deutschland GmbH, Hedelfinger Strasse 61, 70327 Stuttgart, Allemagne. Pour toute question relative au Service Après-Vente ou à la Garantie, merci de bien vouloir vous référer aux coordonnées qui vous sont communiquées dans les documents « Service (SAV) » ou Garantie.

Ne pas utiliser cet appareil dans une zone résidentielle.

Attention (ODS-D77F)

L'emploi de commandes ou ajustements ou l'exécution de procédures autres que celles spécifiées ici peut provoquer une exposition dangereuse au rayonnement.



Ce système d'archivage sur disque optique est classé comme PRODUIT LASER DE CLASSE 1. (ODS-D77F)

Propriétés de la diode laser (ODS-D77F)

Longueur d'onde : 400 à 410 nm

Durée d'émission : Continue

Puissance du laser : 280 mW (maxi de crête d'impulsion), 150 mW (maxi d'ondes entretenues)

Norme : IEC60825-1 (2007)

Pour les clients au Canada

GARANTIE LIMITÉE DE SONY - Rendez-vous sur <http://www.sonybiz.ca/pro/lang/en/ca/article/resources-warranty-product-registration> pour obtenir les informations importantes et l'ensemble des termes et conditions de la garantie limitée de Sony applicable à ce produit.

Table des matières

Généralités	65
Exemple de configuration système	66
Nom et fonction des pièces	67
ODS-L30M	67
ODS-L60E.....	70
ODS-L100E.....	73
Manipulation du support.....	74
Support utilisé pour la lecture et l'écriture.....	74
Remarques sur la manipulation	74
Mémoire de cartouche.....	74
Support protégé contre l'écriture	75
Étiquettes de code à barres	75
Lancement et arrêt	76
Lancement	76
Arrêt	76
Importation et exportation de cartouches.....	77
Ouverture de la station I/E	77
Importation et exportation d'une cartouche	77
Enregistrement dans la base de données	77
Configuration du réseau	78
Configuration de l'adresse IPv4.....	78
Affichage de l'écran Web	80
Installation du logiciel sur des serveurs	81
Environnement d'exploitation.....	81
Installation.....	81
Opération de menus.....	82
Opération de base des menus	82
Liste des menus	82
Messages	84
Remarques importantes relatives à l'utilisation	86
Condensation.....	86
Remplacement de pièces	86
LCD.....	86
Précautions relatives aux unités de lecture.....	87
Marques commerciales et licences	87
Licences de logiciels libres	87
Obtention de logiciel sous licence GPL/LGPL/GPL V3	87
Spécifications	88

Généralités

L'unité maître ODS-L30M PetaSite est une bibliothèque qui peut contenir jusqu'à deux unités de lecture optionnelles (ODS-D77F) et jusqu'à 30 cartouches d'archive de disques optiques. En installant un kit d'extension ODBK-103 (non fourni) sur l'unité maître ODS-L30M, le PetaSite peut être relié à plusieurs unités d'extension, vous permettant ainsi d'étendre le système selon vos besoins. En autorisant de manière efficace la lecture/écriture de données sur plusieurs cartouches d'archive de disques optiques, l'ODS-L30M vous permet de rationaliser l'archivage des données et la récupération des données archivées (en les téléchargeant sur un serveur).

Les unités d'extensions comprennent le lecteur ODS-L60E PetaSite et les unités d'extension de cartouche ODS-L100E PetaSite. Le ODS-L60E accueille jusqu'à quatre unités de lecture optionnelles (ODS-D77F) et jusqu'à 61 cartouches d'archive de disques optiques. Le ODS-L100E contient jusqu'à 101 cartouches d'archive de disques optiques.

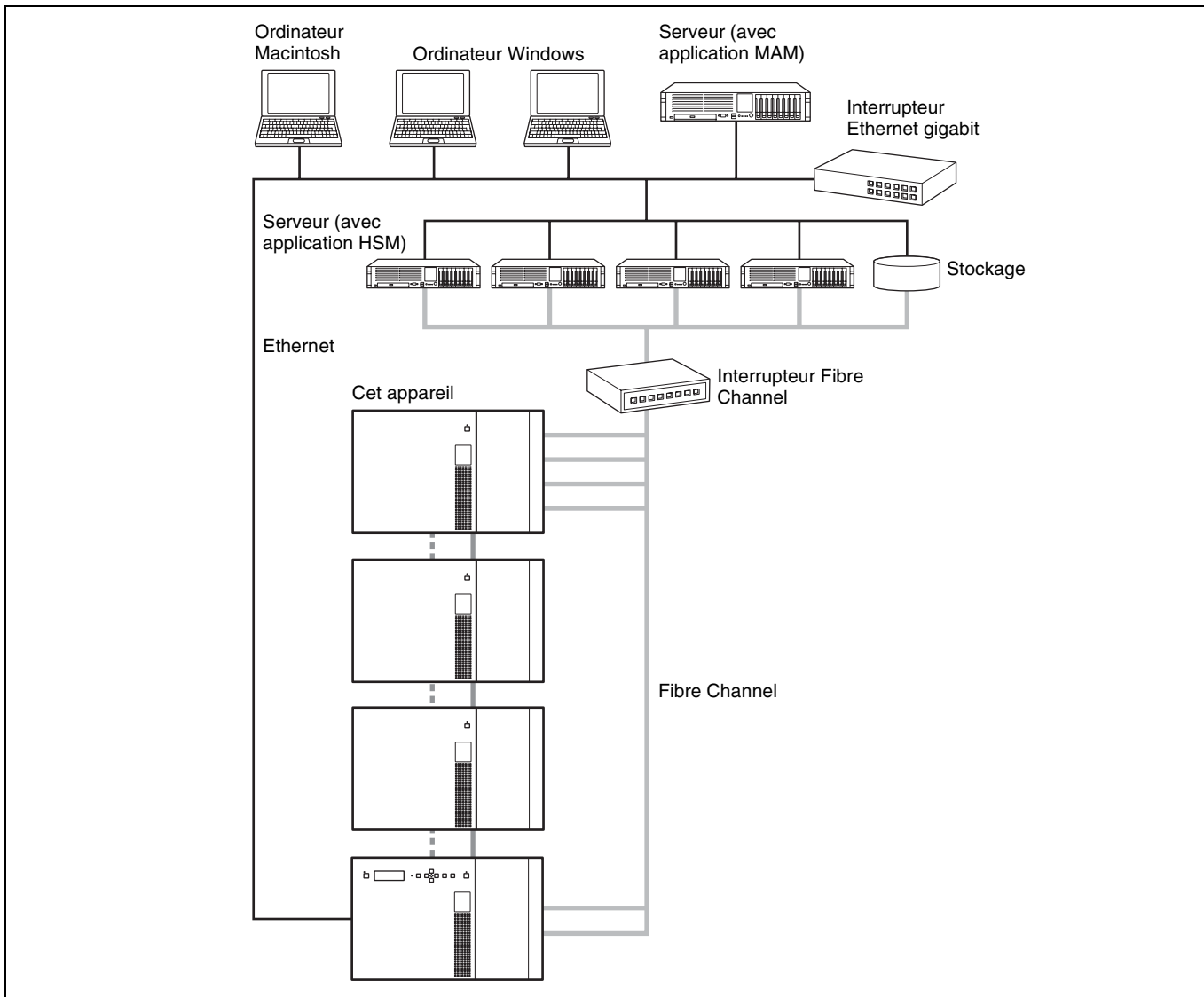
Les unités de lecture d'archive de disques optiques ODS-D77F qui peuvent être montées sur le ODS-L30M et le ODS-L60E sont équipées de deux têtes et sont spécialement conçues pour être utilisées avec le ODS-L30M/L60E. De plus, leur prise en charge de Fibre Channel permet un traitement à haute vitesse.

Vous pouvez également installer l'alimentation optionnelle ODBK-101 (pour le ODS-L30M) ou ODBK-102 (pour le ODS-L60E) pour fournir une redondance et permettre les mêmes capacités de montage à chaud qui sont disponibles avec les unités de lecture. Cela fournit un fonctionnement continu dans le cas où l'une des unités d'alimentation ou des unités de lecture échoue dans les systèmes qui nécessitent une grande fiabilité.

Dans ce manuel, le PetaSite (notamment l'unité maître et tous les kits d'extension ou toutes les unités d'extension supplémentaires) sur lequel les unités de lecture sont installées sera appelé « l'appareil » et les cartouches d'archive de disques optiques seront appelées « cartouches ».

Exemple de configuration système

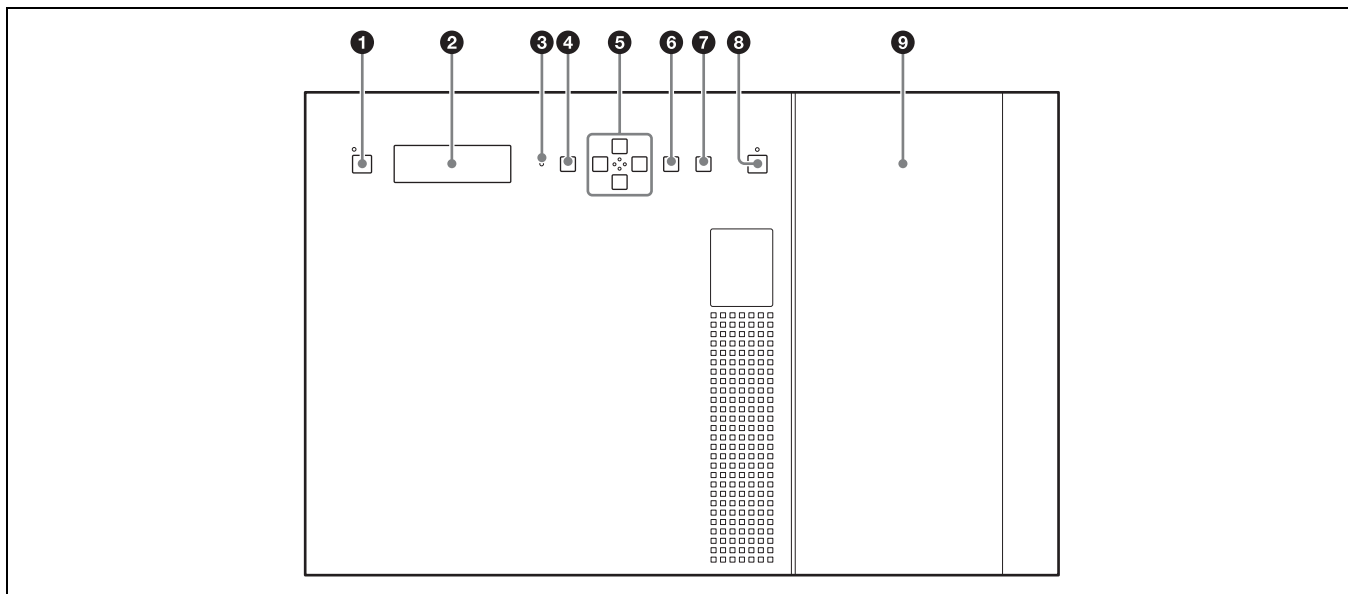
Les types de systèmes suivants peuvent être construits à l'aide de l'appareil ainsi que de l'équipement lié.



Nom et fonction des pièces

ODS-L30M

Panneau avant



Remarque

Le panneau avant du ODS-L30M peut être retiré et échangé avec les panneaux avant des unités d'extension ODS-L60E/L100E. Le ODS-L30M sera installé en bas d'une pile de plusieurs appareils, mais son panneau avant peut être placé sur une unité d'extension dont la hauteur permet une utilisation plus facile.

1 Bouton et voyant de mise sous tension/mise en veille

Met l'appareil sous tension ou en mode d'attente lorsque les interrupteurs d'alimentation principaux sur le panneau arrière sont activés. Appuyez sur le bouton lorsqu'il s'active pour passer en mode d'attente. Un message de confirmation d'arrêt apparaît sur l'écran. Utilisez la flèche pour sélectionner « Yes » et appuyez sur la touche ENTER.

Le voyant s'allume en vert lorsque l'appareil est sous tension et en rouge lorsque l'appareil est en mode de veille. Le voyant clignote en vert lorsque l'appareil s'éteint.

Remarques

- Lorsqu'on appuie sur la touche lorsqu'il y a une cartouche dans le lecteur, un message de confirmation apparaît sur l'écran. Éjectez la cartouche du lecteur avant de continuer.
- Quittez toutes les autres applications avant de mettre l'appareil hors tension. La mise hors tension met à l'arrêt.

l'alimentation du lecteur et toute donnée actuellement en cours d'enregistrement sera perdue.

2 Affichage

Affiche l'état de l'appareil, les menus de réglages, les messages, etc.

3 Voyant ALARM

Clignote en cas d'erreurs ou d'avertissements.

Clignotant rouge : erreur

Clignotant orange : avertissement

4 Bouton MENU

Affiche un menu sur l'écran lorsqu'il est enfoncé.

5 Boutons flèches

Défile dans le menu à l'écran et définit les valeurs d'entrée.

6 Bouton ENTER

Passe à la page suivante ou confirme les valeurs d'entrée pendant les opérations de menu.

7 Bouton BACK

Revient à la page précédente ou annule les valeurs d'entrée pendant les opérations de menu.

8 Bouton et voyant I/E STATION

Relâche le verrou de la station I/E. Le verrouillage est relâché lorsque le voyant s'allume en vert ou en orange. Le voyant se met à clignoter en orange lorsque le verrouillage est relâché.

Si la station I/E n'est pas ouverte dans les dix secondes après avoir relâché le verrouillage, la station I/E est automatiquement verrouillée de nouveau.

Si la station I/E reste ouverte pendant plus de trois minutes, le voyant clignote en rouge.

Remarque

Vous pouvez sélectionner si la station I/E de chaque appareil est utilisée comme fente I/E pour l'importation/exportation des cartouches ou comme fente de stockage (l'importation/exportation des cartouches est désactivée). Le verrouillage de la station I/E ne peut pas être relâché sur les appareils ou la station I/E est utilisée comme fente de stockage.

Voyant	Signification
Éteint	Le verrouillage ne peut pas être relâché dans les conditions suivantes. - Lorsque la station I/E est verrouillée à partir d'une application. - Lorsque la station I/E est utilisée comme fente de stockage.
Vert (clignotant)	Le verrouillage ne peut pas être relâché en cours d'accès à la station I/E.
Vert	Le verrouillage peut être relâché. Il y a une cartouche dans la station I/E.
Orange	Le verrouillage peut être relâché. Il n'y a pas de cartouche dans la station I/E.
Orange (clignotant)	Le verrouillage est relâché.
Rouge (clignotant)	Un problème s'est produit dans la station I/E. L'un des messages suivants apparaît à l'écran. - CLOSE I/E STATION : la station I/E est restée ouverte pendant plus de trois minutes. - I/E STATION LOCKED : le verrouillage ne peut pas être relâché car la touche est appuyée alors que le voyant est éteint ou clignote. - I/E STATION OPENED : un mouvement de fente I/E a été demandé alors que la station I/E était ouverte. * Aucun message n'apparaît sur l'écran pendant les opérations de menu.

Les étiquettes de station I/E contenant les informations suivantes sont fournies avec l'unité.

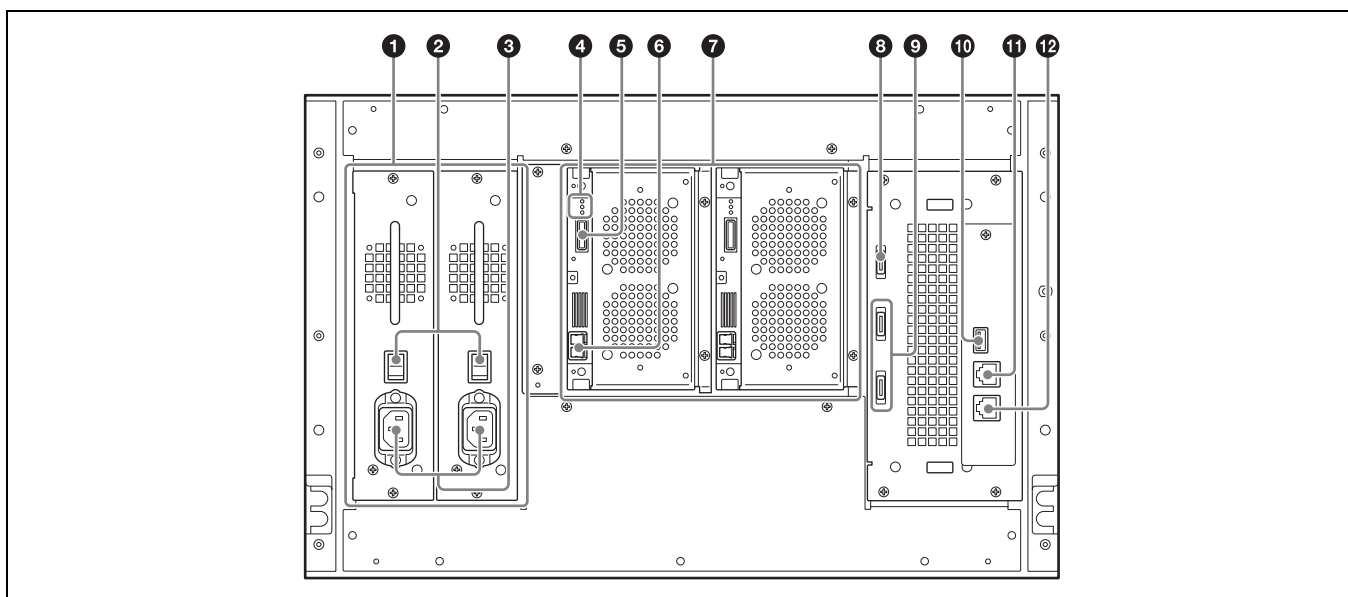
Voyant I/E STATION	État	Bouton I/E STATION
○ Éteint	L'ouverture/fermeture est impossible car les opérations sont désactivées.	Désactivé

Voyant I/E STATION	État	Bouton I/E STATION
☀ Vert (clignotant)	L'ouverture/fermeture est impossible car la station I/E est en cours d'accès.	Désactivé
● Vert ● Orange	Le déverrouillage est possible. Vert : cartouche présente Orange : cartouche absente	Activé
☀ Orange (clignotant)	Déverrouillé. L'ouverture/fermeture est possible.	Désactivé
☀ Rouge (clignotant)	Une erreur s'est produite. Vérifiez l'affichage de l'unité.	Désactivé

9 Clapet de station I/E

Panneau arrière

L'illustration suivante représente le ODS-L30M avec deux unités de lecture et deux unités d'alimentation installées.



❶ Fentes de montage de l'unité d'alimentation

Vous permet de fournir une alimentation redondante en installant les alimentations ODBK-101 optionnelles (non fournies). Cela fournit un fonctionnement continu dans le cas où l'une des unités d'alimentation échoue dans les systèmes qui nécessitent une grande fiabilité.

Pour des détails sur l'ajout ou le remplacement des unités d'alimentation, consultez votre représentant Sony le plus proche.

❷ Interrupteurs d'alimentation

Met les alimentations principales sous ou hors tension. Lorsque vous utilisez l'appareil, laissez ces interrupteurs réglés sur On et utilisez le bouton de mise sous tension/en veille pour basculer entre les modes de fonctionnement et de veille.

Remarque

Lorsque vous mettez les alimentations principales hors tension, réglez toujours l'appareil en mode veille à l'aide du bouton de mise sous tension/mise en veille sur le panneau avant d'appuyer sur ces interrupteurs.

❸ Connecteurs AC IN

Connectez-les aux alimentations secteurs à l'aide de cordons d'alimentation.

❹ Voyants d'unité de lecture

Indiquent l'état des unités de lecture. En partant du haut, les trois voyants sont comme suit.

• Voyant POWER

Allumé en vert : l'alimentation est activée.

• Voyant LINK

Clignotant lent en bleu (une fois par seconde) : le câble FC n'est pas connecté.

Allumé en bleu : le câble FC est connecté.

Clignotant rapide en bleu (quatre fois par seconde) : le câble FC est connecté et une commande est en cours de réception.

Remarques

- Ce voyant s'allume en bleu lorsque le câble FC est physiquement et correctement connecté. Il est allumé en bleu lorsque le câble FC est connecté même lorsque le lecteur ne peut être commandé à partir de l'ordinateur.

- Ce voyant s'allume en bleu lors de l'initialisation du lecteur après l'alimentation même lorsque le câble FC n'est pas connecté. Dans ce cas, le voyant commence à clignoter lentement en bleu lorsque l'initialisation est terminée.

• Voyant STATUS

Allumé en vert : l'unité de lecture peut être remplacée (par ex., si l'alimentation autonome et de lecture est éteinte).

Allumé en rouge : une alarme s'est déclenchée (code d'alarme différent de 00-000).

Clignote lentement en vert (intervalle 1 sec.) : le lecteur est en cours d'initialisation.

Clignote rapidement en vert (intervalle 0,25 sec.) : mise à jour du micrologiciel en cours.

Éteint : état normal.

⑤ Connecteur ODS CONTROL (ADI / alimentation)

Connectez-vous au connecteur DRIVE ayant le même numéro que le lecteur sur le ODS-L30M pour alimenter le lecteur et activer le contrôle ADI (Automation/Drive Interface).

⑥ Connecteurs FC (Fibre Channel)

Vous permettent de vous connecter aux serveurs et au stockage externe via l'interrupteur Fibre Channel.

⑦ Fentes de montage de l'unité de lecture

Vous permettent d'installer jusqu'à deux unités de lecture optionnelles (ODS-D77F).

⑧ Connecteur OUT 2 (interconnexion d'appareil)

Connectez-vous au connecteur IN 2 de l'unité d'extension (ODS-L60E/ODS-L100E) à l'aide du câble 2 d'interconnexion de l'appareil (fourni avec l'unité d'extension).

⑨ Connecteurs DRIVE 1, 2 (contrôle ODS (ADI / alimentation))

Connectez-vous au connecteur ODS CONTROL sur le lecteur ayant le même numéro (DRIVE 1 ou 2) à l'aide du câble de commande ODA (fourni avec le lecteur) pour alimenter le lecteur et activer le contrôle ADI.

⑩ Connecteur OUT 1 (interconnexion d'appareil)

Connectez-vous au connecteur IN 1 de l'unité d'extension (ODS-L60E/ODS-L100E) à l'aide du câble 1 d'interconnexion de l'appareil (fourni avec l'unité d'extension).

⑪ Port (réseau) 1

Connectez un câble réseau ici pour configurer l'appareil ou pour vérifier son état via l'écran Web.

Ceci apparaît en tant que « Network1 » sur l'écran de configuration.

⑫ Port (réseau) 2 (utilisé pour la maintenance)

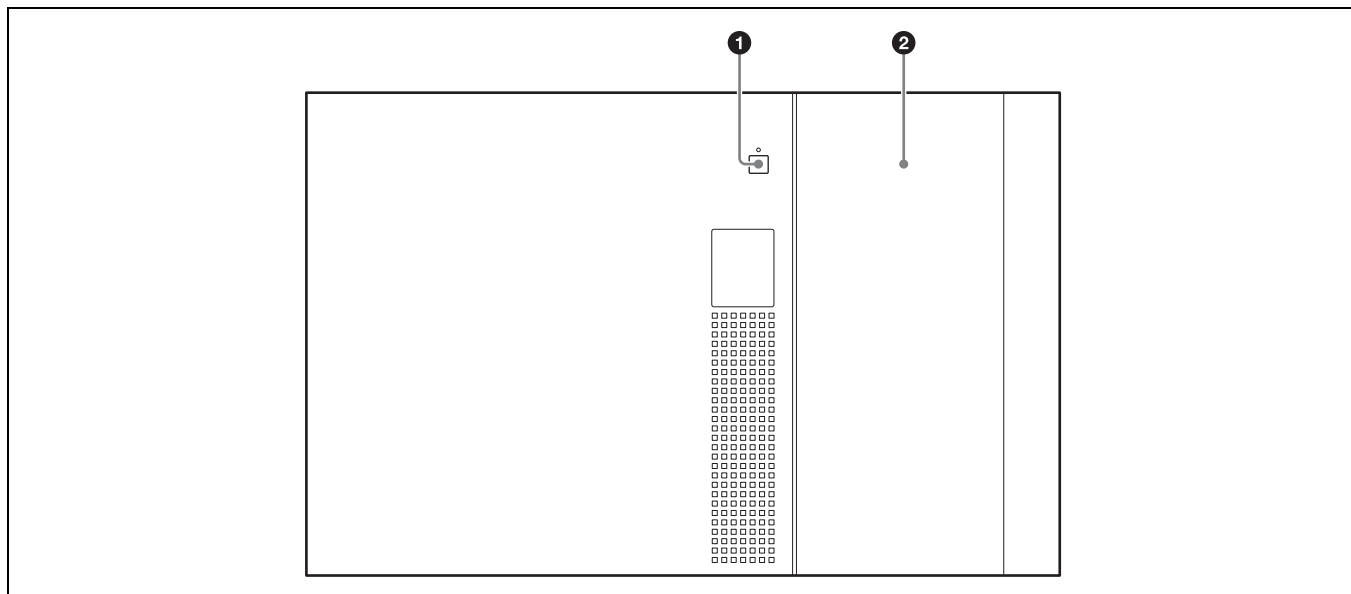
Ceci apparaît en tant que « Network2 » sur l'écran de configuration.

ATTENTION

- Par mesure de sécurité, ne raccordez pas le connecteur pour le câblage de périphériques pouvant avoir une tension excessive à ce port. Suivez les instructions pour ce port.
- Lors de la connexion du câble réseau de l'appareil au périphérique, utilisez un câble blindé afin d'empêcher tout dysfonctionnement dû au bruit de rayonnement.

ODS-L60E

Panneau avant



① Bouton et voyant I/E STATION

Relâche le verrou de la station I/E. Le verrouillage est relâché lorsque le voyant s'allume en vert ou en orange. Le voyant se met à clignoter en orange lorsque le verrouillage est relâché.

Si la station I/E n'est pas ouverte dans les dix secondes après avoir relâché le verrouillage, la station I/E est automatiquement verrouillée de nouveau.

Si la station I/E reste ouverte pendant plus de trois minutes, le voyant clignote en rouge.

Remarque

Vous pouvez sélectionner si la station I/E de chaque appareil est utilisée comme fente I/E pour l'importation/exportation des cartouches ou comme fente de stockage (l'importation/exportation des cartouches est désactivée). Le verrouillage de la station I/E ne peut pas être relâché sur les appareils ou la station I/E est utilisée comme fente de stockage.

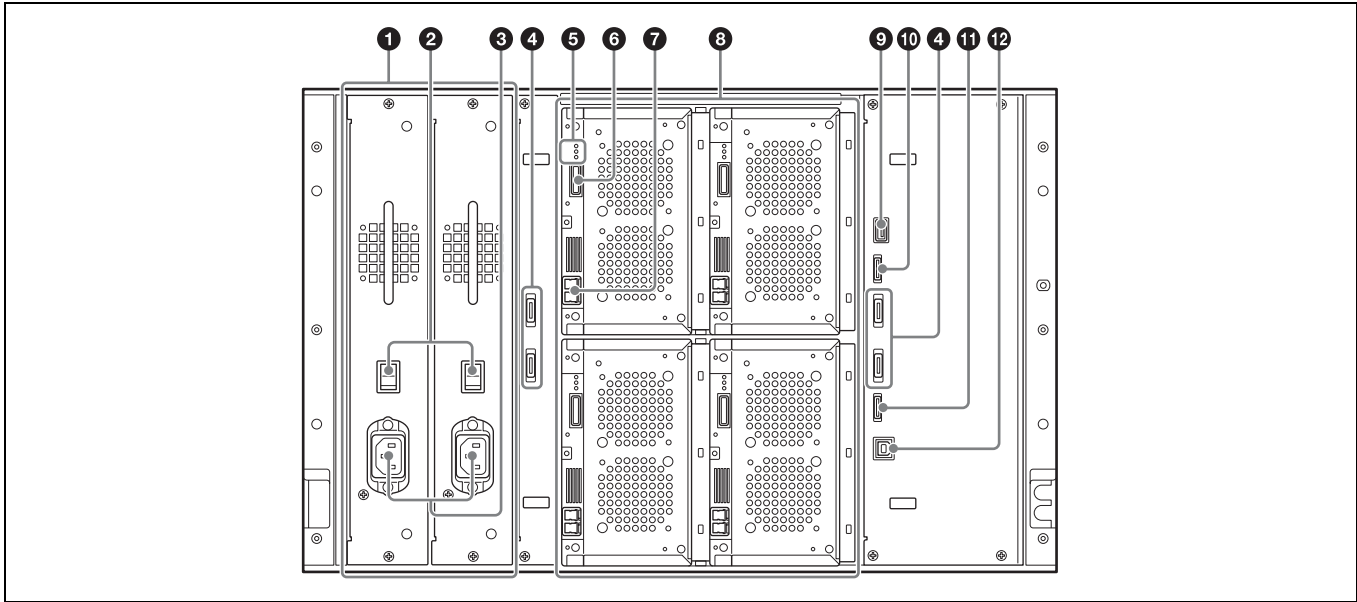
Voyant	Signification
Éteint	Le verrouillage ne peut pas être relâché dans les conditions suivantes. • Lorsque la station I/E est verrouillée à partir d'une application. • Lorsque la station I/E est utilisée comme fente de stockage.
Vert (clignotant)	Le verrouillage ne peut pas être relâché en cours d'accès à la station I/E.
Vert	Le verrouillage peut être relâché. Il y a une cartouche dans la station I/E.

Voyant	Signification
Orange	Le verrouillage peut être relâché. Il n'y a pas de cartouche dans la station I/E.
Orange (clignotant)	Le verrouillage est relâché.
Rouge (clignotant)	Un problème s'est produit dans la station I/E. L'un des messages suivants apparaît à l'écran. • CLOSE I/E STATION : la station I/E est restée ouverte pendant plus de trois minutes. • I/E STATION LOCKED : le verrouillage ne peut pas être relâché car la touche est appuyée alors que le voyant est éteint ou clignote. • I/E STATION OPENED : un mouvement de fente I/E a été demandé alors que la station I/E était ouverte. * Aucun message n'apparaît sur l'écran pendant les opérations de menu.

2 Clapet de station I/E

Panneau arrière

L'illustration suivante représente le ODS-L60E avec quatre unités de lecture et deux unités d'alimentation installées.



1 Fentes de montage de l'unité d'alimentation
Vous permet de fournir une alimentation redondante en installant les alimentations ODBK-102 optionnelles (non fournies). Cela fournit un fonctionnement continu dans le cas où l'une des unités d'alimentation échoue dans les systèmes qui nécessitent une grande fiabilité. Il n'est pas nécessaire d'avoir une source d'alimentation si aucun lecteur n'est installé dans l'ODS-L60E.

Pour des détails sur l'ajout ou le remplacement des unités d'alimentation, consultez votre représentant Sony le plus proche.

2 Interrupteurs d'alimentation
Met les alimentations principales sous ou hors tension. Lorsque vous utilisez l'appareil, laissez ces interrupteurs réglés sur On et utilisez le bouton de mise sous tension/en

veille pour basculer entre les modes de fonctionnement et de veille.

Remarque

Lorsque vous mettez les alimentations principales hors tension, réglez toujours l'appareil en mode veille à l'aide du bouton de mise sous tension/mise en veille sur le panneau avant du ODS-L30M avant d'appuyer sur ces interrupteurs.

③ Connecteurs AC IN

Connectez-les aux alimentations secteurs à l'aide de cordons d'alimentation.

④ Connecteurs DRIVE 1 à 4 (contrôle ODS (ADI / alimentation))

Connectez-vous au connecteur ODS CONTROL sur le lecteur ayant le même numéro (DRIVE 1 à 4) à l'aide du câble de commande ODA (fourni avec le lecteur) pour alimenter le lecteur et activer le contrôle ADI.

⑤ Voyants d'unité de lecture

Indiquent l'état des unités de lecture. En partant du haut, les trois voyants sont comme suit.

• Voyant POWER

Allumé en vert : l'alimentation est activée.

• Voyant LINK

Clignotant lent en bleu (une fois par seconde) : le câble FC n'est pas connecté.

Allumé en bleu : le câble FC est connecté.

Clignotant rapide en bleu (quatre fois par seconde) : le câble FC est connecté et une commande est en cours de réception.

Remarques

- Ce voyant s'allume en bleu lorsque le câble FC est physiquement et correctement connecté. Il est allumé en bleu lorsque le câble FC est connecté même lorsque le lecteur ne peut être commandé à partir de l'ordinateur.
- Ce voyant s'allume en bleu lors de l'initialisation du lecteur après l'alimentation même lorsque le câble FC n'est pas connecté. Dans ce cas, le voyant commence à clignoter lentement en bleu lorsque l'initialisation est terminée.
- **Voyant STATUS**
Allumé en vert : l'unité de lecture peut être remplacée (par ex., si l'alimentation autonome et de lecture est éteinte).
Allumé en rouge : une alarme s'est déclenchée (code d'alarme différent de 00-000).
Clignote lentement en vert (intervalle 1 sec.) : le lecteur est en cours d'initialisation.
Clignote rapidement en vert (intervalle 0,25 sec.) : mise à jour du micrologiciel en cours.
Éteint : état normal.

⑥ Connecteur ODS CONTROL (ADI / alimentation)

Connectez-vous au connecteur DRIVE ayant le même numéro que le lecteur sur le ODS-L60E pour alimenter le lecteur et activer le contrôle ADI.

⑦ Connecteurs FC (Fibre Channel)

Vous permettent de vous connecter aux serveurs et au stockage externe via l'interrupteur Fibre Channel.

⑧ Fentes de montage de l'unité de lecture

Vous permettent d'installer jusqu'à quatre unités de lecture optionnelles (ODS-D77F).

⑨ Connecteur OUT 1 (interconnexion d'appareil)

Connectez-vous au connecteur IN 1 de l'unité principale (ODS-L30M) ou une autre unité d'extension (ODS-L60E/ODS-L100E) à l'aide du câble 1 d'interconnexion de l'appareil (fourni avec l'unité d'extension).

⑩ Connecteur OUT 2 (interconnexion d'appareil)

Connectez-vous au connecteur IN 2 de l'unité principale (ODS-L30M) ou une autre unité d'extension (ODS-L60E/ODS-L100E) à l'aide du câble 2 d'interconnexion de l'appareil (fourni avec l'unité d'extension).

⑪ Connecteur IN 2 (interconnexion d'appareil)

Connectez-vous au connecteur OUT 2 de l'unité principale (ODS-L30M) ou une autre unité d'extension (ODS-L60E/ODS-L100E) à l'aide du câble 2 d'interconnexion de l'appareil (fourni avec l'unité d'extension).

⑫ Connecteur IN 1 (interconnexion d'appareil)

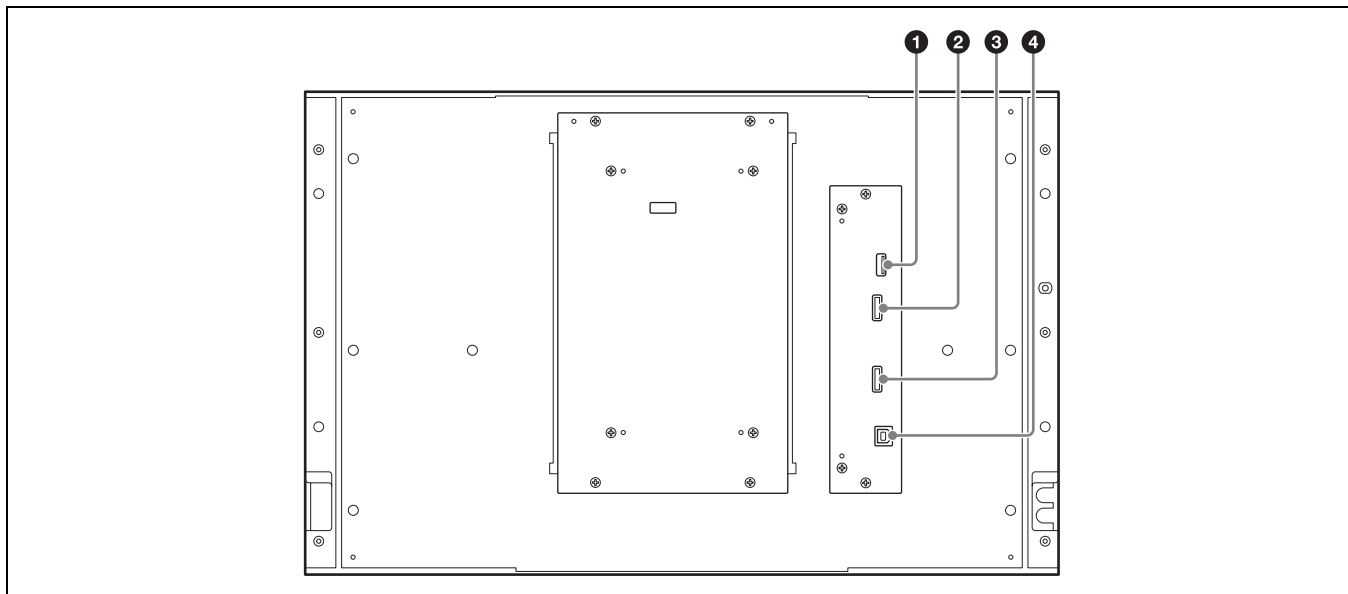
Connectez-vous au connecteur OUT 1 de l'unité principale (ODS-L30M) ou une autre unité d'extension (ODS-L60E/ODS-L100E) à l'aide du câble 1 d'interconnexion de l'appareil (fourni avec l'unité d'extension).

ODS-L100E

Panneau avant

Il est identique au panneau avant du ODS-L60E (voir page 70).

Panneau arrière



❶ Connecteur OUT 1 (interconnexion d'appareil)

Connectez-vous au connecteur IN 1 de l'unité principale (ODS-L30M) ou une autre unité d'extension (ODS-L60E/ODS-L100E) à l'aide du câble 1 d'interconnexion de l'appareil (fourni avec l'unité d'extension).

❷ Connecteur OUT 2 (interconnexion d'appareil)

Connectez-vous au connecteur IN 2 de l'unité principale (ODS-L30M) ou une autre unité d'extension (ODS-L60E/ODS-L100E) à l'aide du câble 2 d'interconnexion de l'appareil (fourni avec l'unité d'extension).

❸ Connecteur IN 2 (interconnexion d'appareil)

Connectez-vous au connecteur OUT 2 de l'unité principale (ODS-L30M) ou une autre unité d'extension (ODS-L60E/ODS-L100E) à l'aide du câble 2 d'interconnexion de l'appareil (fourni avec l'unité d'extension).

❹ Connecteur IN 1 (interconnexion d'appareil)

Connectez-vous au connecteur OUT 1 de l'unité principale (ODS-L30M) ou une autre unité d'extension (ODS-L60E/ODS-L100E) à l'aide du câble 1 d'interconnexion de l'appareil (fourni avec l'unité d'extension).

Manipulation du support

Support utilisé pour la lecture et l'écriture

Cet appareil utilise les cartouches d'archive de disques optiques suivantes et un support similaire pour la lecture et l'écriture.

Cartouche	Type de support	Nbre de fichiers qui peuvent être créés
ODC300R Capacité : 300 Go	À écriture unique	60 000 ou 240 000
ODC300RE Capacité : 300 Go	Réinscriptible	60 000 ou 240 000
ODC600R Capacité : 600 Go	À écriture unique	60 000 ou 240 000
ODC600RE Capacité : 600 Go	Réinscriptible	60 000 ou 240 000
ODC1200RE Capacité : 1,2 To	Réinscriptible	60 000 ou 240 000
ODC1500R Capacité : 1,5 To	À écriture unique	60 000 ou 240 000

Remarques

- Supprimer des fichiers du support n'augmentera pas l'espace de stockage disponible aussi bien pour les cartouches de type réinscriptible ou à écriture unique.
- Dans le cas de cartouches à écriture unique, faites attention aux points suivants.
 - Reformater le support n'augmentera pas l'espace de stockage disponible.
 - L'écriture répétée de fichiers utilisera l'espace inscriptible disponible (pour l'écriture des données de gestion de support, etc.) sur le support. S'il n'y a pas d'espace inscriptible disponible sur le support, l'écriture du fichier peut être désactivée, même s'il reste suffisamment d'espace de stockage.
 - Aucun fichier ne peut être écrit une fois que le support est finalisé.
- Vous pouvez sélectionner le nombre maximal de fichiers qui peuvent être créés (60 000 ou 240 000) lorsque vous formatez une cartouche.
- Vous pouvez reformater un support à écriture unique, le nombre maximal précédent de fichiers qui peuvent être créés (60 000 ou 240 000) se reportera. Cependant, vous pouvez sélectionner à nouveau le nombre maximal de fichiers qui peuvent être créés lorsque vous reformatez le support réinscriptible.
- Si vous sélectionnez 240 000 comme le nombre maximal de fichiers pouvant être créés pendant le formatage, le taux de réparations réussies pour la

fonction de réparation de fichiers sera inférieure à lorsque 60 000 est sélectionné.

Remarques sur la manipulation

Manipulation

La cartouche d'archive de disque optique héberge 12 disques dans un boîtier et il est conçu pour permettre la manipulation sans risque de poussière ou d'empreintes de doigts. Cependant, si la cartouche est soumise à un choc violent, par exemple si elle tombe, cela peut engendrer des dommages ou des rayures des disques. Si un disque est rayé, il peut être impossible d'écrire des données ou de lire des données écrites sur le disque. La cartouche doit être manipulée et stockée soigneusement.

- Ne retirez aucun disque de la cartouche.
- Ne désassemblez pas la cartouche.
- Si l'ordre des disques dans une cartouche est modifié, ou d'autres disques sont substitués, la cartouche ne sera plus reconnue par l'appareil et ne peut pas être utilisée.
- Les étiquettes adhésives fournies sont recommandées pour l'indexation des cartouches. Appliquez l'étiquette dans la bonne position.

Stockage

- Ne stockez pas les cartouches à un endroit où elles peuvent être sujettes à la lumière directe ou dans d'autres endroits où la température ou l'humidité est élevée.
- Ne laissez pas les cartouches à un endroit où la poussière peut pénétrer.
- Stockez les cartouches dans leurs boîtiers.

Entretien de la cartouche

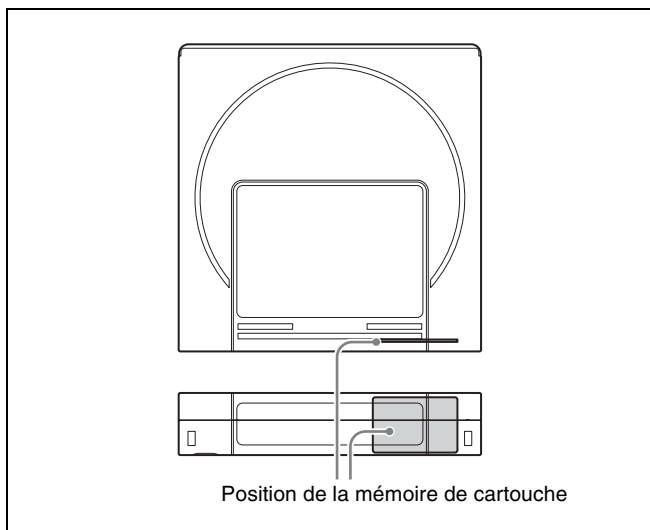
- Enlevez la poussière et la saleté sur l'extérieur d'une cartouche à l'aide d'un chiffon sec et doux.
- Si de la condensation se forme, laissez sécher un long moment avant utilisation.

Mémoire de cartouche

La cartouche d'archive de disques optiques comprend la mémoire de cartouche, qui permet une communication sans contact avec cet appareil.

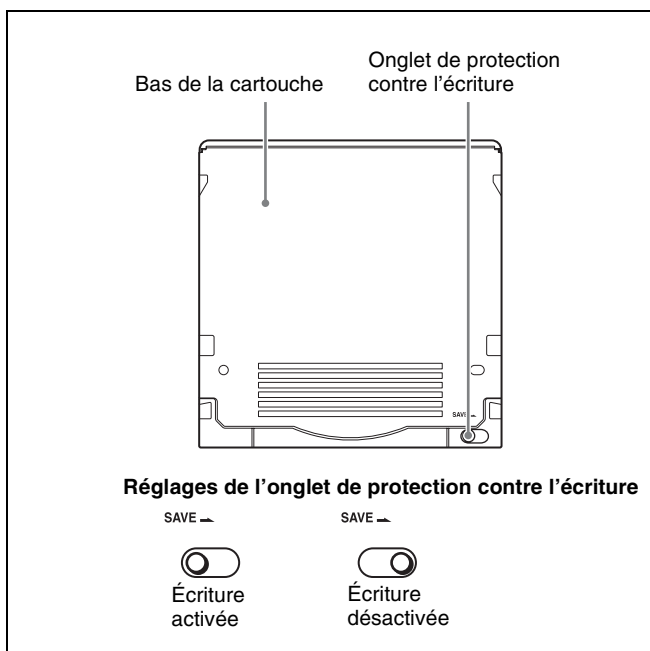
Les informations de base de la cartouche d'archive de disques optiques sont écrites dans la mémoire de cartouche.

L'utilisation du logiciel permettra aux données d'utilisateur d'être écrites/lues à l'avenir.



Support protégé contre l'écriture

Pour éviter la suppression accidentelle du contenu du support enregistré, faites glisser l'onglet de protection contre l'écriture en bas de la cartouche (arrière du côté de l'étiquette) dans le sens de la flèche, tel qu'illustré dans la figure suivante.

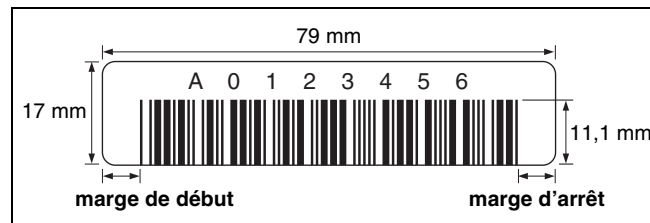


Vous pouvez également procéder aux réglages de protection contre l'écriture pour le support depuis l'application hôte.

Si l'onglet de protection contre l'écriture ou l'application hôte est définie pour interdire l'écriture, le support restera en état protégé contre l'écriture.

Étiquettes de code à barres

Le lecteur de code à barres de l'appareil accepte les codes à barres CODE39. Les spécifications pour les codes à barres pris en charge sont données ci-dessous.



Dimensions Conformité avec la taille de l'image d'étiquette sur les cartouches utilisées

Étiquette et impression

Matte

Largeur des barres

Barre étroite et largeur d'espace
0,423 mm (0,017 po.) +0,03/-0,076 mm
(+0,001/-0,003 po.) (largeur nominale de
0,423 mm (0,017 po.))

Rapport entre la barre large et étroite

2,75:1

Longueur des barres

11,1 mm (7/16 po.) ou plus

Zone non imprimée (marge de début/marge d'arrêt)

6,35 mm (1/4 po.) ou supérieur

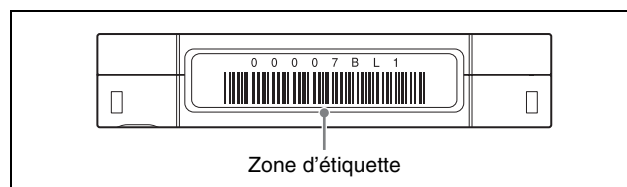
Longueur 8 caractères alphanumériques majuscules
(codes de début/d'arrêt non inclus)

Chiffre de contrôle

Aucun

Remarques

- N'apposez pas de marques sur les espaces vides sur les côtés du code à barres. Le code à barres risquerait de ne pas être lu correctement en présence de marques.
- Si l'étiquette ou l'impression est brillante, il se peut qu'une lecture correcte ne soit pas possible en raison du halo. Pour des détails sur les étiquettes de codes à barres pouvant être lues, contactez votre représentant Sony le plus proche.
- Si vous voulez utiliser les étiquettes de codes à barres avec neuf caractères ou plus, contactez votre représentant Sony le plus proche.
- Fixez les étiquettes de codes à barres complètement dans la zone d'étiquette de la cartouche de façon à ce que les étiquettes ne se décollent pas, comme indiqué sur le schéma suivant. Appuyez fermement sur l'étiquette du code à barres afin qu'elle ne se décolle pas.



- Si l'étiquette n'est pas complètement fixée dans la zone renfoncée, des problèmes risquent de se produire avec l'unité de lecture ou pendant le chargement de l'unité.

Précautions concernant les étiquettes de codes à barres

- Utilisez des étiquettes de codes à barres conformes aux spécifications de Sony.
- Ne collez pas d'étiquettes de codes à barres avec lesquels la mémoire de cartouche est intégrée.
- Ne réutilisez pas d'étiquettes et ne collez pas d'étiquettes usagées sur des étiquettes existantes.
- Retirez l'ancienne étiquette avant d'en coller une nouvelle. Lors du retrait de l'étiquette, décollez-la lentement perpendiculairement au boîtier de la cartouche.
- Collez une nouvelle étiquette qui ne laissera aucun dépôt d'adhésif après son retrait (par ex., une étiquette qui peut se retirer proprement). Si de l'adhésif reste sur la cartouche, frottez-le doucement avec le doigt pour le retirer.
- Lors du nettoyage de la zone d'étiquette, n'utilisez pas d'objets pointus ou de nettoyeurs chimiques.
- Vérifiez l'état des étiquettes avant de les coller. En cas de défaut des caractères imprimés ou du code à barres, le code à barres risque de ne pas pouvoir être lu correctement, provoquant une durée de lecture du code à barres plus longue.
- Lorsque vous décollez les étiquettes de la feuille d'étiquettes, veillez à ne pas rayer l'étiquette ou à enrouler les bords.
- Veillez à poser les étiquettes à plat sur la cartouche sans rides ni poches d'air.
- Veillez à coller les étiquettes complètement afin d'éviter qu'elles ne se décollent et ne s'enroulent.

Lancement et arrêt

Remarque

Fermez toujours la station I/E lors du lancement et de l'arrêt de l'appareil.

Lancement

- 1 Vérifiez que le cordon d'alimentation est connecté, puis réglez l'interrupteur d'alimentation sur On sur le panneau arrière de l'appareil.
- 2 Appuyez sur le bouton de mise sous tension/mise en veille sur le panneau avant.

Lorsque vous appuyez sur le bouton, le voyant de mise sous tension/mise en veille s'allume en vert.

L'initialisation se terminera et l'appareil sera prêt à être utilisé lorsque le texte sur l'écran arrêtera de clignoter.

Arrêt

- 1 Appuyez sur le bouton de mise sous tension/mise en veille.
- 2 Lorsque le message de confirmation d'arrêt apparaît sur l'écran, utilisez les boutons flèches pour sélectionner [Yes], puis appuyez sur le bouton ENTER.

Un autre message de confirmation s'affiche s'il y a une cartouche dans l'un des lecteurs.

- 3 Attendez que le voyant de mise sous tension/mise en veille cesse de clignoter en vert et s'allume en rouge, puis réglez l'interrupteur d'alimentation principale sur Off sur le panneau arrière.

Remarque

Mettez toujours l'appareil hors tension, sauf en cas d'urgence, avant d'éteindre l'interrupteur d'alimentation principal sur le panneau arrière.

Importation et exportation de cartouches

Ouverture de la station I/E

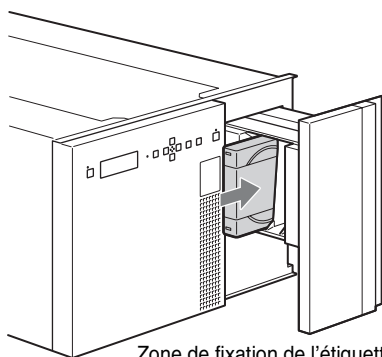
Appuyez sur le bouton I/E STATION sur le panneau avant pour relâcher le verrou de la station I/E avant d'ouvrir cette dernière. Lorsque vous appuyez sur le bouton I/E STATION, le verrou se relâche et le voyant I/E STATION clignote en orange.

Remarques

- Maintenez le bouton I/E STATION appuyé (pendant environ une seconde) et attendez que le voyant I/E STATION clignote en orange avant d'ouvrir la station I/E.
- Si la station I/E ne se déverrouille pas lorsque vous appuyez sur le bouton I/E STATION, enfoncez la station I/E jusqu'au fond de l'appareil puis appuyez de nouveau sur le bouton I/E STATION.

Importation et exportation d'une cartouche

Insérez une cartouche dans une fente, puis poussez la cartouche tout du long jusqu'à ce qu'elle s'arrête.



Zone de fixation de l'étiquette vers l'avant.

Lorsque vous retirez une cartouche, sortez la cartouche sur la gauche tout en la maintenant à l'horizontale.

Fermeture de la station I/E

Poussez lentement la station I/E entièrement dans l'appareil et vérifiez que le voyant I/E STATION clignote en vert.

Remarques

- Si le voyant I/E STATION clignote en orange, la station I/E n'est pas complètement fermée.
- Une tonalité d'avertissement sonne si la station I/E est laissée ouverte pendant 3 minutes ou plus.

Enregistrement dans la base de données

Après l'insertion d'une cartouche et la fermeture de la station I/E, des informations sur chaque cartouche sont automatiquement enregistrées dans la base de données de l'appareil. L'enregistrement de la base de données peut prendre un peu de temps en cas d'insertion de plusieurs cartouches.

Lorsque l'enregistrement dans la base de données est terminé, le voyant I/E STATION s'allume en vert ou en orange.

Configuration du réseau

Après avoir configuré l'adresse IPv4 sur l'écran du panneau avant de l'appareil, connectez l'appareil à l'ordinateur sur lequel le navigateur Web est installé, puis configurez les réglages de l'appareil et vérifiez son état par le biais de Library Maintenance Web UI.

Configuration de l'adresse IPv4

Les réglages de l'adresse IP, du masque de sous-réseau et de la passerelle par défaut sont nécessaires. Network 1 est configuré par défaut en usine pour DHCP. Network 2 est configuré avec les réglages suivants.

Adresse IP : 192.168.1.10

Masque de sous-réseau : 255.255.255.0

Passerelle par défaut : 0.0.0.0

Utilisez l'écran et les boutons sur le panneau avant de l'appareil pour configurer les réglages du réseau.

1 Appuyez sur le bouton MENU.

Le menu apparaît sur l'écran.

```
Menu
> 1.Information
  2.Setup
  3.Maintenance
```

2 Utilisez les boutons ↑ et ↓ pour sélectionner [Setup], puis appuyez sur le bouton ENTER.

L'écran [Setup] apparaît.

```
Setup
> 1.Network
  2.Control Panel
```

3 Utilisez les boutons ↑ et ↓ pour sélectionner [Network], puis appuyez sur le bouton ENTER.

L'écran [Network] apparaît.

```
Network
> 1.Network 1
  2.Network 2
```

4 Utilisez les boutons ↑ et ↓ pour sélectionner [Network 1], puis appuyez sur le bouton ENTER.

L'écran [Network1] apparaît.

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
  2.IPv6 Setting
```

5 Utilisez les boutons ↑ et ↓ pour sélectionner [IPv4 Setting], puis appuyez sur le bouton ENTER.

L'écran suivant apparaît. Un astérisque (*) indique le réglage actuel. Pour configurer l'adresse IPv4, ce réglage doit être réglé sur [Enabled]. Si le réglage est déjà défini sur [Enabled], passez à l'étape 8.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  Enabled
  *Disabled
```

6 Appuyez sur le bouton ENTER pour modifier le réglage.

L'écran de sélection (c.-à-d., l'écran avec le curseur (>)) apparaît. Vous pouvez modifier le réglage dans cet écran.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
> Enabled
  *Disabled
```

7 Utilisez les boutons ↑ et ↓ pour sélectionner [Enabled], puis appuyez sur le bouton ENTER.

L'écran de confirmation (c.-à-d., l'écran sans le curseur (>)) apparaît.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  *Enabled
  Disabled
```

8 Vérifiez que [Enabled] est sélectionné, puis appuyez sur le bouton ↓.

L'écran suivant apparaît.

```
IPv4 Setting
IPv4 DHCP
  Auto
  *Static
```

9 Appuyez sur le bouton ENTER pour afficher l'écran de sélection.

10 Pour utiliser une adresse IP statique, utilisez les boutons ↑ et ↓ pour sélectionner [Static], puis appuyez sur le bouton ENTER.

Remarque

Pour utiliser le DHCP, utilisez les boutons ↑ et ↓ pour sélectionner [Auto], appuyez sur le bouton ENTER, puis passez à l'étape 17.

11 Appuyez sur le bouton ↓.

L'écran suivant apparaît.

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

12 Appuyez sur le bouton ENTER.

Le premier chiffre de l'adresse IP clignote, ce qui indique qu'il peut être modifié.

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

13 Entrez l'adresse IP.

Utilisez les boutons ⇐ et ⇒ pour déplacer le curseur, puis utilisez les boutons ↑ et ↓ pour modifier les valeurs.

14 Appuyez sur le bouton ENTER après avoir entré l'adresse pour la confirmer.

15 Appuyez sur le bouton ↓ pour afficher [IPv4 Netmask] et configurez le masque de sous-réseau à l'aide de la même méthode que l'adresse IP.

```
IPv4 Setting
IPv4 Netmask
000.000.000.000
```

16 Appuyez sur le bouton ↓ pour afficher [IPv4 Gateway] et configurez la passerelle par défaut à l'aide de la même méthode.

```
IPv4 Setting
IPv4 Gateway
000.000.000.000
```

17 Appuyez sur le bouton ↓.

[IPv4 DNS] apparaît.

```
IPv4 Setting
IPv4 DNS
Auto
*Static
```

18 Pour configurer l'adresse DNS, sélectionnez [Static].

Si le réglage actuel est [Auto], affichez l'écran de sélection à l'aide du bouton ENTER, utilisez les boutons ↑ et ↓ pour sélectionner [Static], puis appuyez sur le bouton ENTER pour confirmer.

Remarque

Pour obtenir l'adresse DNS automatiquement, sélectionnez [Auto]. Confirmez le réglage à l'aide de la même méthode que vous utiliseriez pour [Static], puis passez à l'étape 24.

19 Appuyez sur le bouton ENTER.

L'écran [IPv4 Primary DNS] apparaît.

```
IPv4 Setting
IPv4 Primary DNS
000.000.000.000
```

20 Appuyez sur le bouton ENTER.

Le premier chiffre de l'adresse IP clignote, ce qui indique qu'il peut être modifié.

21 Utilisez les boutons ⇐, ⇒, ↑ et ↓ pour saisir l'adresse DNS principale et appuyez sur le bouton ENTER.

22 Appuyez sur le bouton ↓.

L'écran [IPv4 Secondary DNS] apparaît.

23 Entrez l'adresse DNS secondaire à l'aide de la même méthode qu'à l'étape 20, puis appuyez sur le bouton ENTER.

24 Appuyez sur le bouton ↓.

L'écran de confirmation suivant apparaît.

```
Network1
IPv4 Setting
> Save
Cancel
```

25 Vérifiez que [Save] est sélectionné, puis appuyez sur le bouton ENTER.

L'adresse IP changée est activée.
L'écran [Network1] apparaît à nouveau.

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
2.IPv6 Setting
```

26 Appuyez trois fois sur le bouton BACK pour terminer l'opération du menu.

Les adresses IP peuvent également être modifiées dans l'écran Web (Library Maintenance Web UI).

Pour des détails sur les modifications à l'aide de Library Maintenance Web UI, référez-vous à l'aide de Library Maintenance Web UI.

Affichage de l'écran Web

Un écran Web (Library Maintenance Web UI) peut être utilisé pour effectuer des opérations de réglage pour cet appareil.

Environnement recommandé

Navigateur Web :

- Pour Windows : Google Chrome (dernière version) ou Microsoft Internet Explorer 11
- Pour Mac OS : Google Chrome (dernière version)
- Taille du moniteur : 1 024 pixels ou plus grand

Pour afficher l'écran web, entrez l'URL `https://(adresse IP)/` dans un navigateur web.

Exemple : `https://192.168.1.10/`



Lors de la connexion à l'appareil à partir d'un navigateur web, « The site's security certificate is not trusted! » ou un message similaire apparaît. Vérifiez que l'adresse IP affichée dans le message est correcte avant de continuer. Ensuite, le message d'authentification apparaît. Saisissez le nom d'utilisateur et le mot de passe suivants.

Utilisateur : admin, Mot de passe : ods-l30m

Après l'authentification, l'écran Library Maintenance Web UI apparaît.

Pour des détails sur les opérations de Library Maintenance Web UI, référez-vous à l'aide de Library Maintenance Web UI.

Remarques

- Consultez votre administrateur réseau au sujet des réglages réseau requis.
Les ordinateurs ne peuvent pas connecter l'appareil sur un réseau, en fonction des réglages du serveur proxy du navigateur.
- Seul un client web peut être connecté à l'appareil à tout moment.

- L'écran web prend en charge jusqu'à trois connexions simultanées (sessions http). Si plusieurs sessions sont ouvertes en même temps, une erreur se produit en cas de conflit entre les opérations d'enregistrement. Dans ce cas, l'opération doit être réalisée une seconde fois.
- La bibliothèque n'effectue pas de routage réseau. Pour obtenir automatiquement une adresse de passerelle et une adresse IP, configurez les réglages pour un seul réseau.
- Active JavaScript dans votre navigateur Web. L'écran de connexion ne s'affiche pas si JavaScript n'est pas activé.
- Configurez votre navigateur Web pour qu'il accepte les cookies. Vous ne pourrez pas vous connecter si vous n'avez pas autorisé votre navigateur à accepter les cookies venant de cet appareil.
- Les préférences de configuration du navigateur Web varient en fonction du navigateur Web et de la version du SE. Consultez le mode d'emploi ou l'aide de votre navigateur Web et de votre SE.

Installation du logiciel sur des serveurs

Installez le logiciel suivant sur les serveurs raccordés via Fibre Channel aux unités de lecture montées sur l'appareil. (Pour plus de détails sur la configuration du système, voir page 66.)

- Optical Disc Archive Software (Windows/Linux)
Logiciel de base raccordant les serveurs et les unités de lecture et permettant la lecture/écriture de fichiers. Téléchargez ce logiciel du site Web Sony produits professionnels (page 89).

Remarques

- Installez le logiciel avant de raccorder les serveurs aux unités de lecture.
- Optical Disc Archive Utility sera automatiquement installé lorsque vous installez le logiciel.

Environnement d'exploitation

Le fonctionnement d'Optical Disc Archive Software a été vérifié pour les environnements suivants.

Remarque

La vérification du fonctionnement ne garantit pas le fonctionnement sur tous les ordinateurs.

Windows

Élément	Configuration requise
Processeur	Intel Core 2 Duo 2,66 GHz ou supérieur ; ou Intel Xeon 2 GHz ou supérieur
Mémoire	Périphérique 32 bits : 2 Go ou plus ; périphérique 64 bits : 2 Go x (nombre de périphériques) ou plus
Espace disque	Périphérique 32 bits : 16 Go ou plus ; périphérique 64 bits : 8 Go + 4 Go x (nombre de périphériques + 1) ou plus
Système d'exploitation	Consultez le site Web Sony produits professionnels (page 89).

Linux

Élément	Configuration requise
Processeur	Intel Core 2 Duo 2,66 GHz ou supérieur ; ou Intel Xeon 2 GHz ou supérieur
Mémoire	Périphérique 32 bits : 2 Go ou plus ; périphérique 64 bits : 2 Go x (nombre de périphériques) ou plus
Espace disque	Périphérique 32 bits : 16 Go ou plus ; périphérique 64 bits : 8 Go + 4 Go x (nombre de périphériques + 1) ou plus

Élément	Configuration requise
Système d'exploitation	Consultez le site Web Sony produits professionnels (page 89)

Installation

Téléchargez le logiciel du site Web Sony produits professionnels (page 89), puis installez-le.

Remarque

Si Optical Disc Archive Software est installé pendant que sont également installés certains logiciels anti-virus, outils anti-espions ou produits comprenant d'autres pilotes de système de fichier UDF 2.5 ou 2.6 que ceux dont est équipé en série le système d'exploitation, le fonctionnement peut devenir instable. Si le fonctionnement d'Optical Disc Archive Software devient instable, vérifiez si les logiciels ci-dessus sont présents, ainsi que leurs paramètres, puis changez ces paramètres.

Précautions lors de l'installation sous Windows

- Si une ancienne version d'Optical Disc Archive Software est déjà installée, désinstallez-la avant d'installer la nouvelle version. Supprimez [Sony Optical Disc Archive Software] dans [Ajouter ou supprimer des programmes] sur le panneau de configuration, puis redémarrez l'ordinateur.
- Lorsque vous effectuez une installation, tous les éléments configurés auparavant reviendront à leurs paramètres par défaut.

Précautions lors de l'installation sous Linux

- Si vous raccordez les unités de lecture aux serveurs avant d'installer Optical Disc Archive Software, le fonctionnement des serveurs sera peut-être interrompu. Afin d'empêcher cela, assurez-vous d'installer Optical Disc Archive Software avant de raccorder les unités de lecture aux serveurs.
Si vous remarquez un problème avec les serveurs, arrêtez-les, déconnectez les unités de lecture des serveurs, redémarrez les serveurs, puis installez Optical Disc Archive Software. Raccordez ensuite les unités de lecture aux serveurs.
- Lorsque vous installez une mise à jour, Optical Disc Archive Software est écrasé. Tous les éléments configurés auparavant reviendront à leurs paramètres par défaut.
- Si vous installez une nouvelle version d'Optical Disc Archive Software après avoir désinstallé une version plus ancienne, tous les éléments configurés auparavant reviendront à leurs paramètres par défaut.

Opération de menus

Configurez les réglages de base de l'appareil et affichez l'état de l'appareil à l'aide du menu affiché sur le panneau avant de l'appareil. Utilisez les boutons sur le panneau avant pour utiliser le menu.

Opération de base des menus

Cette section décrit les opérations de base des menus, avec le réglage de la tonalité d'avertissement en tant qu'exemple.

1 Appuyez sur le bouton MENU.

L'écran de sélection de menu apparaît.

```
Menu
1.Information
> 2.Setup
3.Maintenance
```

2 Déplacez le curseur (>) à l'aide des boutons ↑ et ↓ et sélectionnez [Setup], puis appuyez sur le bouton ENTER.

Le sous-menu de l'élément sélectionné apparaît.

```
Setup
> 1.Network
2.Control Panel
```

3 Utilisez les boutons ↑ et ↓ pour sélectionner [Control Panel], puis appuyez sur le bouton ENTER.

Le sous-menu de l'élément sélectionné apparaît.

```
Control Panel
> 1.Buzzer
2.LCD Backlight
3.LCD Brightness
```

4 Utilisez les boutons ↑ et ↓ pour sélectionner [Buzzer], puis appuyez sur le bouton ENTER.

Le réglage actuel de l'élément sélectionné apparaît. L'astérisque (*) indique le réglage actuel.

```
Control Panel
Buzzer
ON
*OFF
```

5 Appuyez sur le bouton ENTER.

Le curseur (>) apparaît, ce qui indique que le réglage peut être modifié.

```
Control Panel
Buzzer
ON
>*OFF
```

6 Utilisez les boutons ↑ et ↓ pour déplacer le curseur (>).

Panneau de contrôle

```
Control Panel
Buzzer
> ON
*OFF
```

7 Appuyez sur le bouton ENTER pour confirmer le réglage.

Le curseur disparaît et le réglage est confirmé.

```
Control Panel
Buzzer
*ON
OFF
```

8 Appuyez sur le bouton MENU pour revenir à l'écran de sélection de menu (étape 1).

Appuyer sur le bouton BACK pour revenir immédiatement à l'écran précédent.

9 Appuyez à nouveau sur le bouton MENU pour terminer l'opération du menu.

Liste des menus

Menu	Description
Information	Affiche les valeurs actuelles de chaque réglage dans le menu [Setup] et les paramètres IPv6 suivants. IPv6 Temporary : affiche l'adresse IPv6 temporaire. IPv6 Link-Local : affiche l'adresse de lien local IPv6.
Setup	Vous permet de configurer les réglages de l'appareil.

Menu	Description
1.Network	Configure les réglages réseau. Network 1 / Network 2 : Configure les réglages pour les deux ports réseau du ODS-L30M. IPv4 Enabled / IPv6 Enabled : Active ou désactive IPv4 ou IPv6. IPv4 DHCP / IPv6 DHCP : Spécifie l'utilisation du DHCP pour l'adresse IPv4 ou IPv6 ou l'utilisation d'une adresse statique. IPv4 Address / IPv6 Address : Configure l'adresse IPv4 ou IPv6. IPv4 Netmask : Configure le masque de sous-réseau IPv4. IPv6 Subnetprefix : Configure le préfixe du sous-réseau IPv6. IPv4 Gateway / IPv6 Gateway : Configure la passerelle par défaut IPv4 et IPv6. IPv4 DNS / IPv6 DNS : Spécifie l'obtention de l'IP DNS IPv4 ou IPv6 automatiquement ou l'utilisation d'une adresse statique. IPv4 Primary DNS / IPv6 Primary DNS : Configure le DNS primaire IPv4 et IPv6. IPv4 Secondary DNS / IPv6 Secondary DNS : Configure le DNS secondaire IPv4 et IPv6.
2.Control Panel	Configure les réglages du panneau de contrôle. Buzzer : Active ou désactive la tonalité d'avertissement. LCD Backlight : Spécifie si l'écran LCD s'éteint automatiquement ou s'il reste toujours allumé. LCD Brightness : Règle la luminosité de l'écran LCD sur Bas, Moyen ou Élevé.
Maintenance	Menu utilisé pour la maintenance.
1.Configuration	Factory Setting : Restaure les configurations de l'appareil à leurs valeurs par défaut.
2.Diagnostic	Menu pour le personnel de service.
3.Power Management	Reboot : Redémarre l'appareil.
4.Service	Menu pour le personnel de service.

Messages

En cas de problème avec le matériel de l'appareil ou les réglages de configuration, le voyant ALARM sur le panneau avant de l'appareil clignote en rouge (erreur) ou en orange (avertissement) et un message apparaît sur l'écran. Les messages ne sont pas affichés pendant les

opérations de menu. Les messages sont affichés après avoir appuyé sur la touche BACK pour quitter le menu. Si un message apparaît, référez-vous à ce qui suit pour résoudre le problème. Si l'affichage du message persiste, consultez votre représentant Sony le plus proche.

Message	Description
ERROR POWER OFF REQUEST	Un redémarrage du système est nécessaire. Mettez l'appareil hors puis de nouveau sous tension.
ERROR BOOT OS	Une erreur s'est produite pendant le démarrage. Consultez votre représentant Sony le plus proche.
ERROR CALIBRATION	Une erreur s'est produite pendant la calibration du chariot. Consultez votre représentant Sony le plus proche.
ERROR FIRMWARE UPDATE REQUEST	Une mise à jour du micrologiciel est nécessaire. Consultez votre représentant Sony le plus proche.
ERROR SERVICE MAINTENANCE REQUEST	Vérifiez que le câble d'interconnexion de l'appareil est correctement branché. Si le câble de connexion ne présente aucun problème, un entretien par le personnel de service est nécessaire. Consultez votre représentant Sony le plus proche.
ERROR	Une erreur a été détectée pendant les opérations de contrôle. Vérifiez [Library Status] dans l'onglet [System] de Library Maintenance Web UI.
WARNING UNIT (1-6) POWER (A/B) : OFF	Une unité d'alimentation configurée pour contrôler les réglages de configuration de l'alimentation est éteinte. Vérifiez [Power Configuration Settings] sur l'onglet [Others] de l'écran [Configuration] du Library Maintenance Web UI. En cas de problème avec les réglages, consultez votre représentant Sony le plus proche.
WARNING UNIT (1-6) POWER (A/B) : NG	Une erreur a été détectée dans l'unité d'alimentation. Consultez votre représentant Sony le plus proche.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : CC	L'unité d'alimentation est allumée, mais n'est pas configurée pour contrôler les réglages de configuration de l'alimentation. Cochez les cases des sources d'alimentation à utiliser dans [Power Configuration Settings] sur l'onglet [Others] de l'écran [Configuration] du Library Maintenance Web UI.
WARNING HIGH TEMP	La température interne de l'appareil est trop élevée. L'appareil continue à fonctionner, mais, une utilisation prolongée causera une augmentation de la température interne de l'appareil et des lecteurs, ce qui peut causer une défaillance ou un incendie. Consultez votre représentant Sony le plus proche.
WARNING FAN	La vitesse de rotation du ventilateur a chuté. L'appareil continue à fonctionner, mais, une utilisation prolongée causera une augmentation de la température interne de l'appareil et des lecteurs, ce qui peut causer une défaillance ou un incendie. Consultez votre représentant Sony le plus proche.
WARNING SSD	Le diagnostic du SSD a déterminé que le remplacement est nécessaire. Consultez votre représentant Sony le plus proche.
WARNING LITHIUM BATTERY	Le remplacement de la batterie au lithium est nécessaire. Consultez votre représentant Sony le plus proche.
CLOSE I/E STATION	La station I/E a été ouverte pendant trois minutes. Assurez-vous que la station I/E est bien fermée. Si le message reste affiché même après la fermeture de la station I/E, consultez votre représentant Sony le plus proche.
I/E STATION LOCKED	La touche de la station I/E a été appuyée alors que la station I/E est verrouillée par une application ou a été configurée pour être utilisée comme fente de stockage. Relâchez le verrou par le biais de l'application, puis appuyez sur le bouton I/E STATION. Si le verrou ne peut pas être relâché par le biais de l'application, relâchez le verrou en utilisant le Library Maintenance Web UI.

Message	Description
I/E STATION BUSY	Le bouton I/E STATION a été enfoncé pendant que la station I/E était en cours d'accès. Attendez que le voyant I/E STATION s'allume en vert ou en orange avant d'appuyer sur le bouton I/E STATION.
I/E STATION NOT UNLOCKED	Le déverrouillage de la station I/E a échoué. Enfoncez la station I/E jusqu'au fond de l'unité de sorte qu'elle soit complètement insérée puis appuyez de nouveau sur le bouton I/E STATION.
I/E STATION HALF-CLOSED	La station I/E n'est pas complètement insérée. Enfoncez la station I/E jusqu'au fond de l'appareil de sorte qu'elle soit complètement insérée puis appuyez de nouveau sur le bouton I/E STATION.
PUSH I/E STATION	La station I/E est restée incomplètement insérée pendant au moins 15 secondes. Enfoncez la station I/E jusqu'au fond de l'unité de sorte qu'elle soit complètement insérée.
REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	La procédure d'importation de la station I/E ne peut pas être effectuée en raison de la présence d'une cartouche dans la porteuse. Déplacez la cartouche de la porteuse vers un logement vide à l'aide de l'onglet [Move Cartridge] de Library Maintenance Web UI.
ERROR CALIBRATION REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	Le réglage de la porteuse a échoué en raison de la présence d'une cartouche dans la porteuse. Consultez votre représentant Sony le plus proche.
I/E STATION OPENED	Une requête de mouvement de fente I/E a été émise pendant que la station I/E était ouverte. Fermez la station I/E ou vérifiez les contrôles de l'application.
UNIT CONFIG CHANGE REQUEST	Un changement de configuration de l'unité a été détecté. Consultez votre représentant Sony le plus proche.
DIAGNOSTIC LIBRARY REQUEST	Des diagnostics de bibliothèque sont nécessaires. Consultez votre représentant Sony le plus proche.

Remarques importantes relatives à l'utilisation

Utilisation et stockage

Ne soumettez pas l'appareil à des chocs violents

Ils pourraient endommager les mécanismes internes ou déformer le boîtier.

Ne couvrez pas l'appareil pendant son fonctionnement

Cela causera une hausse des températures à l'intérieur de l'appareil, ce qui peut engendrer une défaillance.

Après utilisation

Éteignez le bouton de mise sous tension/mise en veille. Si vous prévoyez de ne pas utiliser l'appareil pour un long moment, réglez également l'interrupteur d'alimentation sur Off sur le panneau arrière.

Transport

- Mettez toujours l'appareil hors tension.
- En cas de transport par camion, bateau, avion ou par d'autres services de transport, emballez l'appareil dans son emballage d'expédition.
- Si l'appareil est expédié sans être correctement emballé et protégé. Ses pièces internes peuvent être endommagées.
Consultez le manuel d'installation pour vous assurer de monter les vis et les adaptateurs afin de garantir un transport sûr.
- Si l'appareil est transporté avec l'unité de lecture toujours insérée, cet appareil et l'unité de lecture risquent d'être endommagés pendant le transport.
Assurez-vous de retirer l'unité de lecture de cet appareil avant de procéder au transport.

Entretien de l'appareil

Si le boîtier de l'appareil est sale, nettoyez-le au moyen d'un chiffon sec et doux.

Dans des cas extrêmes, utilisez un chiffon imprégné d'une petite quantité de détergent neutre, puis essuyez. N'utilisez pas de produits organiques tels que de l'alcool ou des solvants qui peuvent provoquer une décoloration ou d'autres dommages de la finition de l'appareil.

En cas de problèmes de fonctionnement

En cas de problèmes avec l'appareil, contactez votre revendeur ou service après-vente Sony.

Emplacements d'utilisation et de stockage

Rangez l'appareil dans un endroit aéré plat. Évitez d'utiliser ou de stocker l'appareil dans les lieux suivants.

- Excessivement chauds ou froids (plage de température de fonctionnement : 5 °C à 35 °C (41 °F à 95 °F))

N'oubliez pas qu'en été ou dans les climats chauds, la température à l'intérieur d'un véhicule à vitres fermées peut facilement dépasser 50 °C (122 °F).

- Les endroits humides ou poussiéreux
- Les endroits où l'appareil pourrait recevoir la pluie
- Les endroits soumis à de violentes vibrations
- À proximité de champs magnétiques puissants
- À proximité d'émetteurs radio ou télévision produisant des champs électromagnétiques puissants.
- En plein soleil ou à proximité d'équipements de chauffage pendant de longues périodes

Pour éviter les interférences électromagnétiques des dispositifs de communication portables

L'emploi de téléphones portables et d'autres dispositifs de communication à proximité de cet appareil peut engendrer des anomalies de fonctionnement.

Il est recommandé de mettre hors tension les dispositifs de communication portables près de cet appareil.

Condensation

Si l'appareil est soudainement déplacé d'un endroit froid à un endroit chaud, ou si la température ambiante augmente brusquement, de l'humidité peut se former sur la surface externe de l'appareil et/ou à l'intérieur de l'appareil. Ce phénomène est connu sous le nom de condensation. Si de la condensation se produit, mettez l'appareil hors tension et patientez le temps que la condensation disparaisse avant d'utiliser l'appareil. L'utilisation de l'appareil avec de la condensation pourrait endommager l'appareil.

Remplacement de pièces

Le transporteur (mécanisme de transport) est un consommable qui doit être régulièrement remplacé. Lorsque vous utilisez l'appareil à température ambiante, le cycle de remplacement est d'environ tous les cinq ans. Mais, ce cycle de remplacement ne représente qu'une indication et ne garantit pas la durée de vie de ces consommables. Pour plus de détails sur le remplacement de ces pièces, veuillez contacter votre revendeur.

LCD

Après une longue période d'utilisation, en raison des caractéristiques physiques de l'afficheur à cristaux liquides, de tels pixels « bloqués » peuvent apparaître spontanément. Ces problèmes ne sont pas graves.

Précautions relatives aux unités de lecture

Chocs et vibrations

Ne soumettez pas l'unité de lecture à des chocs lorsqu'une cartouche est insérée.

Transport de l'unité de lecture

Avant de transporter l'unité de lecture, assurez-vous d'éjecter la cartouche.

Temps de lecture des fichiers

- Lorsque vous consultez plusieurs fichiers en même temps, des permutations de disques se produisent fréquemment. Cela réduira le taux de transfert des données et augmentera le temps total de fonctionnement de manière significative.
- Lorsque vous consultez un seul fichier, une permutation de disque peut également se produire en fonction de la position d'enregistrement de la cartouche. Cela prendra du temps avant de commencer la lecture du fichier.

Temps d'écriture des fichiers

- Lorsque vous écrivez un grand nombre de petits fichiers (par ex., 100 Mo ou moins), l'écriture peut prendre un peu de temps. Dans certains cas, le réglage du mode de fonctionnement sur « Synchronize management data to the media immediately after completion of file writing: Off » augmente la performance d'écriture et l'efficacité du support. Cependant, si un dysfonctionnement (par ex., un défaut d'alimentation) se produit pendant l'écriture, la possibilité d'une récupération du fichier est réduite.

Marques commerciales et licences

Licences de logiciels libres

En vertu d'un contrat de licence entre Sony et les détenteurs des droits du logiciel, ce produit utilise un logiciel libre.

Afin de satisfaire les exigences des détenteurs des droits du logiciel, Sony est obligé de vous informer du contenu de ces licences.

Pour le contenu de ces licences, consultez « *Open Source Software License List* » dans l'aide du logiciel.

Obtention de logiciel sous licence GPL/LGPL/GPL V3

Ce produit utilise un logiciel sous licence sous GPL version 2 / LGPL version 2.1 / GPL version 3. Vous avez le droit d'obtenir, de modifier et de distribuer le code source de ce logiciel.

Vous pouvez télécharger le code source de ce logiciel à partir des serveurs Internet de Sony. Pour plus d'informations sur la façon de le télécharger, accédez à l'URL suivant.

<http://oss.sony.net/Products/Linux/common/search.html>

Nous ne pouvons pas répondre aux requêtes concernant le contenu du code source.

Spécifications

Les spécifications ODS-L30M indiquées. Pour les spécifications ODS-L60E, ODS-L100E, ODBK-101, ODBK-102, ODBK-103 et ODS-D77F, reportez-vous au mode d'emploi de chaque appareil.

Caractéristiques générales

Alimentation	100 V à 240 V CA, 50 Hz/60 Hz
Consommation électrique	1,4 A à 3,2 A
Température de fonctionnement	5 °C à 35 °C (41 °F à 95 °F)
Température de stockage	-20 °C à +55 °C (-4 °F à +131 °F)
Humidité de fonctionnement	20% à 80% (humidité relative)
Humidité de stockage	Moins de 75%
Poids	30 kg (66 lb, 2,2 oz.) (sans les unités de lecture et les cartouches)
Dimensions (L × H × P)	445 × 308 × 940 mm (17 ⁵ / ₈ × 12 ¹ / ₄ × 37 ¹ / ₈ pouces) (sans les protubérances)

Entrée/sortie

☐ (Réseau)	Prise modulaire de type RJ-45 (2) 100BASE-T : norme IEEE 802.3ab 100BASE-Tx : norme IEEE 802.3u
------------	---

Accessoires

Manuel d'utilisation (1)
Kit de montage en rack (1 set)
Rondelles de plaque de montage en rack (4)
Vis (B4 × 10) (8)
Vis (B5 × 16) (8)
Crochets de montage (2)
Gauge d'épaisseur 025 (3)
Gauge d'épaisseur 050 (3)
Gauge d'épaisseur 100 (3)
Support de hauteur 025 (3)
Support de hauteur 050 (3)
Support de hauteur 100 (3)
Étiquettes de la station I/E (1 set)

Options

Alimentation ODBK-101 / ODBK-102
Kit d'extension ODBK-103
Option pour l'unité ODS-L30M (non compatible avec les modèles dont les numéros de série vont 10001 à 10999 et 50001 à 50999)

Le numéro de série de l'unité ODS-L30M se trouve sur la plaque signalétique sur le panneau arrière.

Cartouche d'archive de disques optiques

- ODC300R (300 Go, type à écriture unique)
- ODC300RE (300 Go, type réinscriptible)
- ODC600R (600 Go, type à écriture unique)
- ODC600RE (600 Go, type réinscriptible)
- ODC1200RE (1,2 To, type réinscriptible)
- ODC1500R (1,5 To, type à écriture unique)

La conception et les caractéristiques techniques sont sujettes à modification sans préavis.

Remarques

- Vérifiez toujours que l'appareil fonctionne correctement avant l'utilisation. **Sony n'assumera pas de responsabilité pour les dommages de quelque sorte qu'ils soient, incluant mais ne se limitant pas à la compensation ou au remboursement, à cause de la perte de profits actuels ou futurs suite à la défaillance de cet appareil, que ce soit pendant la période de garantie ou après son expiration, ou pour toute autre raison quelle qu'elle soit.**
- **Sony n'assumera pas de responsabilité pour les réclamations, quelle qu'elles soient, effectuées par les utilisateurs de cet appareil ou par des tierces parties.**
- **Sony n'assumera pas de responsabilité pour la cessation ou l'interruption de tout service lié à cet appareil, résultant de quelque circonstance que ce soit.**

Sony ne peut être tenue responsable de tout dommage, de quelque nature que ce soit, résultant d'une incapacité à mettre en place des mesures de sécurité adaptées pour les dispositifs de transmission, de fuites de données inévitables dues aux spécifications de transmission ou de tout autre problème de sécurité.

Selon l'environnement d'exploitation, il est possible que des tiers non autorisés sur le réseau puissent accéder à l'appareil. Avant de connecter l'appareil au réseau, vérifiez que le réseau est bien protégé.

Pour des raisons de sécurité, lors de l'utilisation de cet appareil connecté au réseau, il est fortement recommandé d'accéder à la fenêtre de commande via un navigateur Web et de modifier la limitation d'accès des valeurs d'usine pré réglées (Reportez-vous à l'onglet Others de l'écran Configuration de l'aide Library Maintenance Web UI). Il est par ailleurs recommandé de modifier régulièrement le mot de passe.

Téléchargements de logiciels

Lorsque l'appareil est utilisé avec une connexion PC, téléchargez tous les pilotes du dispositif, les plug-ins et les applications logicielles dont avez besoin à partir des sites internet suivants.

Site internet Sony produits professionnels :

Etats-Unis	http://pro.sony.com
Canada	http://www.sonybiz.ca
Amérique latine	http://sonypro-latin.com
Europe	http://www.pro.sony.eu/pro
Moyen-Orient, Afrique	http://sony-psmea.com
Russie	http://sony.ru/pro/
Brésil	http://sonypro.com.br
Australie	http://pro.sony.com.au
Nouvelle Zélande	http://pro.sony.co.nz
Japon	http://www.sonybsc.com
Asie pacifique	http://pro.sony-asia.com
Corée	http://bp.sony.co.kr
Chine	http://pro.sony.com.cn
Inde	http://pro.sony.co.in

Logiciels créatifs Sony, page de téléchargement du logiciel :

http://www.sonycreativesoftware.com/download/software_for_sony_equipment

Bitte lesen Sie dieses Handbuch vor der Benutzung des Geräts sorgfältig durch und bewahren Sie es zum späteren Nachschlagen auf.

WARNUNG

Um die Gefahr von Bränden oder elektrischen Schlägen zu verringern, darf dieses Gerät nicht Regen oder Feuchtigkeit ausgesetzt werden.

Um einen elektrischen Schlag zu vermeiden, darf das Gehäuse nicht geöffnet werden. Überlassen Sie Wartungsarbeiten stets nur qualifiziertem Fachpersonal.

DIESES GERÄT MUSS GEERDET WERDEN. (ODS-L30M/L60E)

Beim Einbau des Geräts ist daher im Festkabel ein leicht zugänglicher Unterbrecher einzufügen, oder der Netzstecker muss mit einer in der Nähe des Geräts befindlichen, leicht zugänglichen Wandsteckdose verbunden werden. Wenn während des Betriebs eine Funktionsstörung auftritt, ist der Unterbrecher zu betätigen bzw. der Netzstecker abzuziehen, damit die Stromversorgung zum Gerät unterbrochen wird. (ODS-L30M/L60E)

WARNUNG (ODS-L30M/L60E)

1. Verwenden Sie ein geprüftes Netzkabel (3-adriges Stromkabel)/einen geprüften Geräteanschluss/einen geprüften Stecker mit Schutzkontakten entsprechend den Sicherheitsvorschriften, die im betreffenden Land gelten.
2. Verwenden Sie ein Netzkabel (3-adriges Stromkabel)/einen Geräteanschluss/einen Stecker mit den geeigneten Anschlusswerten (Volt, Ampere).

Wenn Sie Fragen zur Verwendung von Netzkabel/ Geräteanschluss/Stecker haben, wenden Sie sich bitte an qualifiziertes Kundendienstpersonal.

WICHTIG (ODS-L30M/L60E/L100E)

Das Namensschild befindet sich auf der Rückseite des Gerätes.

WICHTIG (ODS-D77F)

Das Namensschild befindet sich auf der Seite des Gerätes.

Für Kunden in Europa, Australien und Neuseeland

WARNUNG

Dies ist eine Einrichtung, welche die Funk-Entstörung nach Klasse A besitzt. Diese Einrichtung kann im

Wohnbereich Funkstörungen verursachen; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen durchzuführen und dafür aufzukommen.

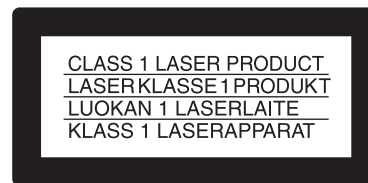
Für Kunden in Europa

Dieses Produkt wurde von oder für Sony Corporation, 1-7-1 Konan Minato-ku Tokio, 108-0075 Japan hergestellt. Bei Fragen zur Produktkonformität auf Grundlage der Gesetzgebung der Europäischen Union kontaktieren Sie bitte den Bevollmächtigten Sony Deutschland GmbH, Hedelfinger Strasse 61, 70327 Stuttgart, Deutschland. Für Kundendienst oder Garantieangelegenheiten wenden Sie sich bitte an die in den Kundendienst- oder Garantiedokumenten genannten Adressen.

Dieser Apparat darf nicht im Wohnbereich verwendet werden.

Vorsicht (ODS-D77F)

Bei Betätigung von Bedien- und Einstellteilen oder Ausführung von Bedienvorgängen, die nicht ausdrücklich in dieser Bedienungsanleitung aufgeführt sind, droht u.U. die Einwirkung gefährlicher Laserstrahlung.



Dieses Optischer Datenträger-Archivierungssystem ist als LASERPRODUKT DER KLASSE 1 eingestuft. (ODS-D77F)

Daten der Laserdiode (ODS-D77F)

Wellenlänge: 400 bis 410 nm

Emissionsdauer: Ununterbrochen

Laser-Ausgangsleistung: 280 mW (max. Impulsspitze), 150 mW (max. Dauerstrich)

Standard: IEC60825-1 (2007)

Inhaltsverzeichnis

Übersicht.....	92
Beispiel für eine Systemkonfiguration	93
Name und Funktion der Teile	94
ODS-L30M.....	94
ODS-L60E.....	97
ODS-L100E.....	100
Umgang mit Medien	101
Für Lese- und Schreibzugriffe verwendete Medien	101
Hinweise zum Umgang mit Kassetten	101
Kassettenpeicher	101
Medien vor Beschreiben schützen.....	102
Barcode-Etiketten	102
Starten und Herunterfahren des Geräts.....	103
Starten.....	103
Herunterfahren.....	103
Importieren und Exportieren von Kassetten	104
Öffnen der I/E-Station	104
Importieren und Exportieren einer Kassette.....	104
Registrieren in der Datenbank	104
Konfigurieren des Netzwerks.....	105
Konfigurieren der IPv4-Adresse.....	105
Anzeigen des Web-Bildschirms	107
Installation von Software auf Servern	108
Betriebsumgebung	108
Installation	108
Verwenden des Menüs.....	109
Grundlegende Menüfunktionen.....	109
Menüliste	110
Meldungen	111
Wichtige Hinweise zum Betrieb	113
Kondensation	113
Austausch von Teilen	113
LCD	113
Vorsichtsmaßnahmen für Laufwerkseinheiten.....	114
Marken und Lizenzen	114
Open-Software-Lizenzen.....	114
Erwerben lizenzierter GPL/LGPL/GPL V3-Software.....	114
Technische Daten.....	115

DE

Übersicht

Das PetaSite-Haupteinheit ODS-L30M ist ein Bibliotheks-Hauptgerät, das mit bis zu zwei optionalen Laufwerken (ODS-D77F) und bis zu 30 Archivkassetten für optische Discs ausgerüstet werden kann. Durch Installieren des Erweiterungssatzes ODBK-103 (nicht mitgeliefert) für das Hauptgerät ODS-L30M kann das PetaSite mit mehreren Erweiterungsgeräten verbunden werden, sodass Sie das System entsprechend Ihren Anforderungen erweitern können. Mit dem ODS-L30M können Sie auf effiziente Weise Daten von bzw. auf mehrere(n) Archivkassetten für optische Discs lesen bzw. schreiben und so die Archivierung von Datenmaterial und das Abrufen von archiviertem Datenmaterial (durch Hochladen auf einen Server) vereinfachen.

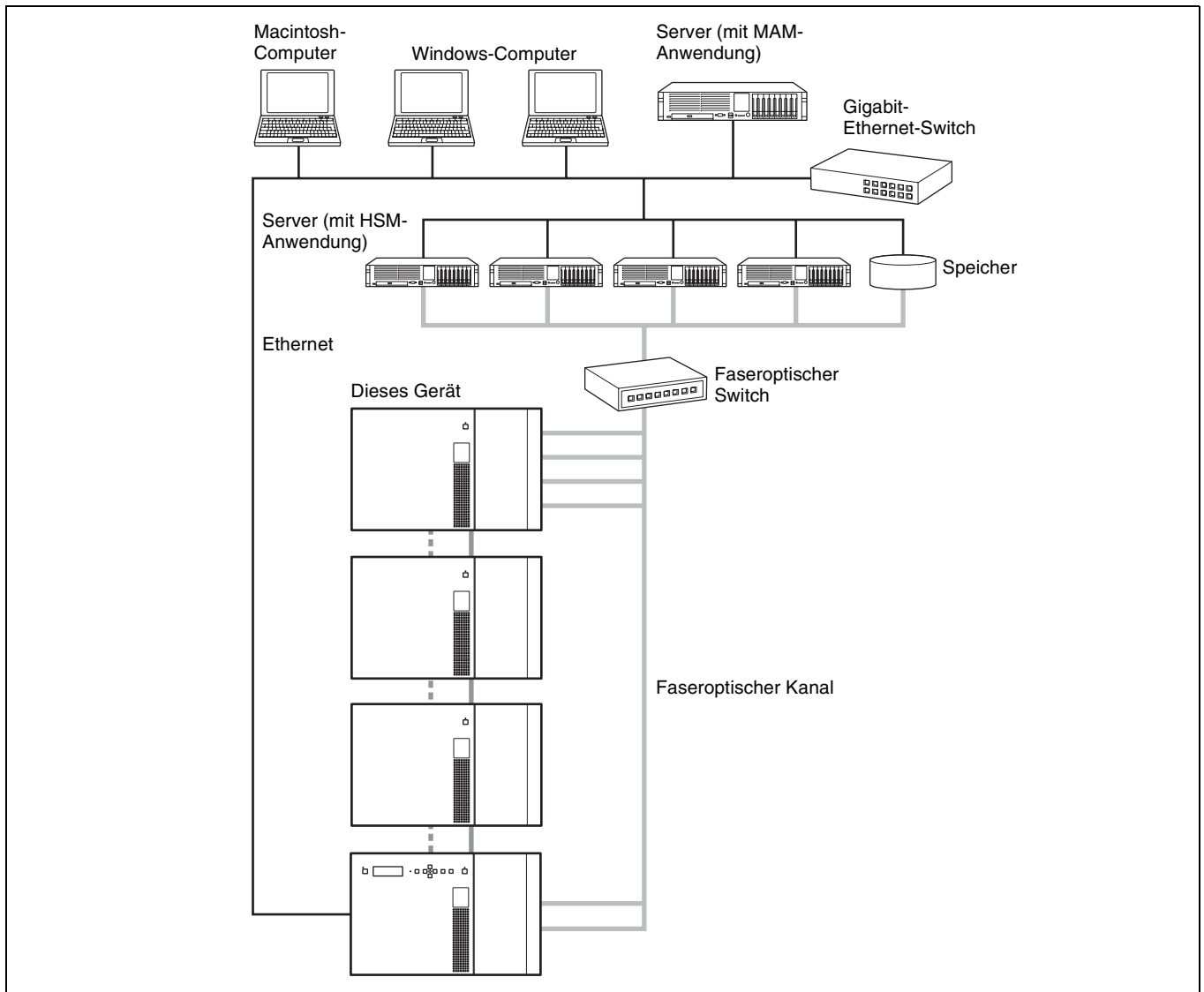
Zu den Erweiterungsgeräten gehören das PetaSite-Laufwerk ODS-L60E und das PetaSite-Kassettenerweiterungsgerät ODS-L100E. Das ODS-L60E kann mit bis zu vier optionalen Laufwerken (ODS-D77F) und bis zu 61 Archivkassetten für optische Discs ausgerüstet werden. Das ODS-L100E kann mit bis zu 101 Archivkassetten für optische Discs ausgerüstet werden. Die ODS-D77F Archivlaufwerke für optische Datenträger, die auf den Geräten ODS-L30M und ODS-L60E bereitgestellt werden können, sind mit zwei Köpfen ausgestattet und speziell für die Verwendung mit den Geräten ODS-L30M/L60E konzipiert. Ihre Unterstützung für faseroptische Kanäle ermöglicht darüber hinaus die Verarbeitung mit hoher Geschwindigkeit.

Zu Redundanz Zwecken und um dieselben Hot-Swap-Fähigkeiten wie bei Laufwerkseinheiten zu schaffen, können auch die optionalen Stromversorgungen ODBK-101 (für das ODS-L30M) oder ODBK-102 (für das ODS-L60E) installiert werden. Damit wird in Systemen, die eine hohe Zuverlässigkeit erfordern, ein kontinuierlicher Betrieb für den Fall gewährleistet, dass eine Stromversorgungseinheit oder Laufwerkseinheit ausfällt.

In diesem Handbuch wird das PetaSite (einschließlich des Hauptgeräts und aller zusätzlichen Erweiterungssätze oder Erweiterungsgeräte), auf dem die Laufwerkseinheiten installiert sind, als „das Gerät“ und die Archivkassetten für optische Discs als „Kassetten“ bezeichnet.

Beispiel für eine Systemkonfiguration

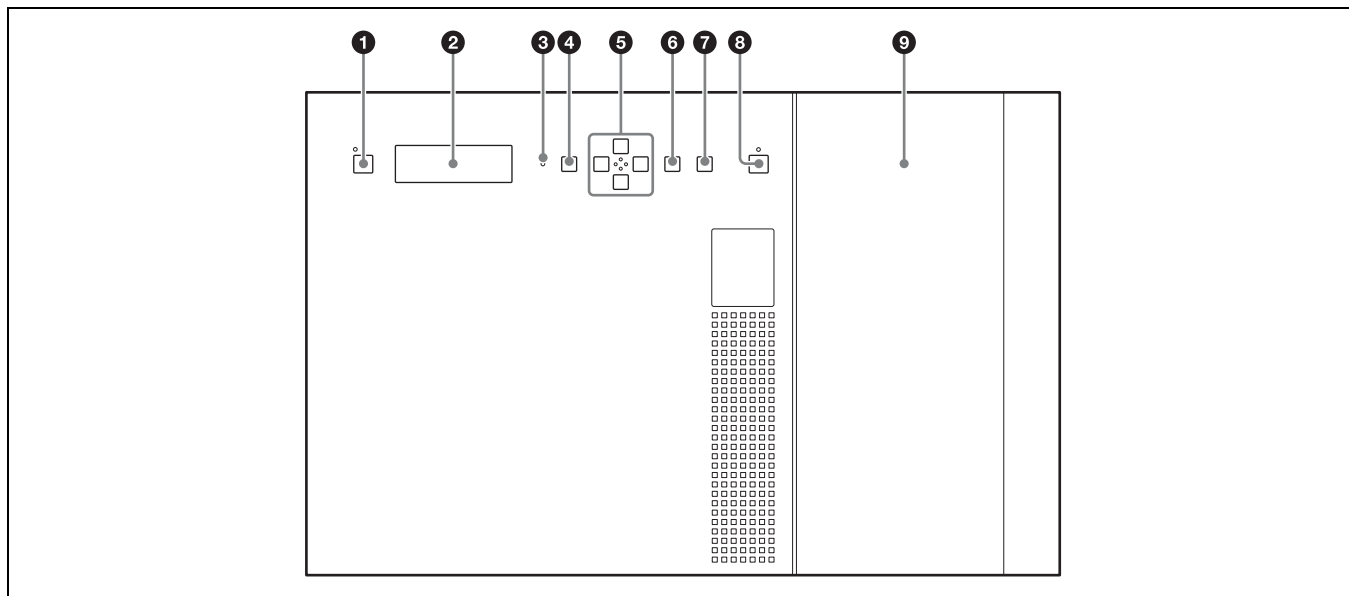
Mit dem Gerät können in Verbindung mit zugehörigen Geräten die folgenden Arten von Systemen erstellt werden:



Name und Funktion der Teile

ODS-L30M

Vorderseite



Hinweis

Die Vorderseite des ODS-L30M kann entfernt und gegen die Vorderseiten der Erweiterungsgeräte ODS-L60E/L100E ausgetauscht werden. Das ODS-L30M wird als unterstes Gerät in einem Stapel mehrerer Geräte installiert. Seine Vorderseite kann jedoch an einem Erweiterungsgerät angebracht werden, dessen Höhe die Bedienung erleichtert.

❶ Taste und Anzeige EIN/Bereitschaft

Schaltet das Gerät abwechselnd ein bzw. in den Bereitschaftsmodus, wenn die Netzschalter auf der Rückseite eingeschaltet sind. Drücken Sie die Taste bei eingeschaltetem Gerät, um es in den Bereitschaftsmodus zu schalten. Auf dem Display wird die Meldung angezeigt, dass das Gerät heruntergefahren wird. Wählen Sie mit den Pfeiltasten die Option „Yes“ aus, und drücken Sie dann die Taste ENTER.

Die Anzeige leuchtet im Betriebsmodus grün und im Bereitschaftsmodus rot. Die Anzeige blinkt grün, wenn das Gerät heruntergefahren wird.

Hinweise

- Wenn die Taste gedrückt wird, während in einem Laufwerk eine Kassette eingelegt ist, wird ein Bestätigungsbildschirm angezeigt. Werfen Sie die Kassette aus, bevor Sie fortfahren.

- Beenden Sie vor dem Herunterfahren des Geräts alle angeschlossenen Anwendungen. Beim Herunterfahren wird das Netzteil des Laufwerks ausgeschaltet. Daten, die in diesem Moment aufgezeichnet werden, gehen dabei verloren.

❷ Display

Zeigt den Gerätestatus, Einstellungsmenüs, Meldungen usw. an.

❸ Anzeige ALARM

Blinkt bei Fehlern oder Warnungen.

Blinkt rot: Fehler

Blinkt orange: Warnung

❹ Taste MENU

Zeigt das Menü an.

❺ Pfeiltasten

Zum Blättern in den Menüs auf dem Display und zum Festlegen der Eingabewerte.

❻ Taste ENTER

Wechselt zur nächsten Seite oder bestätigt die Eingabewerte bei der Menübedienung.

❼ Taste BACK

Wechselt zur vorhergehenden Seite oder verwirft eingegebene Werte bei der Menübedienung.

8 Taste und LED I/E STATION

Entriegelt die I/E-Station. Die Sperre kann freigegeben werden, wenn die Anzeige grün oder orange leuchtet. Die Anzeige beginnt orange zu blinken, wenn die Sperre freigegeben wird.

Wenn die I/E-Station nicht innerhalb von zehn Sekunden nach dem Entriegeln geöffnet wird, wird sie automatisch wieder verriegelt.

Wenn die I/E-Station länger als drei Minuten geöffnet bleibt, blinkt die Anzeige rot.

Hinweis

Sie können auswählen, ob die I/E-Station in den einzelnen Geräten als I/E-Einschub zum Importieren/Exportieren von Kassetten oder als Speichereinschub verwendet wird. Das Importieren/Exportieren von Kassetten ist dann deaktiviert.

An Geräten, an denen die I/E-Station als Speichereinschub verwendet wird, kann die I/E-Station nicht geöffnet werden.

LED	Bedeutung
Aus	Sperre kann unter folgenden Umständen nicht freigegeben werden. • Wenn die I/E-Station von einer Anwendung gesperrt ist. • Wenn die I/E-Station als Speichereinschub verwendet wird.
Grün (blinkend)	Die Sperre kann nicht aufgehoben werden, weil gerade auf die I/E-Station zugegriffen wird.
Grün	Sperre kann freigegeben werden. In der I/E-Station ist eine Kassette eingelegt.
Orange	Sperre kann freigegeben werden. Es befindet sich keine Kassette in der I/E-Station.
Orange (blinkend)	Sperre wird freigegeben.
Rot (blinkend)	An der I/E-Station ist ein Problem aufgetreten. Eine der folgenden Meldungen wird auf der Anzeige eingeblendet. • CLOSE I/E STATION: I/E-Station blieb länger als drei Minuten geöffnet. • I/E STATION LOCKED: Sperre kann nicht freigegeben werden, weil eine Taste gedrückt wurde, während die Anzeige erloschen war oder blinkte. • I/E STATION OPENED: Eine I/E-Einschubbewegung wurde angefordert, während die I/E-Station geöffnet war. * Während der Menübedienung erscheint keine Meldung auf der Anzeige.

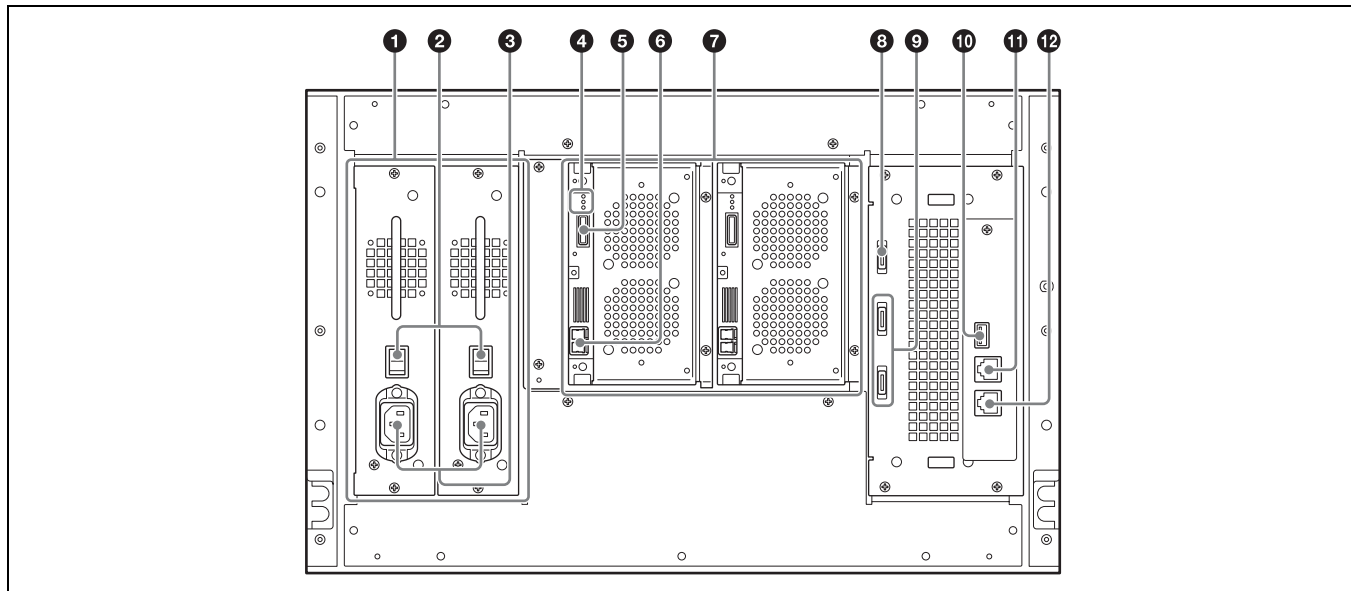
Mit dem Gerät werden I/E-Station-Etiketten mit folgenden Angaben mitgeliefert.

I/E STATION-Anzeige	Status	I/E STATION-Taste
 Aus	Öffnen/Schließen ist nicht möglich, weil die Funktionen deaktiviert sind.	Deaktiviert
 Grün (blinkend)	Öffnen/Schließen ist nicht möglich, weil auf die I/E-Station zugegriffen wird.	Deaktiviert
 Grün  Orange	Entsperren ist möglich. Grün: Kassette vorhanden Orange: Kassette nicht vorhanden	Aktiviert
 Orange (blinkend)	Entsperrt. Öffnen/Schließen ist möglich.	Deaktiviert
 Rot (blinkend)	Ein Fehler ist aufgetreten. Prüfen Sie die Anzeige der Einheit.	Deaktiviert

9 Tür der I/E-Station

Rückseite

Die folgende Illustration zeigt das ODS-L30M mit zwei installierten Laufwerkseinheiten und zwei installierten Stromversorgungseinheiten.



❶ Netzteil-Einbauschächte

Ermöglicht durch Einbauen der optionalen Stromversorgungen ODBK-101 (nicht im Lieferumfang enthalten) eine redundante Spannungsversorgung. Damit wird in Systemen, die eine hohe Zuverlässigkeit erfordern, ein kontinuierlicher Betrieb für den Fall gewährleistet, dass eine Stromversorgungseinheit ausfällt.

Ausführliche Informationen zum Hinzufügen oder Austauschen von Stromversorgungen erhalten Sie von Ihrem örtlichen Sony-Vertreter.

❷ Hauptnetzschalter

Schalten die Hauptstromversorgung ein bzw. aus. Lassen Sie bei der Verwendung des Gerätes diese Schalter eingeschaltet und verwenden Sie die Taste EIN/Bereitschaft auf der Frontseite, um zwischen Betrieb und Standbymodus umzuschalten.

Hinweis

Bevor Sie den Hauptnetzschalter ausschalten, müssen Sie das Gerät stets mit der Taste EIN/Bereitschaft auf der Vorderseite in den Bereitschaftsmodus schalten.

❸ AC IN-Anschlüsse

Verbinden Sie diese Anschlüsse mithilfe von Netzkabeln mit Netzsteckdosen.

❹ Laufwerkseinheit-LEDs

Zeigen den Betriebsstatus der Laufwerke an. Die drei LEDs haben die folgenden Funktionen (von oben nach unten).

• POWER-LED

Leuchtet grün: Gerät wird mit Strom versorgt.

• LINK-LED

Blinkt langsam blau (einmal pro Sekunde): Das FC-Kabel ist nicht angeschlossen.

Leuchtet blau: Das FC-Kabel ist angeschlossen.

Blinkt schnell blau (viermal pro Sekunde): Das FC-Kabel ist angeschlossen und ein Befehl wird empfangen.

Hinweise

- Diese LED leuchtet blau, wenn das FC-Kabel korrekt angeschlossen wurde. Sie leuchtet auch dann blau, wenn das FC-Kabel angeschlossen ist, die Laufwerkseinheit jedoch nicht von einem Computer gesteuert werden kann.

- Diese LED leuchtet blau, wenn die Laufwerkseinheit nach dem Anschließen an die Stromversorgung initialisiert wird, auch wenn kein FC-Kabel angeschlossen ist. In diesem Fall blinkt die Anzeige nach dem Abschluss der Initialisierung langsam blau.

• STATUS-LED

Leuchtet grün: Die Laufwerkseinheit kann ersetzt werden (d.h., das Laufwerk ist offline und von der Stromversorgung getrennt).

Leuchtet Rot: Ein Alarm ist aufgetreten (anderer Alarmcode als 00-000).

Langsam grün blinkend (Intervall 1 Sekunde): Laufwerk wird initialisiert.

Schnell grün blinkend (Intervall 0,25 s): Firmware-Update erfolgt.

Aus: Normaler Status.

5 ODS CONTROL-Anschluss (ADI/ Stromversorgung)

Verbinden Sie diesen Anschluss mit dem Anschluss DRIVE der gleichen Nummer am ODS-L30M, um die Laufwerkseinheit mit Strom zu versorgen und die ADI-Steuerung (Automation/Laufwerksschnittstelle) zu ermöglichen.

6 FC-Anschlüsse (faseroptisch)

Zum Herstellen einer Verbindung mit Servern und externen Speichern über einen faseroptischen Switch.

7 Laufwerkseinheit-Einbauschächte

Zum Einbau von bis zu zwei optionalen Laufwerkseinheiten (ODS-D77F).

8 Anschluss OUT 2 (Gerätekombinationsanschluss)

Verbinden Sie diesen Anschluss unter Verwendung des Gerätekombinationskabels 2 (im Lieferumfang des Erweiterungsgeräts enthalten) mit dem Anschluss IN 2 am Erweiterungsgerät (ODS-L60E/ODS-L100E).

9 Anschlüsse DRIVE 1, 2 (ODS-Steuerung (ADI/ Stromversorgung))

Verbinden Sie diesen Anschluss unter Verwendung eines ODA-Steuerkabels (im Lieferumfang der Laufwerkseinheit enthalten) mit dem Anschluss ODS CONTROL gleicher Nummer an der Laufwerkseinheit

(DRIVE 1 oder 2), um die Laufwerkseinheit mit Strom zu versorgen und die ADI-Steuerung zu ermöglichen.

10 Anschluss OUT 1 (Gerätekombinationsanschluss)

Verbinden Sie diesen Anschluss unter Verwendung des Gerätekombinationskabels 1 (im Lieferumfang des Erweiterungsgeräts enthalten) mit dem Anschluss IN 1 am Erweiterungsgerät (ODS-L60E/ODS-L100E).

11 (Netzwerk) Anschluss 1

Schließen Sie hier ein Netzkabel an, um das Gerät zu konfigurieren oder seinen Status über den Web-Bildschirm zu prüfen.

Dieser wird im Konfigurationsbildschirm als „Network1“ angezeigt.

12 (Netzwerk) Anschluss 2 (zu Wartungszwecken)

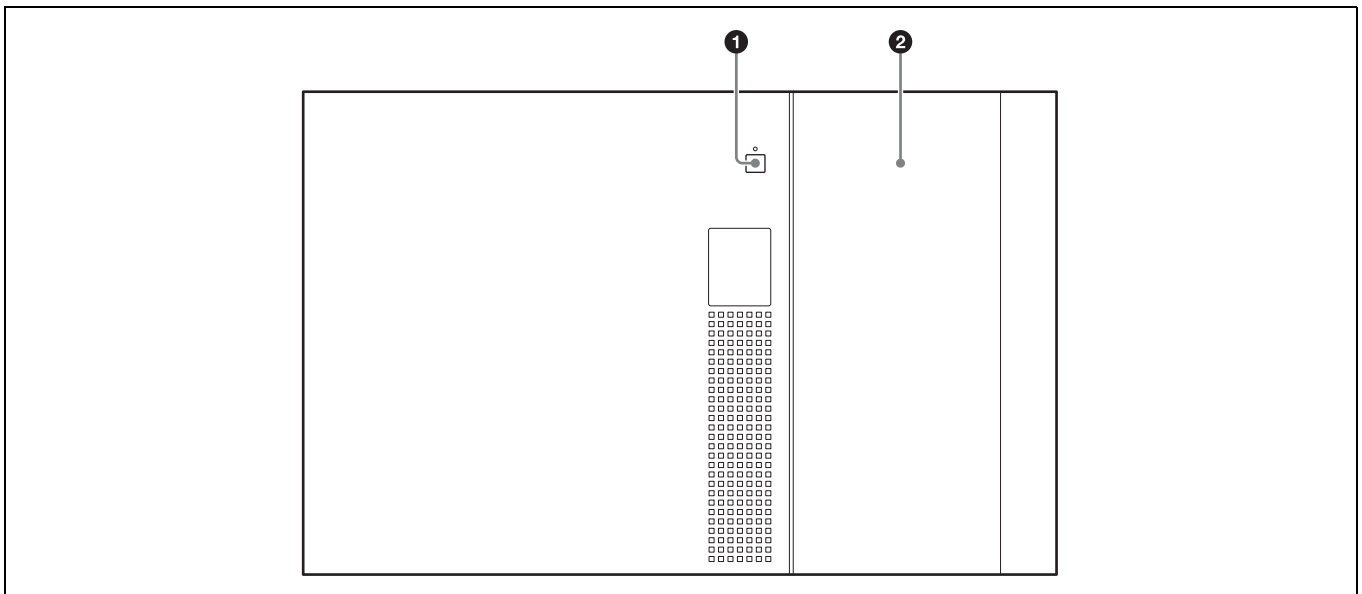
Dieser wird im Konfigurationsbildschirm als „Network2“ angezeigt.

VORSICHT

- Aus Sicherheitsgründen nicht mit einem Peripheriegerät-Anschluss verbinden, der zu starke Spannung für diese Buchse haben könnte. Folgen Sie den Anweisungen für diese Buchse.
- Verwenden Sie beim Anschließen des Netzkabels des Geräts an ein Peripheriegerät ein abgeschirmtes Kabel, um Fehlfunktionen aufgrund von Störungen zu vermeiden.

ODS-L60E

Vorderseite



1 Taste und LED I/E STATION

Entriegelt die I/E-Station. Die Sperre kann freigegeben werden, wenn die Anzeige grün oder orange leuchtet. Die Anzeige beginnt orange zu blinken, wenn die Sperre freigegeben wird.
Wenn die I/E-Station nicht innerhalb von zehn Sekunden nach dem Entriegeln geöffnet wird, wird sie automatisch wieder verriegelt.
Wenn die I/E-Station länger als drei Minuten geöffnet bleibt, blinkt die Anzeige rot.

Hinweis

Sie können auswählen, ob die I/E-Station in den einzelnen Geräten als I/E-Einschub zum Importieren/Exportieren von Kassetten oder als Speichereinschub verwendet wird. Das Importieren/Exportieren von Kassetten ist dann deaktiviert.
An Geräten, an denen die I/E-Station als Speichereinschub verwendet wird, kann die I/E-Station nicht geöffnet werden.

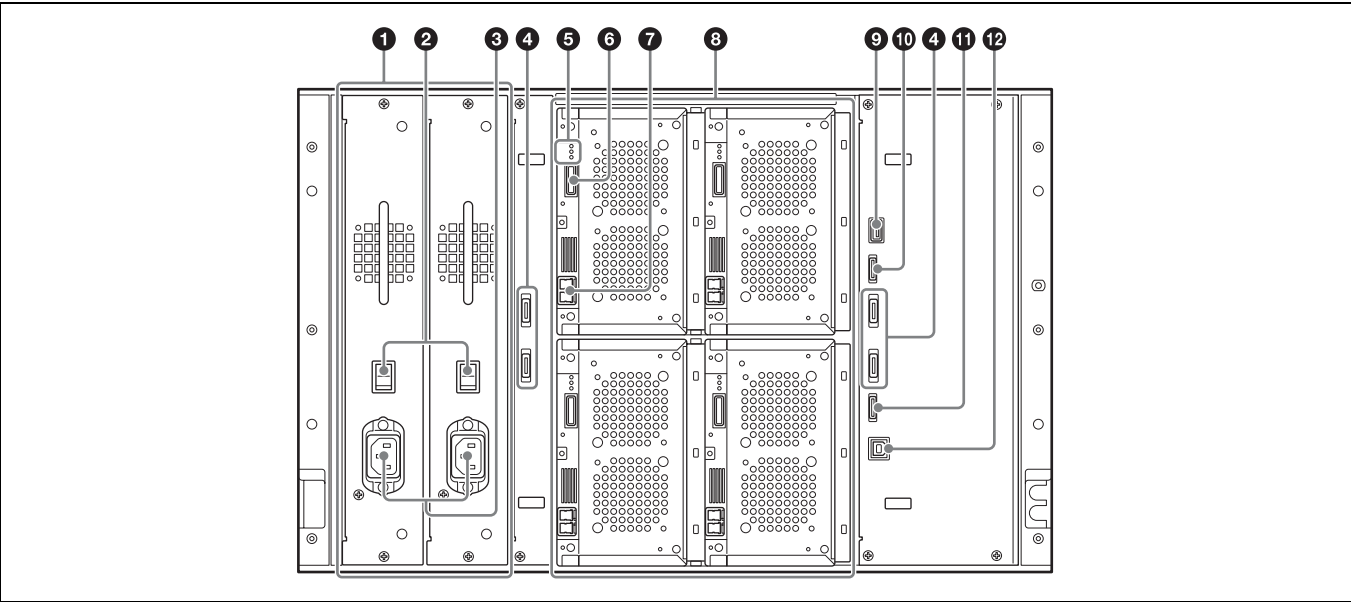
LED	Bedeutung
Aus	Sperre kann unter folgenden Umständen nicht freigegeben werden. • Wenn die I/E-Station von einer Anwendung gesperrt ist. • Wenn die I/E-Station als Speichereinschub verwendet wird.

LED	Bedeutung
Grün (blinkend)	Die Sperre kann nicht aufgehoben werden, weil gerade auf die I/E-Station zugegriffen wird.
Grün	Sperre kann freigegeben werden. In der I/E-Station ist eine Kassette eingelegt.
Orange	Sperre kann freigegeben werden. Es befindet sich keine Kassette in der I/E-Station.
Orange (blinkend)	Sperre wird freigegeben.
Rot (blinkend)	An der I/E-Station ist ein Problem aufgetreten. Eine der folgenden Meldungen wird auf der Anzeige eingeblendet. • CLOSE I/E STATION: I/E-Station blieb länger als drei Minuten geöffnet. • I/E STATION LOCKED: Sperre kann nicht freigegeben werden, weil eine Taste gedrückt wurde, während die Anzeige erloschen war oder blinkte. • I/E STATION OPENED: Eine I/E-Einschubbewegung wurde angefordert, während die I/E-Station geöffnet war. * Während der Menübedienung erscheint keine Meldung auf der Anzeige.

2 Tür der I/E-Station

Rückseite

Die folgende Illustration zeigt das ODS-L60E mit vier installierten Laufwerkseinheiten und zwei installierten Stromversorgungseinheiten.



❶ Netzteil-Einbauschächte

Ermöglicht durch Einbauen der optionalen Stromversorgungen ODBK-102 (nicht im Lieferumfang enthalten) eine redundante Spannungsversorgung. Damit wird in Systemen, die eine hohe Zuverlässigkeit erfordern, ein kontinuierlicher Betrieb für den Fall gewährleistet, dass eine Stromversorgungseinheit ausfällt. Wenn die Laufwerkseinheit nicht im ODS-L60E installiert ist, ist eine Stromversorgungseinheit nicht erforderlich.

Ausführliche Informationen zum Hinzufügen oder Austauschen von Stromversorgungen erhalten Sie von Ihrem örtlichen Sony-Vertreter.

❷ Hauptnetzschalter

Schalten die Hauptstromversorgung ein bzw. aus. Lassen Sie bei der Verwendung des Gerätes diese Schalter eingeschaltet und verwenden Sie die Taste EIN/Bereitschaft auf der Frontseite, um zwischen Betrieb und Standbymodus umzuschalten.

Hinweis

Bevor Sie den Hauptnetzschalter ausschalten, müssen Sie das Gerät stets mit der Taste EIN/Bereitschaft auf der Vorderseite des ODS-L30M in den Bereitschaftsmodus schalten.

❸ AC IN-Anschlüsse

Verbinden Sie diese Anschlüsse mithilfe von Netzkabeln mit Netzsteckdosen.

❹ Anschlüsse DRIVE 1 bis 4 (ODS-Steuerung (ADI/ Stromversorgung))

Verbinden Sie diesen Anschluss unter Verwendung eines ODA-Steuerkabels (im Lieferumfang der Laufwerkseinheit enthalten) mit dem Anschluss ODS CONTROL mit gleicher Nummer an der Laufwerkseinheit (DRIVE 1 bis 4), um die Laufwerkseinheit mit Strom zu versorgen und die ADI-Steuerung zu ermöglichen.

❺ Laufwerkseinheit-LEDs

Zeigen den Betriebsstatus der Laufwerke an. Die drei LEDs haben die folgenden Funktionen (von oben nach unten).

• POWER-LED

Leuchtet grün: Gerät wird mit Strom versorgt.

• LINK-LED

Blinkt langsam blau (einmal pro Sekunde): Das FC-Kabel ist nicht angeschlossen.

Leuchtet blau: Das FC-Kabel ist angeschlossen.

Blinkt schnell blau (viermal pro Sekunde): Das FC-Kabel ist angeschlossen und ein Befehl wird empfangen.

Hinweise

- Diese LED leuchtet blau, wenn das FC-Kabel korrekt angeschlossen wurde. Sie leuchtet auch dann blau,

wenn das FC-Kabel angeschlossen ist, die Laufwerkseinheit jedoch nicht von einem Computer gesteuert werden kann.

- Diese LED leuchtet blau, wenn die Laufwerkseinheit nach dem Anschließen an die Stromversorgung initialisiert wird, auch wenn kein FC-Kabel angeschlossen ist. In diesem Fall blinkt die Anzeige nach dem Abschluss der Initialisierung langsam blau.

• STATUS-LED

Leuchtet grün: Die Laufwerkseinheit kann ersetzt werden (d.h., das Laufwerk ist offline und von der Stromversorgung getrennt).

Leuchtet Rot: Ein Alarm ist aufgetreten (anderer Alarmcode als 00-000).

Langsam grün blinkend (Intervall 1 Sekunde): Laufwerk wird initialisiert.

Schnell grün blinkend (Intervall 0,25 s): Firmware-Update erfolgt.

Aus: Normaler Status.

❻ Anschluss ODS CONTROL (ADI/ Stromversorgung)

Verbinden Sie diesen Anschluss mit dem Anschluss DRIVE mit gleicher Nummer am ODS-L60E, um die Laufwerkseinheit mit Strom zu versorgen und die ADI-Steuerung zu ermöglichen.

❼ FC-Anschlüsse (faseroptisch)

Zum Herstellen einer Verbindung mit Servern und externen Speichern über einen faseroptischen Switch.

❽ Laufwerkseinheit-Einbauschächte

Zum Einbau von bis zu vier optionalen Laufwerkseinheiten (ODS-D77F).

❾ Anschluss OUT 1 (Gerätekombinationsanschluss)

Verbinden Sie diesen Anschluss mit Hilfe des Gerätekombinationskabels 1 (im Lieferumfang der Erweiterungseinheit enthalten) mit dem Anschluss IN 1 am Hauptgerät (ODS-L30M) oder eines anderen Erweiterungsgeräts (ODS-L60E/ODS-L100E).

❿ Anschluss OUT 2 (Gerätekombinationsanschluss)

Verbinden Sie diesen Anschluss mit Hilfe des Gerätekombinationskabels 2 (im Lieferumfang der Erweiterungseinheit enthalten) mit dem Anschluss IN 2 am Hauptgerät (ODS-L30M) oder einem anderen Erweiterungsgerät (ODS-L60E/ODS-L100E).

⓫ Anschluss IN 2 (Gerätekombinationsanschluss)

Verbinden Sie diesen Anschluss mit Hilfe des Gerätekombinationskabels 2 (im Lieferumfang der Erweiterungseinheit enthalten) mit dem Anschluss OUT 2 am Hauptgerät (ODS-L30M) oder einem anderen Erweiterungsgerät (ODS-L60E/ODS-L100E).

Umgang mit Medien

Für Lese- und Schreibzugriffe verwendete Medien

Dieses Gerät verwendet die folgenden Archivkassetten für optische Discs und ähnliche Medien für Lese- und Schreibzugriffe.

Kassette	Medientyp	Anzahl der erstellbaren Dateien
ODC300R Kapazität: 300 GB	einmal beschreibbar	60.000 oder 240.000
ODC300RE Kapazität: 300 GB	wiederbeschreibbar	60.000 oder 240.000
ODC600R Kapazität: 600 GB	einmal beschreibbar	60.000 oder 240.000
ODC600RE Kapazität: 600 GB	wiederbeschreibbar	60.000 oder 240.000
ODC1200RE Kapazität: 1,2 TB	wiederbeschreibbar	60.000 oder 240.000
ODC1500R Kapazität: 1,5 TB	einmal beschreibbar	60.000 oder 240.000

Hinweise

- Der verfügbare Speicherplatz kann weder bei einmal beschreibbaren noch bei wiederbeschreibbaren Kassetten durch das Löschen von Dateien auf den Medien erhöht werden.
- Beachten Sie die folgenden Hinweise zu wiederbeschreibbaren Kassetten:
 - Der verfügbare Speicherplatz kann nicht durch Neuformatieren des Mediums erhöht werden.
 - Beim wiederholten Schreiben von Dateien wird der verfügbare beschreibbare Platz auf dem Medium verbraucht (für Medien-Verwaltungsdaten usw.). Wenn kein beschreibbarer Platz auf dem Medium übrig ist, ist das Schreiben von Dateien auch dann nicht mehr möglich, wenn das Medium noch ausreichend Speicherplatz enthält.
 - Nach dem Finalisieren des Mediums können keine Dateien mehr geschrieben werden.
- Beim Formatieren einer Kassette können Sie auswählen, wie viele Dateien maximal erstellt werden können (60.000 oder 240.000).
- Wenn Sie ein einmal beschreibbares Medium neu formatieren, bleibt die zuvor ausgewählte maximale Anzahl erstellbarer Dateien (60.000 oder 240.000) erhalten. Beim Neuformatieren wiederbeschreibbarer Medien können Sie jedoch erneut auswählen, wie viele Dateien maximal erstellt werden können.
- Wenn Sie bei der Formatierung auswählen, dass maximal 240.000 Dateien erstellt werden können, ist die

Funktion zur Reparatur beschädigter Dateien weniger erfolgreich als bei der Auswahl von 60.000 Dateien.

Hinweise zum Umgang mit Kassetten

Handhabung

Die Archivkassette für optische Discs enthält 12 Medien in einem Gehäuse, das diese vor Staub und Fingerabdrücken geschützt. Wenn eine Kassette jedoch einem heftigen Stoß ausgesetzt wird (zum Beispiel beim Herunterfallen), können die Discs beschädigt oder zerkratzt werden. Wenn ein Datenträger zerkratzt wird, kann er unter Umständen nicht mehr gelesen oder beschrieben werden. Kassetten müssen daher sorgfältig behandelt und gelagert werden.

- Entnehmen Sie keine Discs aus der Kassette.
- Zerlegen Sie die Kassette nicht.
- Wenn die Disc in einer Kassette verändert oder andere Discs ausgetauscht werden, wird die Kassette nicht mehr vom Gerät erkannt und kann nicht verwendet werden.
- Es wird empfohlen, die Kassetten mit den mitgelieferten Klebeetiketten zu kennzeichnen. Bringen Sie die Klebeetiketten an der korrekten Position an.

Aufbewahrung

- Bewahren Sie Kassetten nicht an Orten auf, an denen sie direktem Sonnenlicht, hohen Temperaturen oder hoher Luftfeuchtigkeit ausgesetzt sind.
- Bewahren Sie Kassetten nicht an Orten auf, an denen Staub in sie eindringen kann.
- Bewahren Sie Kassetten in den entsprechenden Hüllen auf.

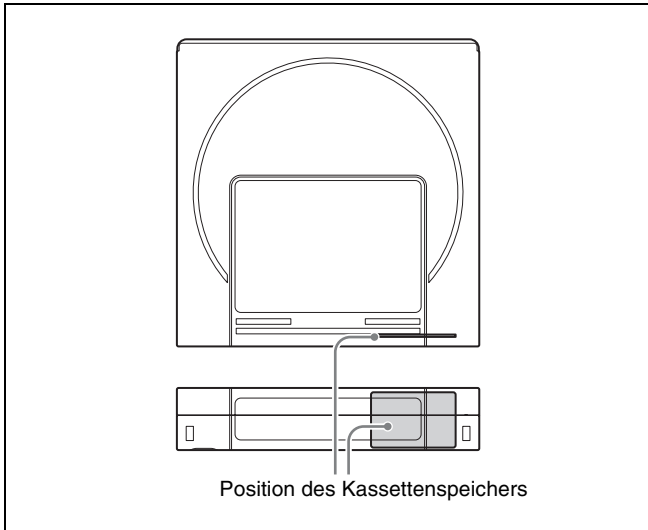
Pflege der Kassette

- Wischen Sie Staub und Schmutz auf der Außenseite von Kassetten mit einem weichen trockenen Tuch ab.
- Lassen Sie beim Auftreten von Kondensationsfeuchtigkeit reichlich Zeit zum Trocknen, ehe Sie die Kassette verwenden.

Kassettenspeicher

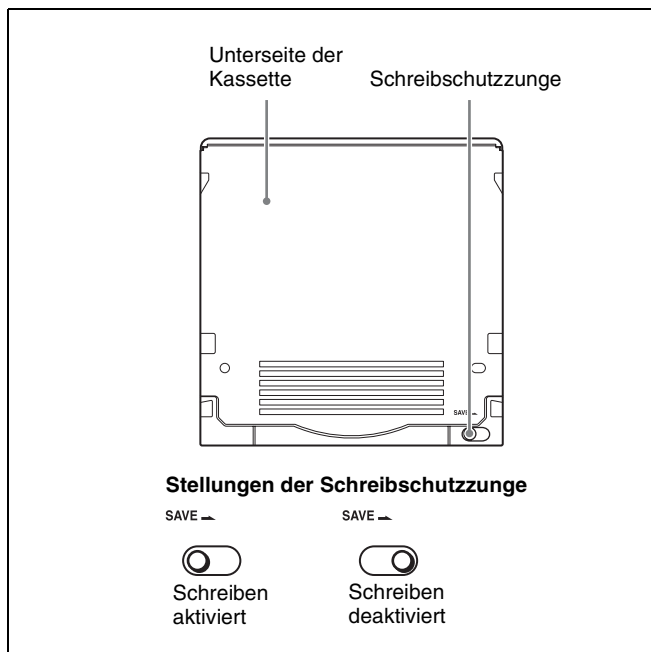
Die Archivkassette für optische Discs enthält einen Kassettenspeicher, der die kontaktlose Kommunikation mit diesem Gerät ermöglicht.

Die Basisinformationen der Archivkassetten für optische Discs werden in den Kassettenspeicher geschrieben. Die Benutzerdaten können auch später mithilfe der Anwendungssoftware geschrieben und gelesen werden.



Medien vor Beschreiben schützen

Um den Inhalt aufgezeichneter Medien vor versehentlichem Löschen zu schützen, schieben Sie die Schreibschutzzunge auf der Unterseite der Kassette (gegenüber der Etikettenseite) wie in der Abbildung gezeigt in Pfeilrichtung.



Sie können die Schreibschutz-Einstellungen für Medien auch in der Host-Anwendung festlegen. Solange ein Medium durch die Schreibschutzzunge oder die Host-Anwendung schreibgeschützt ist, bleibt sein Schreibschutz erhalten.

Barcode-Etiketten

Der Barcode-Leser des Geräts unterstützt CODE39-Barcodes. Die Spezifikationen für unterstützte Barcode-Etiketten werden im Folgenden angegeben.



Abmessungen

Entsprechend der Größe der Etikettenrahmen auf den verwendeten Kassetten

Etikett und Ausdruck

Nicht glänzend

Strichbreite Breite des schmalen Striches und des leeren Bereichs
0,423 mm +0,03/-0,076 mm (Nennbreite 0,423 mm)

Verhältnis zwischen breiten und schmalen Strichen
2,75:1

Strichlänge 11,1 mm oder mehr

Ruhezone (Startabstand/Stoppabstand)

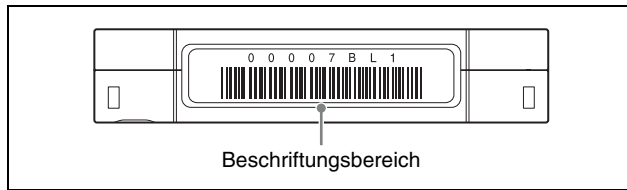
6,35 mm oder größer

Länge 8 alphanumerische Zeichen (Großbuchstaben) (ohne Start-/Stopp-Codes)

Prüfziffer Keine

Hinweise

- Markieren Sie nicht den leeren Bereich vor bzw. nach dem Barcode. Der Barcode kann möglicherweise nicht korrekt gelesen werden, wenn Markierungen vorhanden sind.
- Wenn das Etikett oder der Ausdruck glänzt, ist ein korrektes Ablesen wegen eines Lichthofs eventuell nicht möglich. Ausführliche Informationen zu lesbaren Barcode-Etiketten erhalten Sie von Ihrem Sony-Kundendienst oder -Vertreter.
- Wenn Sie Barcode-Etiketten mit neun oder mehr Zeichen verwenden möchten, wenden Sie sich an Ihren Sony-Kundendienst oder -Vertreter.
- Bringen Sie Barcode-Etiketten wie in der folgenden Abbildung gezeigt vollständig innerhalb des Beschriftungsbereichs auf der Kassette an, sodass die Etiketten nicht über diesen Bereich herausragen. Drücken Sie das Barcode-Etikett fest an, sodass es sich nicht ablösen lässt.



- Wenn das Etikett nicht vollständig innerhalb des tiefer liegenden Bereichs angebracht wird, können beim Einlegen Probleme bei der Laufwerkseinheit oder beim Gerät auftreten.

Wichtige Hinweise zum Barcode-Etikett

- Verwenden Sie nur Barcode-Etiketten, die den Spezifikationen von Sony entsprechen.
- Bringen Sie keine Barcode-Etiketten an, in denen Kassettenspeicher eingebettet ist.
- Verwenden Sie Etiketten nicht mehrmals und kleben Sie keine gebrauchten Etiketten über vorhandene Etiketten.
- Entfernen Sie ein altes Etikett, bevor Sie eines neues anbringen. Lösen Sie beim Entfernen eines Etiketts dieses senkrecht zum Kassettengehäuse langsam ab.
- Bringen Sie ein neues Etikett an, das beim Entfernen keine Kleberückstände hinterlässt (d. h. ein Etikett, das ohne Rückstände entfernt werden kann). Wenn sich auf der Kassette noch Klebereste befinden, reiben Sie sie vorsichtig mit dem Finger ab.
- Verwenden Sie zum Reinigen des Etikettenbereichs keine spitzen Gegenstände, kein Wasser und keine chemischen Reiniger.
- Prüfen Sie den Zustand der Etiketten, bevor Sie sie anbringen. Wenn die gedruckten Zeichen oder der Barcode Fehler aufweisen, kann der Barcode möglicherweise nicht korrekt gelesen werden, was zu längeren Barcodeverarbeitungszeiten führt.
- Achten Sie beim Ablösen von Etiketten von einem Etikettenbogen darauf, dass das Etikett nicht gestreckt wird und seine Ränder sich nicht wellen.
- Bringen Sie die Etiketten unbedingt ohne Falten und Luftblasen mit glatter Oberfläche auf der Kassette an.
- Achten Sie darauf, dass die Etiketten überall haften, um ein Ablösen und Wellen zu verhindern.

Starten und Herunterfahren des Geräts

Hinweis

Schließen Sie stets die I/E-Station, ehe Sie das Gerät starten oder herunterfahren.

Starten

- 1 Prüfen Sie, ob das Netzkabel angeschlossen ist, und schalten Sie dann den Hauptnetzschalter auf der Rückseite des Geräts ein.
- 2 Drücken Sie die Taste EIN/Bereitschaft auf der Vorderseite.

Wenn Sie die Taste drücken, leuchtet die LED EIN/Bereitschaft grün.

Die Initialisierung wird beendet und das Gerät kann verwendet werden, wenn der Text auf dem Display nicht mehr blinkt.

Herunterfahren

- 1 Drücken Sie die Taste EIN/Bereitschaft.
- 2 Wenn eine Aufforderung angezeigt wird, das Herunterfahren zu bestätigen, wählen Sie mit den Pfeiltasten die Option [Yes], und drücken Sie die Taste ENTER.

Eine weitere Bestätigungsmeldung wird angezeigt, wenn sich in einem Laufwerk eine Kassette befindet.

- 3 Warten Sie, bis die LED EIN/Bereitschaft nicht mehr grün blinkt, sondern rot leuchtet. Schalten Sie dann den Hauptnetzschalter auf der Rückseite aus.

Hinweis

Fahren Sie das Gerät außer in Notfällen stets herunter, ehe Sie den Hauptschalter auf der Rückseite ausschalten.

Importieren und Exportieren von Kassetten

Öffnen der I/E-Station

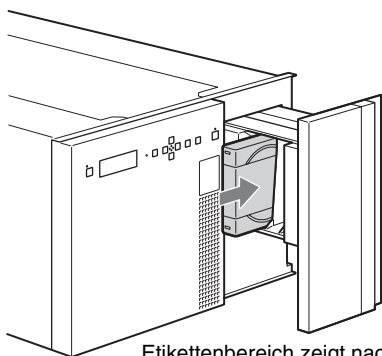
Drücken Sie die Taste I/E STATION auf der Vorderseite, um die I/E-Station vor dem Öffnen zu entriegeln. Wenn Sie die Taste I/E STATION drücken, wird die Sperre freigegeben, und die LED I/E STATION blinkt orange.

Hinweise

- Halten Sie die Taste I/E STATION für etwa eine Sekunde gedrückt und warten Sie, bis die LED I/E STATION orange blinkt, bevor Sie die I/E-Station öffnen.
- Wenn sich die I/E-Station nicht durch Drücken der Taste I/E STATION entsperren lässt, schieben Sie die I/E-Station ganz in das Gerät hinein, und drücken Sie dann erneut die Taste I/E STATION.

Importieren und Exportieren einer Kassette

Setzen Sie eine Kassette in ein Fach ein, und schieben Sie sie bis zum Anschlag ein.



Etikettenbereich zeigt nach vorn.

Ziehen Sie zum Entfernen einer Kassette diese horizontal nach links heraus.

Schließen der I/E-Station

Schieben Sie die I/E-Station langsam ganz in das Gerät hinein, und prüfen Sie, ob die LED I/E STATION grün blinkt.

Hinweise

- Wenn die LED I/E STATION orange blinkt, ist die I/E-Station nicht vollständig geschlossen.
- Ein Warnton erklingt, wenn die I/E-Station mindestens drei Minuten lang geöffnet bleibt.

Registrieren in der Datenbank

Nach dem Einschieben einer Kassette und dem Schließen der I/E-Station werden Daten zu den einzelnen Kassetten automatisch in der Datenbank des Geräts registriert. Wenn mehrere Kassetten eingesetzt werden, kann die Registrierung in der Datenbank längere Zeit in Anspruch nehmen.

Wenn die Registrierung in der Datenbank abgeschlossen ist, leuchtet die LED I/E STATION hellgrün oder orange.

Konfigurieren des Netzwerks

Nachdem Sie in der Anzeige auf der Frontseite des Geräts die IPv4-Adresse konfiguriert haben, schließen Sie das Gerät an den Computer an, auf dem der Web-Browser installiert ist, und verwenden Sie die Library Maintenance Web UI, um die Einstellung des Gerätes zu konfigurieren und seinen Status zu überprüfen.

Konfigurieren der IPv4-Adresse

Die Einstellungen für die IP-Adresse, Subnetzmaske und das Standard-Gateway müssen angegeben werden. Network 1 ist werkseitig für DHCP konfiguriert. Network 2 ist mit folgenden Einstellungen konfiguriert:

IP-Adresse: 192.168.1.10
Subnetzmaske: 255.255.255.0
Standard-Gateway: 0.0.0.0

Zum Festlegen der Netzwerkeinstellungen verwenden Sie das Display und die Tasten auf der Vorderseite des Gerätes.

1 Drücken Sie die Taste MENU.

Das Menü wird im Display angezeigt.

```
Menu
> 1.Information
  2.Setup
  3.Maintenance
```

2 Wählen Sie mit den Tasten ↑ und ↓ die Option [Setup] aus, und drücken Sie dann die Taste ENTER.

Der Bildschirm [Setup] wird angezeigt.

```
Setup
> 1.Network
  2.Control Panel
```

3 Wählen Sie mit den Tasten ↑ und ↓ die Option [Network] aus, und drücken Sie dann die Taste ENTER.

Der Bildschirm [Network] wird angezeigt.

```
Network
> 1.Network 1
  2.Network 2
```

4 Wählen Sie mit den Tasten ↑ und ↓ die Option [Network 1] aus, und drücken Sie dann die Taste ENTER.

Der Bildschirm [Netzwerk1] wird angezeigt.

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
  2.IPv6 Setting
```

5 Wählen Sie mit den Tasten ↑ und ↓ die Option [IPv4 Setting] aus, und drücken Sie dann die Taste ENTER.

Der folgende Bildschirm wird angezeigt. Die aktuellen Einstellungen sind mit einem Stern (*) gekennzeichnet. Zum Konfigurieren der IPv4-Adresse muss diese Einstellung auf die Option [Enabled] gesetzt werden. Wenn die Einstellung bereits auf die Option [Enabled] gesetzt wurde, fahren Sie mit Schritt 8 fort.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  Enabled
  *Disabled
```

6 Drücken Sie zum Bestätigen der Einstellung die Taste ENTER.

Der Auswahlbildschirm (d. h. der Bildschirm mit dem Cursor >) wird angezeigt. In diesem Bildschirm können Sie die Einstellung ändern.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
> Enabled
  *Disabled
```

7 Wählen Sie mit den Tasten ↑ und ↓ die Option [Enabled] aus, und drücken Sie dann die Taste ENTER.

Der Bestätigungsbildschirm (d. h. der Bildschirm ohne den Cursor >) wird angezeigt.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  *Enabled
  Disabled
```

8 Stellen Sie sicher, dass [Enabled] ausgewählt ist, und drücken Sie die Taste ↓.

Der folgende Bildschirm wird angezeigt.

```
IPv4 Setting
IPv4 DHCP
  Auto
  *Static
```

9 Drücken Sie zum Anzeigen des Auswahlbildschirms die Taste ENTER.

- 10** Um eine statische IP-Adresse zu verwenden, wählen Sie mit den Tasten $\uparrow$ und $\downarrow$ die Option [Static] aus, und drücken Sie dann die Taste ENTER.

Hinweis

Um DHCP zu verwenden, wählen Sie mit den Tasten $\uparrow$ und $\downarrow$ die Option [Auto] aus, drücken Sie die Taste ENTER und fahren Sie dann mit Schritt **17** fort.

- 11** Drücken Sie die Taste $\downarrow$.

Der folgende Bildschirm wird angezeigt.

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

- 12** Drücken Sie die Taste ENTER.

Die erste Ziffer der IP-Adresse blinkt. Dies bedeutet, dass sie geändert werden kann.

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

- 13** Geben Sie die IP-Adresse ein.

Verschieben Sie den Cursor mit den Tasten $\leftarrow$ und $\rightarrow$, und ändern Sie mit den Tasten $\uparrow$ und $\downarrow$ die Werte.

- 14** Wenn Sie die Adresse angegeben haben, bestätigen Sie diese mit der Taste ENTER.

- 15** Drücken Sie die Taste $\downarrow$, um [IPv4 Netmask] anzuzeigen, und konfigurieren Sie die Subnetzmaske auf gleiche Weise wie die IP-Adresse.

```
IPv4 Setting
IPv4 Netmask
000.000.000.000
```

- 16** Drücken Sie die Taste $\downarrow$, um [IPv4 Gateway] anzuzeigen, und konfigurieren Sie auf gleiche Weise das Standard-Gateway.

```
IPv4 Setting
IPv4 Gateway
000.000.000.000
```

- 17** Drücken Sie die Taste $\downarrow$.

[IPv4 DNS] wird angezeigt.

```
IPv4 Setting
IPv4 DNS
Auto
*Static
```

- 18** Wählen Sie die Option [Static], um die DNS-Adresse zu konfigurieren.

Wenn die aktuelle Adresse [Auto] ist, zeigen Sie mithilfe der Taste ENTER den Auswahlbildschirm an, wählen Sie mit den Tasten $\uparrow$ und $\downarrow$ die Option [Static], und drücken Sie dann zur Bestätigung die Taste ENTER.

Hinweis

Wählen Sie die Option [Auto], um die DNS-Adresse automatisch zu beziehen. Bestätigen Sie die Einstellung auf gleiche Weise wie bei der Option [Static], und fahren Sie mit Schritt **24** fort.

- 19** Drücken Sie die Taste ENTER.

Der Bildschirm [IPv4 Primary DNS] wird angezeigt.

```
IPv4 Setting
IPv4 Primary DNS
000.000.000.000
```

- 20** Drücken Sie die Taste ENTER.

Die erste Ziffer der IP-Adresse blinkt. Dies bedeutet, dass sie geändert werden kann.

- 21** Geben Sie mit den Tasten $\leftarrow$, $\rightarrow$, $\uparrow$ und $\downarrow$ die primäre DNS-Adresse ein, und drücken Sie dann die Taste ENTER.

- 22** Drücken Sie die Taste $\downarrow$.

Der Bildschirm [IPv4 Secondary DNS] wird angezeigt.

- 23** Geben Sie die sekundäre DNS-Adresse wie in Schritt **20** ein, und drücken Sie die Taste ENTER.

- 24** Drücken Sie die Taste $\downarrow$.

Der folgende Bestätigungsbildschirm wird angezeigt.

```
Network1
IPv4 Setting
> Save
Cancel
```

- 25** Stellen Sie sicher, dass [Save] ausgewählt ist, und drücken Sie die Taste ENTER.

Die geänderte IP-Adresse ist aktiviert.
Der Bildschirm [Netzwerk1] wird erneut angezeigt.

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
2.IPv6 Setting
```

26 Durch dreimaliges Drücken der Taste BACK schließen Sie das Menü.

IP-Adressen können auch im Web-Bildschirm (Library Maintenance Web UI) geändert werden.

Ausführliche Informationen dazu, wie Sie Einstellungen mit der Library Maintenance Web UI ändern können, finden Sie in der Hilfe für die Library Maintenance Web UI.

Anzeigen des Web-Bildschirms

Sie können die Einstellungen für dieses Gerät im Web-Bildschirm (Library Maintenance Web UI) ändern.

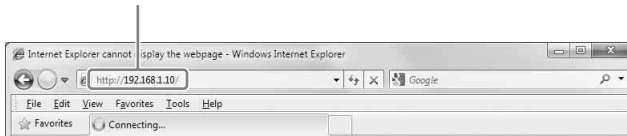
Empfohlene Betriebsumgebung

Webbrowser:

- Für Windows: Google Chrome (neueste Version) oder Microsoft Internet Explorer 11
- Für Mac OS: Google Chrome (neueste Version)
- Monitorgröße: 1.024 Pixel oder breiter

Geben Sie zum Anzeigen des Web-Bildschirms die URL `https://(IP_Adresse)/` in einen Webbrowser ein.

Beispiel: `https://192.168.1.10/`



Wenn Sie über einen Webbrowser auf das Gerät zugreifen, wird eine Nachricht des Inhalts „The site’s security certificate is not trusted!“ o. ä. angezeigt. Überprüfen Sie vor dem Fortfahren, dass die in der Meldung angezeigte IP-Adresse korrekt ist. Als nächstes wird der Authentifizierungsbildschirm angezeigt. Geben Sie den folgenden Benutzernamen und das folgende Passwort ein:

User: admin, Password: ods-I30m

Nach der Authentifizierung wird der Bildschirm Library Maintenance Web UI angezeigt.

Ausführliche Informationen zur Verwendung der Library Maintenance Web UI finden Sie in der Hilfe für die Library Maintenance Web UI.

Hinweise

- Die erforderlichen Netzwerkeinstellungen erhalten Sie von Ihrem Netzwerkadministrator.

Je nach den Proxyservereinstellungen des Browsers kann möglicherweise keine Verbindung zwischen dem PC und dem Gerät hergestellt werden.

- Es kann jeweils nur ein Webclient mit dem Gerät verbunden sein.
- Der Web-Bildschirm unterstützt bis zu drei gleichzeitige Verbindungen (http-Sitzungen). Wenn zwei oder mehr Sitzungen gleichzeitig geöffnet sind, tritt ein Fehler auf, wenn die Anmeldungen miteinander in Konflikt stehen. Wiederholen Sie den Vorgang in einem solchen Fall.
- Die Bibliothek übernimmt keine Netzwerk-Routingfunktion. Um automatisch eine Gateway-Adresse und eine IP-Adresse zu beziehen, konfigurieren Sie nur Einstellungen für ein einzelnes Netzwerk.
- Aktivieren Sie JavaScript in Ihrem Webbrowser. Der Anmeldebildschirm wird nicht angezeigt, falls JavaScript nicht aktiviert ist.
- Konfigurieren Sie Ihren Webbrowser so, dass er Cookies akzeptiert. Sie können sich nur anmelden, wenn Sie Ihrem Browser die Annahme der vom Gerät gesendeten Cookies erlauben.
- Die Voreinstellungen in der Einrichtung des Webbrowsers variieren je nach Typ des Browsers und Version des Betriebssystems. Schlagen Sie in der Bedienungsanleitung oder der Online-Hilfe zu Ihrem Webbrowser bzw. Ihrem Betriebssystem nach.

Installation von Software auf Servern

Installieren Sie die folgende Software auf den Servern, die über den faseroptischen Kanal mit den am Gerät bereitgestellten Laufwerkseinheiten verbunden sind. (Weitere Informationen zur Systemkonfiguration siehe Seite 93.)

- Optical Disc Archive Software (Windows/Linux)
Grundlegende Software, die Server und Laufwerkseinheiten verbindet und das Lesen und Schreiben von Dateien ermöglicht.
Laden Sie diese Software von der Sony-Website für professionelle Produkte herunter (Seite 116).

Hinweise

- Installieren Sie die Software, bevor Sie die Server mit den Laufwerkseinheiten verbinden.
- Optical Disc Archive Utility wird bei der Installation der Software automatisch installiert.

Betriebsumgebung

Die Funktion der Optical Disc Archive Software wurde für die folgenden Umgebungen verifiziert.

Hinweis

Die Verifizierung der Funktion garantiert nicht, dass die Software auf allen Computern funktioniert.

Windows

Gegenstand	Anforderung
Prozessor	Intel Core 2 Duo 2,66 GHz oder höher; oder Intel Xeon 2 GHz oder höher
Speicher	32-Bit-Gerät: 2 GB oder höher; 64-Bit-Gerät: 2 GB × (Anzahl der Geräte) oder höher
Festplattenspeicher	32-Bit-Gerät: 16 GB oder höher; 64-Bit-Gerät: 8 GB + 4 GB × (Anzahl der Laufwerke + 1) oder höher
Betriebssystem	Siehe Sony-Website für professionelle Produkte (Seite 116).

Linux

Gegenstand	Anforderung
Prozessor	Intel Core 2 Duo 2,66 GHz oder höher; oder Intel Xeon 2 GHz oder höher
Speicher	32-Bit-Gerät: 2 GB oder höher; 64-Bit-Gerät: 2 GB × (Anzahl der Geräte) oder höher

Gegenstand	Anforderung
Festplattenspeicher	32-Bit-Gerät: 16 GB oder höher; 64-Bit-Gerät: 8 GB + 4 GB × (Anzahl der Laufwerke + 1) oder höher
Betriebssystem	Siehe Sony-Website für professionelle Produkte (Seite 116).

Installation

Laden Sie die Software von der Sony-Website für professionelle Produkte herunter (Seite 116), und installieren Sie sie.

Hinweis

Wenn die Optical Disc Archive Software auf einem System installiert wird, auf dem ebenfalls bestimmte Antivirus-Programme, Spyware-Tools oder Produkte installiert sind, die nicht standardmäßig zum Betriebssystem gehörende UDF-Dateisystemtreiber der Version 2.5 oder 2.6 enthalten, kann dies zu instabiler Funktion führen. Überprüfen Sie bei instabiler Funktion der Optical Disc Archive Software, ob die oben genannte Software installiert ist und ändern Sie gegebenenfalls deren Einstellungen.

Vorsichtsmaßnahmen für die Installation unter Windows

- Wenn bereits eine ältere Version der Optical Disc Archive Software installiert ist, deinstallieren Sie diese vor der Installation der neuen Version. Entfernen Sie die [Sony Optical Disc Archive Software] mit Hilfe der Funktion [Software] in der Systemsteuerung, und starten Sie den Computer neu.
- Bei der Installation werden alle zuvor konfigurierten Optionen auf die Anfangseinstellungen zurückgesetzt.

Vorsichtsmaßnahmen für die Installation unter Linux

- Wenn Sie die Laufwerkseinheiten vor der Installation der Optical Disc Archive Software mit den Servern verbinden, kann die Funktion der Server gestört werden. Um dies zu verhindern, installieren Sie die Optical Disc Archive Software, ehe Sie die Laufwerkseinheiten mit den Servern verbinden.
Wenn Sie eine Störung der Server feststellen, fahren Sie diese herunter, trennen Sie die Laufwerkseinheiten von den Servern, starten Sie die Server neu und installieren Sie die Optical Disc Archive Software. Verbinden Sie dann die Laufwerkseinheiten mit den Servern.
- Bei einer Update-Installation wird die Optical Disc Archive Software überschrieben. Alle zuvor konfigurierten Optionen werden auf die Standardeinstellungen zurückgesetzt.

- Wenn Sie eine neue Version der Optical Disc Archive Software nach der Deinstallation einer älteren Version installieren, werden alle zuvor konfigurierten Elemente auf die Standardeinstellungen zurückgesetzt.

Verwenden des Menüs

Mit dem Menü auf der Vorderseite des Geräts legen Sie grundlegende Einstellungen des Geräts fest und zeigen den Gerätestatus an. Verwenden Sie zum Bedienen des Menüs die Tasten auf der Vorderseite.

Grundlegende Menüfunktionen

In diesem Abschnitt wird die Verwendung des Menüs am Beispiel des Warntons beschrieben.

1 Drücken Sie die Taste MENU.

Der Menüauswahl-Bildschirm wird angezeigt.

```
Menu
  1.Information
> 2.Setup
  3.Maintenance
```

2 Wählen Sie durch Verschieben des Cursors > mit den Tasten ↑ und ↓ die Option [Setup] aus, und drücken Sie die Taste ENTER.

Das Untermenü für das ausgewählte Element wird angezeigt.

```
Setup
> 1.Network
  2.Control Panel
```

3 Wählen Sie mit den Tasten ↑ und ↓ die Option [Control Panel] aus, und drücken Sie dann die Taste ENTER.

Das Untermenü für das ausgewählte Element wird angezeigt.

```
Control Panel
> 1.Buzzer
  2.LCD Backlight
  3.LCD Brightness
```

4 Wählen Sie mit den Tasten ↑ und ↓ die Option [Buzzer] aus, und drücken Sie dann die Taste ENTER.

Der aktuelle Einstellung des ausgewählten Elements wird angezeigt. Die aktuellen Einstellungen sind mit einem Stern (*) gekennzeichnet.

```
Control Panel
Buzzer
ON
*OFF
```

5 Drücken Sie die Taste ENTER.

Der Cursor > wird angezeigt. Dies bedeutet, dass die Einstellung geändert werden kann.

```
Control Panel
Buzzer
  ON
>*OFF
```

6 Verschieben Sie den Cursor > mit den Tasten ↑ und ↓.

Control Panel

```
Control Panel
Buzzer
> ON
  *OFF
```

7 Drücken Sie zum Bestätigen der Einstellung die Taste ENTER.

Der Cursor wird ausgeblendet und die Einstellung wird bestätigt.

```
Control Panel
Buzzer
  *ON
  OFF
```

8 Drücken Sie die Taste MENU, um zum Menüauswahl-Bildschirm zurückzukehren (Schritt 1).

Durch Drücken der Taste BACK gelangen Sie zum unmittelbar vorhergehenden Bildschirm zurück.

9 Durch nochmaliges Drücken der Taste MENU schließen Sie das Menü.

Menüliste

Menü	Beschreibung
Information	Anzeigen der aktuellen Werte der einzelnen Einstellungen im Menü [Setup] und der folgenden IPv6-Parameter. IPv6 Temporary: Anzeigen der temporären IPv6-Adresse. IPv6 Link-Local: Anzeigen der IPv6-Link-Lokaladresse.
Setup	Konfigurieren der Einstellungen des Geräts.

Menü	Beschreibung
1.Network	Konfigurieren der Netzwerkeinstellungen. Network 1 / Network 2: Konfigurieren der Einstellungen für die zwei Netzwerkanschlüsse des ODS-L30M. IPv4 Enabled / IPv6 Enabled: Aktivieren bzw. Deaktivieren von IPv4 oder IPv6. IPv4 DHCP / IPv6 DHCP: Gibt an, ob die IP-Adresse für IPv4 oder IPv6 mit DHCP bestimmt wird oder eine statische Adresse verwendet werden soll. IPv4 Address / IPv6 Address: Konfiguriert die IP-Adresse für IPv4 oder IPv6. IPv4 Netmask: Konfiguriert die Subnetzmaske für IPv4. IPv6 Subnetprefix: Konfiguriert das Subnetz-Präfix für IPv6. IPv4 Gateway / IPv6 Gateway: Konfiguriert das Standard-Gateway für IPv4 oder IPv6. IPv4 DNS / IPv6 DNS: Gibt an, ob die IP-Adresse des DNS-Servers für IPv4 oder IPv6 automatisch bezogen wird oder eine statische Adresse verwendet werden soll. IPv4 Primary DNS / IPv6 Primary DNS: Konfiguriert den primären DNS-Server für IPv4 oder IPv6. IPv4 Secondary DNS / IPv6 Secondary DNS: Konfiguriert den sekundären DNS-Server für IPv4 oder IPv6.
2.Control Panel	Konfiguriert die Bedienfeldeinstellungen. Buzzer: Schaltet den Warnton ein oder aus. LCD Backlight: Gibt an, ob die LCD-Hintergrundbeleuchtung automatisch abgeschaltet wird oder ständig leuchtet. LCD Brightness: Setzt die Helligkeit des LCD-Panels auf Niedrig, Mittel oder Hoch.
Maintenance	Zu Wartungszwecken verwendetes Menü.
1.Configuration	Factory Setting: Setzt die Konfiguration des Geräts auf die werkseitigen Voreinstellungen zurück.
2.Diagnostic	Menü für Wartungspersonal.
3.Power Management	Reboot: Startet das Gerät neu.
4.Service	Menü für Wartungspersonal.

Meldungen

Falls ein Problem mit der Hardware des Geräts oder den Konfigurationseinstellungen vorliegt, blinkt die LED ALARM auf der Vorderseite rot (Fehler) oder orange (Warnung), und eine Meldung wird angezeigt. Während der Verwendung der Menüfunktion werden keine

Meldungen angezeigt. Meldungen werden angezeigt, nachdem das Menü mit der Taste BACK verlassen wurde. Wenn eine Mitteilung angezeigt wird, suchen Sie im Folgenden nach einer Lösung des Problems. Wenn die Meldung weiter angezeigt wird, wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.

Meldung	Beschreibung
ERROR POWER OFF REQUEST	Das System muss neu gestartet werden. Schalten Sie das Gerät aus und dann wieder ein.
ERROR BOOT OS	Fehler beim Starten des Geräts. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
ERROR CALIBRATION	Fehler bei der Kalibrierung des Transportmechanismus. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
ERROR FIRMWARE UPDATE REQUEST	Es ist eine Firmwareaktualisierung erforderlich. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
ERROR SERVICE MAINTENANCE REQUEST	Stellen Sie sicher, dass das Geräteverbindungskabel korrekt angeschlossen ist. Liegt kein Problem damit vor, ist Wartung durch Wartungstechniker erforderlich. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
ERROR	Bedienfehler. Prüfen Sie [Library Status] auf der Registerkarte [System] der Library Maintenance Web UI.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : OFF	Eine überwachte Stromversorgungseinheit wurde abgeschaltet. Prüfen Sie die Einstellungen unter [Power Configuration Settings] auf der Registerkarte [Others] des Bildschirms [Configuration] der Library Maintenance Web UI. Wenn kein Fehler bei den Einstellungen vorliegt, wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : NG	Fehler in der Stromversorgungseinheit. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : CC	Die Stromversorgungseinheit wurde eingeschaltet, aber ist in den Einstellungen der Stromversorgungskonfiguration nicht als zu überwachen konfiguriert. Aktivieren Sie die Kontrollkästchen der zu verwendenden Stromversorgungen unter [Power Configuration Settings] auf der Registerkarte [Others] des Bildschirms [Configuration] der Library Maintenance Web UI.
WARNING HIGH TEMP	Die interne Temperatur des Geräts ist zu hoch. Das Gerät kann zwar weiter verwendet werden, aber durch intensive Nutzung steigt die Temperatur im Gerät und in den Laufwerken weiter an, was zu Fehlfunktionen oder sogar einem Brand führen kann. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
WARNING FAN	Die Lüfterdrehzahl ist gesunken. Das Gerät kann zwar weiter verwendet werden, aber durch intensive Nutzung steigt die Temperatur im Gerät und in den Laufwerken weiter an, was zu Fehlfunktionen oder sogar einem Brand führen kann. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
WARNING SSD	SSD muss ersetzt werden. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
WARNING LITHIUM BATTERY	Lithiumbatterie muss ersetzt werden. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
CLOSE I/E STATION	Die I/E-Station war drei Minuten lang geöffnet. Sicherstellen, dass die I/E-Station vollständig geschlossen ist. Wenn die Nachricht auch nach dem Schließen der I/E-Station angezeigt wird, wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
I/E STATION LOCKED	Die Taste der I/E-Station wurde gedrückt, während die I/E-Station von einer Anwendung verriegelt oder als Speichereinschub konfiguriert war. Sperre in der Anwendung freigeben und dann Taste I/E STATION drücken. Wenn die Sperre nicht in der Anwendung freigegeben werden kann, diese mit der Library Maintenance Web UI aufheben.

Meldung	Beschreibung
I/E STATION BUSY	Die Taste I/E STATION wurde während des Zugriffs auf die I/E-Station gedrückt. Warten Sie, bis die LED I/E STATION grün leuchtet oder orange blinkt, ehe Sie die Taste I/E STATION drücken.
I/E STATION NOT UNLOCKED	Die I/E-Station konnte nicht entsperrt werden. Drücken Sie die I/E-Station ganz in das Gerät, sodass sie vollständig eingeschoben ist, und versuchen Sie dann, die Taste I/E STATION noch einmal zu drücken.
I/E STATION HALF-CLOSED	Die I/E-Station ist nicht vollständig eingeschoben. Drücken Sie die I/E-Station ganz in das Gerät, sodass sie vollständig eingeschoben ist, und versuchen Sie dann, die Taste I/E STATION noch einmal zu drücken.
PUSH I/E STATION	Die I/E-Station war mindestens 15 Sekunden lang unvollständig eingeschoben. Drücken Sie die I/E-Station ganz in das Gerät, sodass sie vollständig eingeschoben ist.
REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	Für die I/E-Station kann kein Import durchgeführt werden, weil der Transportmechanismus eine Kassette enthält. Verschieben Sie die Kassette über die Registerkarte [Move Cartridge] der Library Maintenance Web UI aus dem Transportmechanismus in einen leeren Einschub.
ERROR CALIBRATION REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	Der Transportmechanismus konnte nicht angepasst werden, weil er eine Kassette enthält. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
I/E STATION OPENED	Ein Befehl zur Bewegung eines I/E-Einschubs wurde erteilt, während die I/E-Station geöffnet war. I/E-Station schließen oder Anwendungssteuerungen prüfen.
UNIT CONFIG CHANGE REQUEST	An der Gerätekonfiguration wurde eine Änderung festgestellt. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.
DIAGNOSTIC LIBRARY REQUEST	An der Bibliothek muss eine Diagnose durchgeführt werden. Wenden Sie sich an Ihren örtlichen Sony-Vertreter.

Wichtige Hinweise zum Betrieb

Verwendung und Lagerung

Schützen Sie das Gerät vor starken Stößen

Durch Stöße können mechanische Komponenten im Gerät beschädigt werden oder das Gehäuse kann sich verziehen.

Das Gerät darf während des Betriebs nicht abgedeckt sein

Andernfalls steigt die Temperatur im Gerät, was zu Funktionsstörungen führen kann.

Nach der Verwendung

Schalten Sie die Taste EIN/Bereitschaft aus.

Wenn Sie das Gerät längere Zeit nicht verwenden wollen, schalten Sie es auch am Hauptnetzschalter auf der Rückseite aus.

Transport

- Schalten Sie das Gerät stets aus.
- Wenn Sie das Gerät per LKW, Schiff, Flugzeug oder einem anderen Transportsystem versenden, verpacken Sie es in dem ursprünglich verwendeten Material.
- Wenn das Gerät transportiert wird, ohne dass es ordnungsgemäß verpackt und geschützt ist, können seine internen Teile beschädigt werden.
Vergewissern Sie sich anhand der Installationsanleitung, dass die Schrauben und Halterungen angebracht werden, um einen sicheren Transport zu gewährleisten.
- Wenn die Laufwerkseinheit vor dem Transport des Geräts nicht entfernt wird, können Gerät und Laufwerkseinheit beim Transport beschädigt werden.
Die Laufwerkseinheit muss vor dem Transport aus diesem Gerät entfernt werden.

Pflege des Geräts

Wenn das Gehäuse verschmutzt ist, wischen Sie es mit einem weichen, trockenen Tuch ab.

Verwenden Sie in extremen Fällen ein leicht mit Reinigungsmittel angefeuchtetes Tuch und trocknen Sie das Gehäuse anschließend ab. Verwenden Sie keine Lösungsmittel wie Alkohol oder Verdünner, da diese Entfärbungen oder andere Schäden an der Geräteoberfläche hervorrufen können.

Bei Funktionsproblemen

Wenn Probleme mit dem Gerät auftreten, wenden Sie sich an Ihren Sony-Kundendienst oder Sony-Vertreter.

Verwendungs- und Lagerort

Das Gerät sollte waagrecht und gut belüftet aufbewahrt werden. Folgende Bedingungen sind für die Verwendung und Lagerung des Geräts nicht geeignet:

- Starke Hitze oder Kälte (Betriebstemperatur: 5 °C bis 35 °C)
Beachten Sie, dass im Sommer bzw. in heißem Klima die Temperatur in Fahrzeugen bei geschlossenen Fenstern schnell 50 °C überschreiten kann.
- Feuchte oder staubige Umgebungen
- Einwirkung von Regen
- Starke Erschütterungen
- Nähe zu starken Magnetfeldern
- Nähe von Radio- oder TV-Übertragungsgeräten, die starke elektromagnetische Felder erzeugen.
- Direkte Sonneneinstrahlung oder Nähe zu Heizkörpern über einen längeren Zeitraum

Verhindern elektromagnetischer Interferenzen durch tragbare Kommunikationsgeräte

Die Verwendung von Mobiltelefonen und anderen Kommunikationsgeräten in der Nähe dieses Geräts kann zu Fehlfunktionen führen.

Es wird empfohlen, tragbare Kommunikationsgeräte in der Nähe dieses Geräts auszuschalten.

Kondensation

Wenn das Gerät aus einer kalten Umgebung in einen warmen Raum gebracht wird oder die Umgebungstemperatur schnell ansteigt, kann sich auf der Oberfläche des Geräts bzw. im Inneren des Geräts Feuchtigkeit ansammeln (Kondensation). Schalten Sie in diesem Fall das Gerät aus, und warten Sie, bis die Kondensation verdunstet ist, ehe Sie das Gerät verwenden. Die Verwendung des Gerätes bei gebildetem Kondenswasser kann zu Beschädigungen führen.

Austausch von Teilen

Der Transportmechanismus des Gerätes ist ein Verschleißteil, das regelmäßig ersetzt werden muss. Wenn das Gerät bei Raumtemperatur betrieben wird, sollte das Teil ca. alle fünf Jahre ersetzt werden. Diese Ersatzfristen stellen jedoch nur eine allgemeine Richtlinie und keine Garantie der Lebensdauer dieser Teile dar. Weitere Informationen zum Austausch von Komponenten erhalten Sie bei Ihrem Händler.

LCD

Nach sehr langem Gebrauch können diese „hängengebliebenen“ Pixel spontan auftreten aufgrund der äußeren Eigenschaften der Flüssigkristallanzeige. Diese Probleme stellen keine Fehlfunktion dar.

Vorsichtsmaßnahmen für Laufwerkseinheiten

Stöße und Erschütterungen

Schützen Sie die Laufwerkseinheit bei eingelegter Kassette vor Erschütterungen.

Transportieren der Laufwerkseinheit

Achten Sie darauf, vor dem Transport der Laufwerkseinheit die Kassette auszuwerfen.

Dauer von Datei-Lesevorgängen

- Beim gleichzeitigen Zugriff auf mehrere Dateien kann es zu häufigeren Auslagerungen auf die Festplatte kommen. Dies verringert die Datenübertragungsrate und verlängert die zur Ausführung des Vorgangs benötigte Zeit erheblich.
- Auch beim Zugriff auf eine einzelne Datei kann es je nach der Aufzeichnungsposition in der Kassette zu Auslagerungen auf die Festplatte kommen. Dies nimmt Zeit vor Beginn des Lesevorgangs in Anspruch.

Dauer von Datei-Schreibvorgängen

- Das Schreiben einer größeren Anzahl kleiner Dateien (zum Beispiel 100 MB oder kleiner) nacheinander kann längere Zeit in Anspruch nehmen. In diesem Fall kann die Schreibleistung und Medieneffizienz durch die Einstellung "Synchronize management data to the media immediately after completion of file writing: Off" verbessert werden. Bei einer Funktionsstörung (zum Beispiel Ausfall der Stromversorgung) während des Schreibvorgangs besteht hierbei jedoch eine geringere Wahrscheinlichkeit, die Datei wiederherzustellen.

Marken und Lizenzen

Open-Software-Lizenzen

Bei diesem Produkt wird Open-Software auf der Grundlage von Lizenzverträgen zwischen Sony und den Inhabern des Urheberrechts an der Software verwendet. Um die Bedingungen der Inhaber des Urheberrechts an der Software zu erfüllen, muss Sony Sie über den Inhalt dieser Lizenzen informieren.

Den Inhalt dieser Lizenzen finden Sie unter „*Open Source Software License List*“ in der *Software-Hilfe*.

Erwerben lizenzierter GPL/LGPL/ GPL V3-Software

Bei diesem Produkt wird Software verwendet, die unter GPL Version 2 / LGPL Version 2.1 / GPL Version 3 lizenziert ist. Sie haben das Recht, den Quellcode dieser Software zu erwerben, zu ändern und zu verteilen.

Sie können den Quellcode dieser Software von Internetservern von Sony herunterladen. Weitere Informationen zum Herunterladen finden Sie unter der folgenden URL:
<http://oss.sony.net/Products/Linux/common/search.html>

Wir können Anfragen zum Inhalt des Quellcodes nicht beantworten.

Technische Daten

Gezeigt werden die technischen Daten für das Gerät ODS-L30M. Technische Daten für die Geräte ODS-L60E, ODS-L100E, ODBK-101, ODBK-102, ODBK-103 und ODS-D77F finden Sie in der Bedienungsanleitung des jeweiligen Geräts.

Allgemein

Spannungsversorgung

100 V bis 240 V Wechselspannung,

50 Hz/60 Hz

Stromaufnahme 1,4 A bis 3,2 A

Betriebstemperatur

10 °C bis 35 °C

Lagertemperatur

–20 °C bis +55 °C

Relative Luftfeuchtigkeit im Betrieb

20% bis 80%

Relative Luftfeuchtigkeit bei Lagerung

Unter 75%

Masse

30 kg (außer Laufwerkseinheiten und
Kassetten)

Abmessungen (B × H × T)

445 × 308 × 940 mm (ohne
herausragende Teile)

Eingang/Ausgang

 (Netzwerk) RJ-45-Modularstecker (2)

100BASE-T: Standard IEEE 802.3ab

100BASE-Tx: Standard IEEE 802.3u

Zubehör

Bedienungsanleitung (1)

Rack-Einbaukit (1 Satz)

Unterlegscheiben für Rack-Einbaukit (4)

Schrauben (B4 × 10) (8)

Schrauben (B5 × 16) (8)

Montageklammern (2)

Dickenlehre 025 (3)

Dickenlehre 050 (3)

Dickenlehre 100 (3)

Höhenauflage 025 (3)

Höhenauflage 050 (3)

Höhenauflage 100 (3)

I/E-Station-Etiketten (1 Satz)

Optionen

Stromversorgung ODBK-101 / ODBK-102

Erweiterungssatz ODBK-103

Option für das ODS-L30M (nicht kompatibel mit Modellen mit den Seriennummern 10001 bis 10999 und 50001 bis 50999)

Die Seriennummer des ODS-L30M befindet sich auf dem Typenschild auf der Rückseite.

Archivkassette für optische Discs

- ODC300R (300 GB, einmal beschreibbar)
- ODC300RE (300 GB, wiederbeschreibbar)
- ODC600R (600 GB, einmal beschreibbar)
- ODC600RE (600 GB, wiederbeschreibbar)
- ODC1200RE (1,2 TB, wiederbeschreibbar)
- ODC1500R (1,5 TB, einmal beschreibbar)

Design und Spezifikationen können ohne Vorankündigung geändert werden.

Hinweise

- Bestätigen Sie vor dem Gebrauch immer, dass das Gerät richtig arbeitet. SONY KANN KEINE HAFTUNG FÜR SCHÄDEN JEDER ART, EINSCHLIESSLICH ABER NICHT BEGRENZT AUF KOMPENSATION ODER ERSTATTUNG, AUFGRUND VON VERLUST VON AKTUELLEN ODER ERWARTETEN PROFITEN DURCH FEHLFUNKTION DIESES GERÄTS ODER AUS JEGLICHEM ANDEREN GRUND, ENTWEDER WÄHREND DER GARANTIEFRIST ODER NACH ABLAUF DER GARANTIEFRIST, ÜBERNEHMEN.
- SONY KANN KEINE HAFTUNG FÜR ANSPRÜCHE JEDER ART VON DEN BENUTZERN DIESES GERÄTS ODER VON DRITTER SEITE ÜBERNEHMEN.
- SONY KANN KEINE HAFTUNG FÜR DIE BEENDIGUNG ODER EINSTELLUNG VON DIENSTLEISTUNGEN BEZÜGLICH DIESES GERÄTS GLEICH AUS WELCHEM GRUND ÜBERNEHMEN.

SONY KANN KEINE HAFTUNG FÜR SCHÄDEN JEDER ART DURCH UNTERLASSENE GEEIGNETE SICHERHEITSMASSNAHMEN AN ÜBERTRAGUNGSGERÄTEN, DURCH UNVERMEIDBARE DATENPREISGABE AUFGRUND DER ÜBERTRAGUNGSSPEZIFIKATIONEN ODER DURCH SICHERHEITSPROBLEME JEGLICHER ART ÜBERNEHMEN.

Je nach Betriebsumgebung können unbefugte Dritte im Netzwerk unter Umständen auf dieses Gerät zugreifen. Achten Sie beim Verbinden des Geräts mit dem Netzwerk darauf, dass das Netzwerk gut abgesichert ist.

Vom Sicherheitsstandpunkt sollten Sie unbedingt über einen Webbrowser auf das Steuerfenster zugreifen und die werkseitig eingestellten Werte für die Zugriffseinschränkung ändern, wenn das Gerät mit dem Netzwerk verbunden ist (siehe Registerkarte Others des Bildschirms Configuration der Library Maintenance Web UI-Hilfe).

Es wird auch empfohlen, das Passwort regelmäßig zu ändern.

Software-Downloads

Wenn das Gerät mit einer PC-Verbindung verwendet wird, laden Sie benötigte Treiber, Plugins und Anwendungssoftware von der folgenden Website herunter.

Sony-Website für professionelle Produkte:

USA	http://pro.sony.com
Kanada	http://www.sonybiz.ca
Lateinamerika	http://sonypro-latin.com
Europa	http://www.pro.sony.eu/pro
Naher Osten, Afrika	http://sony-psmea.com
Russland	http://sony.ru/pro/
Brasilien	http://sonypro.com.br
Australien	http://pro.sony.com.au
Neuseeland	http://pro.sony.co.nz
Japan	http://www.sonybsc.com
Asien-Pazifik	http://pro.sony-asia.com
Korea	http://bp.sony.co.kr
China	http://pro.sony.com.cn
Indien	http://pro.sony.co.in

Sony Creative Software, Software- Downloadseite:

http://www.sonycreativesoftware.com/download/software_for_sony_equipment

Leggere attentamente questo manuale prima di utilizzare l'unità, e conservarlo per riferimenti futuri.

AVVERTENZA

Per ridurre il rischio di incendi o scosse elettriche, non esporre questo apparato alla pioggia o all'umidità.

Per evitare scosse elettriche, non aprire l'involucro. Per l'assistenza rivolgersi unicamente a personale qualificato.

QUESTO APPARECCHIO DEVE ESSERE COLLEGATO A MASSA. (ODS-L30M/L60E)

Durante l'installazione dell'apparecchio, incorporare un dispositivo di scollegamento prontamente accessibile nel cablaggio fisso, oppure collegare la spina di alimentazione ad una presa di corrente facilmente accessibile vicina all'apparecchio. Qualora si verifichi un guasto durante il funzionamento dell'apparecchio, azionare il dispositivo di scollegamento in modo che interrompa il flusso di corrente oppure scollegare la spina di alimentazione. (ODS-L30M/L60E)

AVVERTENZA (ODS-L30M/L60E)

1. Utilizzare un cavo di alimentazione (a 3 anime)/connettore per l'apparecchio/spina con terminali di messa a terra approvati che siano conformi alle normative sulla sicurezza in vigore in ogni paese, se applicabili.
2. Utilizzare un cavo di alimentazione (a 3 anime)/connettore per l'apparecchio/spina conformi alla rete elettrica (voltaggio, ampere).

In caso di domande relative all'uso del cavo di alimentazione/connettore per l'apparecchio/spina di cui sopra, rivolgersi al personale qualificato.

IMPORTANTE (ODS-L30M/L60E/L100E)

La targhetta di identificazione è situata sul retro.

IMPORTANTE (ODS-D77F)

La targhetta di identificazione è situata sul lato.

Per i clienti in Europa, Australia e Nuova Zelanda

AVVERTENZA

Questo è un apparecchio di classe A e come tale, in un ambiente domestico, può causare interferenze radio. È necessario quindi che l'utilizzatore adotti gli accorgimenti adeguati.

Per i clienti in Europa

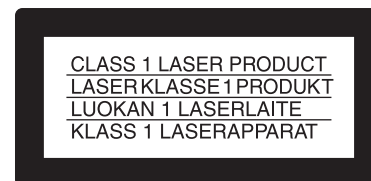
Questo prodotto è stato fabbricato da o per conto di Sony Corporation, 1-7-1 Konan Minato-ku Tokyo, 108-0075 Giappone. Eventuali richieste in merito alla conformità del

prodotto in ambito della legislazione Europea, dovranno essere indirizzate al rappresentante autorizzato, Sony Deutschland GmbH, Hedelfinger Strasse 61, 70327 Stuttgart, Germania. Per qualsiasi informazione relativa al servizio o la garanzia, si prega di fare riferimento agli indirizzi riportati separatamente sui documenti relativi all'assistenza o sui certificati di garanzia.

L'apparecchio non deve essere utilizzato in aree residenziali.

Attenzione (ODS-D77F)

L'uso di comandi o regolazioni o l'esecuzione di procedimenti diversi da quelli specificati in questo manuale possono causare esposizione a radiazioni pericolose.



Il sistema di archiviazione basato su disco ottico è classificato come PRODOTTO LASER DI CLASSE 1. (ODS-D77F)

Proprietà del laser a diodo (ODS-D77F)

Lunghezza d'onda: da 400 a 410 nm

Durata emissione: Continua

Potenza d'emissione del laser: 280 mW (mass. a picco di impulso), 150 mW (mass. di CW)

Norma: IEC60825-1 (2007)

Tabella dei contenuti

Descrizione generale.....	119
Esempio di configurazione del sistema.....	120
Nome e funzione dei componenti	121
ODS-L30M	121
ODS-L60E.....	124
ODS-L100E.....	126
Modo di impiego dei supporti	128
Supporti utilizzati per la lettura e la scrittura	128
Note sul modo di impiego	128
Memoria cartuccia.....	128
Supporto protetto da scrittura.....	129
Etichette di codici a barre.....	129
Avvio e spegnimento	130
Avvio.....	130
Spegnimento.....	130
Importazione ed esportazione di cartucce.....	131
Apertura della stazione I/E.....	131
Importazione ed esportazione di una cartuccia	131
Registrazione sul database	131
Configurazione della rete.....	132
Configurazione dell'indirizzo IPv4.....	132
Visualizzazione del menu Web	134
Installazione del software sui server	135
Ambiente operativo	135
Installazione	135
Utilizzo dei menu	136
Operazioni di base dei menu	136
Elenco dei menu	137
Messaggi	138
Note importanti sul funzionamento	140
Condensazione	140
Sostituzione dei componenti	140
Display LCD	141
Precauzioni per le unità.....	141
Marchi di fabbrica e licenze.....	141
Licenze Open Source Software.....	141
Come ottenere software protetto da licenze GPL/LGPL/GPL V3	141
Specifiche.....	142

Descrizione generale

L'unità master PetaSite ODS-L30M è una unità master per libreria che contiene fino a due unità opzionali (ODS-D77F) e fino a 30 cartucce di archiviazione ottica su dischi. Installando un kit di espansione ODBK-103 (non fornito) sull'unità master ODBK-103, è possibile collegare varie unità di espansione all'unità PetaSite, consentendo di espandere il sistema secondo le proprie esigenze. Grazie all'efficiente lettura e scrittura dei dati su più cartucce di archiviazione su dischi ottici, l'unità ODS-L30M agevola l'archiviazione dei dati e il recupero dei dati archiviati (tramite upload su server).

Le unità di estensione comprendono l'unità ODS-L60E PetaSite e le unità di estensione cartuccia ODS-L100E PetaSite. La ODS-L60E contiene fino a quattro unità opzionali (ODS-D77F) e fino a 61 cartucce di archiviazione ottica su dischi. La ODS-L100E contiene fino a 101 cartucce di archiviazione ottica su dischi.

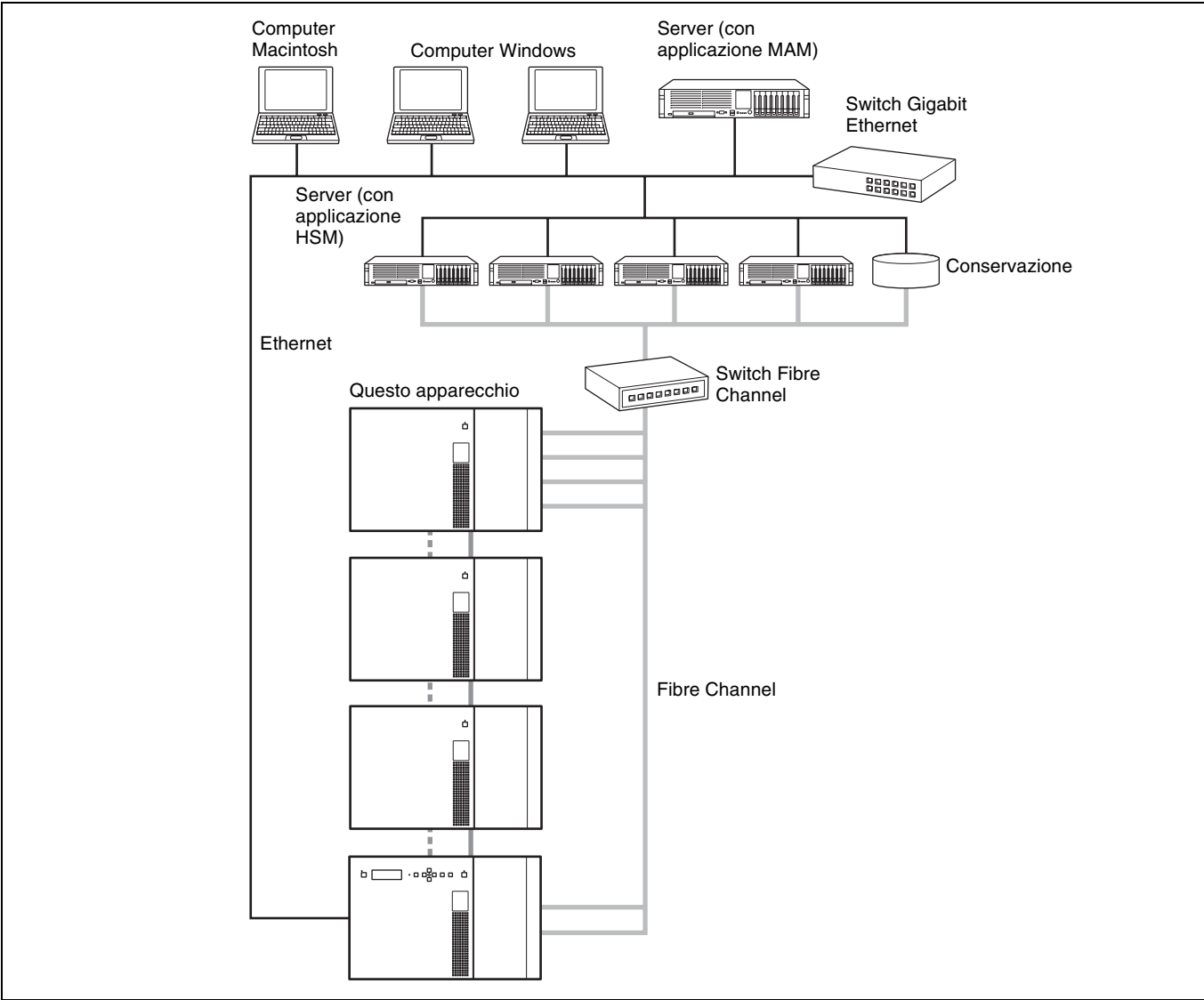
Le unità di archiviazione su dischi ottica ODS-D77F che possono essere installate sulle ODS-L30M e ODS-L60E sono dotate di due testine e sono state progettate in modo specifico per l'uso con la ODS-L30M/L60E. Inoltre, il supporto Fibre Channel consente l'elaborazione ad alta velocità.

È inoltre possibile installare l'alimentatore ODBK-101 (per la ODS-L30M) o ODBK-102 (per la ODS-L60E) per fornire ridondanza e garantire le stesse funzionalità di hot swap disponibili in altre unità. Questo consente il funzionamento ininterrotto dell'apparecchio anche in caso di guasto dell'alimentatore o delle unità, nei sistemi che richiedono elevata affidabilità.

Nel presente manuale, la PetaSite (comprese l'unità master e tutti i kit di estensione o unità di estensione supplementari) su cui sono installate le unità viene indicata come "l'unità" e le cartucce di archiviazione ottica su dischi come "cartucce".

Esempio di configurazione del sistema

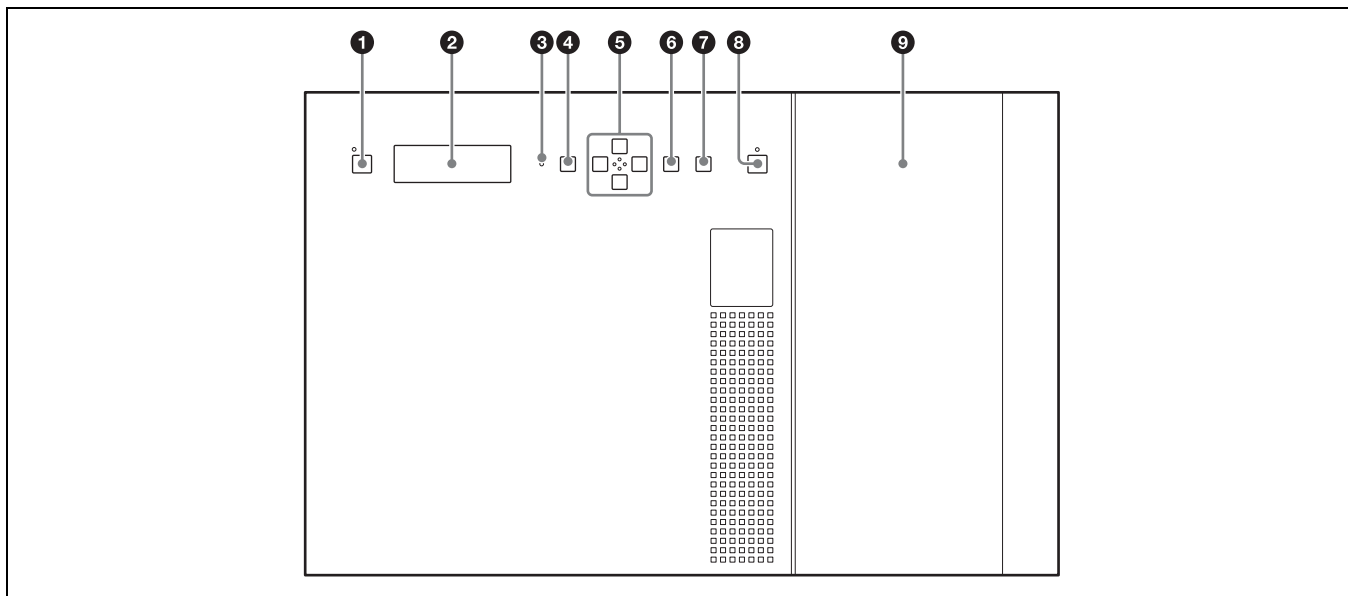
I seguenti tipi di sistema possono essere realizzati utilizzando l'unità e gli apparecchi collegati.



Nome e funzione dei componenti

ODS-L30M

Pannello anteriore



Nota

Il pannello anteriore della ODS-L30M può essere rimosso e intercambiato con i pannelli anteriori delle unità di estensione ODS-L60E/L100E. La ODS-L30M verrà installata nella parte inferiore di uno stack di più unità, ma il relativo pannello anteriore potrebbe essere situato su un'unità di estensione la cui altezza consente un funzionamento più agevole.

1 Pulsante e indicatore On/Standby

Commuta fra la modalità di accensione e la modalità standby quando gli interruttori di alimentazione principale sul retro dell'unità sono accesi. Quando l'unità è accesa, premere il pulsante per passare alla modalità standby. Sul display viene visualizzato un messaggio di conferma dello spegnimento. Servendosi dei pulsanti freccia, selezionare "Yes", quindi premere il pulsante ENTER.

L'indicatore è illuminato con luce verde quando l'apparecchio è acceso e con luce rossa quando si trova in standby. L'indicatore lampeggia con luce verde durante lo spegnimento dell'apparecchio.

Note

- Se viene premuto il pulsante mentre è presente una cartuccia in un'unità disco, verrà visualizzato un messaggio di conferma. Espellere la cartuccia prima di proseguire.

- Uscire da tutte le applicazioni connesse prima di spegnere l'unità. Lo spegnimento interrompe l'alimentazione dell'unità disco e tutti i dati correntemente in fase di registrazione andranno perduti.

2 Display

Visualizza lo stato dell'apparecchio, i menu di impostazione, i messaggi, ecc.

3 Indicatore ALARM

Lampeggia in caso di errori o avvertimenti.

Luce rossa lampeggiante: errore

Luce arancione lampeggiante: avvertimento

4 Pulsante MENU

Se premuto, visualizza un menu nel display.

5 Pulsanti freccia

Consentono di scorrere tra i menu sul display e impostare i valori delle opzioni.

6 Pulsante ENTER

Passa alla pagina successiva oppure conferma i valori immessi tramite i menu.

7 Pulsante BACK

Passa alla pagina precedente oppure annulla i valori immessi tramite i menu.

8 Pulsante e indicatore I/E STATION

Rilascia il blocco della stazione I/E. Il blocco può essere rilasciato quando l'indicatore è illuminato con luce verde o arancione. Quando il blocco è rilasciato, l'indicatore lampeggia con luce arancione.

Se la stazione I/E non viene aperta entro 10 secondi dal rilascio del blocco, la stazione I/E viene nuovamente bloccata.

Se la stazione I/E rimane aperta per più di tre minuti, l'indicatore lampeggia con luce rossa.

Nota

È possibile scegliere se la stazione I/E di ciascuna unità deve essere utilizzata come slot I/E per l'importazione/esportazione delle cartucce, oppure come slot di archiviazione (importazione/esportazione delle cartucce disabilitata).

Il blocco della stazione I/E non può essere rilasciato sulle unità in cui la stazione I/E è utilizzata come slot di archiviazione.

Indicatore	Significato
Spento	Il blocco non può essere rilasciato nelle seguenti circostanze: - Quando la stazione I/E è bloccata da un'applicazione. - Quando la stazione I/E è utilizzata come slot di archiviazione.
Verde (lampeggiante)	Il blocco non può essere rilasciato perché è in corso l'accesso alla stazione I/E.
Verde	Il blocco può essere rilasciato. È presente una cartuccia nella stazione I/E.
Arancione	Il blocco può essere rilasciato. Non è presente nessuna cartuccia nella stazione I/E.
Arancione (lampeggiante)	Blocco rilasciato.
Rosso (lampeggiante)	Si è verificato un problema nella stazione I/E. Sul display viene visualizzato uno dei seguenti messaggi. - CLOSE I/E STATION: La stazione I/E è stata lasciata aperta per più di tre minuti. - I/E STATION LOCKED: Il blocco non può essere rilasciato perché un pulsante è stato premuto con indicatore spento o lampeggiante. - I/E STATION OPENED: È stato richiesto un movimento slot I/E mentre la stazione I/E era aperta. * Durante l'utilizzo del menu non si visualizza un messaggio sul display.

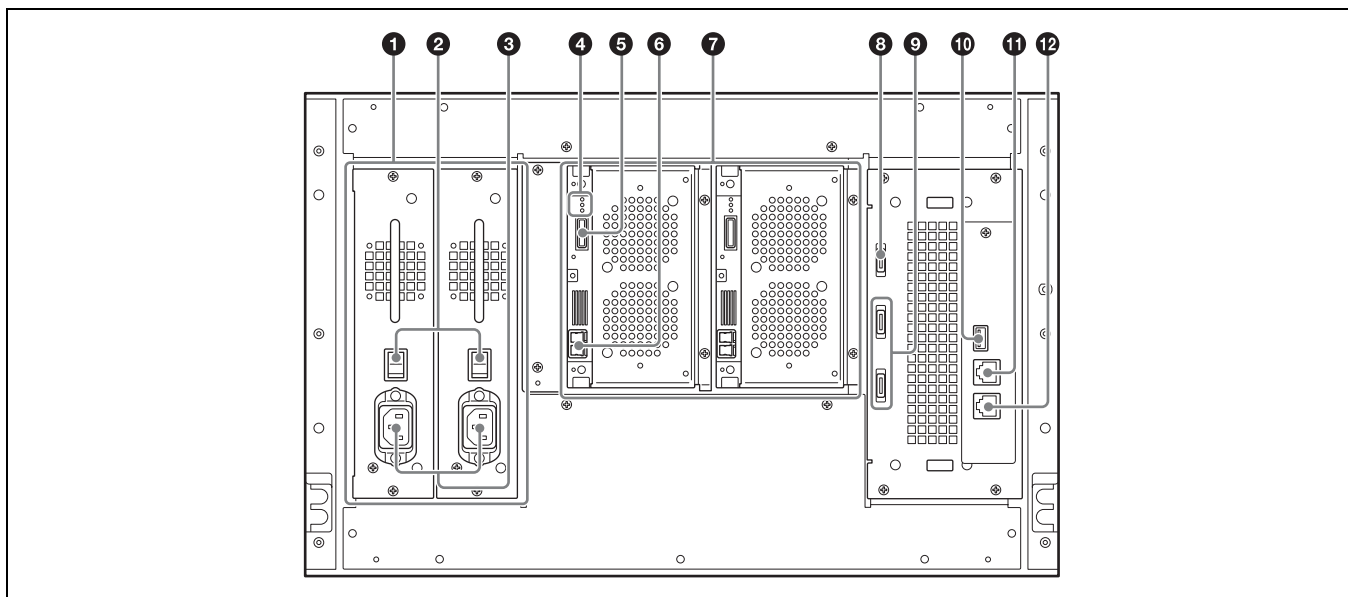
Con l'unità vengono fornite etichette per le stazioni I/E contenenti le informazioni riportate di seguito.

Indicatore I/E STATION	Stato	Pulsante I/E STATION
 Spento	Non è possibile aprire/chiedere perché le operazioni sono disabilite.	Disabilitato
 Verde (lampeggiante)	Non è possibile aprire/chiedere perché è in corso un accesso alla stazione I/E.	Disabilitato
 Verde  Arancione	È possibile sbloccare. Verde: Cartuccia presente Arancio: Cartuccia non presente	Abilitato
 Arancione (lampeggiante)	Sbloccato. È possibile aprire/chiedere.	Disabilitato
 Rosso (lampeggiante)	Si è verificato un errore. Verificare il display dell'unità.	Disabilitato

9 Sportello stazione I/E

Pannello posteriore

Nella seguente illustrazione viene mostrata la ODS-L30M con due unità e due alimentatori installati.



❶ Slot per alimentatore

Consentono di fornire alimentazione ridondante installando alimentatori ODBK-101 opzionali (non forniti). Questo consente il funzionamento ininterrotto dell'apparecchio anche in caso di guasto dell'alimentatore, nei sistemi che richiedono elevata affidabilità.

Per maggiori dettagli su come aggiungere o sostituire gli alimentatori, rivolgersi al proprio rappresentante Sony.

❷ Interruttori di alimentazione principale

Accendere o spegnere gli alimentatori principali. Per l'utilizzo dell'apparecchio, lasciare accesi questi interruttori e utilizzare il pulsante On/Standby del pannello anteriore per passare tra le modalità di funzionamento e standby.

Nota

Quando si spengono gli alimentatori principali, impostare sempre l'apparecchio in modalità standby tramite il pulsante On/Standby del pannello anteriore prima di premere questi interruttori.

❸ Connettori AC IN

Collegarli a prese di corrente mediante cavi di alimentazione.

❹ Indicatori unità

Indica lo stato delle unità. A partire dall'alto, i tre indicatori sono i seguenti:

• Indicatore POWER

Illuminato con luce verde: viene fornita alimentazione.

• Indicatore LINK

Luce blu lampeggiante lenta (una volta al secondo): Il cavo FC non è connesso.

Luce blu fissa: Il cavo FC è connesso.

Blu lampeggiante rapida (quattro volte al secondo): Il cavo FC è connesso e viene ricevuto un comando.

Note

- Questo indicatore è illuminato con luce blu fissa quando il cavo FC è connesso fisicamente e correttamente. È illuminato con luce blu fissa quando il cavo FC è connesso, anche se l'unità disco non può ricevere comandi dal computer.
- Questo indicatore è illuminato con luce blu durante l'inizializzazione dopo il collegamento dell'alimentazione, anche se non è connesso un cavo FC. In questo caso, l'indicatore comincia a lampeggiare lentamente con luce blu al termine dell'inizializzazione.

• Indicatore STATUS

Illuminato con luce verde: è possibile sostituire l'unità (ad esempio, l'unità è offline e l'alimentazione è spenta). Illuminato con luce rossa: si è verificato un allarme (codice di allarme diverso da 00-000).

Luce verde lampeggiante lenta (intervallo 1 sec.): l'unità si sta inizializzando.

Luce verde lampeggiante rapida (intervallo 0,25 sec.): aggiornamento del firmware in corso.

Spento: stato normale

❺ Connettore ODS CONTROL (ADI / alimentazione)

Collegare al connettore DRIVE con lo stesso numero dell'unità disco desiderata dell'unità master ODS-L30M

per fornire alimentazione all'unità disco e abilitare la funzione di controllo ADI (Automation/Drive Interface).

6 Connettori FC (Fibre Channel)

Consentono di connettersi ai server e alla memoria esterna tramite switch Fibre Channel.

7 Slot per unità

Consentono di installare fino a due unità opzionali (ODS-D77F).

8 Connettore OUT 2 (interconnessione unità)

Collegare al connettore IN 2 dell'unità di espansione(ODS-L60E/ODS-L100E) mediante il cavo di interconnessione 2 (fornito con l'unità di espansione).

9 Connettori DRIVE 1 e 2 (controllo ODS (ADI / alimentazione))

Collegare al connettore ODS CONTROL dell'unità disco con lo stesso numero (DRIVE 1 o 2) mediante un cavo di controllo ODA (fornito con l'unità disco) per fornire alimentazione all'unità disco e abilitare la funzione di controllo ADI.

10 Connettore OUT 1 (interconnessione unità)

Collegare al connettore IN 1 dell'unità di espansione(ODS-L60E/ODS-L100E) mediante il cavo di interconnessione 1 (fornito con l'unità di espansione).

11 Porta (rete) 1

Collegare in questo punto un cavo di rete per configurare l'apparecchio o controllarne lo stato tramite il menu Web. Nella schermata di configurazione viene visualizzata come "Network1".

12 Porta (rete) 2 (utilizzata per la manutenzione)

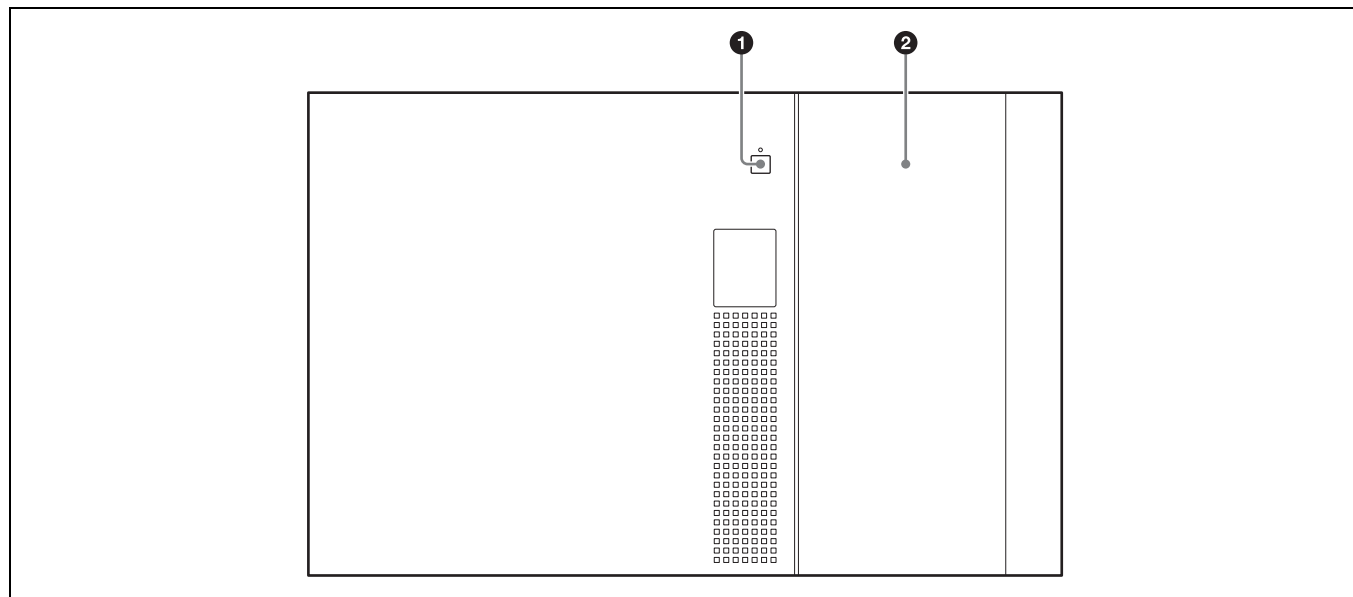
Nella schermata di configurazione viene visualizzata come "Network2".

ATTENZIONE

- Per ragioni di sicurezza, non collegare il connettore per il cablaggio del dispositivo periferico che potrebbe avere una tensione eccessiva in questa porta. Seguire le istruzioni per questa porta.
- Quando si collega il cavo di rete dell'apparecchio al dispositivo periferico, utilizzare un cavo di tipo protetto per prevenire il malfunzionamento per rumore.

ODS-L60E

Pannello anteriore



1 Pulsante e indicatore I/E STATION

Rilascia il blocco della stazione I/E. Il blocco può essere rilasciato quando l'indicatore è illuminato con luce verde o arancione. Quando il blocco è rilasciato, l'indicatore lampeggia con luce arancione.

Se la stazione I/E non viene aperta entro 10 secondi dal rilascio del blocco, la stazione I/E viene nuovamente bloccata.

Se la stazione I/E rimane aperta per più di tre minuti, l'indicatore lampeggia con luce rossa.

Nota

È possibile scegliere se la stazione I/E di ciascuna unità deve essere utilizzata come slot I/E per l'importazione/esportazione delle cartucce, oppure come slot di

archiviazione (importazione/esportazione delle cartucce disabilitata).
Il blocco della stazione I/E non può essere rilasciato sulle unità in cui la stazione I/E è utilizzata come slot di archiviazione.

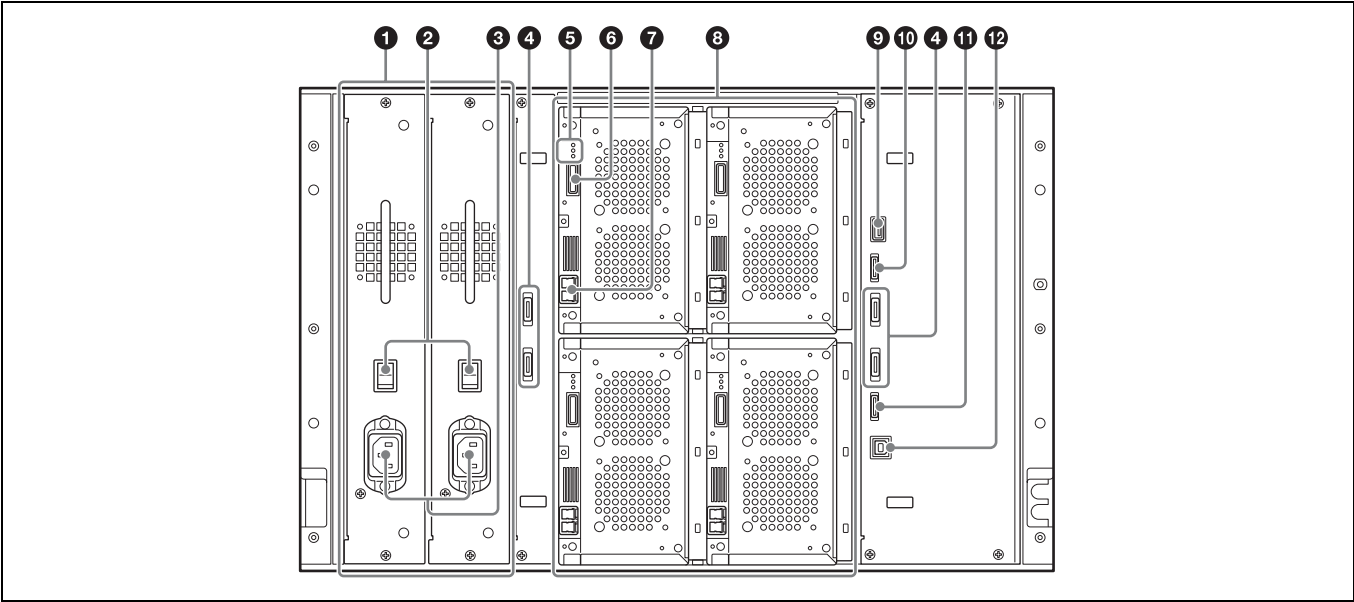
Indicatore	Significato
Spento	Il blocco non può essere rilasciato nelle seguenti circostanze: • Quando la stazione I/E è bloccata da un'applicazione. • Quando la stazione I/E è utilizzata come slot di archiviazione.
Verde (lampeggiante)	Il blocco non può essere rilasciato perché è in corso l'accesso alla stazione I/E.
Verde	Il blocco può essere rilasciato. È presente una cartuccia nella stazione I/E.
Arancione	Il blocco può essere rilasciato. Non è presente nessuna cartuccia nella stazione I/E.

Indicatore	Significato
Arancione (lampeggiante)	Blocco rilasciato.
Rosso (lampeggiante)	Si è verificato un problema nella stazione I/E. Sul display viene visualizzato uno dei seguenti messaggi. • CLOSE I/E STATION: La stazione I/E è stata lasciata aperta per più di tre minuti. • I/E STATION LOCKED: Il blocco non può essere rilasciato perché un pulsante è stato premuto con indicatore spento o lampeggiante. • I/E STATION OPENED: È stato richiesto un movimento slot I/E mentre la stazione I/E era aperta. * Durante l'utilizzo del menu non si visualizza un messaggio sul display.

2 Sportello stazione I/E

Pannello posteriore

Nella seguente illustrazione viene mostrata la ODS-L60E con quattro unità e due alimentatori installati.



1 Slot per alimentatore

Consentono di fornire alimentazione ridondante installando alimentatori ODBK-102 opzionali (non forniti). Questo consente il funzionamento ininterrotto dell'apparecchio anche in caso di guasto dell'alimentatore, nei sistemi che richiedono elevata affidabilità. Se nell'unità di espansione ODS-L60E non è installata un'unità disco, l'unità di alimentazione non è necessaria.

Per maggiori dettagli su come aggiungere o sostituire gli alimentatori, rivolgersi al proprio rappresentante Sony.

2 Interruttori di alimentazione principale

Accendere o spegnere gli alimentatori principali. Per l'utilizzo dell'apparecchio, lasciare accesi questi interruttori e utilizzare il pulsante On/Standby del pannello

anteriore per passare tra le modalità di funzionamento e standby.

Nota

Quando si spengono gli alimentatori principali, impostare sempre l'apparecchio in modalità standby tramite il pulsante On/Standby del pannello anteriore della ODS-L30M prima di premere questi interruttori.

③ Connettori AC IN

Collegarli a prese di corrente mediante cavi di alimentazione.

④ Connettori DRIVE da 1 a 4 (controllo ODS (ADI / alimentazione))

Collegare al connettore ODS CONTROL dell'unità disco con lo stesso numero (DRIVE da 1 a 4) mediante un cavo di controllo ODA (fornito con l'unità disco) per fornire alimentazione all'unità disco e abilitare la funzione di controllo ADI.

⑤ Indicatori unità

Indica lo stato delle unità. A partire dall'alto, i tre indicatori sono i seguenti:

• Indicatore POWER

Illuminato con luce verde: viene fornita alimentazione.

• Indicatore LINK

Luce blu lampeggiante lenta (una volta al secondo): Il cavo FC non è connesso.

Luce blu fissa: Il cavo FC è connesso.

Blu lampeggiante rapida (quattro volte al secondo): Il cavo FC è connesso e viene ricevuto un comando.

Note

- Questo indicatore è illuminato con luce blu fissa quando il cavo FC è connesso fisicamente e correttamente. È illuminato con luce blu fissa quando il cavo FC è connesso, anche se l'unità disco non può ricevere comandi dal computer.
- Questo indicatore è illuminato con luce blu durante l'inizializzazione dopo il collegamento dell'alimentazione, anche se non è connesso un cavo FC. In questo caso, l'indicatore comincia a lampeggiare lentamente con luce blu al termine dell'inizializzazione.
- **Indicatore STATUS**
Illuminato con luce verde: è possibile sostituire l'unità

(ad esempio, l'unità è offline e l'alimentazione è spenta).

Illuminato con luce rossa: si è verificato un allarme (codice di allarme diverso da 00-000).

Luce verde lampeggiante lenta (intervallo 1 sec.): l'unità si sta inizializzando.

Luce verde lampeggiante rapida (intervallo 0,25 sec.): aggiornamento del firmware in corso.

Spento: stato normale

⑥ Connettore ODS CONTROL (ADI / alimentazione)

Collegare al connettore DRIVE con lo stesso numero dell'unità disco desiderata dell'unità di espansione ODS-L60E per fornire alimentazione all'unità disco e abilitare la funzione di controllo ADI.

⑦ Connettori FC (Fibre Channel)

Consentono di connettersi ai server e alla memoria esterna tramite switch Fibre Channel.

⑧ Slot per unità

Consentono di installare fino a quattro unità opzionali (ODS-D77F).

⑨ Connettore OUT 1 (interconnessione unità)

Collegare al connettore IN 1 dell'unità master (ODS-L30M) o di un'altra unità di espansione (ODS-L60E/ODS-L100E) mediante il cavo di interconnessione 1 (fornito con l'unità di espansione).

⑩ Connettore OUT 2 (interconnessione unità)

Collegare al connettore IN 2 dell'unità master (ODS-L30M) o di un'altra unità di espansione (ODS-L60E/ODS-L100E) mediante il cavo di interconnessione 2 (fornito con l'unità di espansione).

⑪ Connettore IN 2 (interconnessione unità)

Collegare al connettore OUT 2 dell'unità master (ODS-L30M) o di un'altra unità di espansione (ODS-L60E/ODS-L100E) mediante il cavo di interconnessione 2 (fornito con l'unità di espansione).

⑫ Connettore IN 1 (interconnessione unità)

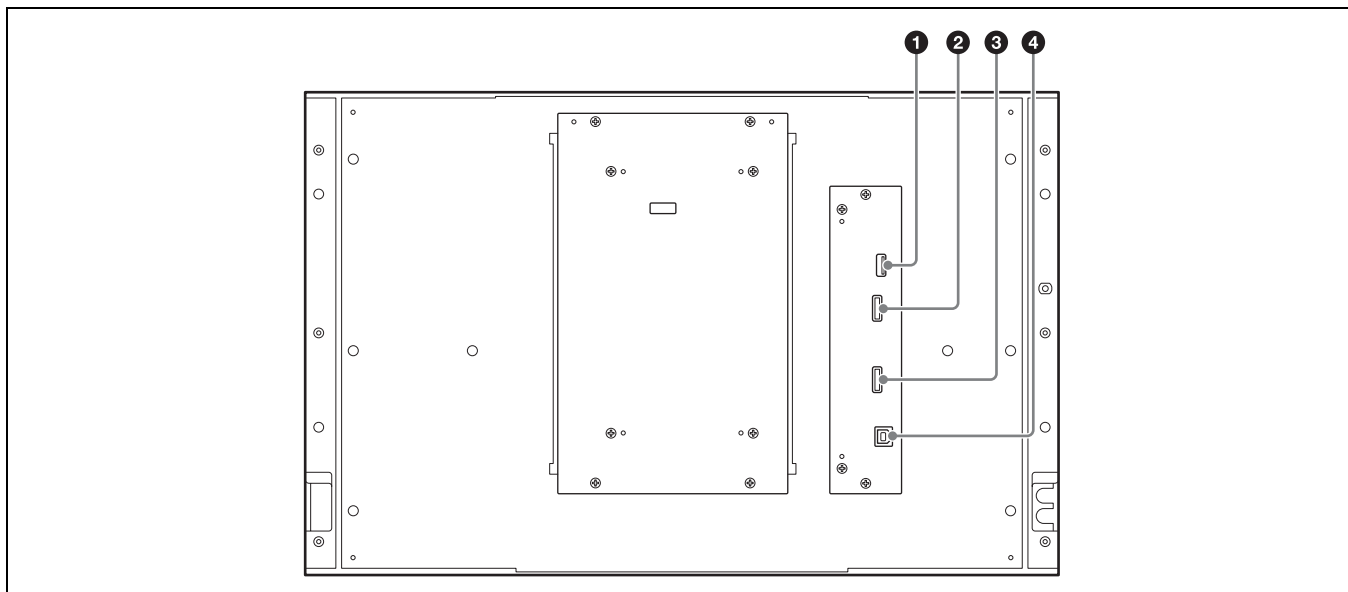
Collegare al connettore OUT 1 dell'unità master (ODS-L30M) o di un'altra unità di espansione (ODS-L60E/ODS-L100E) mediante il cavo di interconnessione 1 (fornito con l'unità di espansione).

ODS-L100E

Pannello anteriore

È identico al pannello anteriore della ODS-L60E (*vedere pagina 124*).

Pannello posteriore



❶ Connettore OUT 1 (interconnessione unità)

Collegare al connettore IN 1 dell'unità master (ODS-L30M) o di un'altra unità di espansione (ODS-L60E/ODS-L100E) mediante il cavo di interconnessione 1 (fornito con l'unità di espansione).

❷ Connettore OUT 2 (interconnessione unità)

Collegare al connettore IN 2 dell'unità master (ODS-L30M) o di un'altra unità di espansione (ODS-L60E/ODS-L100E) mediante il cavo di interconnessione 2 (fornito con l'unità di espansione).

❸ Connettore IN 2 (interconnessione unità)

Collegare al connettore OUT 2 dell'unità master (ODS-L30M) o di un'altra unità di espansione (ODS-L60E/ODS-L100E) mediante il cavo di interconnessione 2 (fornito con l'unità di espansione).

❹ Connettore IN 1 (interconnessione unità)

Collegare al connettore OUT 1 dell'unità master (ODS-L30M) o di un'altra unità di espansione (ODS-L60E/ODS-L100E) mediante il cavo di interconnessione 1 (fornito con l'unità di espansione).

Modo di impiego dei supporti

Supporti utilizzati per la lettura e la scrittura

Questo apparecchio utilizza le seguenti cartucce di archiviazione ottica su dischi e altri supporti simili per la lettura e la scrittura.

Cartuccia	Tipo di supporto	N. di file che possono essere creati
ODC300R Capacità: 300 GB	Write-once	60.000 o 240.000
ODC300RE Capacità: 300 GB	Riscrivibile	60.000 o 240.000
ODC600R Capacità: 600 GB	Write-once	60.000 o 240.000
ODC600RE Capacità: 600 GB	Riscrivibile	60.000 o 240.000
ODC1200RE Capacità: 1,2 TB	Riscrivibile	60.000 o 240.000
ODC1500R Capacità: 1,5 TB	Write-once	60.000 o 240.000

Note

- L'eliminazione di file dai supporti non incrementa lo spazio di archiviazione disponibile per le cartucce di tipo write-once e riscrivibile.
- In caso di cartucce di tipo write-once, prestare attenzione a quanto segue.
 - La riformattazione dei supporti non incrementa lo spazio di archiviazione disponibile.
 - La scrittura ripetuta di file consuma lo spazio scrivibile disponibile (per la scrittura dei dati di gestione dei supporti, ecc.) sui supporti. Se sui supporti non è disponibile spazio scrivibile, la scrittura del file potrebbe essere disabilitata, anche se rimane spazio di archiviazione sufficiente.
 - Non è possibile scrivere alcun file una volta finalizzati i supporti.
- Quando si formatta una cartuccia, è possibile selezionare il numero massimo di file che si possono creare (60.000 o 240.000).
- Quando si riformatta un supporto write-once, viene riportato il numero massimo precedente di file che si possono creare (60.000 o 240.000). Tuttavia, quando si riformatta un supporto riscrivibile, è possibile riselectare il numero massimo di file che si possono creare.
- Se si seleziona 240.000 come numero massimo di file che si possono creare durante la formattazione, il tasso di

ripristino riuscito per la funzione di ripristino dei file sarà inferiore rispetto a quando si seleziona 60.000.

Note sul modo di impiego

Modo di impiego

La cartuccia di archiviazione ottica su dischi contiene 12 dischi in un alloggiamento ed è progettata per consentire un utilizzo privo di rischi causati da polvere o impronte digitali. Tuttavia, se la cartuccia subisce un urto violento, ad esempio se cade, si possono causare danni o graffi dei dischi. Se un disco è graffiato, potrebbe essere impossibile scrivere dati o di leggere i dati scritti sul disco. La cartuccia deve essere maneggiata e conservata con cura.

- Non rimuovere i dischi dalla cartuccia.
- Non smontare la cartuccia.
- Se si modifica l'ordine dei dischi di una cartuccia o vengono sostituiti altri dischi, la cartuccia non viene più riconosciuta dall'apparecchio e non può essere utilizzata.
- Per l'indicizzazione delle cartucce si consiglia l'uso delle etichette adesive fornite. Applicare l'etichetta nella posizione corretta.

Conservazione

- Non conservare le cartucce in un ambiente soggetto alla luce solare diretta o in altri luoghi con temperatura o umidità elevata.
- Non lasciare le cartucce in ambienti in cui potrebbe penetrare polvere.
- Conservare le cartucce nelle custodie.

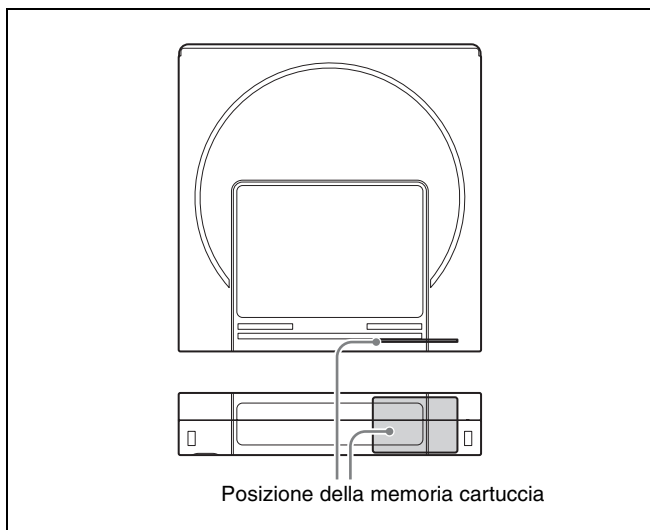
Manutenzione della cartuccia

- Rimuovere polvere e sporcizia dalla parte esterna di una cartuccia con un panno morbido e asciutto.
- Se si forma della condensa, far asciugare per tutto il tempo necessario prima dell'uso.

Memoria cartuccia

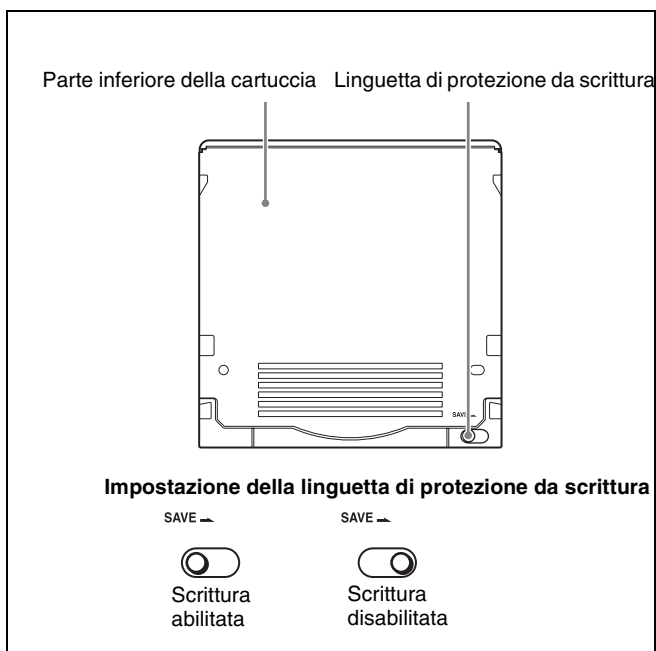
La cartuccia di archiviazione ottica su dischi include la memoria cartuccia, che consente una comunicazione senza contatto con questo apparecchio.

Le informazioni basiche della cartuccia di archiviazione ottica su dischi vengono scritte nella memoria cartuccia. L'utilizzo del software consente abilita la scrittura/lettura dei dati dell'utente in futuro.



Supporto protetto da scrittura

Per evitare la cancellazione accidentale dei contenuti di supporti registrati, far scorrere la linguetta di protezione da scrittura nella parte inferiore della cartuccia (parte posteriore dell'etichetta) nella direzione della freccia, come mostrato nella seguente figura.



È inoltre possibile eseguire le impostazioni di protezione da scrittura dei supporti dall'applicazione host. Se la linguetta di protezione da scrittura o l'applicazione host sono impostate per proibire la scrittura, i supporti rimangono in stato di protezione da scrittura.

Etichette di codici a barre

Il lettore di codici a barre dell'unità utilizza il formato CODE39. Di seguito si indicano le specifiche delle etichette dei codici a barre supportati.



Dimensioni Conformità con le dimensioni del riquadro per le etichette delle cartucce utilizzate.

Etichetta e stampa

Non lucido

Larghezza barre

Larghezza barra stretta e spazio
0,423 mm +0,03/-0,076 mm (larghezza nominale 0,423 mm)

Rapporto fra barre strette e barre larghe

2,75:1

Lunghezza barra

11,1 mm o superiore

Zona quieta (margine di Start/margine di Stop)

6,35 mm o superiore

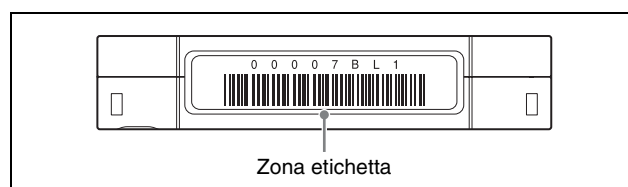
Lunghezza 8 caratteri alfanumerici maiuscoli (esclusi i codici di start e stop)

Cifra di controllo

Nessuna

Note

- Non scrivere sugli spazi vuoti ai due lati del codice a barre. Il codice a barre potrebbe non essere letto correttamente se questi due spazi contengono segni.
- Se la stampa o l'etichetta sono lucide, gli aloni potrebbero impedire la lettura corretta. Per informazioni dettagliate sulle etichette di codici a barre che possono essere lette, contattare il proprio rivenditore o rappresentante Sony.
- Se si desidera utilizzare etichette di codici a barre con nove o più caratteri, contattare il proprio rivenditore o rappresentante Sony.
- Applicare l'etichetta del codice a barre in modo che rimanga completamente all'interno della zona etichetta della cartuccia, senza fuoriuscire, come illustrato nel seguente diagramma. Premere fermamente l'etichetta del codice a barre per impedire che si stacchi.



- Se l'etichetta non è applicata completamente all'interno dell'apposita zona incavata, si potrebbero verificare malfunzionamenti dell'unità durante il caricamento.

Precauzioni relative alle etichette di codici a barre

- Utilizzare esclusivamente etichette di codici a barre conformi alle specifiche Sony.
- Non applicare etichette di codici a barre contenenti Cartridge Memory.
- Non riutilizzare etichette o applicare etichette usate sopra etichette esistenti.
- Rimuovere sempre l'etichetta vecchia prima di applicare l'etichetta nuova. Per la rimozione, staccare l'etichetta lentamente, con l'etichetta perpendicolare al corpo della cartuccia.
- Applicare solo etichette che non lascino residui di adesivo dopo la rimozione (etichette di tipo rimovibile). Qualora rimangano presenti residui di adesivo dopo la rimozione dell'etichetta, toglierli sfregandoli gentilmente con un dito.
- Per la pulizia della zona etichetta, non utilizzare oggetti taglienti, acqua o detergenti chimici.
- Controllare le condizioni dell'etichetta prima di applicarla. Se sono presenti difetti nella stampa dei caratteri o dei codici a barre, la lettura del codice a barre potrebbe non aver luogo correttamente e richiedere tempi di elaborazione più lunghi.
- Quando si staccano etichette dal foglio che le contiene, assicurarsi di non deformarle o causarne l'arricciamento dei bordi.
- Assicurarsi sempre di applicare l'etichetta evitando la formazione di grinze o sacche d'aria.
- Fissare completamente l'etichetta per evitare che si stacchi o si arricci.

Avvio e spegnimento

Nota

Chiudere sempre la stazione I/E all'avvio e allo spegnimento dell'apparecchio.

Avvio

- 1 Controllare che il cavo di alimentazione sia correttamente connesso, quindi accendere l'interruttore di alimentazione principale sul pannello posteriore dell'apparecchio.
- 2 Premere il pulsante On/Standby sul pannello anteriore.

Premendo il pulsante, l'indicatore On/Standby è illuminato con luce verde.
Viene terminata l'inizializzazione e l'apparecchio è pronto per l'uso quando il testo sul display cessa di lampeggiare.

Spegnimento

- 1 Premere il pulsante On/Standby.
- 2 Quando sul display viene visualizzato un messaggio di conferma spegnimento, utilizzare i pulsanti freccia per selezionare [Yes], quindi premere il pulsante ENTER.

Un altro messaggio di conferma è visualizzato se è presente una cartuccia in una delle unità.
- 3 Attendere fino a quando il pulsante On/Standby cessa di lampeggiare con luce verde e rimane acceso con luce rossa, quindi spegnere l'interruttore di alimentazione principale sul pannello posteriore.

Nota

Salvo che in caso di emergenza, spegnere sempre l'apparecchio prima di spegnere l'interruttore principale sul pannello posteriore.

Importazione ed esportazione di cartucce

Apertura della stazione I/E

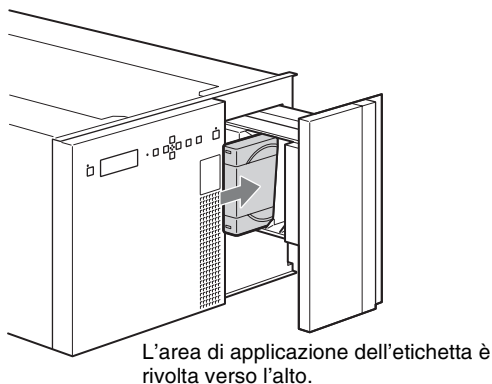
Premere il pulsante I/E STATION sul pannello anteriore per rilasciare il blocco della stazione I/E prima di aprire la stazione I/E. Premendo il pulsante I/E STATION, si rilascia il blocco e l'indicatore I/E STATION lampeggia con luce arancione.

Note

- Prima di aprire la stazione I/E, premere e mantenere premuto il pulsante I/E STATION per almeno un secondo e attendere che l'indicatore I/E STATION lampeggi con luce arancione.
- Qualora la stazione I/E non si sblocchi dopo aver premuto il pulsante I/E STATION, spingere completamente la stazione I/E nell'unità e premere nuovamente il pulsante I/E STATION.

Importazione ed esportazione di una cartuccia

Inserire la cartuccia in uno slot e spingerla completamente fino all'arresto.



Per la rimozione, estrarre la cartuccia verso sinistra mantenendola orizzontale.

Chiusura della stazione I/E

Spingere lentamente la stazione I/E completamente nell'apparecchio e controllare che l'indicatore I/E STATION lampeggi con luce verde.

Note

- Se l'indicatore I/E STATION lampeggia con luce arancione, la stazione I/E non è completamente chiusa.
- Se la stazione I/E rimane aperta per oltre 3 minuti, l'apparecchio emette un segnale acustico di avvertimento.

Registrazione sul database

Dopo aver inserito una cartuccia e aver chiuso la stazione I/E, le informazioni su ciascuna cartuccia sono automaticamente registrate nel database dell'apparecchio. Se sono state inserite più cartucce, la registrazione del database potrebbe richiedere un certo tempo. Al termine della registrazione del database, l'indicatore I/E STATION si illumina con colore verde o arancione.

Configurazione della rete

Dopo aver configurato l'indirizzo IPv4 nel display del pannello anteriore dell'apparecchio, collegare l'apparecchio al computer su cui è installato il browser Web e configurare le impostazioni dell'apparecchio, quindi controllarne lo stato tramite Library Maintenance Web UI.

Configurazione dell'indirizzo IPv4

È necessario impostare correttamente indirizzo IP, subnet mask e gateway predefinito. Network 1 è configurata su DHCP per impostazione predefinita. Network 2 è configurata come descritto di seguito.

Indirizzo IP: 192.168.1.10

Subnet mask: 255.255.255.0

Gateway predefinito: 0.0.0.0

Per configurare le impostazioni di rete, servirsi del display e dei pulsanti sul pannello anteriore dell'apparecchio.

1 Premere il pulsante MENU.

Nel display viene visualizzato il menu.

```
Menu
> 1.Information
  2.Setup
  3.Maintenance
```

2 Utilizzare i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ per selezionare [Setup], quindi premere il pulsante ENTER.

Viene visualizzata la schermata [Setup].

```
Setup
> 1.Network
  2.Control Panel
```

3 Utilizzare i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ per selezionare [Network], quindi premere il pulsante ENTER.

Viene visualizzata la schermata [Network].

```
Network
> 1.Network 1
  2.Network 2
```

4 Utilizzare i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ per selezionare [Network 1], quindi premere il pulsante ENTER.

Viene visualizzata la schermata [Network1].

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
  2.IPv6 Setting
```

5 Utilizzare i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ per selezionare [IPv4 Setting], quindi premere il pulsante ENTER.

Viene visualizzata la seguente schermata. Un'asterisco (*) indica l'impostazione attuale. Per configurare l'indirizzo IPv4, questa opzione deve essere impostata su [Enabled]. Se l'opzione è già impostata su [Enabled], procedere al punto 8.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  Enabled
  *Disabled
```

6 Premere il pulsante ENTER per modificare l'impostazione.

Viene visualizzata la schermata di selezione (ovvero la schermata con il cursore (>)). In questa schermata è possibile modificare l'impostazione.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
> Enabled
  *Disabled
```

7 Utilizzare i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ per selezionare [Enabled], quindi premere il pulsante ENTER.

Viene visualizzata la schermata di conferma (ovvero la schermata senza il cursore (>)).

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  *Enabled
  Disabled
```

8 Controllare che [Enabled] sia selezionato e premere il pulsante $\downarrow$.

Viene visualizzata la seguente schermata.

```
IPv4 Setting
IPv4 DHCP
  Auto
  *Static
```

9 Premere il pulsante ENTER per visualizzare la schermata di selezione.

10 Per utilizzare un indirizzo IP statico, utilizzare i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ per selezionare [Static], quindi premere il pulsante ENTER.

Nota

Per usare DHCP, utilizzare i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ per selezionare [Auto], premere il pulsante ENTER, quindi procedere al punto **17**.

11 Premere il pulsante $\downarrow$.

Viene visualizzata la seguente schermata.

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

12 Premere il pulsante ENTER.

La prima cifra dell'indirizzo IP lampeggia, ad indicare che può essere modificata.

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

13 Immettere l'indirizzo IP.

Utilizzare i pulsanti $\leftarrow$ e $\rightarrow$ per spostare il cursore, quindi utilizzare i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ per modificare i valori.

14 Premere il pulsante ENTER dopo aver immesso l'indirizzo per confermarlo.**15** Premere il pulsante $\downarrow$ per visualizzare [IPv4 Netmask] e configurare la subnet mask utilizzando lo stesso metodo dell'indirizzo IP.

```
IPv4 Setting
IPv4 Netmask
000.000.000.000
```

16 Premere il pulsante $\downarrow$ per visualizzare [IPv4 Gateway] e configurare il gateway predefinito utilizzando lo stesso metodo.

```
IPv4 Setting
IPv4 Gateway
000.000.000.000
```

17 Premere il pulsante $\downarrow$.

Viene visualizzato [IPv4 DNS].

```
IPv4 Setting
IPv4 DNS
Auto
*Static
```

18 Per configurare l'indirizzo DNS, selezionare [Static].

Se l'impostazione attuale è [Auto], visualizzare la schermata di selezione utilizzando il pulsante ENTER, utilizzare i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ per selezionare [Static], quindi premere il pulsante ENTER per confermare.

Nota

Per ottenere automaticamente l'indirizzo DNS, selezionare [Auto]. Confermare l'impostazione utilizzando lo stesso metodo di [Static] e procedere al punto **24**.

19 Premere il pulsante ENTER.

Viene visualizzata la schermata [IPv4 Primary DNS].

```
IPv4 Setting
IPv4 Primary DNS
000.000.000.000
```

20 Premere il pulsante ENTER.

La prima cifra dell'indirizzo IP lampeggia, ad indicare che può essere modificata.

21 Utilizzare i pulsanti $\leftarrow$, $\rightarrow$, $\uparrow$ e $\downarrow$ per immettere l'indirizzo DNS primario e premere il pulsante ENTER.**22** Premere il pulsante $\downarrow$.

Viene visualizzata la schermata [IPv4 Secondary DNS].

23 Immettere l'indirizzo DNS secondario utilizzando lo stesso metodo del punto **20**, quindi premere il pulsante ENTER.**24** Premere il pulsante $\downarrow$.

Viene visualizzata la seguente schermata di conferma.

```
Network1
IPv4 Setting
> Save
Cancel
```

25 Controllare che [Save] sia selezionato e premere il pulsante ENTER.

L'indirizzo IP modificato viene abilitato. Viene visualizzata di nuovo la schermata [Network1].

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
2.IPv6 Setting
```

26 Premere tre volte il pulsante BACK per chiudere il menu.

Gli indirizzi IP possono essere modificati anche nel menu Web (Library Maintenance Web UI).

Per i dettagli sulle modifiche tramite Library Maintenance Web UI, fare riferimento alla Guida di Library Maintenance Web UI.

Visualizzazione del menu Web

È possibile configurare le varie impostazioni dell'apparecchio anche tramite un menu Web (Library Maintenance Web UI).

Ambiente consigliato

Browser Web:

- Per Windows: Google Chrome (ultima versione) o Microsoft Internet Explorer 11
- Per Mac OS: Google Chrome (ultima versione)
- Dimensioni monitor: larghezza minima 1.024 pixel

Per visualizzare il menu Web, immettere il seguente URL `https://(indirizzo IP)/` nel browser Web.

Esempio: `https://192.168.1.10/`



All'apertura di una connessione all'apparecchio con un browser Web viene visualizzato il messaggio "The site's security certificate is not trusted!" relativo al certificato di sicurezza. Controllare che l'indirizzo IP visualizzato nel messaggio sia corretto prima di continuare. Viene quindi visualizzata la schermata di autenticazione. Immettere il seguente nome utente e password.

Utente: admin, Password: ods-130m

Dopo l'autenticazione, verrà visualizzata la schermata Library Maintenance Web UI.

Per i dettagli sulle operazioni su Library Maintenance Web UI, fare riferimento alla Guida di Library Maintenance Web UI.

Note

- Per informazioni dettagliate sulle impostazioni di rete necessarie, rivolgersi al proprio amministratore di rete. Alcune impostazioni di server proxy del browser possono impedire il collegamento del PC all'apparecchio.
- All'apparecchio può essere collegato un solo client Web alla volta.

- Il menu Web supporta un massimo di tre connessioni simultanee (sessioni http). Se sono aperte contemporaneamente due o più sessioni, si verificherà un errore se le operazioni di registrazione entrano in conflitto fra di loro. In tal caso, impartire il comando dell'operazione una seconda volta.
- La libreria non esegue routing di rete. Per ottenere automaticamente un indirizzo di gateway e un indirizzo IP, configurare le impostazioni solo per una singola rete.
- Abilita JavaScript nel browser Web. Se JavaScript non è abilitato non si visualizza la schermata di accesso.
- Impostare il proprio browser Web in modo che accetti i cookie. Se il browser Web non accetta cookie dall'unità non sarà possibile effettuare l'accesso.
- Le preferenze di impostazione del browser Web variano in base al browser Web e alla versione del sistema operativo. Fare riferimento alle istruzioni per l'uso o alla guida del proprio browser Web e sistema operativo.

Installazione del software sui server

Installare il seguente software sui server collegati via Fibre Channel alle unità dischi montate sull'apparecchio. (Per i dettagli sulla configurazione del sistema, vedere *pagina 120*.)

- Optical Disc Archive Software (Windows/Linux)
Software di base che collega i server alle unità dischi e consente la lettura/scrittura di file.
Scaricare il software dal sito Web dei prodotti Sony Professional (*pagina 143*).

Note

- Installare il software prima di collegare i server all'unità dischi.
- Quando si installa il software, si installerà automaticamente Optical Disc Archive Utility.

Ambiente operativo

Il funzionamento di Optical Disc Archive Software è stato verificato per i seguenti ambienti.

Nota

Tale verifica non ne garantisce il funzionamento su tutti i computer.

Windows

Item	Requirement
Processore	Intel Core 2 Duo 2,66 GHz o superiore, o Intel Xeon 2 GHz o superiore
Memoria	Dispositivo a 32 bit: 2 GB o superiore; dispositivo a 64 bit: 2 GB × (numero di dispositivi) o superiore
Spazio sul disco rigido	Dispositivo a 32 bit: 16 GB o superiore; dispositivo a 64 bit: 8 GB + 4 GB × (numero di dispositivi +1) o superiore
Sistema operativo	Fare riferimento al sito Web dei prodotti Sony Professional (<i>pagina 143</i>).

Linux

Item	Requirement
Processore	Intel Core 2 Duo 2,66 GHz o superiore, o Intel Xeon 2 GHz o superiore
Memoria	Dispositivo a 32 bit: 2 GB o superiore; dispositivo a 64 bit: 2 GB × (numero di dispositivi) o superiore
Spazio sul disco rigido	Dispositivo a 32 bit: 16 GB o superiore; dispositivo a 64 bit: 8 GB + 4 GB × (numero di dispositivi +1) o superiore
Sistema operativo	Fare riferimento al sito Web dei prodotti Sony Professional (<i>pagina 143</i>).

Installazione

Scaricare il software dal sito Web dei prodotti Sony Professional (*pagina 143*) e installarlo.

Nota

Se si installa Optical Disc Archive Software quando sono installati certi software antivirus, strumenti spyware o prodotti che includono driver di file system UDF 2.5 o 2.6 diversi da quelli in dotazione standard sul sistema operativo, il funzionamento potrebbe diventare instabile. Se il funzionamento di Optical Disc Archive Software diventa instabile, verificare la presenza di tali software e le loro impostazioni, quindi modificarne le impostazioni.

Precauzioni per l'installazione in Windows

- Se è già installata una versione precedente di Optical Disc Archive Software, disinstallarla prima di installare la nuova versione. Rimuovere [Sony Optical Disc Archive Software] da [Installazione applicazioni] nel pannello di controllo, quindi riavviare il computer.
- Quando si esegue l'installazione, tutte le voci precedentemente configurate tornano alle impostazioni iniziali.

Precauzioni per l'installazione in Linux

- Se si collegano le unità dischi ai server prima di installare Optical Disc Archive Software, il funzionamento dei server potrebbe essere compromesso. Per evitare questo, accertarsi di installare Optical Disc Archive Software prima di collegare le unità dischi ai server.
Se si riscontra un problema con i server, spegnerli, scollegare le unità dischi dai server, riavviare i server e installare Optical Disc Archive Software. Quindi, collegare le unità dischi ai server.
- Quando si installano aggiornamenti, Optical Disc Archive Software viene sovrascritto. Tutte le voci precedentemente configurate tornano alle impostazioni predefinite.

- Se si installa una nuova versione di Optical Disc Archive Software dopo aver disinstallato una versione precedente, tutte le voci precedentemente configurate tornano alle impostazioni predefinite.

Utilizzo dei menu

Il menu visualizzato sul pannello anteriore dell'apparecchio consente di configurare varie impostazioni di base per l'apparecchio e visualizzarne lo stato. Utilizzare i pulsanti del pannello anteriore per agire sul menu.

Operazioni di base dei menu

Questa sezione descrive le operazioni di base del menu, utilizzando come esempio l'impostazione del segnale acustico di avviso.

1 Premere il pulsante MENU.

Viene visualizzata la schermata di selezione del menu.

```
Menu
  1.Information
> 2.Setup
  3.Maintenance
```

2 Spostare il cursore (>) utilizzando i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ e selezionare [Setup], quindi premere il pulsante ENTER.

Appare il menu secondario della voce selezionata.

```
Setup
> 1.Network
  2.Control Panel
```

3 Utilizzare i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ per selezionare [Control Panel], quindi premere il pulsante ENTER.

Appare il menu secondario della voce selezionata.

```
Control Panel
> 1.Buzzer
  2.LCD Backlight
  3.LCD Brightness
```

4 Utilizzare i pulsanti $\uparrow$ e $\downarrow$ per selezionare [Buzzer], quindi premere il pulsante ENTER.

Appare l'impostazione attuale della voce selezionata. L'asterisco (*) indica l'impostazione attuale.

```
Control Panel
Buzzer
  ON
  *OFF
```

5 Premere il pulsante ENTER.

Viene visualizzato il cursore (>), ad indicare che è possibile modificare l'impostazione.

```
Control Panel
Buzzer
ON
>*OFF
```

- 6** Utilizzare i pulsanti ↑ e ↓ per spostare il cursore (>).

Pannello di controllo

```
Control Panel
Buzzer
> ON
*OFF
```

- 7** Premere il pulsante ENTER per confermare l'impostazione.

Il cursore scompare e l'impostazione è confermata.

```
Control Panel
Buzzer
*ON
OFF
```

- 8** Premere il pulsante MENU per tornare alla schermata di selezione del menu (punto 1).

Premendo il pulsante BACK si torna immediatamente alla schermata precedente.

- 9** Premere nuovamente il pulsante MENU per chiudere il menu.

Elenco dei menu

Menu	Descrizione
Information	Visualizza i valori attuali di ciascuna impostazione del menu [Setup] e i seguenti parametri IPv6. IPv6 Temporary: Visualizza l'indirizzo IPv6 temporaneo IPv6 Link-Local: Visualizza l'indirizzo IPv6 locale rispetto al collegamento
Setup	Consente di configurare le impostazioni dell'apparecchio.

Menu	Descrizione
1.Network	Configura le impostazioni di rete. Network 1 / Network 2: Configura le impostazioni delle due porte di rete della ODS-L30M. IPv4 Enabled / IPv6 Enabled: Abilita o disabilita IPv4 o IPv6. IPv4 DHCP / IPv6 DHCP: Specifica se utilizzare DHCP per l'indirizzo IPv4 o IPv6 IP o se utilizzare un indirizzo statico. IPv4 Address / IPv6 Address: Configura l'indirizzo IPv4 o IPv6. IPv4 Netmask: Configura la subnet mask IPv4. IPv6 Subnetprefix: Configura il subnet prefix IPv6. IPv4 Gateway / IPv6 Gateway: Configura il gateway predefinito IPv4 e IPv6. IPv4 DNS / IPv6 DNS: Specifica se ottenere automaticamente DNS IP IPv4 o IPv6 IP o se utilizzare un indirizzo statico. IPv4 Primary DNS / IPv6 Primary DNS: Configura il DNS primario IPv4 e IPv6. IPv4 Secondary DNS / IPv6 Secondary DNS: Configura il DNS secondario IPv4 e IPv6.
2.Control Panel	Configura le impostazioni del pannello di controllo. Buzzer: Attiva o disattiva il segnale acustico d'avviso. LCD Backlight: Specifica se disattivare automaticamente la retroilluminazione LCS o se lasciarla sempre attivata. LCD Brightness: Imposta la luminosità del display LCD su Low, Middle o High.
Maintenance	Menu utilizzato per la manutenzione.
1.Configuration	Factory Setting: Ripristina le configurazioni dell'apparecchio ai valori predefiniti.
2.Diagnostic	Menu riservato al personale di assistenza.
3.Power Management	Reboot: Riavvia l'apparecchio.
4.Service	Menu riservato al personale di assistenza.

Messaggi

In caso di problemi all'hardware dell'apparecchio o alle impostazioni di configurazione, l'indicatore ALARM sul pannello anteriore dell'apparecchio lampeggia con colore rosso (errore) o arancione (avvertimento) e sul display viene visualizzato un messaggio. I messaggi non sono visualizzati durante l'utilizzo dei menu. I messaggi sono

visualizzati dopo aver premuto il pulsante BACK per uscire dal menu.

Qualora sia visualizzato un messaggio, fare riferimento a quanto segue per risolvere il problema. Se il messaggio d'avvertimento persiste, rivolgersi al proprio rappresentante Sony.

Messaggio	Descrizione
ERROR POWER OFF REQUEST	È richiesto il riavvio del sistema. Spegnerne e quindi riaccendere l'apparecchio.
ERROR BOOT OS	Si è verificato un errore durante l'avvio. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
ERROR CALIBRATION	Si è verificato un errore durante la calibrazione del sistema di trasporto. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
ERROR FIRMWARE UPDATE REQUEST	È necessario un aggiornamento del firmware. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
ERROR SERVICE MAINTENANCE REQUEST	Verificare che il cavo di interconnessione unità sia collegato correttamente. Se il collegamento del cavo non presenta problemi, è necessario un intervento di manutenzione da parte del personale di assistenza. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
ERROR	È stato rilevato un errore durante le operazioni di controllo. Controllare [Library Status] nella scheda [System] di Library Maintenance Web UI.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : OFF	È spento un alimentatore configurato per il monitoraggio nelle impostazioni di configurazione dell'alimentazione. Controllare [Power Configuration Settings] nella scheda [Others] della schermata [Configuration] in Library Maintenance Web UI. In caso di problemi con le impostazioni, rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : NG	È stato rilevato un errore nell'alimentazione. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : CC	L'alimentatore è acceso ma non è configurato per il monitoraggio nelle impostazioni di configurazione dell'alimentazione. Selezionare una casella di controllo per gli alimentatori da utilizzare in [Power Configuration Settings] nella scheda [Others] della schermata [Configuration] in Library Maintenance Web UI.
WARNING HIGH TEMP	La temperatura interna dell'apparecchio è eccessiva. L'apparecchio continuerà a funzionare, ma il suo uso prolungato potrebbe causare l'aumento della temperatura interna dell'apparecchio e delle unità, con conseguente possibilità di guasto o persino di incendio. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
WARNING FAN	La velocità di rotazione del ventilatore è diminuita. L'apparecchio continuerà a funzionare, ma il suo uso prolungato potrebbe causare l'aumento della temperatura interna dell'apparecchio e delle unità, con conseguente possibilità di guasto o persino di incendio. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
WARNING SSD	La diagnosi SSD ha determinato la necessità di sostituzione. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
WARNING LITHIUM BATTERY	È necessario sostituire la batteria al litio. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
CLOSE I/E STATION	La stazione I/E è rimasta aperta per 3 minuti. Assicurarsi che la stazione I/E sia completamente chiusa. Se appare il messaggio dopo aver chiuso la stazione I/E, rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
I/E STATION LOCKED	Il pulsante della stazione I/E è stato premuto mentre la stazione I/E era bloccata da un'applicazione, oppure era configurata per essere utilizzata come slot di archiviazione. Rilasciare il blocco tramite l'applicazione, quindi premere il pulsante I/E STATION. Se non è possibile rilasciare il blocco tramite l'applicazione, rilasciarlo utilizzando Library Maintenance Web UI.

Messaggio	Descrizione
I/E STATION BUSY	È stato premuto il pulsante I/E STATION durante l'accesso alla stazione I/E. Attendere che l'indicatore I/E STATION lampeggi con luce verde o arancione prima premere il pulsante I/E STATION.
I/E STATION NOT UNLOCKED	Lo sblocco della stazione I/E non è riuscito. Spingere completamente la stazione I/E nell'unità in modo che sia completamente inserita, quindi provare a premere di nuovo il pulsante I/E STATION.
I/E STATION HALF-CLOSED	La stazione I/E non è completamente inserita. Spingere completamente la stazione I/E nell'unità in modo che sia completamente inserita, quindi provare a premere di nuovo il pulsante I/E STATION.
PUSH I/E STATION	La stazione I/E è rimasta in uno stato di inserimento incompleto per almeno 15 secondi. Spingere completamente la stazione I/E nell'unità in modo che sia completamente inserita.
REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	I processi di importazione della stazione I/E non possono essere eseguiti a causa della presenza di una cartuccia nel meccanismo di trasporto. Spostare la cartuccia dal meccanismo di trasporto a uno slot vuoto mediante la scheda [Move Cartridge] di Library Maintenance Web UI.
ERROR CALIBRATION REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	La calibrazione del meccanismo di trasporto non è riuscita a causa della presenza di una cartuccia nel meccanismo di trasporto stesso. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
I/E STATION OPENED	È stata emessa una richiesta di movimento slot I/E durante l'apertura della stazione I/E. Chiudere la stazione I/E o controllare i controlli dell'applicazione.
UNIT CONFIG CHANGE REQUEST	È stata rilevata una modifica nella configurazione dell'unità. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.
DIAGNOSTIC LIBRARY REQUEST	È necessaria una diagnostica della libreria. Rivolgersi al proprio rappresentante Sony.

Note importanti sul funzionamento

Utilizzo e conservazione

Proteggere l'apparecchio da urti eccessivi

Potrebbero danneggiarsi i meccanismi interni o il corpo stesso dell'apparecchio.

Non coprire l'apparecchio durante il funzionamento

Se l'apparecchio viene coperto durante l'utilizzo, le temperature interne potrebbero raggiungere valori elevati, causando guasti e malfunzionamenti.

Dopo l'uso

Spegnere l'apparecchio mediante il pulsante On/Standby. Se si prevede di non utilizzare l'apparecchio per un lungo periodo di tempo, spegnere anche l'interruttore POWER situato sul pannello posteriore.

Spedizione

- Spegnere sempre l'apparecchio.
- In caso di spedizione o trasporto mediante camion, nave aereo o altro mezzo, imballare sempre l'apparecchio nel suo imballo di spedizione.
- Se l'apparecchio viene spedito senza essere adeguatamente imballato e protetto si potrebbero danneggiare i suoi componenti interni. Facendo riferimento al manuale di installazione, ripristinare tutte le viti e i blocchi per garantire la sicurezza del trasporto.
- Se l'apparecchio dovesse essere trasportato senza aver prima rimosso l'unità dischi, è possibile che l'apparecchio e l'unità dischi possano danneggiarsi. Rimuovere sempre l'unità dischi dall'apparecchio prima di procedere con il trasporto.

Manutenzione dell'apparecchio

Se sporco, pulire l'apparecchio con un panno morbido e asciutto.

In casi estremi, utilizzare un panno inumidito in una soluzione detergente non aggressiva e asciugare quindi con un panno asciutto. Non utilizzare mai solventi organici, ad esempio alcool o diluenti, per evitare di scolorire o danneggiare la finitura superficiale dell'apparecchio.

In caso di problemi di funzionamento

In caso di problemi, rivolgersi al proprio rappresentante o assistenza tecnica Sony.

Luoghi in cui utilizzare o conservare l'apparecchio

Conservare su una superficie piana e in un ambiente ben ventilato. Evitare di utilizzare o conservare l'apparecchio nei luoghi indicati di seguito:

- In presenza di temperature eccessivamente alte o basse (campo di temperatura di funzionamento: 5 °C a 35 °C). Si osservi che in estate o in climi caldi, la temperatura all'interno di un veicolo con i finestrini chiusi può facilmente raggiungere e superare i 50 °C.
- In luoghi umidi o polverosi.
- In luoghi in cui l'apparecchio potrebbe essere esposto alla pioggia.
- In luoghi soggetti a forti vibrazioni.
- In prossimità di forti campi magnetici.
- In prossimità di trasmettitori radio o televisivi che producono forti campi elettromagnetici.
- In esposizione alla luce solare diretta o in prossimità di fonti di riscaldamento per periodi prolungati.

Per evitare interferenze elettromagnetiche causate da dispositivi di comunicazione portatili

L'utilizzo di telefoni portatili e di altri dispositivi di comunicazione in prossimità di questo apparecchio potrebbe dar luogo a malfunzionamenti.

Si consiglia di spegnere eventuali dispositivi di comunicazione portatili nelle vicinanze di questo apparecchio.

Condensazione

Qualora l'unità venga spostata rapidamente da un ambiente freddo a uno caldo, oppure se la temperatura ambiente dovesse aumentare improvvisamente, è possibile che si formi umidità sulle superfici esterne dell'unità e/o al suo interno. Questo fenomeno è denominato condensazione. In tal caso, spegnere l'unità ed attendere la scomparsa della condensazione prima di riavviarla. L'utilizzo dell'unità mentre è presente condensazione può causare danni all'unità stessa.

Sostituzione dei componenti

Il meccanismo di trasporto è considerato un componente di consumo che dovrà essere sostituito periodicamente. Se l'apparecchio viene utilizzato a temperatura ambiente, il ciclo normale di sostituzione sarà di circa 5 anni. Tuttavia, ciò ha un valore puramente indicativo e non implica alcuna garanzia sulla durata di vita prevista di questi componenti. Per ulteriori informazioni sulla sostituzione dei componenti, rivolgersi al proprio rivenditore.

Display LCD

È inoltre possibile che, dopo un lungo periodo d'uso, alcuni pixel si “blocchino” spontaneamente a causa delle caratteristiche fisiche del display a cristalli liquidi. Questi fenomeni non possono essere considerati malfunzionamenti.

Precauzioni per le unità

Urti e vibrazioni

Non sottoporre l'unità a urti quando si inserisce una cartuccia.

Trasporto dell'unità

Prima di trasportare l'unità, assicurarsi di espellere la cartuccia.

Tempo di lettura del file

- Quando si accede a vari file contemporaneamente, potrebbe avvenire frequentemente il cambio di disco. In tal modo si riduce la velocità di trasferimento dei file, aumentando nettamente il tempo totale di funzionamento.
- Anche quando si accede ad un solo file potrebbe verificarsi il cambio di disco, a seconda della posizione di registrazione della cartuccia. Occorre del tempo prima che inizi la lettura del file

Tempo di scrittura del file

- Quando si scrive contemporaneamente un gran numero di file di piccole dimensioni (ad esempio, 100 MB o meno), il completamento della scrittura richiede del tempo. In tal caso, impostando la modalità operativa su “Synchronize management data to the media immediately after completion of file writing: Off” si incrementano in modo efficiente le prestazioni di scrittura e l'efficienza dei supporti. Tuttavia, in caso di anomalia (ad esempio, mancata alimentazione) durante l'operazione di scrittura, la possibilità di recupero dei file è ridotta.

Marchi di fabbrica e licenze

Licenze Open Source Software

In conformità agli opportuni accordi di licenza fra Sony e i detentori dei diritti di copyright del software, questo prodotto utilizza Open Source Software.

Per soddisfare i requisiti stabiliti dai detentori dei diritti di copyright sul software, Sony è tenuta a informare gli utenti del contenuto di dette licenze.

Per maggiori informazioni sul contenuto di dette licenze, fare riferimento alla sezione “*Open Source Software License List*” nella Guida del software.

Come ottenere software protetto da licenze GPL/LGPL/GPL V3

Questo prodotto utilizza software concesso in uso ai sensi delle licenze GPL versione 2 / LGPL versione 2.1 / GPL versione 3. L'utente ha il diritto di ottenere, modificare e distribuire il codice sorgente di questo software.

Il codice sorgente può essere scaricato dai server Internet di Sony. Per ulteriori informazioni su come scaricarlo, visitare il sito:

<http://oss.sony.net/Products/Linux/common/search.html>

Non possiamo rispondere a eventuali domande relative al contenuto del codice sorgente.

Specifiche

Sono indicate le specifiche dell'unità ODS-L30M. Per le specifiche delle unità ODS-L60E, ODS-L100E, ODBK-101, ODBK-102, ODBK-103 e ODS-D77F fare riferimento alle corrispondenti guide operative.

Generali

Alimentazione	da 100 V a 240 Vca, 50 Hz/60 Hz
Assorbimento di corrente	Da 1,4 A a 3,2 A
Temperatura di utilizzo	da 5 °C a 35 °C
Temperatura di immagazzinamento	da -20 °C a +55 °C
Umidità di funzionamento	da 20% a 80% (umidità relativa)
Umidità di immagazzinamento	inferiore al 75%
Peso	30 kg (senza unità dischi e cartucce)
Dimensioni (L × A × P)	445 × 308 × 940 mm (senza sporgenze)

Ingressi/uscite

☐ (Rete)	Jack modulare tipo RJ-45 (2) 1000BASE-T: Standard IEEE 802.3ab 100BASE-Tx: Standard IEEE 802.3u
----------	---

Accessori

Manuale per l'uso (1)
Kit di montaggio in rack (1 set)
Rondelle piane per montaggio in rack (4)
Viti (B4 × 10) (8)
Viti (B5 × 16) (8)
Staffe di montaggio (2)
Spessimetro 025 (3)
Spessimetro 050 (3)
Spessimetro 100 (3)
Supporto altezza 025 (3)
Supporto altezza 050 (3)
Supporto altezza 100 (3)
Etichette stazione I/E (1 set)

Opzioni

Alimentatore ODBK-101 / ODBK-102
Kit di estensione ODBK-103
Opzione per unità ODS-L30M (non compatibile con i modelli con numero di serie compreso fra 10001 e 10999 e fra 50001 e 50999)
Il numero di serie dell'unità ODS-L30M è reperibile sulla targhetta sul pannello posteriore.

Cartuccia di archiviazione ottica su dischi

- ODC300R (300 GB, tipo write-once)
- ODC300RE (300 GB, tipo riscrivibile)
- ODC600R (600 GB, tipo write-once)
- ODC600RE (600 GB, tipo riscrivibile)
- ODC1200RE (1,2 TB, tipo riscrivibile)
- ODC1500R (1,5 TB, tipo write-once)

Le caratteristiche di progettazione e di natura tecnica sono soggette a modifiche senza preavviso.

Note

- Verificare sempre che l'apparecchio stia funzionando correttamente prima di usarlo. LA SONY NON SARÀ RESPONSABILE DI DANNI DI QUALSIASI TIPO, COMPRESI, MA SENZA LIMITAZIONE A, RISARCIMENTI O RIMBORSI A CAUSA DELLA PERDITA DI PROFITTI ATTUALI O PREVISTI DOVUTA A GUASTI DI QUESTO APPARECCHIO, SIA DURANTE IL PERIODO DI VALIDITÀ DELLA GARANZIA SIA DOPO LA SCADENZA DELLA GARANZIA, O PER QUALUNQUE ALTRA RAGIONE.
- SONY NON SARÀ RESPONSABILE PER RICHIESTE O RICORSI DI NESSUN TIPO PRESENTATI DA UTENTI DI QUESTO APPARATO O DA TERZI.
- SONY NON SARÀ RESPONSABILE PER LA CANCELLAZIONE O LA MANCATA CONTINUAZIONE PER QUALSIASI CAUSA O CIRCOSTANZA DI SERVIZI CORRELATI A QUESTO APPARATO.

SONY NON SARÀ RESPONSABILE DI DANNI DI QUALSIASI TIPO RISULTANTI DALLA MANCATA IMPLEMENTAZIONE DI MISURE DI PROTEZIONE ADEGUATE SUI DISPOSITIVI DI TRASMISSIONE, DA INEVITABILI DIFFUSIONI DI DATI RISULTANTI DALLE SPECIFICHE TECNICHE DELLA TRASMISSIONE O DA PROBLEMATICHE RELATIVE ALLA SICUREZZA DI QUALSIASI TIPO.

In base all'ambiente operativo, terze parti non autorizzate alla rete potrebbero essere in grado di accedere all'unità. Quando si collega l'unità alla rete, accertarsi di confermare che la rete è efficacemente protetta.

Per garantire la protezione, quando si utilizza l'unità collegata alla rete, si consiglia di accedere alla finestra di controllo tramite un browser Web e di modificare le impostazioni della limitazione di accesso rispetto ai valori predefiniti (fare riferimento alla scheda Others della schermata Configuration della Guida di Library Maintenance Web UI).

Si consiglia anche di modificare la password regolarmente.

Download del software

Quando l'unità viene utilizzata in collegamento con un PC, scaricare driver, plug-in e software applicativo necessari del dispositivo dai seguenti siti web.

Sito web per i prodotti business di Sony:

Stati Uniti	http://pro.sony.com
Canada	http://www.sonybiz.ca
America Latina	http://sonypro-latin.com
Europa	http://www.pro.sony.eu/pro
Medio oriente, Africa	http://sony-psmea.com
Russia	http://sony.ru/pro/
Brasile	http://sonypro.com.br
Australia	http://pro.sony.com.au
Nuova Zelanda	http://pro.sony.co.nz
Giappone	http://www.sonybsc.com
Asia e Pacifico	http://pro.sony-asia.com
Corea	http://bp.sony.co.kr
Cina	http://pro.sony.com.cn
India	http://pro.sony.co.in

Software Sony Creative, pagina di download del software:

[http://www.sonycreativesoftware.com/download/
software_for_sony_equipment](http://www.sonycreativesoftware.com/download/software_for_sony_equipment)

Antes de poner en funcionamiento la unidad, lea detenidamente este manual y consérvelo para referencias futuras.

ADVERTENCIA

Para reducir el riesgo de electrocución, no exponga este aparato a la lluvia ni a la humedad.

Para evitar descargas eléctricas, no abra el aparato. Solicite asistencia técnica únicamente a personal especializado.

ESTE APARATO DEBE CONECTARSE A TIERRA. (ODS-L30M/L60E)

Al instalar la unidad, incluya un dispositivo de desconexión fácilmente accesible en el cableado fijo, o conecte el enchufe de alimentación a una toma de corriente fácilmente accesible cerca de la unidad. Si se produce una anomalía durante el funcionamiento de la unidad, accione el dispositivo de desconexión para desactivar la alimentación o desconecte el enchufe de alimentación. (ODS-L30M/L60E)

ADVERTENCIA (ODS-L30M/L60E)

1. Utilice un cable de alimentación (cable de alimentación de 3 hilos)/conector/enchufe del aparato recomendado con toma de tierra y que cumpla con la normativa de seguridad de cada país, si procede.
2. Utilice un cable de alimentación (cable de alimentación de 3 hilos)/conector/enchufe del aparato que cumpla con los valores nominales correspondientes en cuanto a tensión e intensidad.

Si tiene alguna duda sobre el uso del cable de alimentación/conector/enchufe del aparato, consulte a un técnico de servicio cualificado.

IMPORTANTE (ODS-L30M/L60E/L100E)

La placa de características está situada en la parte posterior.

IMPORTANTE (ODS-D77F)

La placa de características está situada en el lateral.

Para los clientes de Europa, Australia y Nueva Zelanda

ADVERTENCIA

Éste es un producto de clase A. En un ambiente doméstico, este producto puede causar interferencias radioeléctricas, en cuyo caso el usuario puede tener que tomar las medidas adecuadas.

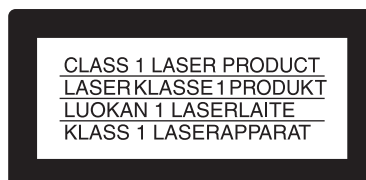
Para los clientes de Europa

Este producto ha sido fabricado por, o en nombre de Sony Corporation, 1-7-1 Konan Minato-ku Tokyo, 108-0075 Japón. Las consultas relacionadas con la conformidad del producto basadas en la legislación de la Unión Europea deben dirigirse al representante autorizado, Sony Deutschland GmbH, Hedelfinger Strasse 61, 70327 Stuttgart, Alemania. Para cualquier asunto relacionado con el servicio o la garantía, por favor diríjase a la dirección indicada en los documentos de servicio o garantía adjuntados con el producto.

Este dispositivo no debe utilizarse en zonas residenciales.

Precaución (ODS-D77F)

La utilización de controles o ajustes, o la realización de procedimientos no especificados aquí pueden resultar en la exposición a radiación peligrosa.



Este sistema de archivos de disco óptico está clasificada como un PRODUCTO LÁSER DE CLASE 1. (ODS-D77F)

Propiedades del diodo laser (ODS-D77F)

Longitud de onda: 400 a 410 nm

Duración de la emisión: Continua

Potencia de salida láser: 280 mW (máx. de pico de pulso), 150 mW (máx. de onda continua)

Estándar: IEC60825-1 (2007)

Tabla de contenidos

Introducción.....	146
Ejemplo de configuración del sistema.....	147
Nombre y función de las piezas.....	148
ODS-L30M.....	148
ODS-L60E.....	151
ODS-L100E.....	154
Manejo de soportes.....	155
Soportes utilizados para la lectura y la escritura	155
Notas acerca del manejo	155
Memoria del cartucho.....	155
Protección contra borrado accidental de soportes	156
Etiquetas de códigos de barras	156
Inicio y apagado	157
Inicio.....	157
Apagado.....	157
Importación y exportación de cartuchos	158
Apertura de la estación I/E	158
Importación y exportación de un cartucho	158
Registro en la base de datos.....	158
Configuración de la red	159
Configuración de la dirección IPv4.....	159
Visualización de la pantalla web	161
Instalación del software en servidores	162
Entorno operativo	162
Instalación	162
Utilización del menú.....	163
Utilización básica del menú.....	163
Lista de menús	164
Mensajes	165
Notas importantes sobre el funcionamiento	167
Condensación	167
Sustitución de piezas	167
LCD	167
Precauciones para las unidades de disco	168
Marcas comerciales y licencias	168
Licencias de software libre.....	168
Obtención de software con licencias GPL/LGPL/ GPL V3	168
Especificaciones	169

ES

Introducción

La unidad principal PetaSite ODS-L30M es una unidad principal de biblioteca que admite hasta dos unidades de disco opcionales (ODS-D77F) y hasta 30 cartuchos de archivo en disco óptico. Si se instala un kit de extensión ODBK-103 (no suministrado) a la unidad principal ODS-L30M, la PetaSite se puede vincular a varias unidades de extensión, lo que le permite ampliar el sistema de acuerdo con sus necesidades. Al ofrecer una manera eficiente de lectura y escritura de datos en varios cartuchos de archivo en disco óptico, la ODS-L30M permite optimizar el archivo de datos y la recuperación de datos archivados (mediante la carga a un servidor).

Entre las unidades de extensión se incluyen la unidad de disco PetaSite ODS-L60E y las unidades de extensión de cartucho PetaSite ODS-L100E. La ODS-L60E admite hasta cuatro unidades de disco opcionales (ODS-D77F) y hasta 61 cartuchos de archivo en disco óptico. La ODS-L100E admite hasta 101 cartuchos de archivo en disco óptico.

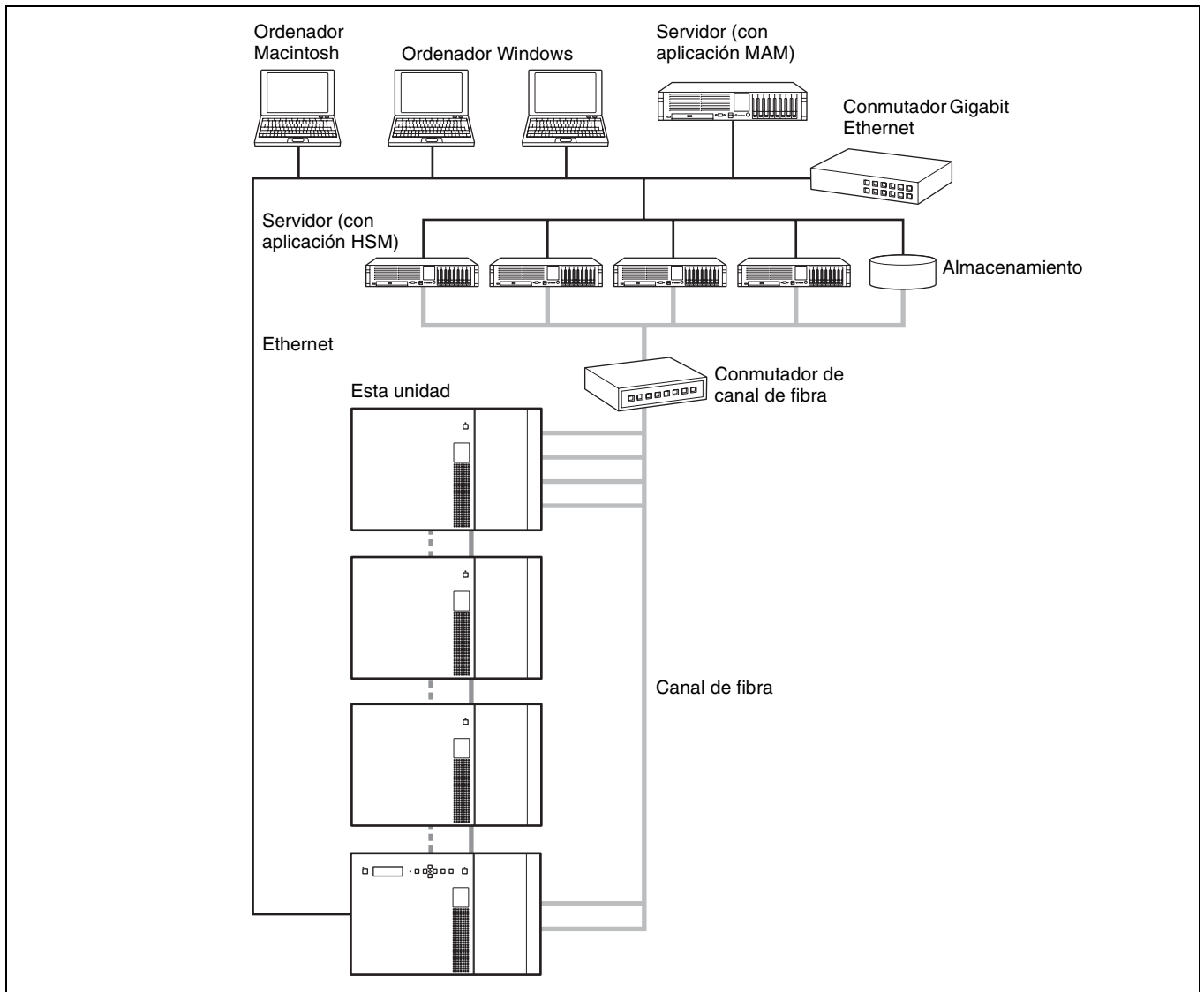
Las unidades de archivo en disco óptico ODS-D77F que pueden montarse en la ODS-L30M y la ODS-L60E están equipadas con dos cabezales y están diseñadas específicamente para utilizarlas con las unidades ODS-L30M/L60E. Además, la compatibilidad con canal de fibra permite un procesamiento a alta velocidad.

También es posible instalar la fuente de alimentación opcional ODBK-101 (para el modelo ODS-L30M) o la ODBK-102 (para el modelo ODS-L60E) para ofrecer la funcionalidad de alimentación redundante y permitir las mismas capacidades de intercambio que se consiguen con las unidades de disco. Esto asegura un funcionamiento continuo en caso de fallo de las unidades de alimentación o de las unidades de disco en los sistemas que exigen un alto grado de fiabilidad.

En este manual, la PetaSite (que incluye la unidad principal y todos los kits de extensión o unidades de extensión adicionales) en la están instaladas las unidades de disco se denominará “la unidad”, y los cartuchos de archivo en disco óptico se denominarán “cartuchos”.

Ejemplo de configuración del sistema

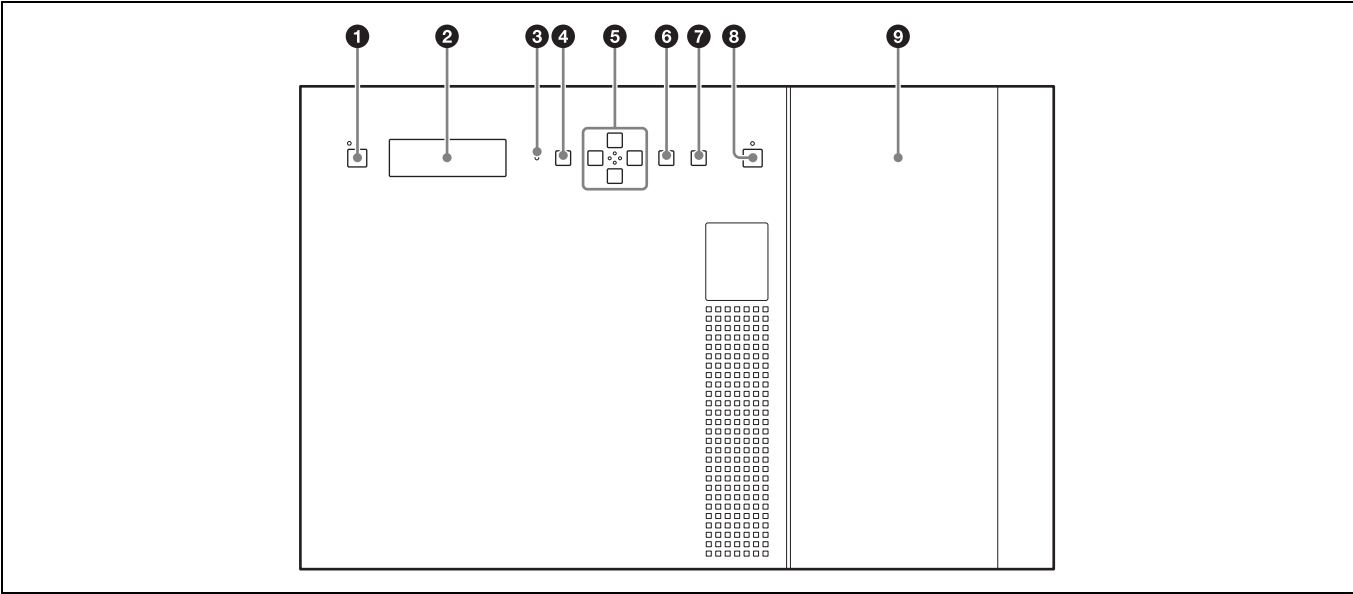
Los siguientes tipos de sistemas se pueden construir con la unidad en combinación con equipo relacionado.



Nombre y función de las piezas

ODS-L30M

Panel frontal



Nota

El panel frontal de la ODS-L30M puede extraerse e intercambiarse con los paneles frontales de las unidades de extensión ODS-L60E/L100E. La ODS-L30M se instalará en la parte inferior de una pila de varias unidades, pero su panel frontal puede instalarse en una unidad de extensión cuya altura permita un funcionamiento más fácil.

1 Botón e indicador de encendido/en espera

Alterna la unidad entre los modos de encendido y en espera si los interruptores de alimentación principal del panel trasero están encendidos. Pulse el botón cuando esté encendida para cambiar al modo en espera. Aparece en la pantalla un mensaje de confirmación de apagado. Utilice el botón de flecha para seleccionar “Yes” y, a continuación, pulse el botón ENTER.

El indicador se enciende de color verde cuando la unidad está encendida, y de color rojo cuando está en modo en espera. El indicador parpadea en color verde cuando la unidad se está apagando.

Notas

- Si el botón se pulsa cuando hay un cartucho en la unidad, aparece un mensaje de confirmación en la pantalla. Expulse el cartucho de la unidad antes de continuar.

- Cierre todas las aplicaciones conectadas antes de apagar la unidad. Al apagar se desconecta la alimentación de la unidad y cualquier dato que se esté grabando se perderá.

2 Pantalla

Muestra el estado de la unidad, los menús de configuración, los mensajes, etc.

3 Indicador ALARM

Parpadea cuando se produce un error o una advertencia.

Parpadeo en rojo: error

Parpadeo en naranja: advertencia

4 Botón MENU

Al pulsar este botón, se muestra un menú en la pantalla.

5 Botones de flechas

Permite el desplazamiento por los menús en pantalla y ajusta los valores de entrada.

6 Botón ENTER

Pasa a la página siguiente o confirma los valores de entrada al realizar operaciones en los menús.

7 Botón BACK

Vuelve a la página anterior o cancela los valores de entrada al realizar operaciones en los menús.

8 Botón e indicador I/E STATION

Libera el bloqueo de la estación I/E. El bloqueo puede liberarse cuando el indicador se enciende de color verde o naranja. El indicador comienza a parpadear en color naranja cuando el bloqueo se libera.

La estación I/E se bloquea de nuevo si no se abre dentro de un plazo de diez segundos a partir de la liberación del bloqueo.

Si la estación I/E permanece abierta durante más de tres minutos, el indicador parpadea en rojo.

Nota

Puede seleccionar si utilizar la estación I/E de cada unidad como ranura I/E para importar/exportar cartuchos o como ranura de almacenamiento (importar/exportar estará desactivado).

El bloqueo de la estación I/E no puede liberarse en unidades donde la estación I/E se utiliza como ranura de almacenamiento.

Indicador	Significado
Apagado	El bloqueo no podrá liberarse en las siguientes circunstancias. • Si la estación I/E se bloquea desde una aplicación. • Si la estación I/E se utiliza como ranura de almacenamiento.
Verde (parpadeando)	El bloqueo no puede liberarse porque se está accediendo a la estación I/E.
Verde	El bloqueo puede liberarse. Hay un cartucho en la estación I/E.
Naranja	El bloqueo puede liberarse. No hay ningún cartucho en la estación I/E.
Naranja (parpadeando)	El bloqueo está liberado.
Rojo (parpadeando)	Se ha producido un error en la estación I/E. Uno de los siguientes mensajes aparece en la pantalla. • CLOSE I/E STATION: la estación I/E ha estado abierta durante más de tres minutos. • I/E STATION LOCKED: no se puede desbloquear debido a que el botón estaba pulsado mientras el indicador estaba apagado o parpadeando. • I/E STATION OPENED: se solicitó el movimiento de una ranura I/E mientras la estación de E/S estaba abierta. * No aparece ningún mensaje en la pantalla mientras el menú está en funcionamiento.

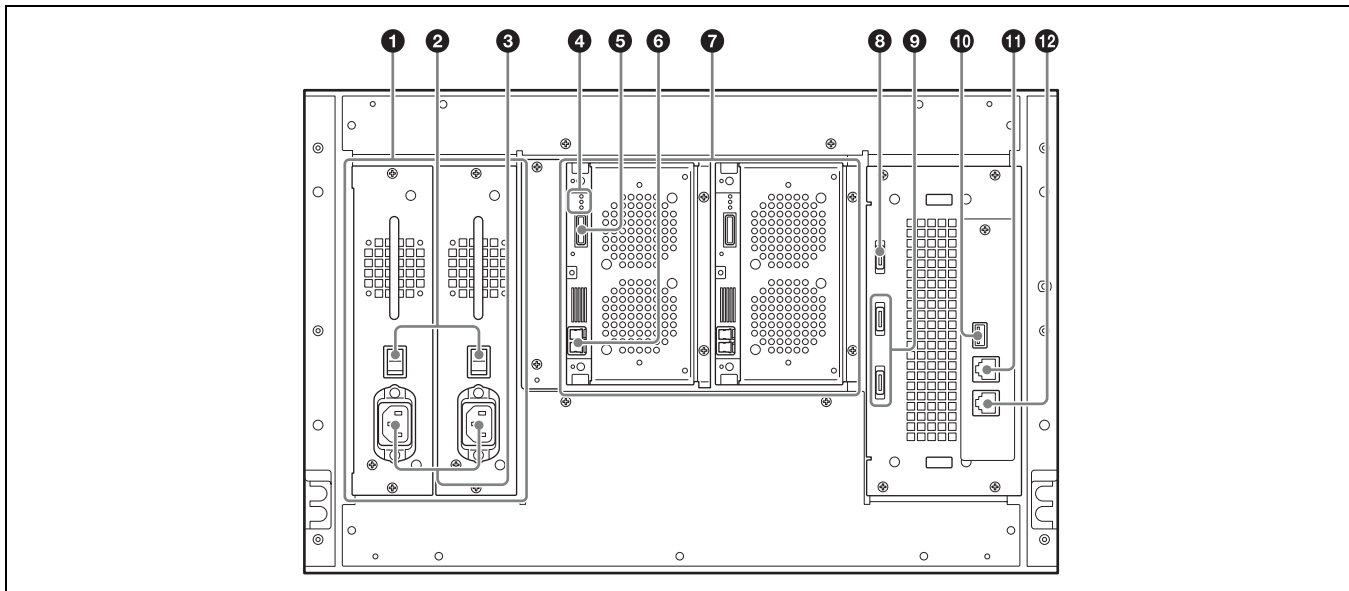
Junto con la unidad se suministran las etiquetas de la estación I/E que contienen la siguiente información.

Indicador I/E STATION	Estado	Botón I/E STATION
 Apagado	No es posible abrir ni cerrar porque las funciones están desactivadas.	Desactivado
 Verde (parpadeando)	No es posible abrir ni cerrar porque se está accediendo a la estación I/E.	Desactivado
 Verde  Naranja	El bloqueo puede liberarse. Verde: hay un cartucho Naranja: no hay ningún cartucho	Activado
 Naranja (parpadeando)	Desbloqueado. Se puede abrir y cerrar.	Desactivado
 Rojo (parpadeando)	Se ha producido un error. Compruebe la pantalla de la unidad.	Desactivado

9 Puerta de la estación I/E

Panel trasero

La siguiente ilustración representa la ODS-L30M con dos unidades de disco y dos unidades de alimentación instaladas.



❶ Ranuras de montaje de la unidad de alimentación

Permite la funcionalidad de alimentación redundante mediante la instalación de fuentes de alimentación opcionales ODBK-101 (no incluidas). Esto asegura un funcionamiento continuo en caso de fallo de las unidades de alimentación en los sistemas que exigen un alto grado de fiabilidad.

Para obtener más información sobre cómo añadir o sustituir unidades de alimentación, consulte con su representante local de Sony.

❷ Interruptores de alimentación principal

Encienden y apagan las fuentes principales de alimentación. Al utilizar la unidad, se aconseja dejar los interruptores en la posición de encendido y utilizar el botón de encendido/en espera del panel frontal para alternar entre los modos de funcionamiento y en espera.

Nota

Al apagar las fuentes principales de alimentación, ajuste siempre la unidad en el modo en espera con el botón de encendido/en espera del panel frontal antes de apagar estos interruptores.

❸ Conectores AC IN

Conéctelos a tomas de corriente mediante cables de alimentación.

❹ Indicadores de las unidades de disco

Indican el estado de las unidades de disco. De arriba a abajo, los tres indicadores son los siguientes.

• Indicador POWER

Encendido de color verde: se está suministrando alimentación.

• Indicador LINK

Parpadeo lento de color azul (una vez por segundo): el cable FC no está conectado.

Encendido de color azul: el cable FC está conectado.

Parpadeo rápido de color azul (cuatro veces por segundo): el cable FC está conectado y se está recibiendo un comando.

Notas

- Este indicador se enciende en azul cuando el cable FC está conectado físicamente de manera correcta. Se mantendrá encendido en azul mientras el cable FC esté conectado, incluso cuando se encuentre en unos estados en los que la unidad de disco no se pueda controlar desde un ordenador.
- Este indicador está encendido en azul durante la inicialización de la unidad de disco, después de haberle suministrado alimentación, aunque no se haya conectado ningún cable FC. En tal caso, el indicador empezará a parpadear en azul lentamente una vez que haya finalizado la inicialización.

• Indicador STATUS

Encendido de color verde: la unidad de disco puede sustituirse (p. ej., el disco está desconectado y la alimentación del disco está apagada).

Encendido de color rojo: se produjo una alarma (código de alarma que no sea 00-000).

Parpadeo lento de color verde (intervalo de 1 s): se está iniciando el disco.

Parpadeo rápido de color verde (intervalo de 0,25 s):
actualización de firmware en progreso.
Apagado: estado normal.

5 Conector ODS CONTROL (ADI / fuente de alimentación)

Conecte el conector DRIVE al mismo número que la unidad en la ODS-L30M para suministrar alimentación a la unidad de disco y para activar el control de ADI (Automation/Drive Interface).

6 Conectores FC (canal de fibra)

Permite la conexión a servidores y el almacenamiento externo mediante un conmutador de canal de fibra.

7 Ranuras de montaje de unidades de disco

Permite instalar hasta dos unidades de disco opcionales (ODS-D77F).

8 Conector OUT 2 (interconexión de unidad)

Conecte el conector IN 2 a la unidad de extensión (ODS-L60E/ODS-L100E) con el cable 2 de interconexión de unidades (suministrado con la unidad de extensión).

9 Conectores DRIVE 1, 2 (control ODS (ADI / fuente de alimentación))

Conecte el conector ODS CONTROL en la unidad de disco al mismo número (DRIVE 1 o 2) con un cable de control ODA (suministrado con la unidad de disco) para

suministrar alimentación a la unidad de disco y activar el control ADI.

10 Conector OUT 1 (interconexión de unidad)

Conecte el conector IN 1 a la unidad de extensión (ODS-L60E/ODS-L100E) con el cable 1 de interconexión de unidades (suministrado con la unidad de extensión).

11 Puerto RJ45 (red) 1

Conecte un cable de red a este conector para configurar la unidad y comprobar su estado desde una pantalla web. En la pantalla de configuración aparece como "Network1".

12 Puerto RJ45 (red) 2 (utilizado para mantenimiento)

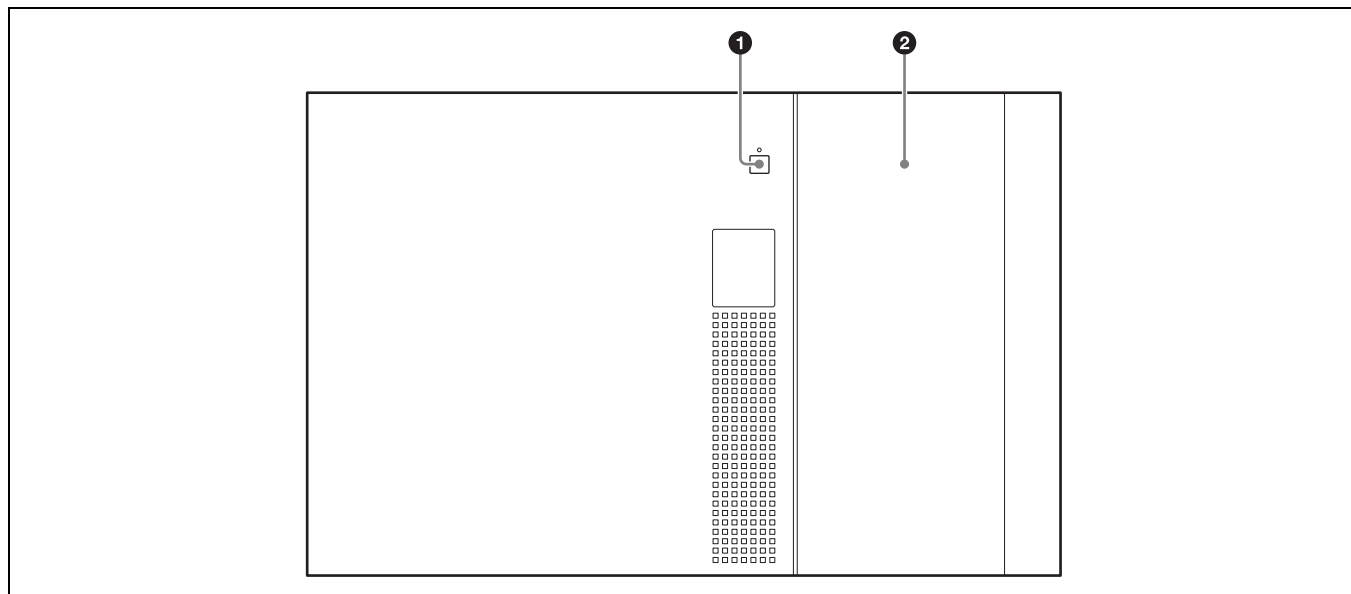
En la pantalla de configuración aparece como "Network2".

PRECAUCIÓN

- Por razones de seguridad, no enchufe a este puerto un conector de cableado de dispositivo periférico que pueda tener una tensión excesiva. Siga las instrucciones de este puerto de conexión.
- Cuando conecte el cable de red de la unidad al dispositivo periférico, utilice un cable de tipo blindado para evitar un mal funcionamiento causado por interferencias de radiaciones.

ODS-L60E

Panel frontal



1 Botón e indicador I/E STATION

Libera el bloqueo de la estación I/E. El bloqueo puede liberarse cuando el indicador se enciende de color verde o naranja. El indicador comienza a parpadear en color naranja cuando el bloqueo se libera.

La estación I/E se bloquea de nuevo si no se abre dentro de un plazo de diez segundos a partir de la liberación del bloqueo.

Si la estación I/E permanece abierta durante más de tres minutos, el indicador parpadea en rojo.

Nota

Puede seleccionar si utilizar la estación I/E de cada unidad como ranura I/E para importar/exportar cartuchos o como ranura de almacenamiento (importar/exportar estará desactivado).

El bloqueo de la estación I/E no puede liberarse en unidades donde la estación I/E se utiliza como ranura de almacenamiento.

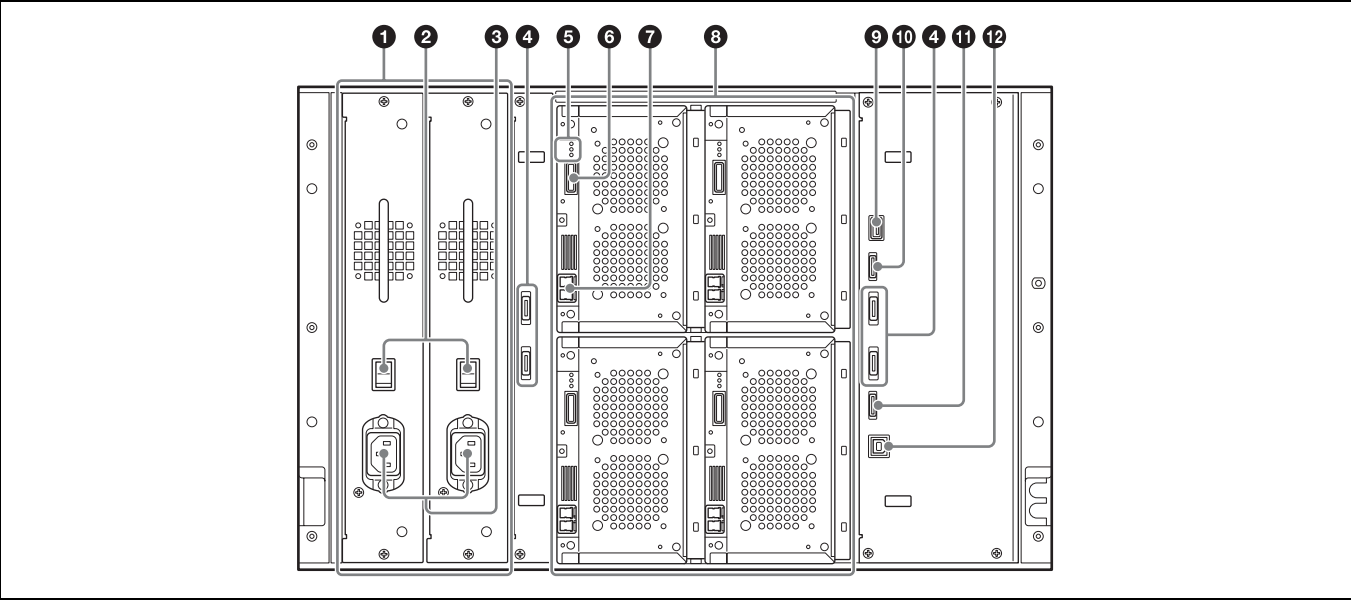
Indicador	Significado
Apagado	El bloqueo no podrá liberarse en las siguientes circunstancias. • Si la estación I/E se bloquea desde una aplicación. • Si la estación I/E se utiliza como ranura de almacenamiento.
Verde (parpadeando)	El bloqueo no puede liberarse porque se está accediendo a la estación I/E.

Indicador	Significado
Verde	El bloqueo puede liberarse. Hay un cartucho en la estación I/E.
Naranja	El bloqueo puede liberarse. No hay ningún cartucho en la estación I/E.
Naranja (parpadeando)	El bloqueo está liberado.
Rojo (parpadeando)	Se ha producido un error en la estación I/E. Uno de los siguientes mensajes aparece en la pantalla. • CLOSE I/E STATION: la estación I/E ha estado abierta durante más de tres minutos. • I/E STATION LOCKED: no se puede desbloquear debido a que el botón estaba pulsado mientras el indicador estaba apagado o parpadeando. • I/E STATION OPENED: se solicitó el movimiento de una ranura I/E mientras las estación de E/S estaba abierta. * No aparece ningún mensaje en la pantalla mientras el menú está en funcionamiento.

2 Puerta de la estación I/E

Panel trasero

La siguiente ilustración representa la ODS-L60E con cuatro unidades de disco y dos unidades de alimentación instaladas.



❶ Ranuras de montaje de la unidad de alimentación

Permite la funcionalidad de alimentación redundante mediante la instalación de fuentes de alimentación opcionales ODBK-102 (no incluidas). Esto asegura un funcionamiento continuo en caso de fallo de las unidades de alimentación en los sistemas que exigen un alto grado de fiabilidad.

No se necesita unidad de alimentación si no hay ninguna unidad de disco instalada en la ODS-L60E.

Para obtener más información sobre cómo añadir o sustituir unidades de alimentación, consulte con su representante local de Sony.

❷ Interruptores de alimentación principal

Encienden y apagan las fuentes principales de alimentación. Al utilizar la unidad, se aconseja dejar los interruptores en la posición de encendido y utilizar el botón de encendido/en espera del panel frontal para alternar entre los modos de funcionamiento y en espera.

Nota

Al apagar las fuentes principales de alimentación, ajuste siempre la unidad en el modo en espera con el botón de encendido/en espera del panel frontal de la ODS-L30M antes de apagar estos interruptores.

❸ Conectores AC IN

Conéctelos a tomas de corriente mediante cables de alimentación.

❹ Conectores DRIVE 1 a 4 (control ODS (ADI / fuente de alimentación))

Conecte el conector ODS CONTROL a la unidad de disco al mismo número (DRIVE 1 a 4) con un cable de control ODA (suministrado con la unidad de disco) para suministrar alimentación a la unidad de disco y activar el control ADI.

❺ Indicadores de las unidades de disco

Indican el estado de las unidades de disco. De arriba a abajo, los tres indicadores son los siguientes.

• Indicador POWER

Encendido de color verde: se está suministrando alimentación.

• Indicador LINK

Parpadeo lento de color azul (una vez por segundo): el cable FC no está conectado.

Encendido de color azul: el cable FC está conectado.

Parpadeo rápido de color azul (cuatro veces por segundo): el cable FC está conectado y se está recibiendo un comando.

Notas

- Este indicador se enciende en azul cuando el cable FC está conectado físicamente de manera correcta. Se

mantendrá encendido en azul mientras el cable FC esté conectado, incluso cuando se encuentre en unos estados en los que la unidad de disco no se pueda controlar desde un ordenador.

- Este indicador está encendido en azul durante la inicialización de la unidad de disco, después de haberle suministrado alimentación, aunque no se haya conectado ningún cable FC. En tal caso, el indicador empezará a parpadear en azul lentamente una vez que haya finalizado la inicialización.

• Indicador STATUS

Encendido de color verde: la unidad de disco puede sustituirse (p. ej., el disco está desconectado y la alimentación del disco está apagada).

Encendido de color rojo: se produjo una alarma (código de alarma que no sea 00-000).

Parpadeo lento de color verde (intervalo de 1 s): se está iniciando el disco.

Parpadeo rápido de color verde (intervalo de 0,25 s): actualización de firmware en progreso.

Apagado: estado normal.

❻ Conector ODS CONTROL (ADI / fuente de alimentación)

Conecte el conector DRIVE al mismo número que la unidad en la ODS-L60E para suministrar alimentación a la unidad de disco y para activar el control de ADI.

❼ Conectores FC (canal de fibra)

Permite la conexión a servidores y el almacenamiento externo mediante un conmutador de canal de fibra.

❽ Ranuras de montaje de unidades de disco

Permite instalar hasta cuatro unidades de disco opcionales (ODS-D77F).

❾ Conector OUT 1 (interconexión de unidad)

Conecte el conector IN 1 a la unidad principal (ODS-L30M) o a otra unidad de extensión (ODS-L60E/ ODS-L100E) con el cable 1 de interconexión de unidades (suministrado con la unidad de extensión).

❿ Conector OUT 2 (interconexión de unidad)

Conecte el conector IN 2 a la unidad principal (ODS-L30M) o a otra unidad de extensión (ODS-L60E/ ODS-L100E) con el cable 2 de interconexión de unidades (suministrado con la unidad de extensión).

⓫ Conector IN 2 (interconexión de unidad)

Conecte el conector OUT 2 a la unidad principal (ODS-L30M) o a otra unidad de extensión (ODS-L60E/ ODS-L100E) con el cable 2 de interconexión de unidades (suministrado con la unidad de extensión).

⓬ Conector IN 1 (interconexión de unidad)

Conecte el conector OUT 1 a la unidad principal (ODS-L30M) o a otra unidad de extensión (ODS-L60E/

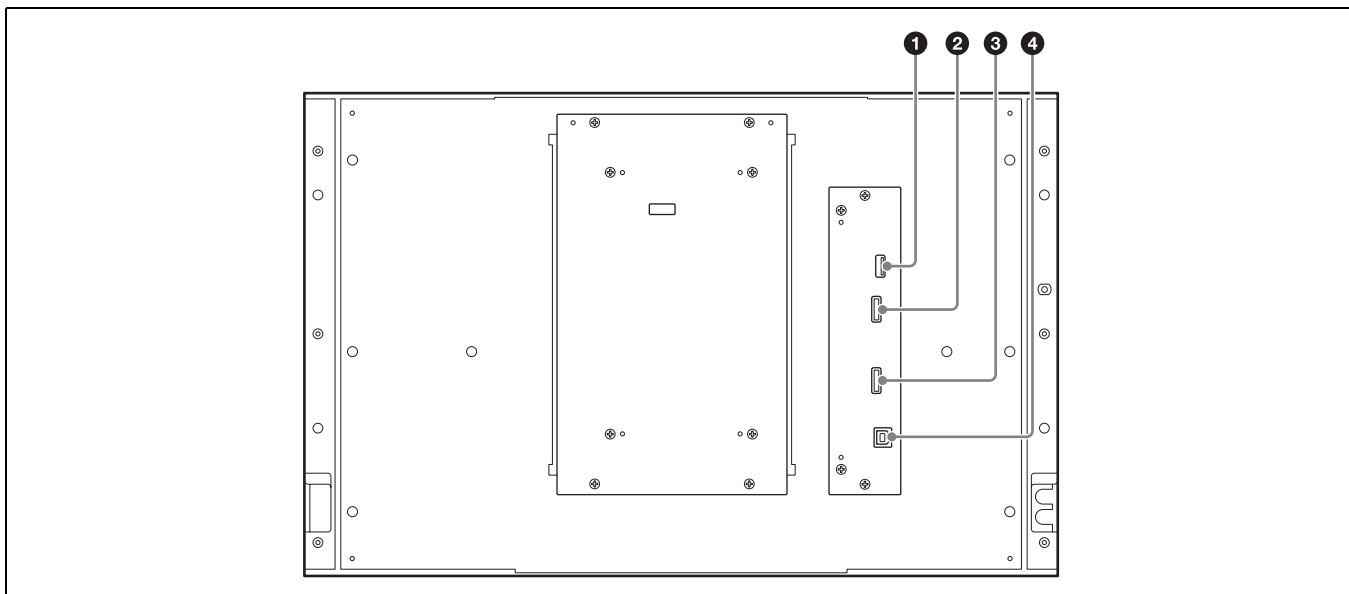
ODS-L100E) con el cable 1 de interconexión de unidades (suministrado con la unidad de extensión).

ODS-L100E

Panel frontal

Este panel es idéntico al panel frontal de la unidad ODS-L60E (ver página 151).

Panel trasero



❶ Conector OUT 1 (interconexión de unidad)

Conecte el conector IN 1 a la unidad principal (ODS-L30M) o a otra unidad de extensión (ODS-L60E/ODS-L100E) con el cable 1 de interconexión de unidades (suministrado con la unidad de extensión).

❷ Conector OUT 2 (interconexión de unidad)

Conecte el conector IN 2 a la unidad principal (ODS-L30M) o a otra unidad de extensión (ODS-L60E/ODS-L100E) con el cable 2 de interconexión de unidades (suministrado con la unidad de extensión).

❸ Conector IN 2 (interconexión de unidad)

Conecte el conector OUT 2 a la unidad principal (ODS-L30M) o a otra unidad de extensión (ODS-L60E/ODS-L100E) con el cable 2 de interconexión de unidades (suministrado con la unidad de extensión).

❹ Conector IN 1 (interconexión de unidad)

Conecte el conector OUT 1 a la unidad principal (ODS-L30M) o a otra unidad de extensión (ODS-L60E/ODS-L100E) con el cable 1 de interconexión de unidades (suministrado con la unidad de extensión).

Manejo de soportes

Soportes utilizados para la lectura y la escritura

Esta unidad utiliza los siguientes cartuchos de archivo en disco óptico y otros soportes similares para la lectura y la escritura.

Cartucho	Tipo de soporte	Número de archivos que se pueden crear
ODC300R Capacidad: 300 GB	Grabación única	60.000 o 240.000
ODC300RE Capacidad: 300 GB	Regrabable	60.000 o 240.000
ODC600R Capacidad: 600 GB	Grabación única	60.000 o 240.000
ODC600RE Capacidad: 600 GB	Regrabable	60.000 o 240.000
ODC1200RE Capacidad: 1,2 TB	Regrabable	60.000 o 240.000
ODC1500R Capacidad: 1,5 TB	Grabación única	60.000 o 240.000

Notas

- Al borrar archivos del soporte, no se aumentará el espacio de almacenamiento disponible en los cartuchos regrabables ni en los de grabación única.
- En el caso de los cartuchos de grabación única, preste atención a los siguientes puntos.
 - Al volver a formatear el soporte, no se aumentará el espacio de almacenamiento disponible.
 - La escritura repetitiva de archivos consumirá el espacio de escritura disponible (para la escritura de datos de gestión del soporte, etc.) en el soporte. Es posible que la escritura de archivos se deshabilite si no hay espacio de escritura disponible en el soporte, aunque exista espacio de almacenamiento suficiente.
 - Una vez que se finalice el soporte, no se podrá escribir ningún archivo.
- Cuando formatee el cartucho, podrá seleccionar el número máximo de archivos que pueden crearse (60.000 o 240.000).
- Cuando vuelva a formatear el soporte de grabación única, se mantendrá el número máximo de archivos que pueden crearse (60.000 o 240.000) que se especificó la primera vez. Sin embargo, en el caso de los soportes regrabables, puede volver a seleccionar el número máximo de archivos que pueden crearse cuando los vuelva a formatear.
- Si durante el formateo selecciona 240.000 como el número máximo de archivos que pueden crearse, la velocidad de reparación correcta de la función de

reparación de archivos será más baja que si selecciona 60.000.

Notas acerca del manejo

Manejo

El cartucho de archivo en disco óptico alberga 12 discos en una carcasa, y está diseñado para ofrecer protección contra el polvo y huellas dactilares. Sin embargo, los discos pueden dañarse o rayarse si el cartucho sufre un golpe fuerte como, por ejemplo, si se cae. Si un disco se raya, puede que sea imposible escribir datos o leer los datos escritos en el disco. El cartucho debe manejarse y almacenarse con cuidado.

- No extraiga ningún disco del cartucho.
- No desmonte el cartucho.
- Si se cambia el orden de los discos en un cartucho o se sustituye algún disco, la unidad ya no reconocerá el cartucho y este no podrá utilizarse.
- Se recomienda utilizar las etiquetas adhesivas que se suministran para indexar los cartuchos. Coloque las etiquetas en la posición correcta.

Almacenamiento

- No almacene los cartuchos en lugares donde estén en exposición directa al sol ni en lugares donde la temperatura o la humedad sean altas.
- No deje los cartuchos en lugares donde estén expuestos al polvo.
- Almacene los cartuchos en sus cajas.

Cuidados del cartucho

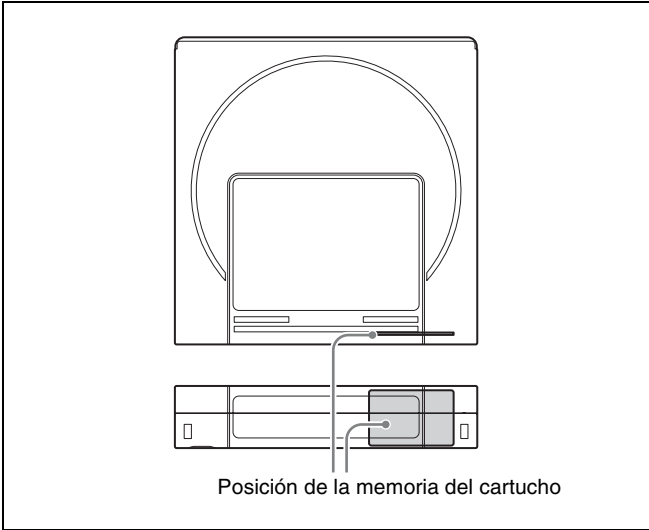
- Elimine el polvo o la suciedad del exterior del cartucho con un paño suave y seco.
- Si se forma condensación, déjelo secar el tiempo suficiente antes de utilizarlo.

Memoria del cartucho

El cartucho de archivo en disco óptico incluye memoria de cartucho, que permite una comunicación sin contacto con esta unidad.

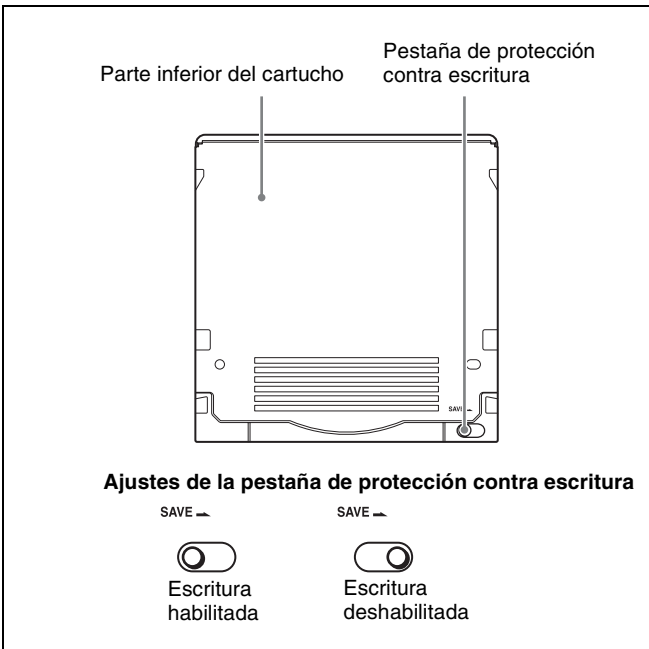
La información básica del cartucho de archivo en disco óptico está escrita en la memoria del cartucho.

El software de la aplicación permitirá leer y escribir los datos del usuario en el futuro.



Protección contra borrado accidental de soportes

Para evitar que se borre accidentalmente el contenido grabado en un soporte, deslice la pestaña de protección contra escritura, que se encuentra en la parte inferior del cartucho (en la parte posterior del lado de la etiqueta), en la dirección que indica la flecha, tal y como se muestra en la siguiente imagen.



También puede realizar los ajustes de protección contra escritura de los soportes desde la aplicación host. Si la pestaña de protección contra escritura o la aplicación host está ajustada para prohibir la escritura, el soporte se mantendrá en el estado de protección contra escritura.

Etiquetas de códigos de barras

El lector de código de barras de la unidad es compatible con códigos de barras CODE39. A continuación se proporcionan las especificaciones de las etiquetas de códigos de barras compatibles.



Dimensiones Conforme al tamaño del contorno de la etiqueta en los cartuchos utilizados

Etiqueta e impresión

Sin brillo

Ancho de barras

Barra delgada y anchura del espacio
0,423 mm +0,03/-0,076 mm (anchura nominal de 0,423 mm)

Relación de barras anchas y delgadas

2,75:1

Longitud de barras

11,1 mm o más

Área tranquila (margen de inicio y margen de finalización)

6,35 mm o superior

Longitud 8 caracteres alfanuméricos en mayúsculas (sin incluir los códigos de inicio y finalización)

Dígito de comprobación

Ninguno

Notas

- No marque los espacios en blanco a ambos lados del código de barras. Si existen marcas, es posible que el código de barras no se pueda leer correctamente.
- Si la etiqueta o el documento impreso son brillantes, es posible que no se pueda realizar una lectura correcta debido al efecto de halo. Para obtener más información sobre las etiquetas de códigos de barras que se pueden leer, póngase en contacto con su representante de ventas o servicios de Sony.
- Si desea utilizar etiquetas de códigos de barras con nueve caracteres o más, póngase en contacto con su representante de ventas o servicios de Sony.
- Coloque las etiquetas de códigos de barras completamente dentro de la zona para etiquetas del cartucho de manera que las etiquetas no sobresalgan, tal y como se muestra en el siguiente diagrama. Presione firmemente la etiqueta del código de barras para que no se despegue.



- Si la etiqueta no se adhiere completamente dentro de la zona hundida, es posible que se produzcan problemas con la unidad o la unidad de disco durante la carga.

Precauciones para la etiqueta de código de barras

- Utilice únicamente etiquetas de código de barras que cumplan las especificaciones de Sony.
- No adhiera etiquetas de códigos de barras en las que se haya incrustado una Memoria del cartucho.
- No reutilice las etiquetas ni adhiera etiquetas usadas encima de las etiquetas existentes.
- Retire las etiquetas antiguas antes de adherir una etiqueta nueva. Cuando retire una etiqueta, despréndala lentamente con la etiqueta orientada en perpendicular a la caja del cartucho.
- Pegue una nueva etiqueta que no deje material adhesivo sobre la superficie al retirarla (por ej., una etiqueta que se pueda despegar limpiamente). Si quedara material adhesivo sobre el cartucho, frótelo suavemente con el dedo para retirarlo.
- Cuando limpie la zona para etiquetas, no utilice objetos puntiagudos, ni agua, ni productos de limpieza químicos.
- Compruebe el estado de las etiquetas antes de adherirlas. Si detecta defectos en los caracteres impresos o en el código de barras, es posible que el código de barras no pueda leerse correctamente, lo que conllevaría tiempos de procesamiento de códigos de barras más largos.
- Cuando desprenda las etiquetas de una hoja de etiquetas, tenga cuidado de no estirar demasiado la etiqueta ni de doblar sus bordes.
- Asegúrese de adherir las etiquetas bien planas sobre el cartucho sin que se formen arrugas o bolsas de aire.
- Asegúrese de adherir las etiquetas completamente para evitar que se desprendan o se enrollen.

Inicio y apagado

Nota

Cierre siempre la estación I/E para iniciar o apagar la unidad.

Inicio

- 1 Compruebe que el cable de alimentación esté conectado y, a continuación, encienda el interruptor de alimentación del panel trasero de la unidad.

- 2 Pulse el botón de encendido/en espera del panel frontal.

Cuando se pulsa el botón, el indicador de encendido/en espera se enciende de color verde.

La inicialización finalizará y la unidad estará lista para utilizarse cuando el texto de la pantalla deje de parpadear.

Apagado

- 1 Pulse el botón de encendido/en espera.

- 2 Cuando aparezca en la pantalla el mensaje de confirmación de apagado, utilice los botones de flechas para seleccionar [Yes] y, a continuación, pulse el botón ENTER.

Aparece otro mensaje de confirmación si hay un cartucho en cualquiera de las unidades.

- 3 Espere hasta que el indicador de encendido/en espera cambie de verde intermitente a rojo permanente y, a continuación, apague el interruptor de alimentación del panel trasero.

Nota

Excepto en caso de emergencia, apague siempre la unidad antes de desconectar la alimentación principal en el panel trasero.

Importación y exportación de cartuchos

Apertura de la estación I/E

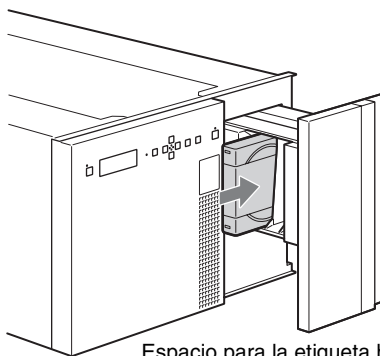
Pulse el botón I/E STATION del panel frontal para liberar el bloqueo de la estación I/E antes de abrir la estación I/E. Cuando se pulsa el botón I/E STATION, se libera el bloqueo y el indicador I/E STATION parpadea en naranja.

Notas

- Mantenga pulsado el botón I/E STATION (durante un segundo) y espere hasta que el indicador I/E STATION parpadee en color naranja antes de abrir la estación I/E.
- Si la estación I/E no se desbloquea al pulsar el botón I/E STATION, empuje la estación I/E por completo hacia dentro de la unidad y, a continuación, pulse el botón I/E STATION.

Importación y exportación de un cartucho

Inserte un cartucho en una ranura y empuje el cartucho por completo hasta que haga tope.



Espacio para la etiqueta hacia arriba.

Al extraer un cartucho, tire del cartucho hacia la izquierda manteniéndolo en posición horizontal.

Cierre de la estación I/E

Empuje lentamente la estación I/E por completo hacia dentro la unidad y compruebe que el indicador I/E STATION parpadea en color verde.

Notas

- La estación I/E no está cerrada por completo si el indicador I/E STATION parpadea en color naranja.
- Un tono de advertencia suena si la estación I/E se queda abierta durante tres minutos o más.

Registro en la base de datos

Después de insertar un cartucho y cerrar la estación I/E, la información sobre cada cartucho se registra automáticamente en la base de datos de la unidad. Si inserta varios cartuchos, el registro en la base de datos puede tardar algún tiempo en completarse.

Cuando el registro en la base de datos se completa, el indicador I/E STATION se enciende de color verde o naranja.

Configuración de la red

Una vez que haya configurado la dirección IPv4 en la pantalla del panel frontal de la unidad, conecte la unidad al ordenador que tiene instalado el navegador web, configure los ajustes de la unidad y compruebe su estado mediante la Library Maintenance Web UI.

Configuración de la dirección IPv4

Se requieren los ajustes de la dirección IP, la máscara de subred y la puerta de enlace predeterminada. Network 1 está configurado para DHCP de manera predeterminada. Network 2 está configurado con los ajustes siguientes.

Dirección IP: 192.168.1.10

Máscara de subred: 255.255.255.0

Puerta de enlace predeterminada: 0.0.0.0

Utilice la pantalla y los botones del panel frontal de la unidad para ajustar la configuración de red.

1 Pulse el botón MENU.

El menú aparece en la pantalla.

```
Menu
> 1.Information
  2.Setup
  3.Maintenance
```

2 Utilice los botones $\uparrow$ y $\downarrow$ para seleccionar [Setup] y pulse el botón ENTER.

Aparece la pantalla [Setup].

```
Setup
> 1.Network
  2.Control Panel
```

3 Utilice los botones $\uparrow$ y $\downarrow$ para seleccionar [Network] y pulse el botón ENTER.

Aparece la pantalla [Network].

```
Network
> 1.Network 1
  2.Network 2
```

4 Utilice los botones $\uparrow$ y $\downarrow$ para seleccionar [Network 1] y pulse el botón ENTER.

Aparece la pantalla [Network1].

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
  2.IPv6 Setting
```

5 Utilice los botones $\uparrow$ y $\downarrow$ para seleccionar [IPv4 Setting] y pulse el botón ENTER.

Aparece la siguiente pantalla. Un asterisco (*) indica el ajuste actual. Para configurar la dirección IPv4, este ajuste debe estar establecido en [Enabled]. Si este ajuste ya está establecido en [Enabled], vaya al paso 8.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  Enabled
  *Disabled
```

6 Pulse el botón ENTER para cambiar la configuración.

Aparece la pantalla de selección (p. ej., pantalla con el cursor (>)). Puede cambiar el ajuste en esta pantalla.

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
> Enabled
  *Disabled
```

7 Utilice los botones $\uparrow$ y $\downarrow$ para seleccionar [Enabled] y pulse el botón ENTER.

Aparece la pantalla de confirmación (p. ej., pantalla sin el cursor (>)).

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  *Enabled
  Disabled
```

8 Compruebe que [Enabled] está seleccionado y pulse el botón $\downarrow$.

Aparece la siguiente pantalla.

```
IPv4 Setting
IPv4 DHCP
  Auto
  *Static
```

9 Pulse el botón ENTER para visualizar la pantalla de selección.

10 Para utilizar una dirección IP estática, utilice los botones $\uparrow$ y $\downarrow$ para seleccionar [Static], y pulse el botón ENTER.

Nota

Para utilizar un DHCP, utilice los botones $\uparrow$ y $\downarrow$ para seleccionar [Auto], presione el botón ENTER y, a continuación, vaya al paso 17.

11 Pulse el botón ↓.

Aparece la siguiente pantalla.

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

12 Pulse el botón ENTER.

El primer dígito de la dirección IP parpadea para indicar que la dirección puede cambiarse.

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

13 Introduzca la dirección IP.

Utilice los botones ⇐ y ⇒ para mover el cursor, y utilice los botones ↑ y ↓ para cambiar los valores.

14 Pulse el botón ENTER después de introducir la dirección para confirmarla.

15 Pulse el botón ↓ para visualizar [IPv4 Netmask], y configure la máscara de subred con el mismo método empleado para la dirección IP.

```
IPv4 Setting
IPv4 Netmask
000.000.000.000
```

16 Pulse el botón ↓ para visualizar [IPv4 Gateway], y configure la puerta de enlace predeterminada con el mismo método.

```
IPv4 Setting
IPv4 Gateway
000.000.000.000
```

17 Pulse el botón ↓.

Aparece [IPv4 DNS].

```
IPv4 Setting
IPv4 DNS
Auto
*Static
```

18 Para configurar la dirección DNS, seleccione [Static].

Si el ajuste actual es [Auto], visualice la pantalla de selección con el botón ENTER, utilice los botones ↑ y ↓ para seleccionar [Static] y, continuación, pulse el botón ENTER para confirmar.

Nota

Para configurar la dirección DNS automáticamente, seleccione [Auto]. Confirme la configuración con el mismo método empleado para [Static], y vaya al paso 24.

19 Pulse el botón ENTER.

Aparece la pantalla [IPv4 Primary DNS].

```
IPv4 Setting
IPv4 Primary DNS
000.000.000.000
```

20 Pulse el botón ENTER.

El primer dígito de la dirección IP parpadea para indicar que la dirección puede cambiarse.

21 Utilice los botones ⇐, ⇒, ↑ y ↓ para introducir la dirección DNS principal, y pulse el botón ENTER.

22 Pulse el botón ↓.

Aparece la pantalla [IPv4 Secondary DNS].

23 Introduzca la dirección DNS secundaria siguiendo el método que se describe en el paso 20, y pulse el botón ENTER.

24 Pulse el botón ↓.

Aparece la siguiente pantalla de confirmación.

```
Network1
IPv4 Setting
> Save
Cancel
```

25 Compruebe que [Save] está seleccionado y pulse el botón ENTER.

La dirección IP modificada está activada. Vuelve a aparecer la pantalla [Network1].

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
2.IPv6 Setting
```

26 Pulse el botón BACK tres veces para finalizar la utilización del menú.

Las direcciones IP también pueden cambiarse en la pantalla web (Library Maintenance Web UI).

Para obtener más información acerca de cómo realizar cambios con la Library Maintenance Web UI, consulte la ayuda de Library Maintenance Web UI.

Visualización de la pantalla web

Se puede utilizar una pantalla web (Library Maintenance Web UI) para realizar las operaciones de configuración de esta unidad.

Entorno recomendado

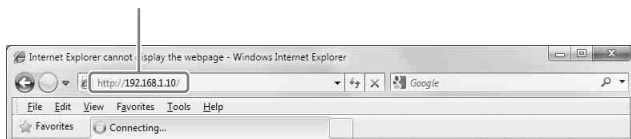
Navegador web:

- Para Windows: Google Chrome (versión más reciente) o Microsoft Internet Explorer 11
- Para Mac OS: Google Chrome (versión más reciente)
- Tamaño del monitor: 1.024 píxeles o más

Para visualizar la pantalla web, introduzca la dirección URL

https://(dirección IP)/ en el navegador web.

Ejemplo: https://192.168.1.10/



Al conectar la unidad desde un navegador web, aparece “The site’s security certificate is not trusted!” o un mensaje similar. Compruebe que la dirección IP que aparece en el mensaje es correcta antes de continuar. A continuación, aparece la pantalla de autenticación. Introduzca el nombre de usuario y la contraseña siguientes.

Usuario: admin, Contraseña: ods-l30m

Después de la autenticación, aparece la pantalla Library Maintenance Web UI.

Para obtener más información acerca de las operaciones de Library Maintenance Web UI, consulte la ayuda de Library Maintenance Web UI.

Notas

- Consulte con su administrador de red para conocer la configuración de red requerida.
Es posible que algunos ordenadores no se conecten a una unidad en una red, según la configuración del servidor proxy del navegador.
- Solo un cliente web puede estar conectado a la unidad a la vez.
- La pantalla web admite hasta tres conexiones simultáneas (sesiones http). Si hay dos sesiones o más abiertas a la vez, se produce un error si las operaciones de registro generan conflictos entre sí. En tal caso, la operación se deberá emitir una segunda vez.
- La biblioteca no lleva a cabo el enrutamiento de red. Para obtener una dirección de enlace y una dirección IP automáticamente, configure los ajustes solo para una única red.

- Activa JavaScript en su navegador. La pantalla de inicio de sesión no se muestra si JavaScript no está activado.
- Configure su navegador para que acepte cookies. No podrá iniciar sesión si no permite al navegador aceptar cookies desde la unidad.
- Las preferencias de configuración del navegador pueden variar en función del navegador y la versión del SO. Para obtener más información acerca de su navegador y SO, consulte el manual de instrucciones o la ayuda.

Instalación del software en servidores

Instale el siguiente software en los servidores conectados a través de canal de fibra a las unidades acopladas en la unidad. (Para obtener más información acerca de la configuración del sistema, consulte la página 147).

- Optical Disc Archive Software (Windows/Linux)
Software básico que conecta los servidores y las unidades y permite la lectura/escritura de los archivos. Descargue este software del sitio web de productos de Sony Professional (página 170).

Notas

- Instale el software antes de conectar los servidores a las unidades.
- Optical Disc Archive Utility se instalará automáticamente cuando instale el software.

Entorno operativo

Se ha comprobado el funcionamiento de Optical Disc Archive Software en los siguientes entornos.

Notas

La verificación del funcionamiento no garantiza el funcionamiento en todos los ordenadores.

Windows

Elemento	Requisito
Procesador	Intel Core 2 Duo a 2,66 GHz o superior; o Intel Xeon a 2 GHz o superior
Memoria	Dispositivo de 32 bits: 2 GB o más; Dispositivo de 64 bits: 2 GB × (número de dispositivos) o más
Espacio en el disco duro	Dispositivo de 32 bits: 16 GB o más; Dispositivo de 64 bits: 8 GB + 4 GB × (número de dispositivos) o más
SO	Consulte el sitio web de productos de Sony Professional (página 170).

Linux

Elemento	Requisito
Procesador	Intel Core 2 Duo a 2,66 GHz o superior; o Intel Xeon a 2 GHz o superior
Memoria	Dispositivo de 32 bits: 2 GB o más; Dispositivo de 64 bits: 2 GB × (número de dispositivos) o más
Espacio en el disco duro	Dispositivo de 32 bits: 16 GB o más; Dispositivo de 64 bits: 8 GB + 4 GB × (número de dispositivos) o más
SO	Consulte el sitio web de productos de Sony Professional (página 170).

Instalación

Descargue el software del sitio web de productos de Sony Professional (página 170) e instálelo.

Notas

Si el Optical Disc Archive Software está instalado junto con software antivirus, herramientas spyware o productos que incluyan controladores de sistema de archivos UDF 2.5 o 2.6 distintos a los incluidos de forma predeterminada en el SO, es posible que el funcionamiento sea inestable. Si el Optical Disc Archive Software es inestable, compruebe la presencia de los tipos de software anteriores y sus ajustes, y cámbielos.

Precauciones para la instalación en Windows

- Si está instalada una versión anterior del Optical Disc Archive Software, desinstálela antes de instalar la nueva versión. Elimine [Sony Optical Disc Archive Software] de [Agregar o quitar programas] en el panel de control y reinicie el ordenador.
- Cuando haya realizado la instalación, cualquier elemento configurado previamente volverá a su ajuste inicial.

Precauciones para la instalación en Linux

- Si conecta las unidades a los servidores antes de instalar el Optical Disc Archive Software, es posible que el funcionamiento de los servidores se interrumpa. Para evitarlo, asegúrese de instalar el Optical Disc Archive Software antes de conectar las unidades a los servidores. Si experimenta un problema con los servidores, apáguelos, desconecte las unidades de los servidores, reinicie los servidores e instale el Optical Disc Archive Software. A continuación conecte las unidades a los servidores.
- Cuando instale una actualización, el Optical Disc Archive Software se sobrescribirá. Cualquier elemento

configurado previamente volverá a su ajuste predeterminado.

- Si instala una nueva versión del Optical Disc Archive Software después de desinstalar una versión anterior, cualquier elemento configurado previamente volverá a su ajuste predeterminado.

Utilización del menú

Utilice el menú que aparece en el panel frontal de la unidad para configurar los ajustes básicos de la unidad y visualizar el estado de la unidad. Utilice los botones del panel frontal para utilizar el menú.

Utilización básica del menú

Esta sección describe las operaciones básicas del menú; se pone como ejemplo la configuración del tono de advertencia.

- 1 Pulse el botón MENU.

Aparece la pantalla de selección del menú.

```
Menu
  1.Information
> 2.Setup
  3.Maintenance
```

- 2 Mueva el cursor (>) con los botones $\uparrow$ y $\downarrow$, seleccione [Setup] y, a continuación, pulse el botón ENTER.

Aparece el submenú del elemento seleccionado.

```
Setup
> 1.Network
  2.Control Panel
```

- 3 Utilice los botones $\uparrow$ y $\downarrow$ para seleccionar [Control Panel] y pulse el botón ENTER.

Aparece el submenú del elemento seleccionado.

```
Control Panel
> 1.Buzzer
  2.LCD Backlight
  3.LCD Brightness
```

- 4 Utilice los botones $\uparrow$ y $\downarrow$ para seleccionar [Buzzer] y pulse el botón ENTER.

Aparece el ajuste actual del elemento seleccionado. El asterisco (*) indica el ajuste actual.

```
Control Panel
Buzzer
ON
*OFF
```

- 5 Pulse el botón ENTER.

Aparece el cursor (>) que indica que el ajuste puede cambiarse.

```
Control Panel
Buzzer
ON
>*OFF
```

6 Utilice los botones ↑ y ↓ para mover el cursor (>).

Panel de control

```
Control Panel
Buzzer
> ON
*OFF
```

7 Pulse el botón ENTER para confirmar la configuración.

El cursor desaparece y se confirma la configuración.

```
Control Panel
Buzzer
*ON
OFF
```

8 Pulse el botón MENU para volver a la pantalla de selección del menú (paso 1).

Al pulsar el botón BACK se vuelve inmediatamente a la pantalla anterior.

9 Vuelva a pulsar el botón MENU para finalizar la utilización del menú.

Lista de menús

Menú	Descripción
Information	Muestra los valores actuales de cada ajuste en el menú [Setup] y los siguientes parámetros de IPv6. IPv6 Temporary: muestra la dirección IPv6 temporal. IPv6 Link-Local: muestra la dirección IPv6 de enlace local.
Setup	Le permite configurar los ajustes de la unidad.

Menú	Descripción
1.Network	Define la configuración de red. Network 1 / Network 2: Configura los ajustes de los dos puertos de red de ODS-L30M. IPv4 Enabled / IPv6 Enabled: Habilita o deshabilita IPv4 o IPv6. IPv4 DHCP / IPv6 DHCP: Especifica si desea utilizar el DHCP para la dirección IP IPv4 o IPv6, o si desea utilizar una dirección estática. IPv4 Address / IPv6 Address: Configura la dirección IP IPv4 o IPv6. IPv4 Netmask: Configura la máscara de subred IPv4. IPv6 Subnetprefix: Configura el prefijo de subred IPv6. IPv4 Gateway / IPv6 Gateway: Configura la puerta de enlace predeterminada IPv4 e IPv6. IPv4 DNS / IPv6 DNS: Especifica si desea obtener automáticamente el DNS de la IP IPv4 o IPv6, o si desea utilizar una dirección estática. IPv4 Primary DNS / IPv6 Primary DNS: Configura el DNS principal IPv4 e IPv6. IPv4 Secondary DNS / IPv6 Secondary DNS: Configura el DNS secundario IPv4 e IPv6.
2.Control Panel	Configura los ajustes del panel de control. Buzzer: Activa o desactiva el tono de advertencia. LCD Backlight: Especifica si la luz de fondo del panel LCD se apaga automáticamente o si está siempre encendida. LCD Brightness: Ajusta el brillo del panel LCD en bajo, medio o alto.
Maintenance	Menú utilizado para el mantenimiento.
1.Configuration	Factory Setting: Restaura la configuración de la unidad a los valores predeterminados.
2.Diagnostic	Menú para el servicio de asistencia técnica.
3.Power Management	Reboot: Reinicia la unidad.
4.Service	Menú para el servicio de asistencia técnica.

Mensajes

Si existe un problema con el hardware de la unidad o con los ajustes de configuración, el indicador ALARM del panel frontal de la unidad parpadea en color rojo (error) o naranja (advertencia), y aparece un mensaje en la pantalla. No se muestran mensajes durante las operaciones del

menú. Los mensajes se muestran después de pulsar el botón BACK para salir del menú. Si aparece un mensaje, consulte la siguiente información para resolver el problema. Si el mensaje sigue apareciendo, consulte con su representante local de Sony.

Mensaje	Descripción
ERROR POWER OFF REQUEST	El sistema debe reiniciarse. Apague la unidad y, a continuación, vuelva a encenderla.
ERROR BOOT OS	Ocurrió un error durante el arranque. Consulte con su representante local de Sony.
ERROR CALIBRATION	Ocurrió un error durante el calibrado del cargador. Consulte con su representante local de Sony.
ERROR FIRMWARE UPDATE REQUEST	Se necesita una actualización del firmware. Consulte con su representante de Sony local.
ERROR SERVICE MAINTENANCE REQUEST	Compruebe si el cable de interconexión de la unidad está conectado correctamente. Si no existe ningún problema con la conexión del cable, es necesario que el personal de servicio realice el mantenimiento. Consulte con su representante de Sony local.
ERROR	Se ha detectado un error durante las operaciones de control. Compruebe [Library Status] en la pestaña [System] de la Library Maintenance Web UI.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : OFF	Una unidad de alimentación, configurada con el objetivo de supervisar los ajustes de configuración de la alimentación, está apagada. Compruebe [Power Configuration Settings] en la pestaña [Others] de la pantalla [Configuration] de la Library Maintenance Web UI. Si no existe ningún problema con los ajustes, consulte con su representante local de Sony.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : NG	Se ha detectado un error en la unidad de alimentación. Consulte con su representante local de Sony.
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : CC	La unidad de alimentación está encendida, pero no está configurada con el objetivo de supervisar los ajustes de configuración. Añada una marca de verificación en las casillas de verificación de las unidades de alimentación que se van a emplear en [Power Configuration Settings], en la pestaña [Others] de la pantalla [Configuration] de la Library Maintenance Web UI.
WARNING HIGH TEMP	La temperatura interna de la unidad es demasiado alta. La unidad sigue en funcionamiento; sin embargo, el uso continuado provocará el aumento de la temperatura dentro de la unidad y de los discos, lo que puede provocar fallos o, incluso, un incendio. Consulte con su representante local de Sony.
WARNING FAN	La velocidad de rotación del ventilador ha disminuido. La unidad sigue en funcionamiento; sin embargo, el uso continuado provocará el aumento de la temperatura dentro de la unidad y de los discos, lo que puede provocar fallos o, incluso, un incendio. Consulte con su representante local de Sony.
WARNING SSD	El diagnóstico del SSD determinó que es necesario sustituirlo. Consulte con su representante local de Sony.
WARNING LITHIUM BATTERY	Es necesario sustituir la batería de litio. Consulte con su representante local de Sony.
CLOSE I/E STATION	La estación I/E ha estado abierta durante 3 minutos. Asegúrese de que la estación I/E está completamente cerrada. Si el mensaje sigue apareciendo después de haber cerrado la estación I/E, consulte con su representante local de Sony.

Mensaje	Descripción
I/E STATION LOCKED	El botón de estación I/E se pulsó cuando la estación I/E estaba bloqueada por una aplicación o la estación I/E estaba configurada para el uso como ranura de almacenamiento. Libere el bloqueo mediante la aplicación y, a continuación, pulse el botón I/E STATION. Si el bloqueo no puede liberarse mediante la aplicación, libérela mediante la Library Maintenance Web UI.
I/E STATION BUSY	El botón I/E STATION se pulsó mientras se estaba accediendo a la estación I/E. Espere a que el indicador I/E STATION se encienda de color verde o naranja para pulsar el botón I/E STATION.
I/E STATION NOT UNLOCKED	El desbloqueo de la estación I/E ha fallado. Presione la estación I/E hasta el fondo para que quede completamente insertada en la unidad y, a continuación, intente pulsar el botón I/E STATION de nuevo.
I/E STATION HALF-CLOSED	La estación I/E no está completamente insertada. Presione la estación I/E hasta el fondo para que quede completamente insertada en la unidad y, a continuación, intente pulsar el botón I/E STATION de nuevo.
PUSH I/E STATION	La estación I/E ha permanecido en un estado de inserción incompleta durante al menos 15 segundos. Presione la estación I/E hasta el fondo para que quede completamente insertada en la unidad.
REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	El procesamiento de la importación no se puede llevar a cabo para la estación I/E debido a la presencia de un cartucho en el cargador. Mueva el cartucho desde el cargador hasta una ranura vacía a través de la pestaña [Move Cartridge] de la Library Maintenance Web UI.
ERROR CALIBRATION REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	El ajuste del cargador ha fallado debido a la presencia de un cartucho en el cargador. Consulte con su representante local de Sony.
I/E STATION OPENED	Apareció un indicador de movimiento de la ranura I/E cuando la estación I/E estaba abierta. Cierre la estación I/E, o compruebe los controles de la aplicación.
UNIT CONFIG CHANGE REQUEST	Se ha detectado un cambio en la configuración de la unidad. Consulte con su representante de Sony local.
DIAGNOSTIC LIBRARY REQUEST	Se requieren diagnósticos de la biblioteca. Consulte con su representante de Sony local.

Notas importantes sobre el funcionamiento

Utilización y almacenamiento

No someta la unidad a golpes fuertes

El mecanismo interno se puede dañar y la carcasa de la grabadora se puede deformar.

No cubra la unidad durante el funcionamiento

En caso contrario, la temperatura puede aumentar dentro de la unidad, lo que posiblemente provoque un fallo.

Después de su uso

Apague el botón de encendido/en espera.

Si tiene pensado no utilizar la unidad durante un periodo prolongado, apague también el interruptor de alimentación del panel trasero.

Transporte

- Apague siempre la unidad.
- Si se envía la unidad por carretera, mar, aire u otro servicio de transporte, hágalo en el embalaje original de la unidad.
- Si la unidad se envía sin estar correctamente empaquetada y protegida. Las piezas internas se pueden dañar.
En referencia al Manual de instalación, asegúrese de montar los tornillos y herrajes para garantizar un transporte seguro.
- Si la unidad se transporta sin extraer la unidad de disco, puede que esta unidad y la unidad de disco se dañen durante el transporte. Asegúrese de extraer la unidad de disco de la unidad antes de transportarla.

Cuidados de la unidad

Si la carcasa de la unidad está sucia, límpiela con un paño suave y seco.

En casos extremos, utilice un paño humedecido con un detergente neutro y, a continuación, séquela. No utilice disolventes orgánicos como alcohol o diluyentes, puesto que pueden producir decoloración u otros daños en el acabado de la unidad.

En caso de problemas de funcionamiento

Si experimenta problemas con la unidad, póngase en contacto con su representante de ventas o servicio de Sony.

Ubicaciones de uso y almacenamiento

Guárdela en un lugar estable y ventilado. Evite utilizar o almacenar la unidad en los siguientes lugares.

- Bajo calor o frío excesivo (límites de temperatura de funcionamiento: 5 °C a 35 °C)
Recuerde que en verano y en climas cálidos la

temperatura en el interior de un automóvil con las ventanillas cerradas puede superar fácilmente los 50 °C.

- En lugares húmedos o polvorientos
- Lugares donde la unidad pueda estar expuesta a la lluvia
- Lugares sujetos a vibraciones violentas
- Cerca de campos magnéticos potentes
- Cerca de emisoras de radio o TV que generen campos electromagnéticos intensos.
- En directa exposición al sol o cerca de fuentes de calor durante tiempo prolongado

Cómo evitar interferencias electromagnéticas de dispositivos de comunicación portátiles

El uso de teléfonos y otros dispositivos de comunicación portátiles cerca de esta unidad puede producir un funcionamiento incorrecto.

Se recomienda desconectar los dispositivos de comunicaciones móviles cuando se encuentren cerca de esta unidad.

Condensación

Si la unidad se lleva de repente de un lugar frío a uno cálido o si la temperatura ambiente sufre un aumento repentino, es posible que se acumule humedad en la superficie exterior o interior de la unidad. Este fenómeno se conoce como condensación. Si se produce condensación, apague la unidad y espere a que se evapore antes de ponerla en marcha. No la utilice en ese estado, ya que podría dañarla.

Sustitución de piezas

El portador (mecanismo de transporte) es una pieza consumible que debe sustituirse periódicamente. Si utiliza la unidad a temperatura ambiente, el ciclo de sustitución normal será cada cinco años aproximadamente. Sin embargo, esto representa solo una directriz general y no constituye ninguna garantía de su vida útil. Para obtener más información acerca de la sustitución de componentes, póngase en contacto con el distribuidor.

LCD

Tras un largo periodo de uso, esos píxeles “atascados” pueden ir apareciendo espontáneamente debido a las características de la pantalla de cristal líquido. Esto no significa que la unidad funcione mal.

Precauciones para las unidades de disco

Golpes y vibraciones

No someta la unidad de disco a golpes cuando el cartucho esté insertado.

Transporte de la unidad de disco

Antes de transportar la unidad de disco, asegúrese de expulsar el cartucho.

Tiempo de lectura de archivos

- Cuando acceda a varios archivos al mismo tiempo, el intercambio de discos puede que sea frecuente. Esto reducirá la velocidad de transferencia de datos y aumentará significativamente el tiempo total del funcionamiento.
- Cuando acceda a un único archivo, puede que también exista intercambio de discos, según la posición de grabación en el cartucho. Se tardará un poco antes de comenzar a leer el archivo.

Tiempo de escritura de archivos

- Cuando escriba un gran número de archivos pequeños (p. ej., 100 MB o menos) consecutivamente, puede que la escritura tarde un poco en completarse. En estos casos, si ajusta el modo de operación a “Synchronize management data to the media immediately after completion of file writing: Off”, se aumentará el rendimiento de la escritura y la eficiencia del soporte. Sin embargo, si se produce un problema (p. ej., fallo de alimentación) durante la operación de escritura, la posibilidad de recuperación de los archivos disminuye.

Marcas comerciales y licencias

Licencias de software libre

En función de los contratos de licencia entre Sony y los titulares de los derechos de autor del software, este producto utiliza software libre.

Para cumplir con los requisitos de los titulares de los derechos de autor del software, Sony está obligado a informarle del contenido de estas licencias.

Para conocer el contenido de las licencias, consulte “*Open Source Software License List*” en la ayuda del software.

Obtención de software con licencias GPL/LGPL/GPL V3

Este producto utiliza software con licencias según GPL versión 2 / LGPL versión 2.1 / GPL versión 3. Tiene derecho a obtener, cambiar y distribuir el código fuente de este software.

Puede descargar el código fuente de este software de los servidores de Internet de Sony. Para obtener más información sobre cómo descargarlo, vaya a la dirección URL siguiente.

<http://oss.sony.net/Products/Linux/common/search.html>

No podemos responder consultas relativas al contenido del código fuente.

Especificaciones

Especificaciones de ODS-L30M. Para consultar las especificaciones de ODS-L60E, ODS-L100E, ODBK-101, ODBK-102, ODBK-103 y ODS-D77F, consulte la guía de funcionamiento de cada dispositivo.

Información general

Alimentación	de 100 a 240 V CA, 50 Hz/60 Hz
Consumo eléctrico	1,4 A a 3,2 A
Temperatura de funcionamiento	de 5 °C a 35 °C
Temperatura de almacenamiento	de -20 °C a +55 °C
Humedad de funcionamiento	del 20% al 80% (humedad relativa)
Humedad de almacenamiento	Menos del 75%
Peso	30 kg (sin incluir las unidades ni los cartuchos)
Dimensiones (an. × al. × prof.)	445 × 308 × 940 mm (excluidas las partes salientes)

Entrada/salida

 (Red)	Toma modular tipo RJ-45 (2) 100BASE-T: estándar IEEE 802.3ab 100BASE-Tx: estándar IEEE 802.3u
---	---

Accesorios

Manual de funcionamiento (1)
Kit de montaje de bastidor (1 juego)
Placas perforadas para el montaje de bastidor (4)
Tornillos (B4 × 10) (8)
Tornillos (B5 × 16) (8)
Soportes de montaje (2)
Indicador del grosor 025 (3)
Indicador del grosor 050 (3)
Indicador del grosor 100 (3)
Soporte de altura 025 (3)
Soporte de altura 050 (3)
Soporte de altura 100 (3)
Etiquetas de la estación I/E (1 juego)

Opciones

Suministro de alimentación ODBK-101 / ODBK-102
Kit de extensión ODBK-103
Opcional para la unidad ODS-L30M (no es compatible con los modelos que tengan los números de serie del 10001 al 10999 y del 50001 al 50999)

Encontrará el número de serie de la unidad ODS-L30M en la placa de características que está situada en el panel posterior.

Cartucho de archivo en disco óptico

- ODC300R (300 GB, grabación única)
- ODC300RE (300 GB, regrabable)
- ODC600R (600 GB, grabación única)
- ODC600RE (600 GB, regrabable)
- ODC1200RE (1,2 TB, regrabable)
- ODC1500R (1,5 TB, grabación única)

El diseño y las especificaciones están sujetos a modificación sin previo aviso.

Notas

- Verifique siempre que esta unidad funciona correctamente antes de utilizarlo. SONY NO SE HACE RESPONSABLE POR DAÑOS DE NINGÚN TIPO, INCLUYENDO PERO NO LIMITADO A LA COMPENSACIÓN O PAGO POR LA PÉRDIDA DE GANANCIAS PRESENTES O FUTURAS DEBIDO AL FALLO DE ESTA UNIDAD, YA SEA DURANTE LA VIGENCIA DE LA GARANTÍA O DESPUÉS DEL VENCIMIENTO DE LA GARANTÍA NI POR CUALQUIER OTRA RAZÓN.
- SONY NO SE HACE RESPONSABLE POR RECLAMACIONES DE NINGÚN TIPO REALIZADAS POR USUARIOS DE ESTA UNIDAD O POR TERCEROS.
- SONY NO SE HACE RESPONSABLE DE LA FINALIZACIÓN NI DE LA INTERRUPCIÓN, POR LA CIRCUNSTANCIA QUE FUERA, DE CUALQUIER SERVICIO RELACIONADO CON ESTA UNIDAD.

SONY NO SE HACE RESPONSABLE POR DAÑOS DE NINGÚN TIPO DEBIDOS A LA OMISIÓN DE LAS MEDIDAS DE SEGURIDAD ADECUADAS EN DISPOSITIVOS DE TRANSMISIÓN, FUGAS DE DATOS INEVITABLES DERIVADAS DE LAS ESPECIFICACIONES DE TRANSMISIÓN O PROBLEMAS DE SEGURIDAD DE CUALQUIER TIPO.

En función del entorno operativo, es posible que terceros no autorizados en la red puedan acceder a la unidad. Al conectar la unidad a la red, confirme siempre que la red está correctamente protegida.

Desde el punto de vista de la seguridad, al utilizar la unidad conectada a la red, se recomienda encarecidamente acceder a la ventana de control a través de un navegador web y modificar la limitación de acceso de los valores predeterminados de fábrica (Consulte la pestaña Others de la pantalla Configuration en la ayuda de Library Maintenance Web UI). Asimismo, se recomienda cambiar la contraseña periódicamente.

Descargas de software

Cuando utilice la unidad con una conexión de PC, descargue todos los controladores del dispositivo, los complementos y las aplicaciones de software que necesite de los siguientes sitios web.

Sitio web de productos de Sony Professional:

Estados Unidos	http://pro.sony.com
Canadá	http://www.sonybiz.ca
Latinoamérica	http://sonypro-latin.com
Europa	http://www.pro.sony.eu/pro
Oriente Medio y África	http://sony-psmea.com
Rusia	http://sony.ru/pro/
Brasil	http://sonypro.com.br
Australia	http://pro.sony.com.au
Nueva Zelanda	http://pro.sony.co.nz
Japón	http://www.sonybsc.com
Asia Pacífico	http://pro.sony-asia.com
Corea	http://bp.sony.co.kr
China	http://pro.sony.com.cn
India	http://pro.sony.co.in

Sony Creative Software, página de descarga de software:

[http://www.sonycreativesoftware.com/download/
software_for_sony_equipment](http://www.sonycreativesoftware.com/download/software_for_sony_equipment)

机型名称：海量数据流光盘库
使用产品前请仔细阅读本书，并请妥善保管。

关于废弃产品的处理
请不要将废弃的产品与一般生活垃圾一同弃置。
正确处置废弃的产品有助于避免对环境 and 人类健康造成潜在的负面影响。
具体的处理方法请遵循当地的规章制度。

警告

为减少火灾或电击危险，请勿让本设备受到雨淋或受潮。

为防止触电严禁拆开机壳，维修请咨询具备资格人士。

此设备必须接地。（ODS-L30M/L60E）

在安装此设备时，要在固定布线中配置一个易于使用的断电设备，或者将电源插头与电气插座连接，此电气插座必须靠近该设备并且易于使用。在操作设备时如果发生故障，可以切断断电设备的电源以断开设备电源，或者断开电源插头。（ODS-L30M/L60E）

- 警告（ODS-L30M/L60E）**
1. 请使用经过认可的电源线（3 芯电源线）/ 设备接口 / 带有接地点的插头，并且都要符合所在国家的安全法规。
 2. 请使用符合特定额定值（电压、电流）的电源线（3 芯电源线）/ 设备接口 / 插头。

如果在使用上述电源线 / 设备接口 / 插头时有任何疑问，请咨询合格的维修人员。

重要（ODS-L30M/L60E/L100E）
设备铭牌位于后面。

重要（ODS-D77F）
设备铭牌位于侧面。

注意（ODS-L30M）
用户不得自行更换电池，应交由合格维修人员进行。
如果电池更换不当会有爆炸危险。
只能用同样类型或等效类型的电池来更换。

警告
此为 A 级产品。在生活环境中，该产品可能会造成无线电干扰。
在这种情况下，可能需要用户对干扰采取切实可行的措施。

注意（ODS-D77F）
未按照此处规定的程序使用控制器、进行调整或操作可能会导致危险的辐射暴露。

依据 GB7247.1-2012 《激光产品安全 第 1 部分：设备分类、要求》，本装置属于 1 类激光产品（ODS-D77F）

激光二极管特性（ODS-D77F）
波长：400 - 410 nm
发射持续时间：连续
激光输出功率：280 mW （最大脉冲峰值），
150 mW （最大连续波）

目录

- 概述 173
 - 系统配置示例 174
- 部件的名称和功能 175
 - ODS-L30M 175
 - ODS-L60E..... 177
 - ODS-L100E..... 179
- 处理媒体 181
 - 用于读取和写入的媒体 181
 - 处理注意事项 181
 - 光盘盒存储器 181
 - 写保护媒体 181
 - 条形码标签 182
- 启动和关闭..... 183
 - 启动 183
 - 关闭..... 183
- 导入和导出光盘盒..... 183
 - 打开 I/E 站 183
 - 导入和导出光盘盒 183
 - 注册数据库..... 183
- 配置网络 184
 - 配置 IPv4 地址 184
 - 显示 Web 屏幕 185
- 在服务器上安装软件 186
 - 操作环境..... 186
 - 安装..... 187
- 菜单操作 187
 - 基本菜单操作..... 187
 - 菜单列表..... 188
- 消息 189
- 操作注意事项 191
 - 冷凝水..... 191
 - 部件更换..... 191
 - 液晶显示器 191
 - 使用驱动器单元的注意事项..... 191
- 商标和许可证 192
 - 开源软件许可证..... 192
 - 获得 GPL/LGPL/GPL V3 许可的软件..... 192
- 规格 192

概述

ODS-L30M PetaSite 主单元是一个库主单元，最多可容纳两个可选驱动器单元 (ODS-D77F) 和 30 个光盘档案盒。通过在 ODS-L30M 主单元上安装 ODBK-103 扩展套件（未随附），PetaSite 可链接到多个扩展单元，从而根据您的需求扩展系统。ODS-L30M 可以高效地读写多个光盘档案盒上的数据，因此能够简化数据材料的存档以及已存档数据材料的检索（通过上传到服务器）。

扩展单元包括 ODS-L60E PetaSite 驱动器和 ODS-L100E PetaSite 光盘盒扩展单元。ODS-L60E 最多可容纳四个可选驱动器单元 (ODS-D77F) 和 61 个光盘档案盒。ODS-L100E 最多可容纳 101 个光盘档案盒。

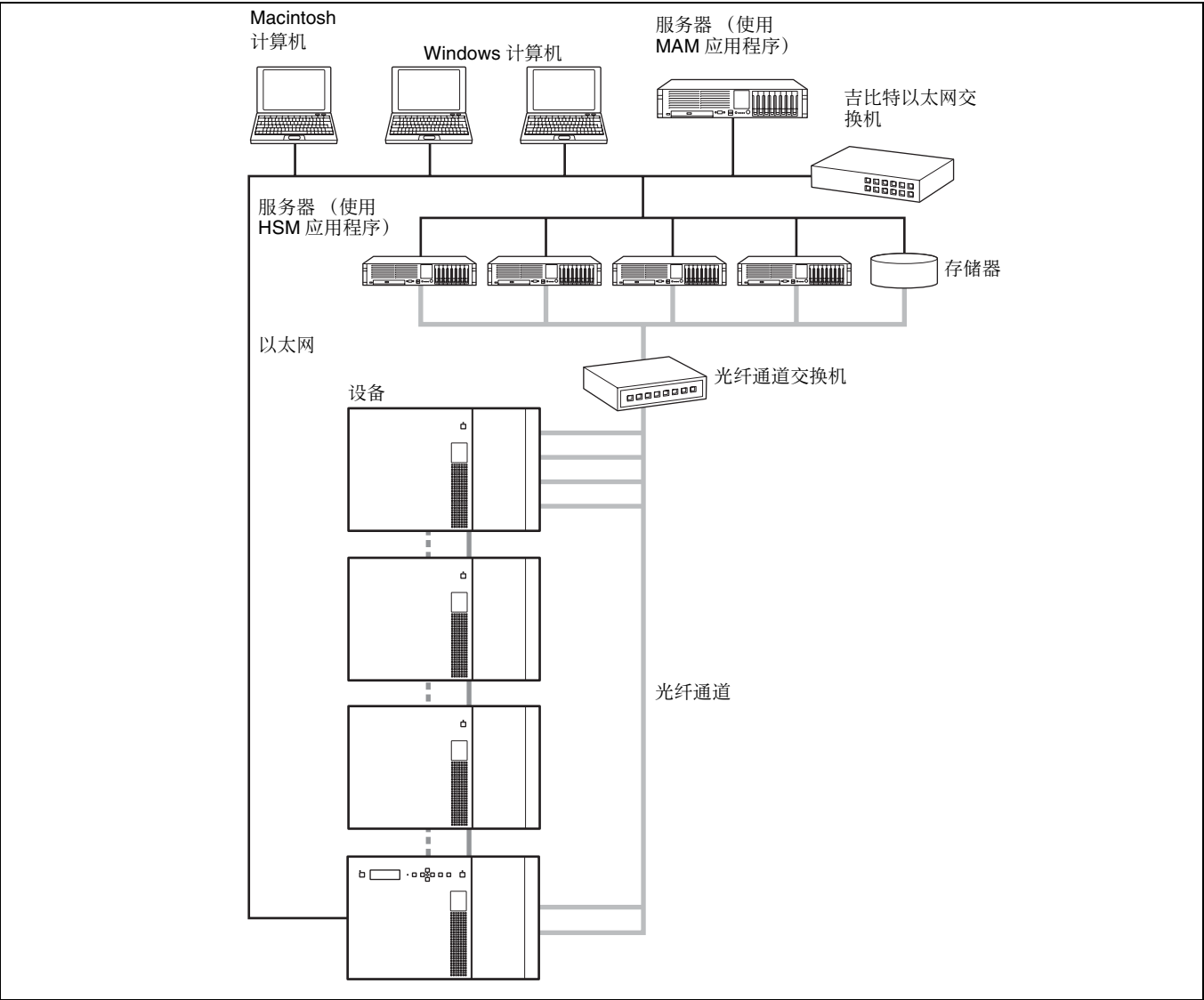
ODS-D77F 可选光盘档案驱动器单元可以在配备了两个磁头的 ODS-L30M 和 ODS-L60E 上进行安装，专门设计与 ODS-L30M/L60E 配合使用。此外，其光纤通道还支持高速处理。

您还可以安装 ODBK-101（适用于 ODS-L30M）或 ODBK-102（适用于 ODS-L60E）电源选件来提供冗余电源，同时具有驱动器单元提供的相同热交换能力。如果需要高度可靠性的系统中有一个电源设备或驱动器单元发生故障，这可保证连续运转。

在本手册中，安装有驱动器单元的 PetaSite（包括主单元以及所有附加扩展套件或扩展单元）被称为“设备”，光盘档案盒被称为“光盘盒”。

系统配置示例

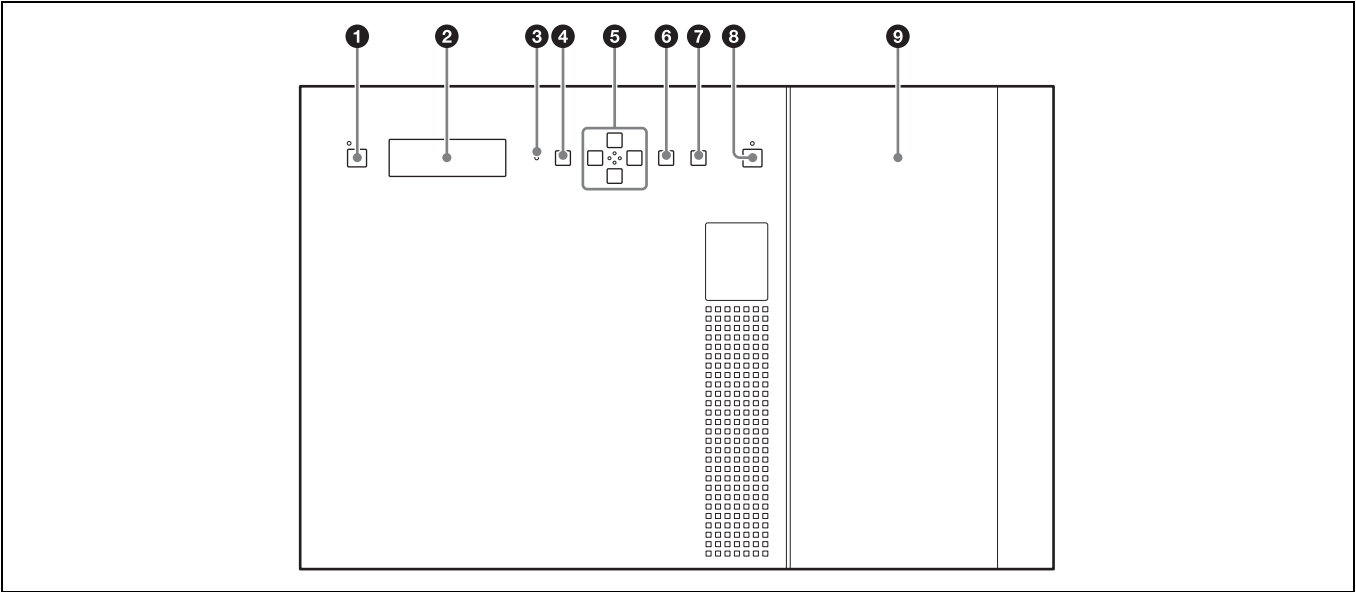
结合相关设备使用本设备可构建以下类型的系统。



部件的名称和功能

ODS-L30M

前面板



注意

可以拆除 ODS-L30M 的前面板并与 ODS-L60E/L100E 扩展单元的前面板互换。ODS-L30M 将会安装在多个设备的底部，但其前面板将置于扩展单元上面，因其高度便于操作。

❶ 开机 / 待机键和指示灯

当打开后面板上的主电源开关时，会在开机和待机模式之间进行切换。在开机模式时按下该按钮时会切换至待机模式。此时，显示器上会出现关机确认消息。使用箭头键选择 “Yes”，然后按下 ENTER 按钮。设备打开时指示灯会亮起绿色，设备处于待机模式时会亮起红色。设备正在关闭时，指示灯会闪烁绿色。

注意

- 如果在驱动器中有光盘时按下该按钮，显示器上将出现确认消息。继续执行操作前请将光盘从驱动器中弹出。
- 关闭设备前请退出所有已连接的应用程序。关机后，驱动器电源将关闭，当前正在记录的所有数据都会丢失。

❷ 显示器

显示设备的状态、设置菜单和消息等。

❸ ALARM 指示灯

发生错误或警告时闪烁。

闪烁红色：发生错误

闪烁橙色：发生警告

❹ MENU 键

按下此键会在显示器中显示菜单。

❺ 箭头键

在显示器中滚动菜单并设置输入值。

❻ ENTER 键

菜单操作期间移至下一页或确认输入值。

❼ BACK 键

菜单操作期间移至上一页或取消输入值。

❽ I/E STATION 键和指示灯

释放 I/E 站的锁定。该指示灯亮起绿色或橙色时，可进行解锁。解锁后，该指示灯开始闪烁橙色。

如果在解锁后的 10 秒内 I/E 站未打开，则 I/E 站将会自动重新锁定。

如果 I/E 站打开的时间超过 3 分钟，该指示灯将闪烁红色。

注意

可选择每个设备中的 I/E 站是用作 I/E 插槽以导入 / 导出光盘，还是用作存储插槽（禁止导入 / 导出光盘）。

在 I/E 站用作存储插槽的设备中，I/E 站无法解锁。

指示灯	含义
熄灭	在下列情况下无法解锁。 - 通过应用程序锁定 I/E 站时。 - I/E 站用作存储插槽时。
绿色（闪烁）	由于当前正在访问 I/E 站而无法解锁。
绿色	可解锁。I/E 站中有一个光盘。
橙色	可解锁。I/E 站中没有光盘。
橙色（闪烁）	已解锁。
红色（闪烁）	I/E 站出现问题。显示器上出现以下消息之一。 - CLOSE I/E STATION: I/E 站打开的时间超过 3 分钟。 - I/E STATION LOCKED: 由于是在指示灯熄灭或闪烁时按下了该按钮而无法解锁。 - I/E STATION OPENED: 在 I/E 站处于打开状态时请求移动 I/E 插槽。 * 菜单操作期间显示器上不会显示消息。

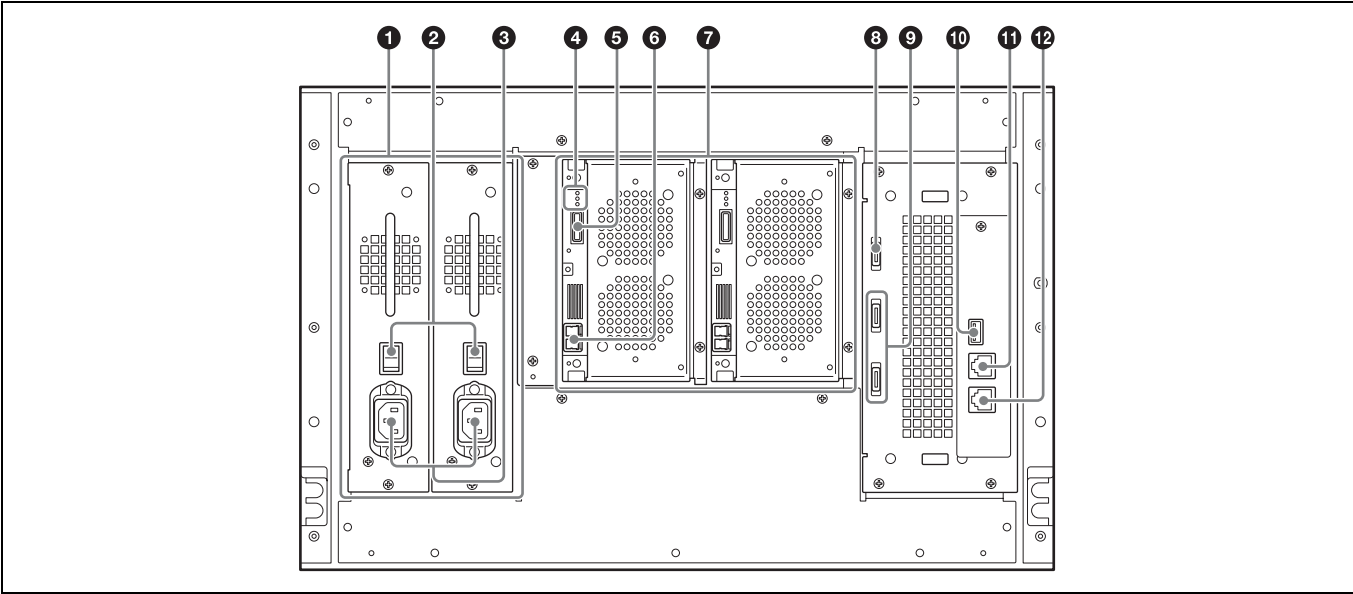
设备随附包含如下信息的 I/E 站标签。

I/E STATION 指示灯	状态	I/E STATION 键
○ 关闭	无法打开 / 关闭，因为操作被禁用。	禁用
● 绿色（闪烁）	无法打开 / 关闭，因为正在访问 I/E 站。	禁用
● 绿色 ● 橙色	无法解锁。 绿色：存在 ODA 光盘 橙色：不存在 ODA 光盘	启用
● 橙色（闪烁）	已解锁。可以打开 / 关闭。	禁用
● 红色（闪烁）	出现错误。 检查设备的显示。	禁用

9 I/E 站门

后面板

以下图标描述了安装有两个驱动器单元和两个电源设备的 ODS-L30M。



1 电源设备安装插槽

通过安装 ODBK-101 可选电源（未提供），可以提供冗余电源。如果需要高度可靠性的系统中有一个电源设备发生故障，这可保证连续运转。

有关添加或更换电源的详细信息，请咨询当地的 Sony 代表。

2 主电源开关

打开或关闭主电源。使用设备时，请打开这些开关，使用前面板上的开机 / 待机键在操作和待机模式之间切换。

注意

关闭主电源时，请务必在按下这些开关前使用前面板上的开机 / 待机键将设备设为待机模式。

3 AC IN 接口

使用电源线将接口连接至电源插座。

4 驱动器单元指示灯

表示驱动器单元的状态。从顶部开始，三个指示灯如下所示。

• POWER 指示灯

亮起绿色：正在供电。

• **LINK 指示灯**

缓慢闪烁蓝色（每秒一次）：未连接 FC 电缆。
亮起蓝色：已连接 FC 电缆。
快速闪烁蓝色（每秒四次）：已连接 FC 电缆且正在接收命令。

注意

- 正确连接 FC 电缆时，此指示灯会亮起蓝色。连接 FC 电缆后，即使无法通过计算机控制驱动器单元，此指示灯也会亮起蓝色。
 - 接通电源后，即使未连接 FC 电缆，此指示灯也会在驱动器单元初始化期间亮起蓝色。在这种情况下，此指示灯会在初始化完成后开始缓慢闪烁蓝色。
- **STATUS 指示灯**
亮起绿色：可以更换驱动器单元（即，驱动器已离线且驱动器电源已关闭）。
亮起红色：发出警报（除 00-000 以外的警报代码）。
缓慢闪烁绿色（每秒一次）：驱动器正在初始化。
快速闪烁绿色（每 0.25 秒一次）：正在进行固件更新。
熄灭：正常状态。

5 ODS CONTROL 接口（ADI/ 电源）
连接到编号与 ODS-L30M 上的驱动器的编号相同的 DRIVE 接口，以向驱动器单元供电并启用 ADI（自动 / 驱动器接口）控制。

6 FC（光纤通道）接口
可以通过光纤通道交换机连接至服务器和外部存储器。

7 驱动器单元安装插槽
最多可以安装两个可选驱动器单元 (ODS-D77F)。

8 OUT 2（单元互连）接口
使用单元互连电缆 2（随扩展单元提供）连接到扩展单元 (ODS-L60E/ODS-L100E) 上的 IN 2 接口。

9 DRIVE 1, 2 接口（ODS 控制（ADI/ 电源））
使用 ODA 控制电缆（随扩展单元提供）连接到编号相同的驱动器单元（DRIVE 1 或 2）的 ODS CONTROL 接口，以向驱动器单元供电并启用 ADI 控制。

10 OUT 1（单元互连）接口
使用单元互连电缆 1（随扩展单元提供）连接到扩展单元 (ODS-L60E/ODS-L100E) 上的 IN 1 接口。

11 网络端口 1
将网络电缆连接到此处以配置设备或通过 Web 屏幕查看其状态。
此端口在配置屏幕中显示为 “Network1”。

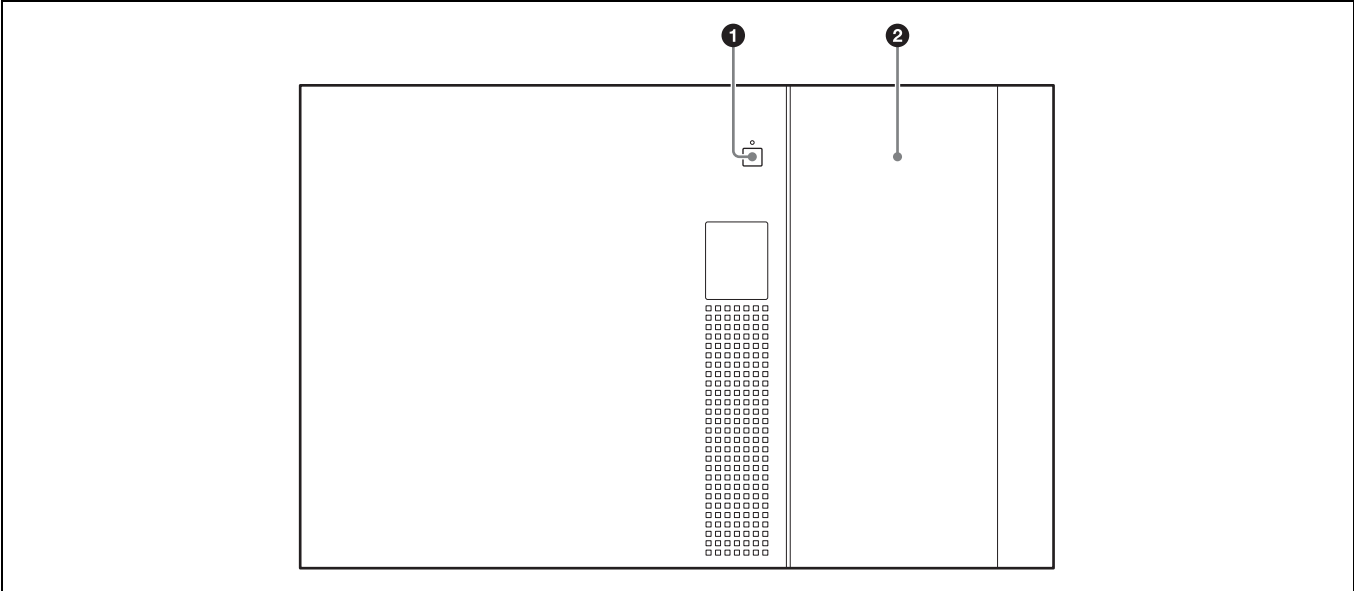
12 网络端口 2（用于维护）
此端口在配置屏幕中显示为 “Network2”。

注意

- 为安全起见，请勿将可能有过高电压的外围设备配线用连接器连接到本端口上。按照本端口的说明操作。
- 将本设备的网络电缆连接到外围设备时，请使用屏蔽型电缆防止电磁噪声造成的故障。

ODS-L60E

前面板



❶ I/E STATION 键和指示灯

释放 I/E 站的锁定。该指示灯亮起绿色或橙色时，可进行解锁。解锁后，该指示灯开始闪烁橙色。如果在解锁后的 10 秒内 I/E 站未打开，则 I/E 站将会自动重新锁定。
如果 I/E 站打开的时间超过 3 分钟，该指示灯将闪烁红色。

注意

可选择每个设备中的 I/E 站是用作 I/E 插槽以导入 / 导出光盘，还是用作存储插槽（禁止导入 / 导出光盘）。
在 I/E 站用作存储插槽的设备中，I/E 站无法解锁。

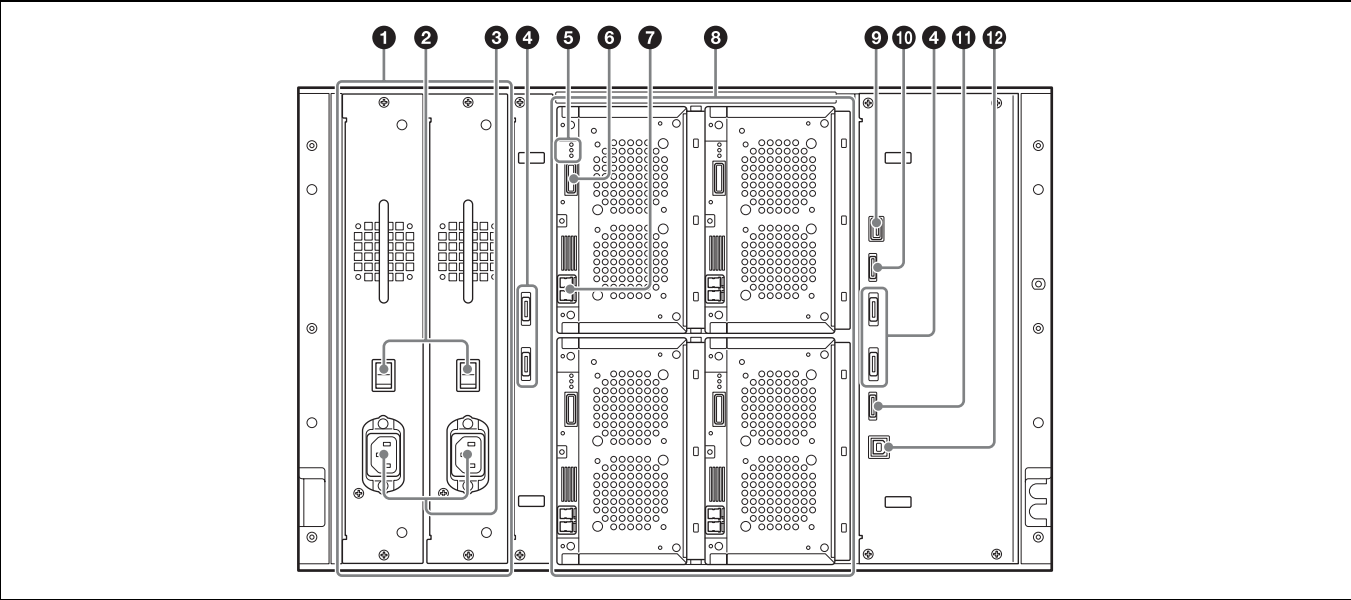
指示灯	含义
熄灭	在下列情况下无法解锁。 - 通过应用程序锁定 I/E 站时。 - I/E 站用作存储插槽时。

指示灯	含义
绿色（闪烁）	由于当前正在访问 I/E 站而无法解锁。
绿色	可解锁。I/E 站中有一个光盘。
橙色	可解锁。I/E 站中没有光盘。
橙色（闪烁）	已解锁。
红色（闪烁）	I/E 站出现问题。显示器上出现以下消息之一。 - CLOSE I/E STATION: I/E 站打开的时间超过 3 分钟。 - I/E STATION LOCKED: 由于是在指示灯熄灭或闪烁时按下了该按钮而无法解锁。 - I/E STATION OPENED: 在 I/E 站处于打开状态时请求移动 I/E 插槽。 * 菜单操作期间显示器上不会显示消息。

❷ I/E 站门

后面板

以下图标描述了安装有四个驱动器单元和两个电源设备的 ODS-L60E。



❶ 电源设备安装插槽

通过安装 ODBK-102 可选电源（未提供），可以提供冗余电源。如果需要高度可靠性的系统中有一个电源设备发生故障，这可保证连续运转。
如果 ODS-L60E 中未安装驱动器单元，则不需要电源设备。

有关添加或更换电源的详细信息，请咨询当地的 Sony 代表。

❷ 主电源开关

打开或关闭主电源。使用设备时，请打开这些开关，使用前面板上的开机 / 待机键在操作和待机模式之间切换。

注意

关闭主电源时，请务必在按下这些开关前使用 ODS-L30M 前面板上的开机 / 待机键将设备设为待机模式。

❸ AC IN 接口

使用电源线将接口连接至电源插座。

④ DRIVE 1 至 4 接口 (ODS 控制 (ADI/ 电源))
使用 ODA 控制电缆 (随扩展单元提供) 连接到编号相同的驱动器 (DRIVE 1 至 4) 的 ODS CONTROL 接口, 以向驱动器单元供电并启用 ADI 控制。

⑤ 驱动器单元指示灯

表示驱动器单元的状态。从顶部开始, 三个指示灯如下所示。

• **POWER 指示灯**

亮起绿色: 正在供电。

• **LINK 指示灯**

缓慢闪烁蓝色 (每秒一次): 未连接 FC 电缆。

亮起蓝色: 已连接 FC 电缆。

快速闪烁蓝色 (每秒四次): 已连接 FC 电缆且正在接收命令。

注意

- 正确连接 FC 电缆时, 此指示灯会亮起蓝色。连接 FC 电缆后, 即使无法通过计算机控制驱动器单元, 此指示灯也会亮起蓝色。
- 接通电源后, 即使未连接 FC 电缆, 此指示灯也会在驱动器单元初始化期间亮起蓝色。在这种情况下, 此指示灯会在初始化完成后开始缓慢闪烁蓝色。

• **STATUS 指示灯**

亮起绿色: 可以更换驱动器单元 (即, 驱动器已离线且驱动器电源已关闭)。

亮起红色: 发出警报 (除 00-000 以外的警报代码)。

缓慢闪烁绿色 (每秒一次): 驱动器正在初始化。

快速闪烁绿色 (每 0.25 秒一次): 正在进行固件更新。

熄灭: 正常状态。

⑥ ODS CONTROL 接口 (ADI/ 电源)

连接到编号与 ODS-L60E 上的驱动器的编号相同的 DRIVE 接口, 以向驱动器单元供电并启用 ADI (自动 / 驱动器接口) 控制。

⑦ FC (光纤通道) 接口

可以通过光纤通道交换机连接至服务器和外部存储器。

⑧ 驱动器单元安装插槽

最多可以安装四个可选驱动器单元 (ODS-D77F)。

⑨ OUT 1 (单元互连) 接口

使用单元互连电缆 1 (随扩展单元提供) 连接到主单元 (ODS-L30M) 或其他扩展单元 (ODS-L60E/ ODS-L100E) 的 IN 1 接口。

⑩ OUT 2 (单元互连) 接口

使用单元互连电缆 2 (随扩展单元提供) 连接到主单元 (ODS-L30M) 或其他扩展单元 (ODS-L60E/ ODS-L100E) 的 IN 2 接口。

⑪ IN 2 (单元互连) 接口

使用单元互连电缆 2 (随扩展单元提供) 连接到主单元 (ODS-L30M) 或其他扩展单元 (ODS-L60E/ ODS-L100E) 的 OUT 2 接口。

⑫ IN 1 (单元互连) 接口

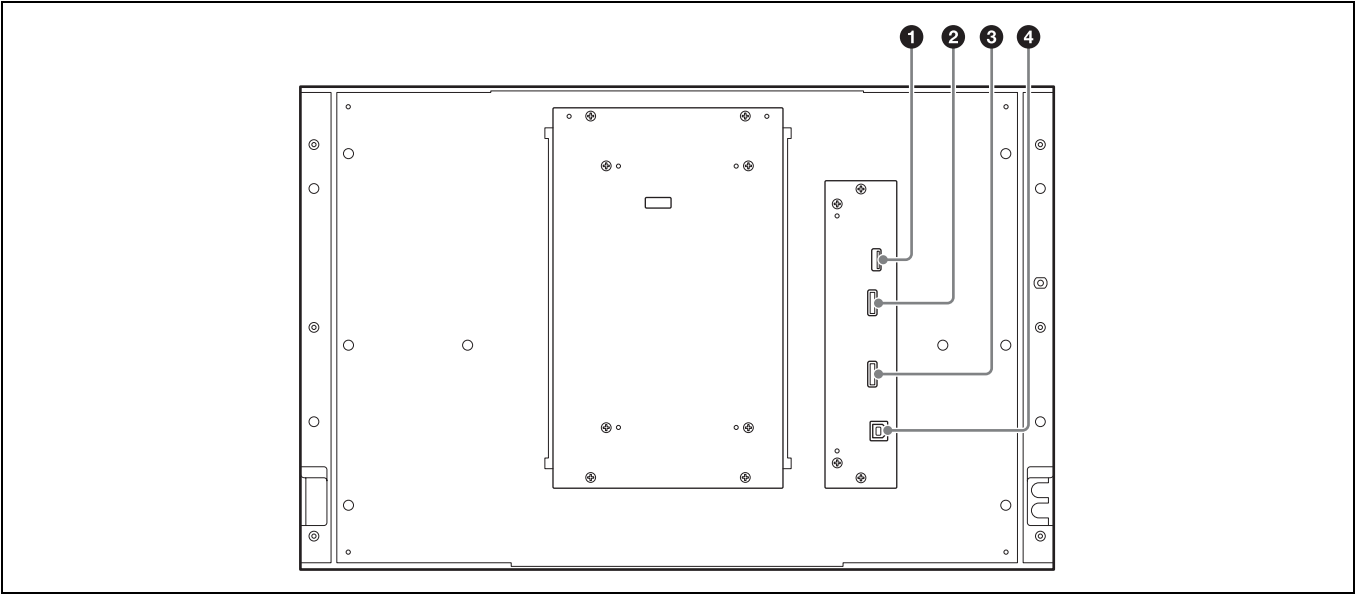
使用单元互连电缆 1 (随扩展单元提供) 连接到主单元 (ODS-L30M) 或其他扩展单元 (ODS-L60E/ ODS-L100E) 的 OUT 1 接口。

ODS-L100E

前面板

此面板与 ODS-L60E （请参见第 177 页）的前面板完全相同。

后面板



- ❶ OUT 1（单元互连）接口**
使用单元互连电缆 1（随扩展单元提供）连接到主单元 (ODS-L30M) 或其他扩展单元 (ODS-L60E/ODS-L100E) 的 IN 1 接口。
- ❷ OUT 2（单元互连）接口**
使用单元互连电缆 2（随扩展单元提供）连接到主单元 (ODS-L30M) 或其他扩展单元 (ODS-L60E/ODS-L100E) 的 IN 2 接口。
- ❸ IN 2（单元互连）接口**
使用单元互连电缆 2（随扩展单元提供）连接到主单元 (ODS-L30M) 或其他扩展单元 (ODS-L60E/ODS-L100E) 的 OUT 2 接口。
- ❹ IN 1（单元互连）接口**
使用单元互连电缆 1（随扩展单元提供）连接到主单元 (ODS-L30M) 或其他扩展单元 (ODS-L60E/ODS-L100E) 的 OUT 1 接口。

处理媒体

用于读取和写入的媒体

本设备使用以下光盘档案盒和相似媒体来进行读取和写入。

光盘盒	媒体类型	可以创建的文件数
ODC300R 容量：300GB	一次性写入	60,000 或 240,000
ODC300RE 容量：300GB	可重写	60,000 或 240,000
ODC600R 容量：600GB	一次性写入	60,000 或 240,000
ODC600RE 容量：600GB	可重写	60,000 或 240,000
ODC1200RE 容量：1.2TB	可重写	60,000 或 240,000
ODC1500R 容量：1.5TB	一次性写入	60,000 或 240,000

注意

- 从媒体中删除文件并不会增加一次性写入型或可重写型光盘盒的可用存储空间。
- 如果使用一次性写入型光盘盒，请注意以下几点。
 - 重新格式化媒体并不会增加可用存储空间。
 - 重复写入文件将会消耗媒体上可供写入的空间（用于写入媒体管理数据等）。如果媒体上没有可供写入的空间，即使有充足的存储空间，也可能会禁止写入文件。
 - 最终化媒体后，将无法写入任何文件。
- 可以在格式化光盘盒时选择可创建的最大文件数（60,000 或 240,000）。
- 重新格式化一次性写入型媒体后，将会沿用之前可创建的最大文件数据（60,000 或 240,000）。但是，重新格式化可写入型媒体后，可以重新选择可创建的最大文件数。
- 如果在格式化期间选择可创建的最大文件数为 240,000，则文件修复功能的成功修复率将低于选择 60,000 时的成功修复率。

处理注意事项

处理

光盘档案盒设计将 12 张光盘装在一个壳内，以免在使用时沾染灰尘或指纹。但是，如果光盘盒受到剧烈震动（例如掉落），则可能导致光盘损坏或划伤。如果光盘被划伤，则可能无法写入数据，或无法读取写入光盘的数据。请小心使用光盘盒并妥善保管。

- 请勿从光盘盒中取出任何光盘。
- 请勿拆解光盘盒。

- 如果光盘盒中的光盘顺序发生变化，或替换为其他光盘，设备将不能再识别此光盘盒且无法使用光盘盒。
- 建议使用随附的粘贴标签对光盘盒编索引。将标签贴在正确位置。

存放

- 请勿将光盘盒存放在可能受到阳光直射或温度或湿度过高的地方。
- 请勿将光盘盒放在可能会进入灰尘的地方。
- 请将光盘盒存放在其盒子中。

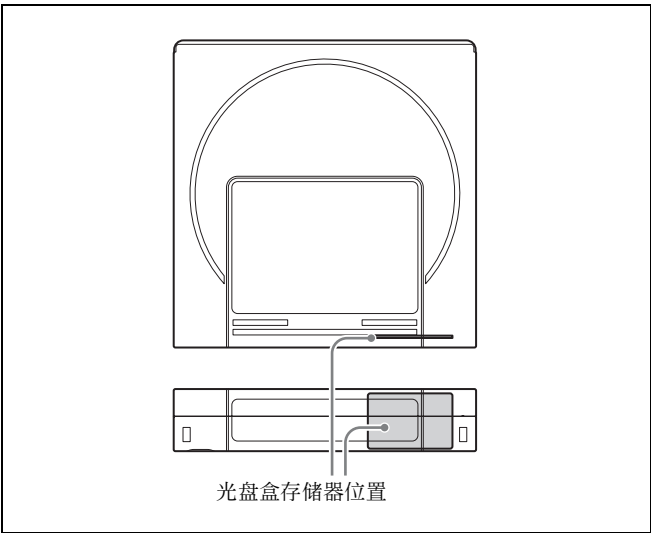
光盘盒护理

- 使用柔软干布擦去光盘盒外部的灰尘和污垢。
- 如果形成凝露，请在使用前留出足够时间让其干燥。

光盘盒存储器

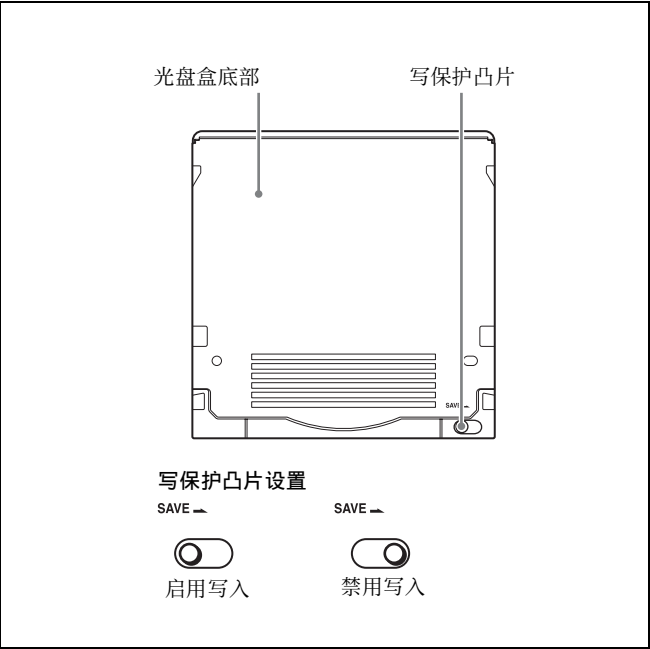
光盘档案盒包括可与本设备进行非接触式通信的光盘盒存储器。

光盘档案盒的基本信息会写入光盘盒存储器。使用此应用程序软件可让用户以后写入 / 读取用户数据。



写保护媒体

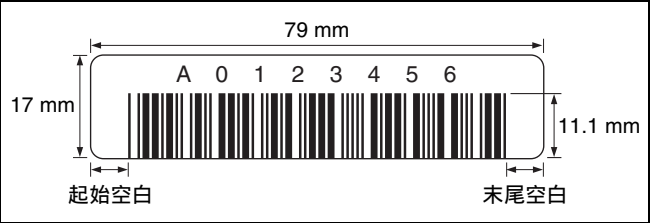
为了避免意外擦除记录媒体上的内容，请沿箭头方向滑动光盘盒底部的写保护凸片（标签一侧的背部），如下图所示。



还可以通过主应用程序执行媒体的写保护设置。如果写保护凸片或主应用程序被设为禁止写入，媒体将保持为写保护状态。

条形码标签

本设备的条形码阅读器支持 CODE39 条形码。支持的条形码标签的规格如下。

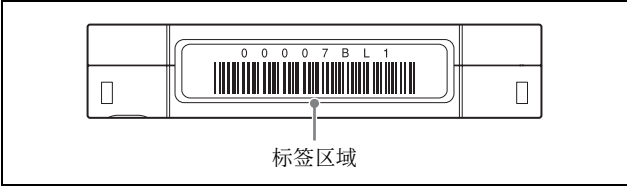


尺寸	符合所用 ODA 光盘上标签的边框大小
标签和印刷	非光面
条宽	条和间距都较窄
	0.423 mm +0.03/-0.076 mm（通常宽度为 0.423 mm）
宽窄条比例	2.75:1
条长	11.1 mm 或更长
静区（起始空白 / 末尾空白）	6.35 mm 或更大
长度	8 个大写字母数字字符（不包括起始码 / 停止码）
校验位	无

注意

- 不要在条码任一侧的空白区进行标记。如果存在标记，可能无法正确读取条码。

- 如果标签或印刷采用光面，可能会因为光晕而无法正常读取。有关可读取的条码标签的详细信息，请联系您的 Sony 服务代表或销售代表。
- 如果您想要使用具有九个或更多个字符的条码标签，请联系您的 Sony 服务代表或销售代表。
- 将条码标签完全贴在 ODA 光盘的标签区域中，使标签才不会伸出，如下图所示。紧紧向下按压条码标签，以免标签脱落。



- 如果标签未完全粘在凹陷区域，加载期间，驱动器单元或本设备可能会出现问題。

条码标签注意事项

- 仅适用符合 Sony 规格的条码标签。
- 请勿粘贴嵌有 ODA 光盘内存的条码标签。
- 请勿重复使用标签或将用过的标签粘贴在现有标签上。
- 粘贴新标签之前请先移除旧标签。移除标签后，以垂直于 ODA 光盘盒的方向慢慢剥离标签。
- 新标签在移除时应不会遗留粘结剂（即，标签可轻松移除）。如果粘结剂留在 ODA 光盘上，请用手指轻轻搓掉。
- 清洁标签区域时，请勿使用尖锐的物品、水或化学清洁剂。
- 在粘贴标签之前，请先检查标签的状态。如果印刷的字符或条码有缺陷，可能无法正确读出条码，导致条码处理时间变长。
- 从标签纸上剥离标签时，请注意不要拉伸标签或导致标签的边缘卷起。
- 务必将标签平整地粘贴在 ODA 光盘上，不要留下褶皱或气泡。
- 务必完全粘贴标签，以免标签脱落和卷曲。

启动和关闭

注意

请务必在启动和关闭设备时关闭 I/E 站。

启动

1 检查电源线是否已连接，然后打开设备后面板上的主电源开关。

2 按下前面板上的开机 / 待机键。

按下此键时，开机 / 待机指示灯会亮起绿色。
如果显示器上的文字停止闪烁，则初始化将会结束，且设备已准备好供使用。

关闭

1 按下开机 / 待机键。

2 当显示器上出现关机确认消息时，使用箭头键选择 [Yes]，然后按下 ENTER 键。

如果任一驱动器中有光盘盒，都会出现另一个确认消息。

3 直到开机 / 待机指示灯从绿色闪烁变为亮起红色，再关闭后面板上的主电源开关。

注意

除非紧急状况，否则请务必先关闭本机，然后再关闭后面板上的主电源开关。

导入和导出光盘盒

打开 I/E 站

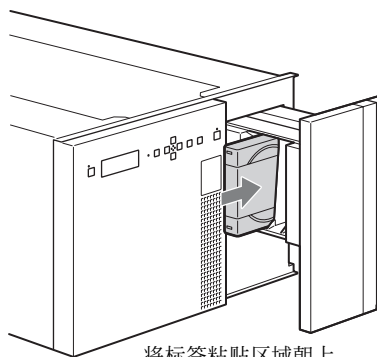
打开 I/E 站之前，先按下前面板上的 I/E STATION 键释放 I/E 站锁定。按下 I/E STATION 键时，即会解锁且 I/E STATION 指示灯会闪烁橙色。

注意

- 按住 I/E STATION 按键（约一秒钟）并等到 I/E STATION 指示灯闪烁橙色，然后再打开 I/E 站。
- 如果按下 I/E STATION 键后 I/E 站未解锁，请将 I/E 站完全推入设备，然后再次按 I/E STATION 键。

导入和导出光盘盒

将光盘盒插入插槽，推动光盘盒到底。



将标签粘贴区域朝上。

取出光盘盒时，保持光盘盒水平然后向左拉出。

关闭 I/E 站

慢慢将 I/E 站完全推入设备中，然后检查 I/E STATION 指示灯是否闪烁绿色。

注意

- 如果 I/E STATION 指示灯闪烁橙色，表示未完全关闭 I/E 站。
- 如果 I/E 站保持开启状态达 3 分钟或更长时间，会发出警告声。

注册数据库

插入光盘盒并关闭 I/E 站后，各光盘盒的相关信息会自动注册到设备的数据库中。如果插入多个光盘盒，则数据库注册可能需要较长时间。

数据库注册完成后，I/E STATION 指示灯将会亮起绿色或橙色。

配置网络

在设备前面板的显示器中配置 IPv4 地址后，将设备连接到安装有 Web 浏览器的计算机，通过 Library Maintenance Web UI 配置设备的设置并检查其状态。

配置 IPv4 地址

必需设置 IP 地址、子网掩码和默认网关。在出厂默认设置中，Network 1 配置用于 DHCP。Network 2 配置成了以下设置。

IP 地址: 192.168.1.10
子网掩码: 255.255.255.0
默认网关: 0.0.0.0

使用设备前面板上的显示器和键来配置网络设置。

1 按下 MENU 键。

显示器上出现菜单。

```
Menu
> 1.Information
  2.Setup
  3.Maintenance
```

2 使用 上 和 下 键选择 [Setup]，然后按下 ENTER 键。

出现 [Setup] 屏幕。

```
Setup
> 1.Network
  2.Control Panel
```

3 使用 上 和 下 键选择 [Network]，然后按下 ENTER 键。

出现 [Network] 屏幕。

```
Network
> 1.Network 1
  2.Network 2
```

4 使用 上 和 下 键选择 [Network 1]，然后按下 ENTER 键。

出现 [Network1] 屏幕。

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
  2.IPv6 Setting
```

5 使用 上 和 下 键选择 [IPv4 Setting]，然后按下 ENTER 键。

出现以下屏幕。星号 (*) 表示当前设置。要配置 IPv4 地址，此设置必须设为 [Enabled]。如果此设置已设为 [Enabled]，请继续步骤 8。

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  Enabled
  *Disabled
```

6 按下 ENTER 键更改设置。

出现选择屏幕（即，带有光标 (>) 的屏幕）。可以在此屏幕中更改设置。

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
> Enabled
  *Disabled
```

7 使用 左 和 右 键选择 [Enabled]，然后按下 ENTER 键。

出现确认屏幕（即，不带光标 (>) 的屏幕）。

```
IPv4 Setting
IPv4 Enabled
  *Enabled
  Disabled
```

8 确认已选择 [Enabled]，然后按下 右 键。

出现以下屏幕。

```
IPv4 Setting
IPv4 DHCP
  Auto
  *Static
```

9 按下 ENTER 键显示选择屏幕。

10 要使用静态 IP 地址，使用 上 和 下 键选择 [Static]，然后按下 ENTER 键。

注意

要使用 DHCP，请用 上 和 下 键选择 [Auto]，按下 ENTER 键，然后继续步骤 17。

11 按下 右 键。

出现以下屏幕。

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

12 按下 ENTER 键。

IP 地址的第一个数字闪烁，表示可更改此数字。

```
IPv4 Setting
IPv4 Address
000.000.000.000
```

13 输入 IP 地址。

使用 $\leftarrow$ 和 $\rightarrow$ 键移动光标，使用 $\uparrow$ 和 $\downarrow$ 键更改值。

14 输入地址后按 ENTER 键进行确认。

15 按下 $\downarrow$ 键显示 [IPv4 Netmask]，然后使用和配置 IP 地址相同的方法配置子网掩码。

```
IPv4 Setting
IPv4 Netmask
000.000.000.000
```

16 按下 $\downarrow$ 键显示 [IPv4 Gateway]，然后使用相同方法配置默认网关。

```
IPv4 Setting
IPv4 Gateway
000.000.000.000
```

17 按下 $\downarrow$ 键。

出现 [IPv4 DNS]。

```
IPv4 Setting
IPv4 DNS
Auto
*Static
```

18 要配置 DNS 地址，请选择 [Static]。

如果当前设置为 [Auto]，使用 ENTER 键显示选择屏幕，再使用 $\uparrow$ 和 $\downarrow$ 键选择 [Static]，然后按下 ENTER 键进行确认。

注意

要自动获取 DNS 地址，请选择 [Auto]。使用和 [Static] 相同的方法确认设置，然后继续步骤 24。

19 按下 ENTER 键。

出现 [IPv4 Primary DNS] 屏幕。

```
IPv4 Setting
IPv4 Primary DNS
000.000.000.000
```

20 按下 ENTER 键。

IP 地址的第一个数字闪烁，表示可更改此数字。

21 使用 $\leftarrow$ 、 $\rightarrow$ 、 $\uparrow$ 和 $\downarrow$ 键输入主 DNS 地址，然后按下 ENTER 键。

22 按下 $\downarrow$ 键。

出现 [IPv4 Secondary DNS] 屏幕。

23 使用与步骤 20 相同的方法输入次要 DNS 地址，然后按下 ENTER 键，

24 按下 $\downarrow$ 键。

出现以下确认屏幕。

```
Network1
IPv4 Setting
> Save
Cancel
```

25 确认已选择 [Save]，然后按下 ENTER 键。

此时即会启用已更改的 IP 地址。
再次出现 [Network1] 屏幕。

```
Network1
> 1.IPv4 Setting
2.IPv6 Setting
```

26 按下 BACK 键三次以结束菜单操作。

也可以在 Web 屏幕 (Library Maintenance Web UI) 中更改 IP 地址。

有关使用 Library Maintenance Web UI 进行更改的详细信息，请参阅 Library Maintenance Web UI 帮助。

显示 Web 屏幕

可使用 Web 屏幕 (Library Maintenance Web UI) 执行设备的设置操作。

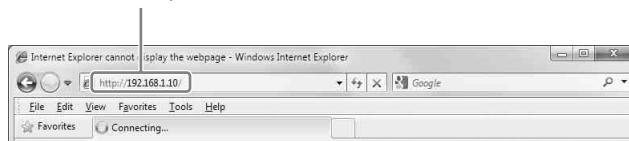
推荐的环境

Web 浏览器：

- 适用于 Windows：Google Chrome（最新版本）或 Microsoft Internet Explorer 11
- 适用于 Mac OS：Google Chrome（最新版本）
- 显示器大小：1,024 像素或更宽

要显示 Web 屏幕，请在 Web 浏览器中输入 URL `https://(IP 地址)/`。

例如：`https://192.168.1.10/`



通过 Web 浏览器连接到设备时，会出现 “The site’s security certificate is not trusted!” 或类似消息。继续操作前，检查消息中显示的 IP 地址是否正确。接着会出现验证屏幕。输入以下用户名和密码。

用户：admin，密码：ods-l30m

经过验证后，即会出现 Library Maintenance Web UI 屏幕。

有关 Library Maintenance Web UI 操作的详细信息，请参阅 Library Maintenance Web UI 帮助。

注意

- 请咨询您的网络管理员以了解所需网络设置。视浏览器代理服务器设置而定，计算机可能不会与网络上的设备连接。
- 一次只能有一个 Web 客户端连接至设备。
- Web 屏幕同时最多支持三个连接（http 会话）。如果两个或多个会话同时打开，则在注册操作相互冲突时会出错。在这种情况下，应该再次进行操作。
- 库不会执行网络路由。要自动获取网关地址和 IP 地址，请仅为一个网络配置设置。
- 在 Web 浏览器中启用 JavaScript。如果未启用 JavaScript，将不会显示登录屏幕。
- 将 Web 浏览器设置为接受 cookie。只有允许浏览器接受来自本机的 cookie 后才能登录。
- 视 Web 浏览器和操作系统版本而定，Web 浏览器设置偏好将有所不同。请参阅 Web 浏览器和操作系统的操作说明或帮助。

在服务器上安装软件

在通过光纤通道与本设备上安装的驱动器单元相连的服务器上安装以下软件。（有关系统配置的详细信息，请参阅第 174 页。）

- Optical Disc Archive Software（Windows/Linux）
用于连接服务器和驱动器单元并允许对文件进行读取 / 写入操作的基础软件。
请从 Sony 专业产品网站下载此软件（第 193 页）。

注意

- 请先安装此软件，然后再将服务器连接到驱动器单元。
- 在安装此软件后，Optical Disc Archive Utility 将自动安装。

操作环境

已在下列环境中对 Optical Disc Archive Software 的操作进行过验证。

注意

虽然经过操作验证，但并不能保证所有计算机上的操作均正常。

Windows

项目	要求
处理器	Intel Core 2 Duo 2.66 GHz 或更高；或者 Intel Xeon 2 GHz 或更高
内存	32 位设备：2 GB 或更大；64 位设备：2 GB ×（设备数量）或更大
HDD 空间	32 位设备：16 GB 或更大；64 位设备：8 GB + 4 GB ×（设备数量 +1）或更大
操作系统	请参考 Sony 专业产品网站（第 193 页）。

Linux

项目	要求
处理器	Intel Core 2 Duo 2.66 GHz 或更高；或者 Intel Xeon 2 GHz 或更高
内存	32 位设备：2 GB 或更大；64 位设备：2 GB ×（设备数量）或更大
HDD 空间	32 位设备：16 GB 或更大；64 位设备：8 GB + 4 GB ×（设备数量 +1）或更大
操作系统	请参考 Sony 专业产品网站（第 193 页）。

安装

请从 Sony 专业产品网站下载软件（第 193 页）并安装。

注意

如果操作系统中安装了某些防毒软件、反间谍工具或包含除标配程序以外的 UDF 2.5 或 2.6 文件系统驱动程序的产品，在安装 Optical Disc Archive Software 之后，操作可能会不稳定。如果 Optical Disc Archive Software 的操作变得不稳定，请查看是否存在上述软件及其相应设置，然后更改设置。

在 Windows 中安装时的注意事项

- 如果已安装了旧版本的 Optical Disc Archive Software，请先将其卸载，然后再安装新版本。在控制面板中从 [添加或删除程序] 中移除 [Sony Optical Disc Archive Software]，然后重新启动计算机。
- 执行安装后，之前配置的所有项目都将恢复为初始设置。

在 Linux 中安装时的注意事项

- 如果在安装 Optical Disc Archive Software 前已将驱动器单元连接到服务器，则服务器的运行可能会被中断。为了避免发生这种情况，请务必先安装 Optical Disc Archive Software，然后再将驱动器单元连接到服务器。
如果发现服务器出现问题，请关闭服务器，断开驱动器单元与服务器的连接，然后重新启动服务器，并安装 Optical Disc Archive Software。之后再将驱动器单元连接到服务器。
- 执行更新安装时，Optical Disc Archive Software 会被覆盖。之前配置的所有项目都会恢复为初始设置。
- 如果在卸载旧版本的 Optical Disc Archive Software 后安装新版本，之前配置的所有项目都会恢复为默认设置。

菜单操作

使用显示在设备前面板上的菜单，可配置设备的基本设置并显示设备状态。使用前面板上的键来操作菜单。

基本菜单操作

本节以警告音的设置为例，说明基本菜单操作。

1 按下 MENU 键。

出现菜单选择屏幕。

```
Menu
  1.Information
> 2.Setup
  3.Maintenance
```

2 使用 ↑ 和 ↓ 键移动光标 (>) 并选择 [Setup]，然后按下 ENTER 键。

出现选定项目的子菜单。

```
Setup
> 1.Network
  2.Control Panel
```

3 使用 ↑ 和 ↓ 键选择 [Control Panel]，然后按下 ENTER 键。

出现选定项目的子菜单。

```
Control Panel
> 1.Buzzer
  2.LCD Backlight
  3.LCD Brightness
```

4 使用 ↑ 和 ↓ 键选择 [Buzzer]，然后按下 ENTER 键。

出现选定项目的当前设置。星号 (*) 表示当前设置。

```
Control Panel
Buzzer
  ON
  *OFF
```

5 按下 ENTER 键。

出现光标 (>)，表示可以更改设置。

```
Control Panel
Buzzer
  ON
>*OFF
```

6 使用 和 键移动光标 (>)。



7 按下 ENTER 键确认设置。



8 按下 MENU 键返回菜单选择屏幕（步骤 1）。

按下 BACK 键返回上一个屏幕。

9 再次按下 MENU 键以结束菜单操作。

菜单	说明
2.Control Panel	配置控制面板设置。 Buzzer: 打开或关闭警告音。 LCD Backlight: 指定是自动关闭液晶显示器的背光还是始终将其打开。 LCD Brightness: 设置液晶显示器的背光: Low、Middle 或 High。
Maintenance	用于维护的菜单。
1.Configuration	Factory Setting: 将设备的配置恢复为出厂默认设置。
2.Diagnostic	供维修人员使用的手册。
3.Power Management	Reboot: 重新启动设备。
4.Service	供维修人员使用的手册。

菜单列表

菜单	说明
Information	在 [Setup] 菜单中显示各个设置的当前值和以下 IPv6 参数。 IPv6 Temporary: 显示 IPv6 临时地址。 IPv6 Link-Local: 显示 IPv6 链接本地地址。
Setup	允许配置设备的设置。
1.Network	配置网络设置。 Network 1 / Network 2: 为 ODS-L30M 的两个网络端口配置设置。 IPv4 Enabled / IPv6 Enabled: 启用或禁用 IPv4 或 IPv6。 IPv4 DHCP / IPv6 DHCP: 指定为 IPv4 或 IPv6 IP 地址使用 DHCP，还是使用静态地址。 IPv4 Address / IPv6 Address: 配置 IPv4 或 IPv6 IP 地址。 IPv4 Netmask: 配置 IPv4 子网掩码。 IPv6 Subnetprefix: 配置 IPv6 子网前缀。 IPv4 Gateway / IPv6 Gateway: 配置 IPv4 和 IPv6 默认网关。 IPv4 DNS / IPv6 DNS: 指定自动获取 IPv4 或 IPv6 IP DNS，还是使用静态地址。 IPv4 Primary DNS / IPv6 Primary DNS: 配置 IPv4 和 IPv6 主要 DNS。 IPv4 Secondary DNS / IPv6 Secondary DNS: 配置 IPv4 和 IPv6 次要 DNS。

消息

如果设备硬件或配置设置出现问题，则设备前面板上的 ALARM 指示灯会闪烁红色（出错）或橙色（警告），且显示器上会出现一条消息。菜单操作期间不会显示消息。按下 BACK 按钮退出菜单后才会显示消息。

如果出现消息，请参阅以下内容来解决问题。如果消息显示仍然存在，请咨询当地的 Sony 代表。

消息	说明
ERROR POWER OFF REQUEST	需要重启系统。请关闭设备，然后重新开启。
ERROR BOOT OS	启动时发生错误。 请咨询当地的 Sony 代表。
ERROR CALIBRATION	载波校正时发生错误。 请咨询当地的 Sony 代表。
ERROR FIRMWARE UPDATE REQUEST	需要更新固件。 请咨询当地的 Sony 代表。
ERROR SERVICE MAINTENANCE REQUEST	检查单元互连电缆是否连接正确。如果电缆连接没有问题，则需要服务人员进行维护。 请咨询当地的 Sony 代表。
ERROR	控制操作时检测到错误。 选中 Library Maintenance Web UI 的 [System] 标签上的 [Library Status]。
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : OFF	配置用于监视输入电源配置设置的电源设备已关闭。 检查 Library Maintenance Web UI 的 [Configuration] 屏幕的 [Others] 标签上的 [Power Configuration Settings]。如果设置没有问题，请咨询当地的 Sony 代表。
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : NG	在电源设备中检测到错误。 请咨询当地的 Sony 代表。
WARNING UNIT (1~6) POWER (A/B) : CC	电源设备已开启，但它未配置用于监视输入电源配置设置。 勾选复选框，以便电源用于 Library Maintenance Web UI 的 [Configuration] 屏幕 [Others] 标签上的 [Power Configuration Settings] 中。
WARNING HIGH TEMP	设备的内部温度太高。设备将继续工作，但长时间使用会导致设备和驱动器内部温度进一步升高，从而引发故障甚至火灾。 请咨询当地的 Sony 代表。
WARNING FAN	风扇的旋转速度下降。设备将继续工作，但长时间使用会导致设备和驱动器内部温度进一步升高，从而引发故障甚至火灾。 请咨询当地的 Sony 代表。
WARNING SSD	SSD 诊断已确定需要进行更换。 请咨询当地的 Sony 代表。
WARNING LITHIUM BATTERY	必须更换锂电池。 请咨询当地的 Sony 代表。
CLOSE I/E STATION	I/E 站已打开 3 分钟。确保 I/E 站完全关闭。 如果关闭 I/E 站后仍然出现该消息，请咨询当地的 Sony 代表。
I/E STATION LOCKED	在 I/E 站通过应用程序锁定或 I/E 站配置用作存储插槽时按下了 I/E 站按钮。 通过应用程序解锁，然后按下 I/E STATION 键。如果无法通过应用程序解锁，请使用 Library Maintenance Web UI 解锁。
I/E STATION BUSY	I/E STATION 键会在访问 I/E 站时被按下。 等到 I/E STATION 指示灯亮起绿色或橙色后，再按下 I/E STATION 键。
I/E STATION NOT UNLOCKED	I/E 站解锁失败。 将 I/E 站径直推入设备中，直至完全插入，然后再次按下 I/E STATION 按键。

消息	说明
I/E STATION HALF-CLOSED	I/E 站未完全插入。 将 I/E 站径直推入设备中，直至完全插入，然后再次按下 I/E STATION 按键。
PUSH I/E STATION	I/E 站已处于不完全插入状态至少 15 秒。 将 I/E 站径直推入设备中，直至完全插入。
REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	由于载体中存在 ODA 光盘，因此无法执行 I/E 站的导入处理。 使用 Library Maintenance Web UI 的 [Move Cartridge] 标签将 ODA 光盘从载体移到空的插槽中。
ERROR CALIBRATION REMOVE CARTRIDGE FROM CARRIER	载体调整失败，因为载体中有 ODA 光盘。请咨询当地的 Sony 代表。
I/E STATION OPENED	I/E 站处于打开状态时，会发出 I/E 插槽移动提示。 关闭 I/E 站，或检查应用程序控件。
UNIT CONFIG CHANGE REQUEST	检测到设备配置更改。 请咨询当地的 Sony 代表。
DIAGNOSTIC LIBRARY REQUEST	需进行库诊断。 请咨询当地的 Sony 代表。

操作注意事项

使用和存储

避免设备剧烈震动

内部机制可能已损坏或机体发生变形。

请勿在运行时遮盖设备

这会导致设备内部温度升高，可能会导致故障。

使用后

关闭开机 / 待机键。

如果长时间不使用设备，请同时关闭后面板上的主电源开关。

运送时

- 始终关闭设备电源。
- 如果使用卡车、轮船、飞机或其他运送服务发送设备，请将设备放在装运箱中。
- 如果在运送时未对本设备进行适当的包装和保护，则内部零件可能会损坏。
请务必参阅安装手册来安装螺丝和配件，确保安全运输。
- 如果在未取出驱动器单元的情况下运送设备，则本设备和驱动器单元可能会在运输过程中损坏。请务必在运输前将驱动器单元从本设备中移除。

设备护理

如果设备机体变脏，请用柔软的干布进行擦拭。

极端情况下，请将布略浸一点中性洗涤剂，然后擦干。请勿使用有机溶剂，如酒精或稀释剂。因为这些溶剂可能导致脱色，或对设备表面造成其他损坏。

如果出现操作问题

如果设备出现故障，请与 Sony 服务或销售代表联系。

使用和存放位置

存放在水平且通风良好的位置。避免将设备存放在下列位置。

- 高温或寒冷环境下（工作温度范围：5 °C 至 35 °C）
请牢记，在夏季或温暖地区，如果关上车窗，汽车内部的温度极易升至 50 °C。
- 潮湿多尘位置
- 设备可能接触雨水的位置
- 可能产生剧烈震动的位置
- 强磁场附近
- 靠近收音机或电视发射机等可产生强磁场的位置。
- 长期遭受阳光直射或靠近热源的位置

防止便携式通信设备产生的电磁干扰

在设备附近使用手机和其他通信设备可能导致故障。建议关闭设备附近的便携式通信设备。

冷凝水

如果将设备突然从寒冷的地方带到温暖的场所，或者室温突然升高，设备的外表面和内部可能会形成水汽。这称为冷凝。如果发生冷凝，请关闭设备电源，待到冷凝消失后才能操作设备。冷凝仍然存在时使用设备可能会导致设备损坏。

部件更换

载体（运输机构）是需要定期更换的消耗性部件。

如果在室温环境下操作，正常的更换周期约为五年。

但是，这一更换周期仅代表一般原则，不表示这些部件的寿命保证可以达到预期寿命长度。关于部件更换的详细信息，请联系经销商。

液晶显示器

经过长时间的使用后，由于液晶显示本身的物理特性，也可能会出现这种“亮点”。这些问题并非故障。

使用驱动器单元的注意事项

震动和摇晃

请勿在插入光盘盒时震动驱动器单元。

运输驱动器单元

运输驱动器单元前，必须弹出光盘盒。

文件读取时间

- 同时访问多个文件时，可能会频繁发生光盘交换。这将会降低数据传输率并显著增加总操作时间。
- 如果访问单个文件，也可能出现光盘交换，具体取决于光盘盒的位置。这在开始读取文件前将花费一些时间。

文件写入时间

- 连续写入大量小型文件（例如，100 MB 或更小）时，可能需要一些时间才能完成写入。在此情况下，将操作模式设为“Synchronize management data to the media immediately after completion of file writing: Off”可提高写入性能和媒体效率。但是，如果在写入操作期间发生故障（例如，电源故障），会降低文件恢复的可能性。

商标和许可证

开源软件许可证

根据 Sony 和软件版权所有者之间的许可证合同，本产品使用开源软件。
根据软件版权所有者的要求，Sony 有义务告知您这些许可证的内容。
有关这些许可证的内容，请参见软件帮助中的“*Open Source Software License List*”。

获得 GPL/LGPL/GPL V3 许可的软件

本产品使用 GPL 版本 2 / LGPL 版本 2.1 / GPL 版本 3 许可的软件。用户有权获取、更改和传播该软件的源代码。

可以从 Sony Internet 服务器下载本软件的源代码。有关如何下载的详细信息，请访问以下 URL。
<http://oss.sony.net/Products/Linux/common/search.html>

我们无法回应有关源代码内容的询问。

规格

下面给出的是 ODS-L30M 的规格。有关 ODS-L60E、ODS-L100E、ODBK-101、ODBK-102、ODBK-103 和 ODS-D77F 的规格，请参阅各设备的操作指南。

常规

电源	100 V 至 240 V 交流、50 Hz/60 Hz
电流消耗	1.4 A 至 3.2 A
工作温度	5 °C 至 35 °C
存储温度	-20 °C 至 +55 °C
工作环境湿度	20% 到 80%（相对湿度）
存储环境湿度	低于 75%
质量	30 kg（不包括驱动器单元和光盘盒）
尺寸（宽 × 高 × 深）	445 × 308 × 940 mm（不包括凸出物体）

输入 / 输出

品（网络）	RJ-45 型模块插孔 (2)
	1000BASE-T: IEEE 802.3ab 标准
	100BASE-Tx: IEEE 802.3u 标准

附件

操作手册 (1)
机架安装套件 (1 套)
机架安装板垫圈 (4)
螺丝 (B4 × 10) (8)
螺丝 (B5 × 16) (8)
安装支架 (2)
测厚仪 025 (3)
测厚仪 050 (3)
测厚仪 100 (3)
高支架 025 (3)
高支架 050 (3)
高支架 100 (3)
I/E 站标签 (1 组)

选件

ODBK-101 / ODBK-102 电源选件

ODBK-103 扩展套件

适用于 ODS-L30M 的选件（不兼容序列号为 10001 至 10999 以及 50001 至 50999 的型号）

ODS-L30M 的序列号位于后面板的铭牌上。

光盘档案盒

- ODC300R（300 GB，一次性写入型）
- ODC300RE（300 GB，可重写型）
- ODC600R（600 GB，一次性写入型）
- ODC600RE（600 GB，可重写型）
- ODC1200RE（1.2 TB，可重写型）
- ODC1500R（1.5 TB，一次性写入型）

设计与技术规格如有变更，恕不另行通知。

注意

- 在使用前请始终确认本机运行正常。
无论保修期内外或基于任何理由，SONY 对任何损坏概不负责。由于本机故障造成的利润损失等，无论是在保修期以内或者以外，Sony 均不作任何赔偿。
- SONY 对本产品用户或第三方的任何索赔概不负责。
- SONY 对因任何情况导致终止或停止使用本机相关服务概不负责。

SONY 不对任何因传输设备安全措施操作不当、传输规格导致不可避免的数据泄露或任何种类的安全问题造成的损坏负责。

视操作环境而定，网络上未经授权的第三方可能可以访问本装置。将本装置连接至网络时，必须确认网络有安全保护。

出于安全性考虑，使用本装置连接到网络时，强烈建议通过网络浏览器来访问控制窗口并更改访问限制设定的出厂默认值（请参阅 Library Maintenance Web UI Help 上 Configuration 屏幕中的 Others 选项卡。）。
同时建议定期更改密码。

软件下载

当本机与 PC 连接使用时，请从以下网站下载您需要的任何设备驱动程序、插件以及应用程序软件。

Sony 专业产品网站：

美国	http://pro.sony.com
加拿大	http://www.sonybiz.ca
拉丁美洲	http://sonypro-latin.com
欧洲	http://www.pro.sony.eu/pro
中东、非洲	http://sony-psmea.com
俄罗斯	http://sony.ru/pro/
巴西	http://sonypro.com.br
澳大利亚	http://pro.sony.com.au
新西兰	http://pro.sony.co.nz
日本	http://www.sonybsc.com
亚太地区	http://pro.sony-asia.com
韩国	http://bp.sony.co.kr
中国	http://pro.sony.com.cn
印度	http://pro.sony.co.in

Sony Creative Software 软件下载页面：

http://www.sonycreativesoftware.com/download/software_for_sony_equipment

产品中有害物质的名称及含量
(ODS-L30M)



使用环境条件：
参考使用说明书中的操作条件

部件名称	有害物质					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr (VI))	多溴 联苯 (PBB)	多溴 二苯醚 (PBDE)
实装基板	×	○	○	○	○	○
外壳	×	○	○	○	○	○
显示屏	×	○	○	○	○	○
驱动单元	×	○	○	○	○	○
附属品	×	○	○	○	○	○

本表格依据 SJ/T 11364 的规定编制。
○：表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 GB/T 26572 规定的限量要求以下。
×：表示该有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 GB/T 26572 规定的限量要求。

产品中有害物质的名称及含量
(ODS-L60E/100E)



使用环境条件：
参考使用说明书中的操作条件

部件名称	有害物质					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr (VI))	多溴 联苯 (PBB)	多溴 二苯醚 (PBDE)
实装基板	×	○	○	○	○	○
外壳	×	○	○	○	○	○
附属品	×	○	○	○	○	○

本表格依据 SJ/T 11364 的规定编制。
○：表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 GB/T 26572 规定的限量要求以下。
×：表示该有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 GB/T 26572 规定的限量要求。

W1-1

W8-9

产品中有害物质的名称及含量
(ODS-D77F)



使用环境条件：
参考使用说明书中的操作条件

部件名称	有害物质					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr (VI))	多溴 联苯 (PBB)	多溴 二苯醚 (PBDE)
实装基板	×	○	○	○	○	○
外壳	×	○	○	○	○	○
光学组件	×	○	○	○	○	○
驱动单元	×	○	○	○	○	○
附属品	×	○	○	○	○	○

本表格依据 SJ/T 11364 的规定编制。
○：表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 GB/T 26572 规定的限量要求以下。
×：表示该有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 GB/T 26572 规定的限量要求。

W6-5

ПРЕДУПРЕЖДЕНИЕ

Для снижения риска возгорания и поражения электрическим током не допускайте воздействия на аппарат влаги и сырости.

Чтобы исключить риск поражения электрическим током, не вскрывайте корпус. Обслуживание аппарата должны выполнять только квалифицированные специалисты.

ДАННОЕ УСТРОЙСТВО ДОЛЖНО БЫТЬ ЗАЗЕМЛЕНО. (ODS-L30M/L60E)

При установке устройства используйте легкодоступный прерыватель питания с фиксированной проводкой или подключите провод питания к легкодоступной настенной розетка, расположенной рядом с устройством. Если в процессе эксплуатации блока возникнет неисправность, с помощью прерывателя отключите питание, или отсоедините провод питания. (ODS-L30M/L60E)

Внимание! При установке устройства в стойку (ODS-L30M/L60E/L100E)**1. Предотвращение перегрузки распределительной сети**

При установке устройства в стойку и подключении его к источнику питания через розетку в стойке убедитесь, что в этом случае стойка не вызывает перегрузку цепи питания.

2. Обеспечение защитного заземления

При установке устройства в стойку и подключении его к источнику питания через розетку в стойке убедитесь, что розетка заземлена должным образом.

3. Температура воздуха внутри стойки

При установке устройства в стойку убедитесь в том, что температура воздуха внутри стойки соответствует требованиям, указанным в характеристиках продукта.

4. Предотвращение опасных ситуаций из-за неравномерной механической нагрузки

При установке устройства в стойку убедитесь в том, что в стойке не создаются условия для возникновения опасных ситуаций из-за неравномерной механической нагрузки.

5. При установке оборудования следует учитывать его рабочую температуру
Сведения о рабочей температуре оборудования см. в разделе технических характеристик руководства по эксплуатации.

6. При установке оборудования следует обеспечить надлежащий отвод тепла от оборудования. Ниже указаны размеры необходимых зазоров между устройством и стенами.

Слева и справа: не менее 4 см

Сзади : не менее 10 см

ПРЕДУПРЕЖДЕНИЕ! (ODS-L30M/L60E)

Для подключения данного прибора к электросети с напряжением, отличным от 120 В может потребоваться другой кабель питания, переходник либо и то, и другое. Чтобы снизить риск возгорания или поражения электрическим током, для обслуживания устройства следует привлечь квалифицированных специалистов.

ПРЕДУПРЕЖДЕНИЕ: (ODS-L30M/L60E)

1. Используйте разрешенные к применению шнур питания (с 3-жильным силовым проводом) / разъем для подключения бытовых приборов / штепсельную вилку с заземляющими контактами, соответствующие действующим нормам техники безопасности каждой отдельной страны.
2. Используйте шнур питания (с 3-жильным силовым проводом) / разъем для подключения бытовых приборов / штепсельную вилку, соответствующие допустимым номинальным характеристикам (напряжение, сила тока).

В случае вопросов относительно использования упомянутых выше шнура питания / разъема для подключения бытовых приборов / штепсельной вилки, пожалуйста, обращайтесь к квалифицированным специалистам по сервисному обслуживанию.

Следует иметь в виду, что любые изменения и модификации, не одобренные явно в данном руководстве, могут привести к невозможности использования данного оборудования.

ВНИМАНИЕ

Это изделие относится к Классу А. При эксплуатации в домашних условиях оно может создавать помехи радиовещания, и в этом случае пользователю, возможно, потребуется принять соответствующие меры.

Данный аппарат не следует использовать в жилой зоне.

Осторожно! (ODS-D77F)

Использование средств управления и выполнение настройки и действий, отличных от указанных здесь, может привести к опасному радиоактивному облучению.

Осторожно! (ODS-D77F)

Использование оптических инструментов с данным изделием приведет к увеличению опасного воздействия на глаза.



Главный Модуль библиотеки оптических дисков

Сони Корпорейшн

1-7-1, Конан, Минато-ку, Токио, Япония, 108-0075

Сделано в ЯПОНИИ

Импортер на территории стран Таможенного союза ЗАО «Сони Электроникс», Россия, 123103, Москва, Карамышевский проезд, 6

Главный модуль библиотеки оптических дисков ODS-L30M допускает установку не более двух дополнительных приводов (ODS-D77F) и не более 30 картриджей архива на оптических дисках. Если на основном аппарате ODS-L30M установить модуль расширения ODBK-103 (не входит в комплект), PetaSite можно связать с несколькими дополнительными аппаратами, что позволяет расширять систему в соответствии с потребностями пользователя. Эффективно способствуя чтению/записи данных в нескольких архивных контейнерах для оптических дисков, ODS-L30M дает возможность рационализировать архивирование материалов с данными и их получение (путем загрузки на сервер).

К числу блоков расширения относятся блок приводов для расширения библиотеки оптических дисков ODS-L60E и блок расширения емкости библиотеки профессиональных оптических дисков ODS-L100E. Блок ODS-L60E может содержать до четырех дополнительных приводов (ODS-D77F) и до 61 картриджа архива на оптических дисках. Блок ODS-L100E может содержать до 101 картриджа архива на оптических дисках.

Приводы ODS-D77F для архивных оптических дисков, которые могут устанавливаться в устройства ODS-L30M и ODS-L60E, оснащены двумя головками и специально предназначены для

использования с устройствами ODS-L30M/L60E. Кроме того, поддержка интерфейса Fibre Channel обеспечивает высокую скорость обработки.

Габариты (Ш × В × Г)

445 × 308 × 940 мм (без
выступающих деталей)

Масса 30 кг (без приводов и картриджей)

Электропитание

100 В-240 В~, 50 Гц/60 Гц

Потребляемый ток

1,4 А-3,2 А

Принадлежности

Руководство по эксплуатации (1)

Комплект для установки в стойку (1
набор)

Шайбы для монтажной платы
стойки (4)

Винты (В4 × 10) (8)

Винты (В5 × 16) (8)

Монтажные кронштейны (2)

Толщиномер 025 (3)

Толщиномер 050 (3)

Толщиномер 100 (3)

Опора для высоты 025 (3)

Опора для высоты 050 (3)

Опора для высоты 100 (3)

Наклейки на станцию импорта/
экспорта (1 комплект)

Цифры в формате «уууу-мм» или «мм-уууу» на изделии или упаковке означают дату изготовления. В качестве варианта дата может быть указана в формате <месяц, год>.

ЕСКЕРТУ

Өрт шығу немесе ток соғу қаупін азайту үшін бұл құрылғыны жаңбырдың астында немесе ылғалды жерде қалдырмаңыз.

Ток соғуды болдырмау үшін құрылғының корпусын ашпаңыз. Жөндеу жұмыстарын білікті мамандар ғана орындауы тиіс.

**БҰЛ ҚҰРЫЛҒЫНЫ ЖЕРГЕ ҚОСУ КЕРЕК.
(ODS-L30M/L60E)**

Құрылғыны орнатқан кезде, бекітілген электр схемасына оңай қол жеткізуге болатын ажыратқышты қосыңыз немесе штепсельді құрылғының жанындағы оңай қол жеткізуге болатын желілік розеткаға қосыңыз. Құрылғыны пайдалану кезінде ақау пайда болса, қуат көзін ажырату үшін ажыратқышты пайдаланыңыз немесе штепсельді ажыратыңыз. (ODS-L30M/L60E)

Назар аударыңыз - өнімді сөреге орнатқанда: (ODS-L30M/L60E/L100E)

- 1. Тармақ тізбегіне артық жүктеме түсіруді болдырмау**
Осы өнім сөреге орнатылғанда және сөредегі розеткадан қуат берілгенде сөре желілік тізбекке артық жүктеме түсірмеуін қамтамасыз етіңіз.
- 2. Қорғағыш жерге тұйықтауды қамтамасыз ету**
Осы өнім сөреге орнатылғанда және сөредегі розеткадан қуат берілгенде розетка жарамды қорғағыш жерге тұйықтау қосылымымен қамтамасыз етілгенін тексеріңіз.
- 3. Сөренің ішкі ауа температурасы**
Осы өнім сөреге орнатылғанда сөренің ішкі ауа температурасы осы өнімнің көрсетілген шегінде екенін тексеріңіз.
- 4. Біркелкі емес механикалық жүктемеге байланысты қауіпті жағдайға жетуді болдырмау**
Осы өнім сөреге орнатылғанда біркелкі емес механикалық жүктемеге байланысты сөренің қауіпті жағдайға жетпейтінін тексеріңіз.
- 5. Жабдықты жабдықтың жұмыс температурасын ескере отырып орнатыңыз**

Жабдықтың жұмыс температурасын пайдаланушы нұсқаулығындағы техникалық сипаттамалардан қараңыз.

- 6. Орнатуды орындау кезінде тиісті жылу шығаруды және таратуды алу үшін қабырғалардан келесі бос орынды сақтаңыз.**

**Оң, сол: 4 см немесе көбірек
Арты: 10 см немесе көбірек**

ЕСКЕРТУ: (ODS-L30M/L60E)

Бұл құрылғыны 120 В-тан басқа кернеуде пайдалану басқа желілік сымды немесе ашаны, я болмаса, екеуін де пайдалануды қажет етуі мүмкін. Өрт немесе ток соғу қаупін азайту үшін қызмет көрсетуді білікті сервис мамандарына тапсырыңыз.

ЕСКЕРТУ (ODS-L30M/L60E)

1. Мүмкін болса, мақұлданған және әр елдің қауіпсіздік ережелеріне сай Қуат сымын (3-өзекті желі сымы) / Құрылғы коннекторын / Жерге тұйықтау түйіспелері бар айыр штепсельді пайдаланыңыз.
2. Тиісті көрсеткіштерге (Кернеу, ампер) сай Қуат сымын (3-өзекті желі сымы) / Құрылғы коннекторын / Айыр штепсельді пайдаланыңыз.

Егер жоғарыдағы Қуат сымын / Құрылғы коннекторын / Айыр штепсельді пайдалану туралы сұрақтарыңыз болса, білікті маманға жүгініңіз.

Осы нұсқаулықта анық түрде бекітілмеген кез келген өзгерту немесе модификация осы жабдықты пайдалану құқығыңызды жоюы мүмкін.

ЕСКЕРТУ

Бұл А класының өнімі. Тұрмыс ортасында бұл өнім радио кедергілеріне себеп болуы мүмкін, мұндай жағдайда пайдаланушы тиісті шараларды қолдануы қажет болуы мүмкін.

Бұл құрылғыны тұрғын аумақта пайдалануға болмайды.

Сақтық ескерту (ODS-D77F)

Осы құжатта көрсетілгеннен басқа басқару тетіктерін немесе реттеулерді пайдалану, я болмаса, процедураларды орындау қауіпті сәулелену әсеріне әкелуі мүмкін.

Сақтық ескерту (ODS-D77F)

Осы өніммен бірге оптикалық құралдарды пайдалану көзге әсер ету қаупін арттырады.



ОПТИКАЛЫҚ ДИСК ҚОЙМАСЫНЫҢ БАС МОДУЛІ

Дайындаушы: Сони Корпорейшн

Мекен-жайы: 1-7-1 Конан, Минато-ку, Токио 108-0075, Жапония

Жапонияда жасалған

Кеден одағы жеріндегі шетелден әкелуші
«СониЭлектроникс» ЖАҚ, Ресей, 123103, Мәскеу,
Карамышевский өтпе көшесі, 6

ODS-L30M Оптикалық диск қоймасының бас модулі екі қосымша жетек модуліне (ODS-D77F) дейін және 30 оптикалық диск мұрағатының сыйымдылығына дейін қамтитын бас кітапхана модулі болып табылады. ODBK-103 кеңейту жиынтығын (жинақта жоқ) ODS-L30M бас модуліне орнату арқылы PetaSite құрылғысын бірнеше кеңейту модуліне байланыстыруға болады, бұл жүйені қажеттіліктеріңізге сәйкес кеңейтуге мүмкіндік береді. Деректерді бірнеше оптикалық диск мұрағаттау картридждіңде тиімді оқуға/жазуға мүмкіндік беріп, ODS-L30M құрылғысы деректер материалдарын мұрағаттауды және мұрағатталған деректер материалдарын шығарып алуды (серверге кері жүктеу арқылы) оңтайландыруға мүмкіндік береді.

Кеңейтім модульдері ODS-L60E Оптикалық диск қоймасын кеңейту жетек модулі және ODS-L100E Оптикалық диск қоймасының сыйымдылығын кеңейту модулі модулін қамтиды. ODS-L60E модулі төрт жетек модуліне (ODS-D77F) дейін және 61 оптикалық диск мұрағатының сыйымдылығына дейін қамтиды. ODS-L100E модулі 101 оптикалық диск мұрағатының сыйымдылығына дейін қамтиды. ODS-L30M және ODS-L60E модуліне бекітуге болатын ODS-D77F оптикалық диск мұрағатының жетек модульдері екі бас бөлігімен жабдықталып, ODS-L30M/L60E модулімен пайдалануға арнайы жасалған. Оған қоса, олардың талшықты арнасының қолдау көрсету қызметі жоғары жылдамдықта өңдеуге мүмкіндік береді.

Өлшемдері (Е × Б × Т)

445 × 308 × 940 мм (шығыңқы
жерлерді қоспағанда)

Массасы

30 кг (диск модульдері мен
сыйымдылықтарды қоспағанда)

Қуат көзі

100 В - 240 В айнымалы ток, 50 Гц/
60 Гц

Қуат тұтыну

1,4 А - 3,2 А

Қосалқы құралдар

Пайдалану нұсқаулығы (1)
Сөреге бекіту жиынтығы (1)
Сөреге бекіту шайбалары (4)
Бұрандалар (B4 × 10) (8)
Бұрандалар (B5 × 16) (8)
Бекіту кронштейндері (2)
Қалыңдықты өлшеу құралы 025 (3)
Қалыңдықты өлшеу құралы 050 (3)
Қалыңдықты өлшеу құралы 100 (3)
Тірек 025 (3)
Тірек 050 (3)
Тірек 100 (3)
И/Э станциясының белгілері (1 жиын)

Құрылғыдағы немесе қораптағы «жжжж-аа» немесе «аа-жжжж» пішіміндегі сандар өндіру күнін көрсетеді. Я болмаса, күн <Ай, Жыл> пішімінде болуы мүмкін.

このマニュアルに記載されている事柄の著作権は当社にあり、説明内容は機器購入者の使用を目的としています。従って、当社の許可なしに無断で複写したり、説明内容（操作、保守等）と異なる目的で本マニュアルを使用することを禁止します。

The material contained in this manual consists of information that is the property of Sony Corporation and is intended solely for use by the purchasers of the equipment described in this manual.

Sony Corporation expressly prohibits the duplication of any portion of this manual or the use thereof for any purpose other than the operation or maintenance of the equipment described in this manual without the express written permission of Sony Corporation.

Les donnees contenues dans ce manuel sont des informations dont Sony Corporation est proprietaire et qui sont destinees exclusivement a l'usage par les acquereurs de l'equipement decrit dans ce manuel.

Sony Corporation interdit formellement la copie de quelque partie que ce soit de ce manuel ou son emploi pour tout autre but que des operations ou entretiens de l'equipement a moins d'une permission ecrite de Sony Corporation.

Das in dieser Anleitung enthaltene Material besteht aus Informationen, die Eigentum der Sony Corporation sind, und ausschliesslich zum Gebrauch durch den Käufer der in dieser Anleitung beschriebenen Ausrüstung bestimmt sind. Die Sony Corporation untersagt ausdrücklich die Vervielfältigung jeglicher Teile dieser Anleitung oder den Gebrauch derselben für irgendeinen anderen Zweck als die Bedienung oder Wartung der in dieser Anleitung beschriebenen Ausrüstung ohne ausdrückliche schriftliche Erlaubnis der Sony Corporation.

Le informazioni contenute nel presente manuale sono di proprietà di Sony Corporation e il relativo uso è destinato solamente agli acquirenti dell'apparecchio descritto in questo documento.

Sony Corporation vieta espressamente la duplicazione in parte o per intero di questo manuale e il suo utilizzo per scopi differenti dal funzionamento o manutenzione dell'apparecchio ivi descritto, senza previo permesso scritto di Sony Corporation.

El material de este manual contiene informacion que es propiedad de Sony Corporation y se destina al uso por parte de los compradores del equipo descrito en este manual. Sony Corporation prohíbe expresamente la duplicación de cualquier parte de este manual o el uso del mismo para cualquier proposito diferente al funcionamiento o el mantenimiento del equipo descrito en este manual sin la autorización expresa por escrito de Sony Corporation.

本手册中包含的信息属于Sony Corporation公司所有，只有购买本手册中所述设备的消费者才可使用。在未获得Sony Corporation明确书面许可的条件下，Sony Corporation禁止任何人对本手册中的任何部分进行复制，或者出于任何目的使用本手册中的任何内容，但为操作或者维护此手册中所述的设备除外。

商標について

- Microsoft、Windows および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac OS および Safari は、米国 Apple, Inc. の商標または登録商標です。
- Google Chrome は、Google Inc. の商標または登録商標です。

Trademarks

- Microsoft, Windows and Internet Explorer are registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and other countries.
- Mac OS and Safari are trademarks or registered trademarks of Apple, Inc.
- Google Chrome is a trademark or registered trademark of Google Inc.

Marques commerciales

- Microsoft, Windows et Internet Explorer sont des marques deposees de Microsoft Corporation aux Etats-Unis et dans d'autres pays.
- Mac OS et Safari sont des marques de fabrique ou des marques deposees de Apple, Inc.
- Google Chrome est une marque de fabrique ou une marque deposee de Google Inc.

Warenzeichen

- Microsoft, Windows und Internet Explorer sind in den Vereinigten Staaten und anderen Ländern eingetragene Warenzeichen der Microsoft Corporation.
- Mac OS und Safari sind Warenzeichen oder eingetragene Warenzeichen von Apple, Inc.
- Google Chrome ist ein Warenzeichen oder eingetragenes Warenzeichen von Google Inc.

Marchi

- Microsoft, Windows e Internet Explorer sono marchi registrati di Microsoft Corporation negli Stati Uniti e altri paesi.
- Mac OS e Safari sono marchi o marchi registrati di Apple, Inc.
- Google Chrome è un marchio o marchio registrato di Google Inc.

Marcas comerciales

- Microsoft, Windows e Internet Explorer son marcas comerciales registradas de Microsoft Corporation en los EE. UU. y otros paises.
- Mac OS y Safari son marcas comerciales o marcas comerciales registradas de Apple, Inc.
- Google Chrome es una marca comercial o marca comercial registrada de Google Inc.

商標

- Microsoft、Windows和Internet Explorer是Microsoft Corporation在美国及其他国家/地区的注册商标。
- Mac OS和Safari是Apple, Inc.的商标或注册商标。
- Google Chrome是Google Inc.的商标或注册商标。

出版日期：2015年4月

ODS-L30M(SYL/CNB)
4-478-809-06 (1)

Sony Corporation
<http://www.sony.net/>

Printed in Japan
2015.4 32
© 2013